

第3回南知多町総合計画審議会次第

日時 令和2年9月23日（水）

午後3時～午後5時

場所 南知多町役場大会議室

1 あいさつ（5分）

2 議 題

（1）第2回審議会意見への回答及び総合計画素案への反映について（資料1～3）

（2）住民意識調査結果及び基本施策の数値目標について（資料4）

（3）パブリックコメントの実施及びパブコメ前総合計画（素案）について（資料5）

（4）第0期アクションプランの構成案について（資料6）

（5）意見交換会の結果及び意見の反映について（資料7）

（6）その他

3 その他

・次回の審議会日程

第4回審議会 令和2年11月9日（月）15:00 南知多町役場大会議室

<送付資料>

資料1 第2回審議会意見・質問まとめ

資料2 総合計画（素案）修正案

資料3 素案修正新旧対照表

資料4 住民意識調査結果について（審議会後差替え資料）

資料5 パブリックコメントについて（当日差替え資料）

資料6 第0期アクションプランの構成案について

資料7 意見交換会の結果及び意見の反映について

<当日資料>

資料8 第3回審議会事前意見まとめ

資料9 目標数値の考え方について

資料10 キャッチコピー（一般公募枠）について

資料11 総合計画（素案）構成変更版について（審議会後差替え資料）

令和２年度 総合計画策定に係る作業部会及び審議会スケジュール

	作業部会	審議会 その他
4月	4月22日（水）第1回 ・ 総合計画策定基本方針説明 ・ KGI・行財政マネジメント4基本施策 KPI・評価方法検討 ・ 住民意識調査案の検討 ・ 事業評価・施策評価・実施計画書様式案、総合計画進行管理方法検討	
5月	5月27日（水） ・ 住民意識調査票の決定 ・ 事業評価・施策評価・実施計画書・決算事務依頼 ・ 第1回審議会意見の提示 ・ 基本目標（KPI）の算出方法	5月8日（金）第1回審議会 ・ 審議会委員委嘱、町長からの諮問 ・ 策定基本方針・総合計画案・住民意識調査・総合計画進行管理方法案説明と意見聴取 ・ モニター（総合計画評価委員）推薦依頼
6月	6月24日（水）第3回 ・ 第1回審議会意見への回答及び総合計画素案への反映 ・ 住民会議及び概要版作成の方針 ・ 重点政策の管理指標（KPI）案の提示 ・ 住民意識調査の集計、KPIの算出	住民意識調査実施 職員意識調査の実施
7月	7月22日（水）第4回 ・ 第2回審議会意見の提示 ・ 事業評価・施策評価、実施計画と総合計画本文とのすり合わせ（必要に応じ）	7月20日（月）第2回審議会 ・ 第2回審議会意見への回答及び総合計画素案への反映 ・ 住民意識調査結果 ・ 住民会議及び概要版の作成方針
8月	8月26日（水）第5回 ・ 第2回審議会意見への回答反映（総合計画素案） ・ 住民会議日程、概要版骨子案の提示 ・ アクションプラン案の検討	
9月	9月17日（木）第6回 ・ パブコメ前総合計画案検討（決定） ・ 概要版の検討 ・ アクションプランの構成案の検討	町内5地区意見交換会（9/1～9/8） 9月23日（水）第3回審議会 ・ 第1回審議会意見への回答 ・ 住民意識調査結果 ・ パブコメの説明及びパブコメ前総合計画案 ・ アクションプランの構成案の説明 ・ 意見交換会結果報告

10月	10月21日（水）第7回 ・ 審議会意見反映（総合計画案・総合計画概要版案・アクションプラン案） ・ パブコメ対応案検討 ・ 答申前総合計画案検討	パブコメ キャッチコピー住民投票
11月	11月17日（月）第8回 ・ 審議会意見反映（議会上程総合計画案） ・ 総合計画・総合計画概要版・アクションプランのデザイン案検討 ・ 予算の概要、事業評価様式案検討	11月9日（月）第4回審議会 ・ 答申前総合計画案の説明と意見聴取 ・ 答申案の説明と意見徴収
12月	12月23日（水）第9回 ・ 総合計画・総合計画概要版・アクションプランのデザイン案検討 ・ 予算の概要・事業評価の作成依頼	議会上程
1月	1月27日（水）第10回 ・ 総合計画・総合計画概要版・アクションプランのデザイン検討 ・ 予算の概要・事業評価のすり合わせ ・ 行政機構と事務分署について	
2月	2月18日（木）第11回 ・ 総合計画・総合計画概要版・アクションプラン決定 ・ 令和3年度住民意識調査案検討	総合計画印刷（3月配布）
3月	3月24日（水）第12回 ・ 審議会の意見反映 ・ 総合計画・総合計画概要版・アクションプラン・令和3年度住民意識調査最終確認	3月19日（金）第5回審議会 ・ 総合計画・総合計画概要版・アクションプランの説明 ・ 令和3年度住民意識調査案の説明と意見徴収 ・ 総合計画進行管理（総合計画評価委員会・モニター）の説明と意見聴取

総合計画審議会 第2回審議会及び意見・質問書まとめ

項目	意見質問	回答案
素案第4章 人口ビジョン P4	文章の内容が下部の図で読み取りにくい。	・図表との関係が分かるよう、文章を以下のように修正しました。 「本町の人口は、昭和40年以降、減少が続いており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、本町の将来人口は、以下の「南知多町の将来人口予測と目標人口」で示す通り令和32年時点で7,488人となり、令和47年時点で4,422人推測されています。今後、日本全体で人口減少が進む中で、本町だけが人口増加に転じることは極めて困難であると考えられますが、急激な人口減少は住民生活にも行政運営にも大きな影響を与えることから、人口減少の抑制に努める必要があります。そこで、30年後の人口が現状18,707人（平成27年度）の半分以上にならないように安定させるため、令和30年時点で概ね10,000人の人口を維持することを目標とします。」
素案第4章 人口ビジョン（5.行政上の人口減少抑制と町民所得向上の必要性） P6	円グラフ より棒グラフにして、人口減少による歳入額の減収を2019年度と比較してはどうか。	住民の方が見た際にわかりやすグラフの表記を検討させていただきます。
素案第5章 1.今後想定される社会環境の変化2050年の「南知多町」 P8	「社会」の項に「道州制等の自治体再編により行政構造が変化する」との記載は、あえて必要でしょうか？ ※現状、国・県ともに道州制の議論は進んでいないように思われます。2050年という長期的視野に立った場合、将来的に道州制議論が進展し現実化するのかもしれませんが…。（「道州制」とまではいかなくとも、例えば「行政の広域化」といった表現であれば、現時点での将来認識としてより現実的な印象を受けます。）	・頂いた意見を踏まえ、文章を以下に修正しました。 「行政の広域化により行政の仕組みが変化する」
素案第6章 まちづくりの将来イメージと基本理念 P12	将来イメージ 地域活動の源泉を何処から生み出すか、協働による実現と理解するが、ますます多様化が進むと思われる環境において、6.「一歩進んだ」まちづくりは望むところです。 実行の手が減少する中で、本当に必要なことを効率よく行うには個の力を単純に積み上げるのではなく相乗効果につなげることにあり、関連者がどのポジションでどのような実績を上げたのかが見えるようにしたい。	地域活動の源泉として、「自分の手でまちをつくっている」「自分がまちを良くしている」という地域に対する愛着につながる想いがベースになってくれることを期待しております。 ご指摘のとおり、個の力を単に積み上げるのではなく、相乗効果につなげるための仕組みが必要となっていきます。本町の中で協働・連携が少しずつ浸透する中で、国も推奨している協働における次のステップとして、住民と一緒に新しい価値や解決策の創造を目指す「共創」によるまちづくりを目指したいと考えております。
素案第7章 南知多町がとるべき戦略（「1.子育て世代の居住と就業促進」及び「2.高齢者の就業促進」） P13	人口減の中、協働取組としての流れは汲取ことはできるが、働く環境（仕事はある・後継者不足による労働力不足）の一つとして若い力の活用不足にあると思う。 1.と2.の関連は？高齢者の所得向上は本当に望むことか？	まず、高齢者の所得向上の必要性につきましては、内需としての個人消費は就業者数と連動することを前提としており、戦略3の「地域内経済循環」の拡大にも大きく影響するため重要なものと考えております。 そのうえで、子育て世代の就業促進を図るためのビジネスに高齢者が活躍することを期待しております。 なお、若い力の活用不足については、御指摘のとおりですので、戦略5及び6による、若い力が活躍することができる環境整備に向けて、豊富な知識を有する高齢者の方々に活躍していただきたいとも考えております。
素案第7章 南知多町がとるべき戦略（「2.高齢者の就業促進」） P13	計画を見ても若者と高齢者、それぞれの人がどんな方向で動いたらよいか分からない。（たとえば）高齢者の就業促進とあるが、何歳まで働けばいいのか。どちらかという若者にもっといい環境を作ってあげたい。	・高齢者が何歳まで就業頂くかは個々人の勤労意欲や状況にもよるため、ご回答することは難しいですが、一律に就労促進を図るということではなく、日本全体で健康寿命が延びている中、就業意欲がある高齢者が就業出来る環境を作ることは町の活性化のポイントにもなると考えています。このため、表現を以下の通り修正しました。 「本町においても高齢化は進んでいますが、同時に町内の就業者人口も減少している中、人手不足を解消し町内産業を活性化するためには、就業を希望する高齢者について就業を促進する環境作りが重要です。」 ・頂いた若者の就業についても重要と考えており、若者が定住し、行く行くは子育てを行っていくことを鑑み、P13の「子育て世代の居住と就業促進」にその旨を記載しています。
素案第7章 南知多町がとるべき戦略（5.都会にはない魅力を提示する就業と生活のモデルの創造） P15	一固定概念という言葉に違和感を感じます。生活・就業・交通面において選択肢の多い都会は、実際生活しやすいと思います。思い込みではなく、事実。その事実を踏まえた上で、南知多の恵まれた環境を魅力として発信していくことが大事なんだと思います。※また固定概念という言葉は「固定観念」が正解だそうです。	・頂いたご意見を踏まえ、以下のように修正しました。 「これは、「都会の方が就業しやすい」「都会の方が生活しやすい」という考えで、都市部での生活を希望している方々が相応にいるためと考えられます。一方で、自然環境に恵まれた農山漁村地域で暮らしたいと考える都市部の移住希望者は多く、また今後、Society5.0の実現に向かい技術革新が進む中で、居住地域に左右されない就業や生活スタイルが普及することが想定され、都市部に居住するメリットは低下すると考えられます。そのため、都会にはない自然恵まれた魅力とそれの中での就業と生活のモデルを創造・提示し、町内外へ発信することで、町民の転出の抑止とともに移住の促進を図る必要があります。」
素案第7章 南知多町がとるべき戦略（5.都会にはない魅力を提示する就業と生活のモデルの創造） P15	都会の便利さについて「固定概念」で片づけてはいけなのではないか。実際に不便だから都会に行ってしまうのでは。	利便性を求めるにあたり、都会と同等のサービスを提供することは残念ながら本町においては現実的ではなく、難しいと考えております。そのため、現状からどのように工夫をすれば求められる利便性の良さに近づくのかを考えていくとあわせて、不足した部分を補うような南知多町の良さを表現できるような取り組みと一緒に考えていければと思います。
素案第8章 まちづくりの施策体系 P16	1. まちづくりの基本目標・基本施策 まちづくりの将来イメージや町長マニフェスト（とるべき戦略）を実現していくため、「地域で育むひとづくり」「地元をにぎわす仕事づくり」「安心できるまちづくり」の3つの基本目標プラス「行財政マネジメント」を柱とし、それぞれにおいて総合的に実施する25の基本施策を定め、消滅可能性都市から持続可能都市へ・・・の実現をめざし、暮らし続けられるまちづくりを力強く実行していきます。 「ひと！ にぎわい！ あんしん！南知多の未来にプラス！ 消滅可能性都市から持続可能都市へ・・・⇒カットして、上段の文章内に活かす	・本文について、頂いた意見を踏まえ、以下の通り修正しました。なお、町長マニフェストの部分は町民の方々に示している内容であるため、そのまま表記をさせて頂ければと思います。 「将来イメージや町長マニフェストを実現していくため、「地域で育むひとづくり」「地元をにぎわす仕事づくり」「安心できるまちづくり」の3つの基本目標プラス「行財政マネジメント」を柱とし、それぞれで実施すべき施策を以下のように25の基本施策を定め、暮らし続けられるまちづくりを力強く実行していきます。」

素案第8章 まちづくりの施策体系 P16	「にぎわす」という言葉がしっくりこないように感じる。 ・元気にする・活性化させる・活力を与える ではどうか。	南知多町を元気にする、活力を与えると意味合いも含みつつ、地元をもっと盛り上げる、知名度を上げていくという印象を与えるという部分を持ち合わせた、「地元をにぎわす仕事づくり」という表現で問題はないと考えております。
素案第8章 まちづくりの施策体系 P16	企業誘致に苦戦していることもあり、しごとづくりよりも、しごとから生み出される賑わいに重点を置いた方がこの地域に合っているのでは。	企業誘致にとどまらず、漁業、農業、商工業の振興、起業支援、事業承継等を踏まえた基本目標として「仕事づくり」としています。一方で、頂いた視点も重要なポイント考えるため、P18の重点施策②の最後に以下加筆しました。 「また、しごとにより町のにぎわいが生み出されることを目指します。」
素案第10章 重点政策（3. 重点政策の管理指標(KPI)） P19	全体指標 町の存在：夢・・・挑戦／楽しみの部分はないのか。 また指標に影響する小単位の行動の取り上げは、 例 ・新しい発明及び発見（名物・名品） ・NPO活動団体の設立	全体指標については、基本目標の指標にあたるかと考えております。 挑戦や楽しみの部分につきましては、毎年実施する住民意識調査にて住民のみなさまと共有できればと考えております。 小単位の行動の取り上げについては、総合計画本紙ではなく、アクションプランでの取り上げと考えており、新しい発明及び発見についての意見については評価委員会で住民の方から出していただけることを期待しています。
素案第12章 1-1地域で大切にしている子育て環境 P21	施策名を「地域で…」と頭につけた背景や意図を、将来像の中に盛り込むような表記内容に	・頂いた意見を踏まえ、以下の文章を追記しました。 「子育て環境は各家庭の問題と捉えるのではなく、地域全体で取り組んでいく重要なテーマであると位置付け、以下の内容に取り組んでいきます。」
素案第12章 1-1地域で大切にしている子育て環境 P21	基本施策に「ファミリー・サポート・センター等の実施」とありますが、現状なかなか実現が難しいファミサポは南知多町のスタイルには合っておらず実現困難なものではないかと思えます。（ボランティアのなり手がいない・マッチングが難しい・急を要する場面に対応できない・ニーズにそぐわないなど。）乳幼児期の子育てが大変だと、とても2人目3人目を産もうとはなりません。子育て世代に2人目3人目を産んでもらうためには、乳幼児を育てている世帯の負担を軽減させる支援が不可欠です。こういった子育て支援はファミサポだけでなく、例えば現状行っている「赤ちゃん訪問」を拡大して2歳までは保健センターから保育士が他短時間の訪問型保育をするなど、方法は他にもあります。支援の目的は「子どもの見守りを支援して保護者の負担を軽減すること」であって、ファミサポは目的ではなくその方法の一つではありません。ですが基本施策の中に「ファミリー・サポート・センター」と入れてしまうとそれが目的化してしまうと思います。子育て支援はニーズに合わせた柔軟さや迅速さが重要だと思いますが、それこそ12年後はリモート会議のように「リモート子育て相談」などが時代の形になるかもしれないわけで、基本施策で「ファミリー・サポート・センター」と明記するのではなく、「子どもの見守りを支援するための実践的な取り組み」など、これからの時代に合わせた支援の形に柔軟に対応できる文言が良いと思います。	「ファミリー・サポート・センター事業」については近隣市町で本町だけが実施しておらず、令和元年度に策定した「第2期南知多町子ども・子育て支援事業計画」では、「ニーズ量を考慮して、需要の動向を見ながら実施を検討する」としています。計画策定に際して行ったアンケート調査では、本町が実施した場合利用したい事業として、就学前児童の保護者では「ファミリー・サポート・センター事業」が最も高い割合であるとの結果が出ており、潜在的なニーズはあり実施の検討をする必要はあると考えております。 しかしながら、ご意見をいただいたとおり、子育て支援として「子どもの見守りを支援して保護者の負担を軽減する」ことが目的であって事業の実施は方法に過ぎません。「ファミリー・サポート・センター等の実施」は、実際に施策として記載させていただきますが、事業の開始にとらわれず、今実施している子育て支援事業の充実を考えながら、これからの時代や町民の皆様のニーズに沿った支援の形に柔軟に対応できる文言となるよう、文章を以下に修正しました。 「現在実施している子育て支援事業や一時保育、延長保育等保育サービスを充実させるとともに、ファミリー・サポート・センター等の新しい事業についてはニーズを考慮し実施を検討するなど、町として子育てを応援するため実践的な取り組みを行っていきます。」
素案第12章 1-1地域で大切にしている子育て環境 P22	4 管理指標について目標達成をみる指標が「住民意識調査の満足度」でよいのか？他に、もっと具体的に図れる指標はないか。他の基本施策でもいえる部分がある	具体的な指標については、個別計画で定める指標や、アクションプランでの各事業の指標で進捗管理を実施していくことを予定しております。
素案第12章 1-2次代の担い手を育む教育環境 P23	現状と課題に「集団の中で切磋琢磨することを通じて判断力や社会性などを身につけていくためには、一定規模の児童生徒集団を確保することが必要」「適正な学級規模になっていない」とありますが、これは国が推奨している40人学級や、ひと学年2～3学級のメリットを元にした表現だと思います。ですがコロナ渦において28人学級を実践している自治体も愛知県内にあり、国も少人数学級を検討する声が高まっています。教育先進国の欧米では少人数学級が基本ですし、今後のコロナによる影響も考えると「40人学級」がこれからの時代の基準になるかはわかりません。「南知多町立小中学校適正規模適正配置基本計画」は今まだ画策中で決まっています。この計画の元になる「学校規模の適正化に関する町民アンケート調査」では「小学校は統合するのではなく、現行のままでよい（町内6小学校）」が31.2%で最も多いという結果があります。町民の意向においては、現状の町内6小学校の形が町の改善すべき課題かどうかは一概に言えないと思います。一定人数で育む社会性も大切ですし「児童生徒ひとりひとりの個性や特性に応じたきめ細かい教育活動により多様な能力や適性を伸ばす」のも必要です。南知多における教育の課題は「限られた予算の中でできる限り町民の意向に沿った学校運営・維持していくこと」だと思います。今の書き方だと統廃合を前提とした印象を受けてしまいます。	「学校規模の適正化に関する保護者アンケート調査」では、小学校は現行のままでよいが31.2%ですが、それ以外の意見として、小学校は、中学校区に1校（町内5小学校）と離島以外の小学校を統合すべきと答えた保護者の割合を足すと43.9%あります。また小学校は、現行のままでよいと回答した保護者は、内海、豊浜、離島地区に多く、今回の学校適正化を検討している師崎地区では、統合を望む意見の方が多く結果となっています。 また、児童生徒へのアンケートにおいても学校の統合について、いいと思う意見の割合が高くなりました。教育委員会としては、このように保護者、子どもたちのアンケート結果や、現在実施している「学校規模適正化懇談会」の参加者である小中学校、保育園の保護者代表や、地区代表者、学校関係者に学校の適正配置、規模適正化についての意見を広く聴き、教育委員会並びに町長部局で、南知多の子どもたちによりよい教育環境を確保するため適正規模、適正配置について検討しています。 頂いた意見を踏まえ、文章を以下のように修正しました。 「・・・一定規模の児童生徒の集団を確保することが必要であり、それを踏まえた適正な学校規模を図っていく必要があります。」 （1. 現状と課題） 「実現したい教育の姿・環境を見据え、「南知多町立小中学校規模適正化基本計画」に沿って、学校の適正配置、規模の適正化を進めていきます。」 （2. 目指すべき将来像）
素案第12章 1-2次代の担い手を育む教育環境 P23	伝統行事への参加など、郷土教育はすでにされており、子供たちの郷土愛は確実に深まっていると感じます。さらに将来像への実現へ向けるために、未来の南知多を考える機会が、学習の中に取り入れられると、よいのではないのでしょうか。	・頂いたご意見を踏まえ、以下のように修正しました。 「児童・生徒が地域に愛着を持つために、農・漁業体験をはじめとした自然の中での学習、伝統行事等への参加、地元の食材を使った給食等、郷土教育の拡充に取り組みます。また、それらを踏まえた上で、児童・生徒が本町の未来を考える機会の創出を推進します。」
素案第12章 1-2次代の担い手を育む教育環境 P23	少子高齢化をどうしていくのが一番の問題。大学などで、子どもたちはみんな出て行ってしまうが、戻ってきてもらえるような教育が必要（子どもたちの郷土愛をはぐくむことが必要）	・子どもたちが戻ってきてもらうためには、住民のみなさま、地域の力が必要不可欠と考えております。南知多町へ戻ってくる理由があるまちなになる為に取り組まなければならないことについて、評価委員会等も含めた住民参画で一緒に考えていければと思っています。

素案第12章 1-6豊かな自然を活かしたひとづくり P31	(2)「美しい自然を守る活動の普及・展開を支援する。」という項目を付け加えてもいいのではないかと。 (3)「美しい南知多を日頃から楽しみ、SNS等で積極的に魅力を発信いただくとともに、環境改善の取り組みにも理解いただけるよう取りくみます。」という項目を付け加えてもいいのではないかと。	・頂いた意見を踏まえ、以下の文章を追記しました。 「また、上記の取組ができるよう、美しい自然を守る活動の普及・展開を支援します。」 （2.（2）将来像の実現に向けて） 「また、美しい南知多を日頃から楽しみ、SNS等で積極的に魅力を発信いただくとともに、環境改善の取り組みにも理解いただけるよう取りくみます。」 （2.（3）地域との協働）
素案第12章 1-7郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ P33	高齢者の持っている伝統技術等を残していくことが必要。計画の中にそういったことを盛り込んでいくべきではないかと。	・頂いた高齢者の伝統技術について、「日常・文化的な技術」と「産業としての技術」の2面があるかと思います。前者の「日常・文化的な技術」は「1-7 郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ」で以下のように加筆しました。 「今後必要となる公共施設再配置方針を定め、施設の再配置や長寿命化、修繕を進めます。郷土教育や高齢者が持つ伝統技術など、若い世代が伝統文化や技術に触れる機会の確保に取り組みます。」 ・後者の「産業としての技術」は「2-6 価値ある産業を残す事業承継支援」の記載が該当するかと考えます。
素案第12章 2-4何度も訪れたくなる観光・交流 P41	海鮮料理、温泉、海水浴だけでは今後、大幅な観光客の増加が見込めないと思われますので、例えば、内海にある「砂時計の町」の砂時計とか、歴史はよくわからないが師崎の「千賀水軍」なるものを南知多町の名所にして、情報発信してみてもどうか。	町観光協会、事業者を含めて、町内の観光資源を新たに発掘し、磨き上げて、情報発信を行っていきたいと考えております。
素案第12章 2-5新たなチャレンジを創る起業支援 P43	文中、「社会的起業家」との記載がありますが、単に「起業家」とせず、「社会的」と付してあるのは何か特段の意味があるのでしょうか？	・前段で「地域の課題解決に取り組む社会的企業」と記載しており、「社会的企業」は地域の課題解決に取り込むNPOなどの営利を求めない団体等を指す言葉として表記しています。ですので、後段の部分につきましても、意図して「社会的」と付しています。
素案第12章 3-6多様性を認め、共に支え合うコミュニティ P59	資料119頁 多様性を認める、働き方、様々な方が活躍できるという部分について、計画の中に目指すべき姿、指標が総合計画の中にない。政府の202030という、2020年までにリーダーシップをとる女性を30%増やそうという目標があるが、そのような、このくらい増やしましょう、という指標があるとよい。	・指標については、今後、毎年度進捗管理をすることを想定し、毎年度モニター調査を実施する住民意識調査の回答結果を設定しています。もっとも、ご意見の視点は本町でも重要と考えており、個別計画である「南知多町男女共同参画計画」で、「法令・条例に基づく審議会等の女性登用率」を30%とする指標設定を行っています（実績値16.5%＜平成28年時点＞）。
素案第12章 3-6多様性を認め、共に支え合うコミュニティ P59	「多様性を認め」を意図した具体的な表記や計画、管理指標がほしい。	具体的な指標については、個別計画で定める指標や、アクションプランでの各事業の指標で進捗管理を実施していくことを予定しております。
素案第12章 3-6多様性を認め、共に支え合うコミュニティ P59	「多様性」「誰もが活躍できる町」を実現するための方法として「社会のさまざまな分野においてリーダーシップを取る役割における女性の締める割合を増やす。ジェンダーギャップを解消し、多様な意思決定を尊重できる町づくり」を、基本施策の中に盛り込んでいただきたいです。第二回会議にて、兵庫県豊岡市を例に挙げてジェンダーギャップについて発言しましたが、私の説明が言葉足らずでした。豊岡市は「ジェンダーギャップの解消」を非常に重視して力を入れています。例えば、役場の職員の研修は遠方への泊りをやめて講師を呼ぶ形に変えて、家庭の責任の大きい女性が参加しやすい形にするなど、男性を基準とせず女性も主体的に仕事に取り組めるような工夫が随所になされています。（他にジェンダーギャップについての役場職員向けのセミナーや、キャリアデザイン研修、男性の育児取得向上など）役場が積極的に取り組んでお手本となると共に、市内の複数の事業所へ「ワークイノベーション(働き方改革)の推進」の協力をおおぎ、女性従業員リーダーシップセミナーの開催や、女性が再就職を始めやすくなるよう短時間少日数勤務制度の導入などをたはらきかけています。豊岡市は、女性が多様な生き方を大切にできるような様々な施策を実践し「働き方の仕組み作りが大切」という認識を住民一体で共有し、若い女性のUターンの転入率を回復するところみが今大きく注目されています。南知多町では、政府の指標である「202030(2020年までにリーダーシップを取る役割における女性の締める割合を3割にする)」という数値目標も、とてもハードルの高いものです。つまりそれだけ南知多では活躍できる人が限られているということでもあります。これは人口がさらに減少する今後にとって、社会的にも経済的にも大きな損失です。 山本奈緒委員が発言されたように、都会の便利さや暮らしやすさや魅力は、固定観念ではなく事実です。ただ都会では沢山の人がいる分、ひとりひとりの存在感は薄く、ひとりが担う役割ややりがい、活躍できる場が小さいという側面もあります。 ですが「南知多には活躍できるチャンスがある」「若者や女性の意見を聞いてもらえる」「ひとりひとりの役割が大きく、大切にされる」と町民に思ってもらえるように、「能力のある人が適切なポストで活躍できる町にしたい」と発信することは、都会疲れた若者や女性へ向けて大きなメッセージになると思います。 女性が子どもを産むために帰ってくるだけでなく「自分の能力を幅広く活かして働くために南知多へ帰ってくる」というのを目指したいですし、私自身がそうして東京からUターンで帰ってきたので、同じように後に続く方々を引き立てたい思いがあります。 今回この審議委員会に加わり、「自助・互助・公助」の中の「公助」の部分について、「限られた予算の中でできる公助には限りがある」というのが第七次計画の前提なのだというのがよく見えてきました。だからこそ町民の方々へ「自助・互助」をお願いし、みなさんに意識して考えてもらうよう呼びかけていくことが「町民一体となった町作り」に必要なのだというのよくわかってきました。 この「多様な意思決定を尊重できる町づくり」を基本施策の中に盛り込むことは、「町民ひとりひとりが活躍できる町」という「主役は町民である」というメッセージを発信するのにもふさわしいテーマになると思います。	頂いた部分につきましては「3-6 多様性を認め、共に支え合うコミュニティ」かと認識しております。 内需としての個人消費は就業者数と連動することを踏まえると、女性の就業促進は、戦略3の「地域内経済循環」の拡大にも大きく影響するため重要なものと考えております。 都道府県別の自治体の出生率と女性の就業率の関係性を見ても、女性の就業率が最も高い島根県において、出生率が最も高くなっております。これは、過疎化が進む自治体においても、女性の就業率が向上することで、出生率を高めることができることがいえますが、地域性、主要産業などの関係により、必ずしも「女性の就業率が高い＝出生率が高くなる」とは当てはまらない場合があると考えております。 ですが、本町が暮らし続けられるまちであり続けるには、女性の就業は必要不可欠な要素です。 また、IT産業の内、特にSNSやイーコマースなどの事業分野の主な消費者は若い女性であるため、戦略5と6を達成するうえで、女性の目線によるビジネスの展開も必要であると考えます。 まちづくりにおいても、女性目線による取り組みも必要ですので、女性の社会的活躍を促進することは非常に重要な課題となっております。 以上により、就業を始めとする女性の社会的活躍を促進することは、本町において最も重要なものであると考えているため、女性が子育てを理由に活躍の場を逃すことがないように支援するために、重点政策として「子育て支援」を1番にしております。
素案第12章 3-7心と体安らぐ自然・住環境 P61	町が力を入れて取り組んでいる「ごみ減量化」や「リサイクル事業」があるので、管理指標はそれに対応した具体的なものが考えられるのでは？	具体的な指標については、個別計画で定める指標や、アクションプランでの各事業の指標で進捗管理を実施していくことを予定しております。

その他（政策立案全体について）	外の考え方や取組をそのまま取り入れるのではなく、南知多らしいものを考えればよいのでは。地方のよさもある。	・頂いた通り、南知多町らしさを出すことは重要と考えおります。南知多町らしさについては、関係する施策の個別計画やアクションプランで具体的に進めていくことが重要だと考えております。
その他（まちづくりの方向性について）	若者にも高齢者にも住みやすい町にしていけることが必要。	・若者が住みやすい町、高齢者が住みやすい町にするためにどのような取り組みが必要なのかを、毎年実施する住民意識調査や評価委員会の中で聞いていければと考えています。その為に次期総合計画から始まる住民参画の仕組みづくりを幅広い方へ知っていただく必要があると考えております。
その他（協働の取り組みについて）	協働取組は多くの垣根を開くことにあり、それぞれの役割の中で制約されることの理解が必要となる。お互いの理解度を上げるためには伝達のペースを共有化すること、人から人への伝達はストレートに伝わらず、時には届かないことが多い。関連者間の役割を明確に隙間を作らない取組を望む。	「協働によるまちづくりをうまく進めるためには、関わる方々の考え方に違いがあり、お互いの理解を深めることが重要なことであると思います。 そのためには関係者をつなぐ「接着剤」のような存在が必要と考えております。まず手始めに公務員が積極的に地域と交流を深め「地域をつなぐ人材」を担えるよう努めていくことで、関係者間の垣根を開き、行政と住民での「共創によるまちづくり」をしたいと考えています。
その他（「地域共生」について）	地域共生について謳っているが具体的にどんな人かわからない。老若男女、いろいろな世代がいるが、そのような細かい要素があるとよい。障がい者、LGBTなどへの配慮、外国人実習生なども地域住民なので、具体的な記載が要るのではないかな。	・ご指摘の点については、地域住民という広い概念を一部提示している箇所はございますが、「2-7働く環境づくり」や「3-6多様性を認め、共に支えあうコミュニティ」などの項目で、具体的に想定している属性の方について例示をしています。施策ごとに想定している地域住民が異なってくるかと存じますので、これ以上の具体的な記述については個別計画やアクションプラン等で詳述していく予定です。
その他（審議会スケジュールについて）	・事務局の皆さまは多大な資料作りや集計や手配でとてもご多忙と思うのですが、できれば審議が必要な資料は審議会当日や後日ではなく審議会前に目を通して考える時間が欲しいです。審議委員さんはそのそれぞれの分野の専門家であらっしゃるので、できるなら皆さんの意見を事前にお聞きし、それで考えをまとめた上で審議会で見解交換できたら活発な審議ができると思います。今後、例えば住民会議での概要版(素案)のサンプルや住民会議の結果報告についても、現状のスケジュールだと審議委員から個別にメールなどで意見を集める形になると思いますが、本当は審議委員のみならず皆さんの意見を聞いて参考にしながら自分なりの意見を考えたいです。みなさんと意見を共有する形の進行は難しいでしょうか。	・審議が必要な資料につきましては、可能な限り事前送付に努めさせていただきます。また、事前に頂いた意見についても皆様で意見が共有できるよう事前に送付させていただきます。 ・中には当日の資料になってしまう場合もありますので、そちらにつきましてはご理解いただければと思います。
その他（文章全体について）	・計画書のカラーについて、特に、黄色の中の文字が分かりにくく目が疲れた。グラフも同様。先の計画書のカラーのほうが全体的に見やすい。	見やすさを加味し、最終的にデザイン・製本する際に必要に応じて調整させていただきます。
その他（文章全体について）	ページ構成があまり変わっていない。こういう理由で強調、達成したいということを考える文章構成にして頂きたい。文章表現や管理指標についても、具体的な課題で指標を設定してほしい。	・基本施策について、第6次総合計画での取組を踏まえて、次期総合計画でどのように行っていくかということを整理するため、「現状と課題」と「目指すべき将来像」で整理しています。また、指標については、今後、毎年度進捗管理することを想定し、毎年度モニター調査を実施する住民意識調査の回答結果を設定しています。 ・具体的な施策や指標については、アクションプランや個別計画で記載・進捗を図っていく予定です。
その他（個別計画表記について）	・基本施策 2 1 項目 3 関連する個別計画について 項目の内容に関連する計画名がすべて書かれているが、項目ごと主要計画を最初に記載すべきかと考える。 例えば、1-2教育の内容が主要内容のため、南知多町教育基本計画が上位に計画、1-3では、健康づくりが主要内容のため、けんこう南知多プランが上位に とそれぞれの項目で関連が大きいものから上げたほうがいいのでは。	・頂いた内容を踏まえ、関連が大きい順に掲載を修正しました。
その他（住民意識調査について）	南知多町住民意識調査のアンケート調査募集に合わせて、PC回答に協力しようとしたが、調査項目の分量が多すぎて、かなりの時間を要するという、また、時間的に一度に一気に取り組めなくて、途中一時保存しようとしたが、それもうまくいかず、PC上では都合2回分回答記載した形になったが、結局送信できずに終わってしまいました。モニターの方には、もう少し手軽に、楽しんで回答いただけるような工夫が必要に感じました。	次年度以降のアンケート調査実施時の参考とさせていただきます。
その他（住民意識調査について）	・調査指標について。KIPの算出方法については、統計の知識が無いので判断できませんが、このアンケートを行う趣旨や「アンケート結果の指標を元に重要度が高く満足度が低い施策を優先的に実施する」「特に満足度を最も重要視していく」などのアンケートの活用方法について、よく理解できました。ただ、既にアンケートを実施したあとでアンケートの算出方法や詳しい活用方法をお知らせいただくのは、アンケートを審議する順番として適切なのか疑問を感じました。これらの内容はアンケートを検討する第一回会議の段階でアンケート草案と一緒に提示していただけたら良かったかなと思います。	今後は適切な順序での資料提供と説明ができるよう、留意していきます。
その他（住民意識調査について）	住民の方が満足していない項目について、どのようなところに満足していないのか、自由記述等で理由がわかれば知りたい	・前回審議会時は集計前であるためご提示できませんでしたので、今回別紙資料「住民意識調査報告書」にて、頂いた自由記述も整理しています。

その他（住民意識調査について）	・目標の進捗状況を測るために住民に対して満足度調査をする趣旨は理解できるのですが、アンケートには「現状と課題」についての説明がありませんでした。「現状と課題」が伝わらなければ、そこからどれくらい目標の将来イメージに近づいたのかの段階的な満足度を測ることはできないのではないでしょうか。例えば私は農家なので町の漁業のことはよく知らなかったのですが、基本施策に書かれている「現状と課題」を読んでこの町にとっての漁業の重要度がとてもよく理解できましたし問題意識を持つことができました。現状と課題が分らないと、詳しく知らない分野については分らないし、答えようがありません。わからないままに答えることになってしまいます。住民モニターの方々に「現状と課題」を知っていただかないでこのアンケートで目標までの達成度合が調査できるのでしょうか。	アンケートの紙面上、詳細な現状と課題の記載は難しい面もありますが、次年度以降のアンケート調査実施時には、新総合計画のHP上での掲載場所を記載する等、現状と課題をご認識頂けるよう工夫をしています。
その他（住民意識調査について）	世代別ではどんな結果だったかなどを知りたい。	世代別での結果につきましては、回答者が特定できてしまう可能性があるため控えさせていただいております。
その他（住民意識調査について）	点数についても、回答番号1～3の（ポジティブ）回答についてもグラデーションをつけるべきでは。今のKPIの算出方法ではグラデーションが計画に反映されない。満足度がより上がることが重要なので、グラデーションでわかる形にしてほしい。	・総合計画に載せるのは満足度だけですが、不満足に思っていない方は満足に入れています。今までは少しでも不満足に思う方の要望を拾ってきたが、今回は本当に困っているという方を助けるため、少しでも満足に思う方は満足に分類する形にしました。 ・ネガティブを減らしていくアンケートの採り方、施策の進め方は初めての試みですが、柔軟に見直していけるような総合計画を組み立てていきます。
その他（住民意識調査について）	回答番号3はネガティブ評価に入るのではないかと回答番号2を1にするようなところはどやうやって表現するか。	・回答番号1と2を「満足」、3と4を「不満足」とすることもでき、中間の「どちらでもない」も選択肢として考えましたが、集計上取扱いが困難となるため削除しました。また、人間の心理上、2つに割り切れない指標にした方がいいのではということもあり、選択肢を二分しないで1～3の「満足」、4の「不満足」にし、「まったく満足していない」人に少しでも満足して頂ける施策が必要という考えのもと住民意識調査を行っています。 ・今回の住民意識調査は不満を抱える方をどう減らしていくのかということに重きを置いています。
その他（住民意識調査について）	事務局から本当に困っている方を助けるために思い切って…との報告があったのでとても満足、ある程度満足、少しは満足までまとめたことは理解しています。 まとめれば住民と職員間の数値は近づく。 しかし、とても満足、ある程度満足までで考えると住民意識と職員の感覚にずいぶん差があることを改めて感じた。 アンケートが終わっているのに今更感はあるが、少しは満足と、とても満足までを同じと扱うのは違和感がある。 困っている方（不満を抱えている方）のことを考えているのだということを理解してもらうことが重要だと思います。 合意を得ることは非常に難しいことですが、十分な説明で理解してもらうしかないですね。	・頂いた通り、住民意識調査の趣旨・内容を理解して頂けるよう、今後とも丁寧な説明を行っていきます。
その他（KPI指標について）	・KPIとKGIがつながっていないのではないかと。具体的に描かれていると分かり易い。（たとえば）KPIとKGIをツリー状に整理してほしい	基本目標については満足度以外に認知度、重要度も数値化し、KPIとして定めています。長い目で見れば満足度を上げていくことで「選ばれる理由のある町、絆のある町」となり、子育て世代の移住・定住が促進されてくるだろうというロジックとなります。
その他（KPI指標について）	数値だけでなく実感を図るべきではないかと。満足度も点数化するのが重要なのではなく、上がっているか下がっているかが重要なのではないかと。	・初年度のため、数値を設定していますが、ご意見頂いた通り、推移を図っていくことは重要であると考えており、今後毎年度住民意識調査を行う中で満足度の上下の推移を把握していく予定です。
その他（KPI指標について）	1とても満足、2ある程度満足、3少しは満足、4満足していないの、1～3を満足として計算してあるが、3の少しは満足とは、「満足していない部分の方が多い」「少し物足りない」と言い換えられるのでは？そこを満足として数値化するのには疑問を感じます。そもそも少し満足って言葉に違和感を感じます…。	・ご意見頂いたように「少し満足」というのには、満足していない部分もあると意図されている回答者の方もいらっしゃるかと思いますが、今回の住民意識調査では、本当に困っているという方を助けることをポイントとしているため、少しでも満足に思う方は満足に分類し、「不満」と感じている施策を抽出し、改善を図っていくことを目指すこととしています。
その他（KPI指標について）	このKPIは満足度を向上させるのではなく、満足していない（切迫した）ところに予算を使っていく考え方である。この考え方について、住民に説明、合意を得ながらやっていく必要があるのでは。	・お考えの趣旨の通り本KPIは「不満を抱える方」をどう減らしていくかということに重きを置いています。 ・ご指摘の通りこの考え方については、住民の方に説明、合意を得ながら進めていきたいと考えております。
その他（KPI指標について）	パーセンテージなら分かり易いが、ポイントだと実感がわきづらい	・パーセントの場合、認知度、満足度、貢献度単位でしか算出することができず、それらを総合した評価を行うために、ポイントとしています。必要に応じて、次年度以降の住民意識調査にも考え方や算出方法を記載する等、考え方をご理解頂けるよう努めていきます。
その他（KPI指標について）	「少し満足」が「満足」に上がってもKPIにつながらないが、施策によっては「満足」が増えることが大切である。KPIの算出のためだけでなく、住民意識調査を多面的に使っていくことが重要で、今後はモニターアンケートの使い方の説明が必要ではないかと。	・頂いた通り、住民意識調査を今後多面的に活用していくことは重要なため、より多面的な活用方法の検討は継続的に検討していくほか、次年度以降の住民意識調査では活用方法も可能な範囲で説明をしていくことを検討します。
その他（Uターンについて）	兵庫県豊岡市では回復率という数値を採用している。女性が返ってくるように子育て支援に力を入れた。こうした転入について指標が作ることができるのではないかと。例えば、出て行った人のUターン比率が分かれば、帰ってくる人は女性が多いのか、男性が多いのかによって支援の方法が見えてくる。指標があることで、若者に戻ってきてほしいのであればどのような対策をすればよいか分かるだろう。	・兵庫県豊岡市の取組みについて、今後Uターンを進めていく中での参考とさせていただきます。南知多町で暮らしやすさや魅力を伝える仕組みを行政と住民で考えていければと思います。

その他（住民会議について）	常滑市が第六次総合計画の策定を一年延期する発表をしました。常滑市長のツイッターでは「コロナの影響で市民会議や中学生会議が開催できず、また人口や財政の見通しも不透明となり延期を決定」とあり、常滑市のHPでは「市民の皆さんからご意見・ご提案をいただく機会が十分に得られない見込みであることから」とのことです。 南知多でも、子育て世代・中学生、各団体での話し合いやヒアリング、それらの意見を踏まえた住民会議がとても重要だと考えますが、コロナの影響で町民のみなさんから十分に意見を出してもらうのが難しい状況なのではないかと心配です。 それに役場職員のみなさんの業務的にも、今はコロナ対応に注力したい状況なのではないかと心配しております。 南知多では第七次総合計画の策定延期は検討されているのでしょうか。	・第七次総合計画の策定延期は検討しておりません。頂いた通り、住民のご意見を聞くことは重要と考えており、毎年実施する住民意識調査や、評価委員会にて住民からの意見を募り、アクションプランへ反映させることは、より具体性をもって住民の意見を取り入れる仕組みづくりになることを期待しております。令和3年で策定して終わりではなく、南知多町の状況の変化に合わせ総合計画を4年度に見直し、修正できればと考えております。
その他（住民会議について）	ヒアリングを事前に行い、その内容を踏まえて住民会議を行った方がスムーズではないか。	・ヒアリングは実施できませんでしたが、事前の資料送付、グループワーク内容をできる限り、意見の出しやすい内容にする等の対応をさせていただきました。
その他（住民会議について）	当日に計画内容を聞いて理解することは難しいため、住民説明会の参加者が決まっているなら事前の資料配布が望ましいのでは。	・住民会議の参加者には事前に資料となる概要版の送付をさせていただきました。
その他（住民会議について）	グループ分けをする場合、本音が出やすいのは年代が近い者同士や移住者同士などで分けると良いと思います。	・ご意見を参考に中学生、性別、年代などを考慮しグループ分けをさせていただきました。
その他（住民会議について）	中学生は大人に混じっての発言が難しいため、中学生だけのグループを組むようにしたほうが良いのではないか。	・意見を参考に中学生を主としたグループ分けにさせていただきました。
その他（住民会議について）	中学生の数はどのくらいを見込んでいるのか。ターゲットにするなら事前に中学校宛に資料送付してはどうか。	・学校を通じて、生徒会などの代表生徒にお声かけいただき、参加をさせていただいております。
その他（住民会議について）	開催内容について、どこかの地区で動画で録画し、当日参加できなかった人へ公開できないか。	・住民会議については、資料をHPへ公開して、多くの住民のみなさまからも意見を頂けるようにしており、9月22日まで意見を受け付けております。
その他（住民会議について）	内容を知って頂き、どう思うかを述べ、使うことを住民説明会で話すのを（ワールドカフェ）二時間でやると消化不良ではないか。	・2時間という限られた時間の中、またコロナ渦での意見交換会となり、ワールドカフェ方式ではなく通常のグループワーク形式にて対応させていただいております。参加された中の方には消化不良の方もいたかもしれません。また別途多くの町民のみなさまからご意見をいただけるようHPへ資料や意見記入用紙を掲載させていただいております。
その他（住民会議について）	貢献度に関していえば、住民会議でも私は何ができるかということを聴く時間を作ってほしい	・頂いたご意見を踏まえて、住民会議を実施します。

第 7 次南知多町総合計画（素案）

～ 太陽と海と緑豊かなまちづくり ～

目次

第1章 はじめに	1
第2章 総合計画の在り方の見直し	2
第3章 総合計画の構成と期間	3
第4章 人口ビジョンとKGI	4
第5章 南知多町を取り巻く環境と目指すべき方向性	8
第6章 まちづくりの将来イメージと基本理念	12
第7章 南知多町がとるべき戦略	13
第8章 まちづくりの施策体系	16
第9章 まちづくりの基本目標（KPI）	17
第10章 重点政策	18
第11章 総合計画の実行	20
第12章 基本施策	21
第12章1 地域で育むひとづくり	21
第12章2 地元をにぎわす仕事づくり	35
第12章3 安心できるまちづくり	49
第13章 行財政マネジメントについて	63
第14章 基本施策と個別計画	69

はじめに

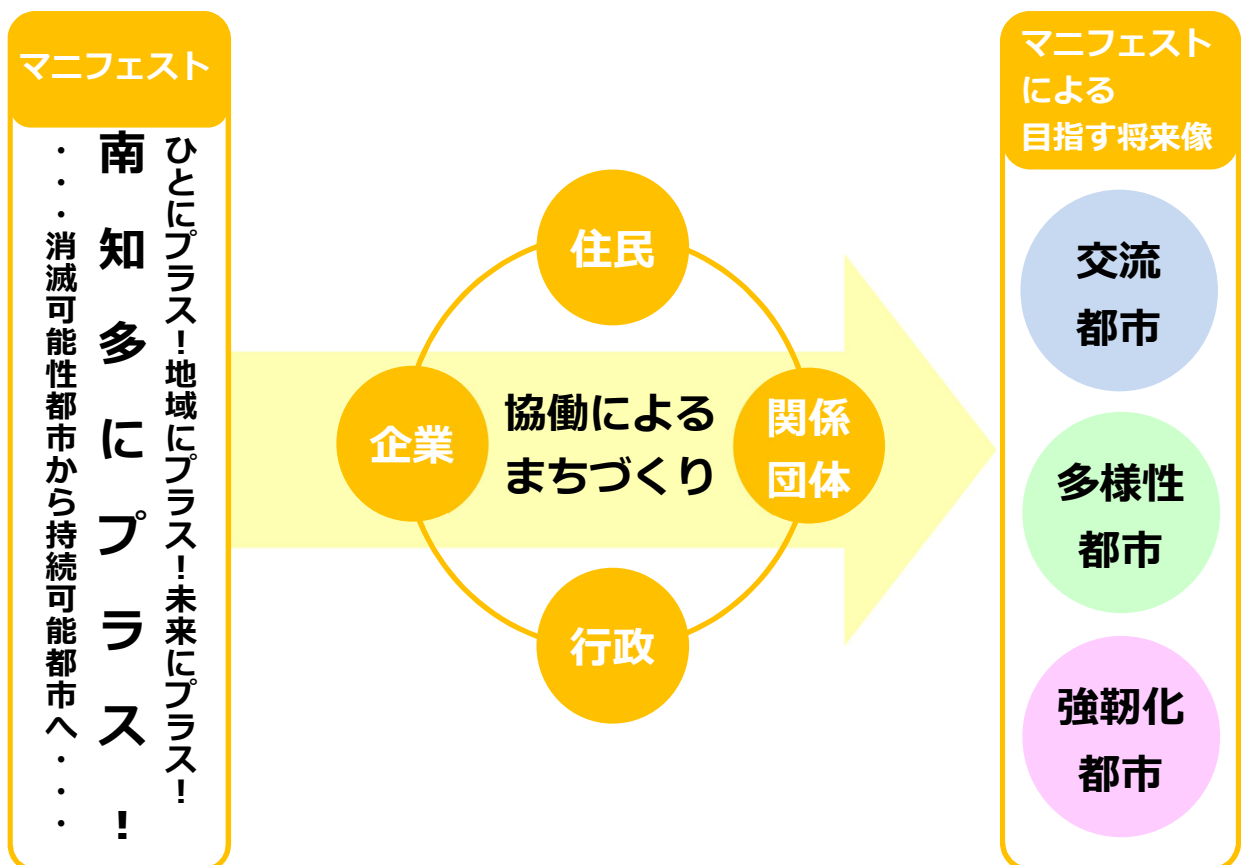
1. 総合計画策定の背景

地方自治法の一部改正（平成23年5月2日公布）により、国の地域主権改革のもと、市町村の基本構想の策定義務付けに関する規定が削除されましたが、本町では、地域の特色を生かした独自性のあるまちづくりの最上位計画として、今後も引き続き総合計画を位置づけていくため、総合計画策定に関する根拠条例を新たに整備し、第7次総合計画を策定することとしました。

2. 総合計画の意義

総合計画は、本町のまちづくりの指針となるもので、本町が町長マニフェストを実行に移していくために町が実施する、施策や事業の計画です。

さらに、総合計画は行政のみならず、町民、企業、関係団体、その他多くの人々の協働によるまちづくりの実現を目指すための総合的な戦略として活用していくものでもあります。



総合計画の在り方の見直し

1. これまでの取り組みと課題

本町ではこれまで、将来の本町の進むべき方向性を明らかにし、まちづくりの指針とするため、6次にわたり総合計画を策定し、その実行に取り組んできました。

しかし、実際の事務の執行にあたり計画が形骸化しており実効性に乏しいとの指摘もされるなど、様々な課題が生じてきています。

また、平成23年の地方自治法改正で、総合計画の基本構想の策定義務等が廃止されたことで、地方自治体の自主性と創意工夫による、地域の特色を生かした独自性のある取り組みが求められるようになっていきます。

そこで、第7次総合計画の策定にあたっては、これまでの課題や本町を取り巻く現状を踏まえ、本町における総合計画の在り方を見直すこととしました。

2. 改善に向けた見直し

総合計画や個別計画（政策分野別の計画）等における課題とその改善の方向性を以下のとおり整理し、まちづくりの指針として分かりやすく実効性のある総合計画を目指します。

課題

- 政策分野別の個別計画や、まち・ひと・しごと創生総合戦略など、多数の計画が存在しているため、複雑で効率的でない。
- 事業評価や予算・決算との連動が十分でないため、総合計画の実行や進捗管理、見直しが行いにくい。
- 総花的で、政策や事業の優先順位が明確でないため、人口の減少や財政の制約に対応した取捨選択が行いにくい。
- 文章量が多いため分かりにくく、町民に十分に理解、共有されていない。

改善の方向性

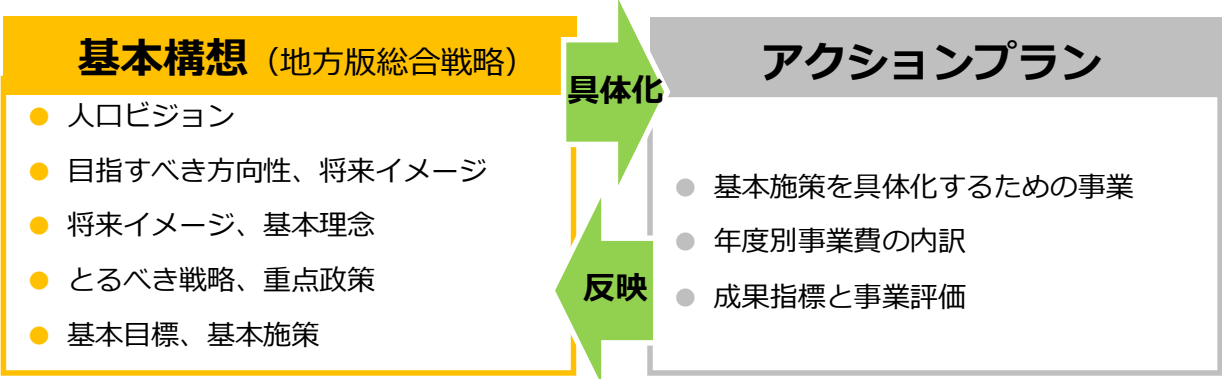
- 総合計画と各計画等との関係を整理、または一体化させることで、効率的な計画にする。
- 事業評価や予算、決算と連動させることで、実効的な計画にする。
- 政策の優先順位を明確にし、戦略的な計画にする。
- 簡潔な内容とすることで、分かりやすい計画にする。

分かりやすく、実効性のある総合計画を目指す

総合計画の構成と期間

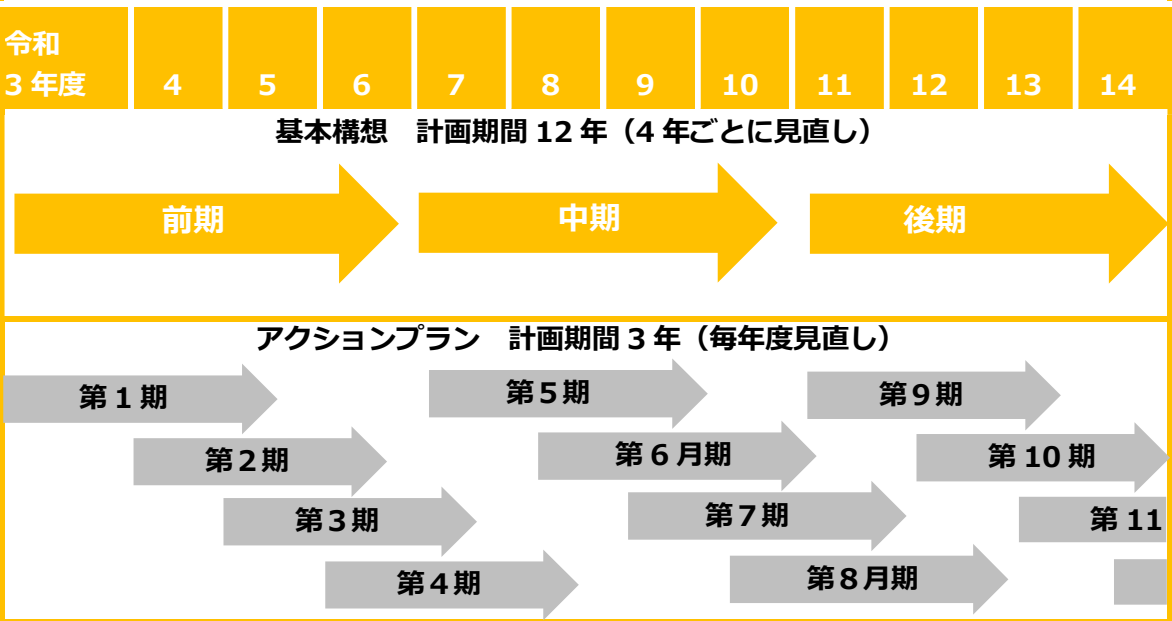
1. 第7次総合計画の構成

第7次総合計画は、本町の目指すべき将来像等を示す「基本構想」と、それを実現するための「アクションプラン」の2層で構成されています。また、「基本構想」は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置付けることとします。「アクションプラン」は基本構想を具体化するもので、その進捗を毎年度評価し、基本構想の改訂に反映していきます。



2. 第6次総合計画からの変更点

- 簡潔で分かりやすくするため、3部構成から2部構成に変更しました。
- 町長マニフェストとの整合を図るため、計画期間を11年から12年に変更しました。
第7次総合計画の計画期間は令和3年度から令和14年度までとします。
- 社会情勢の変化に柔軟に対応するため、総合計画の見直し期間を、5年ごとから4年ごとに変更しました。



人口ビジョン

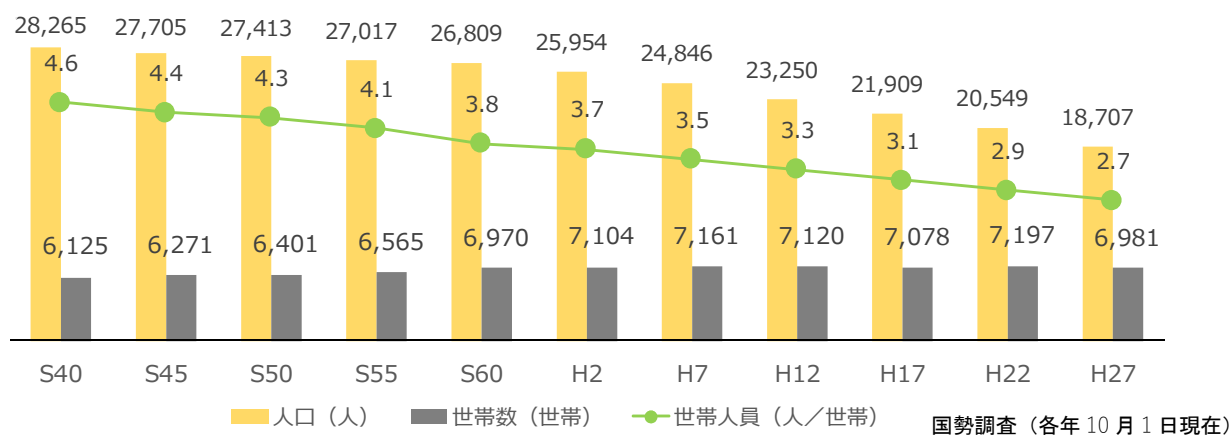
1. 南知多町の将来人口と目標人口

本町の人口は、昭和40年以降、減少が続いており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、本町の将来人口は、以下の「南知多町の将来人口予測と目標人口」で示す通り令和32年時点で7,488人となり、令和47年時点で4,422人と推測されています。

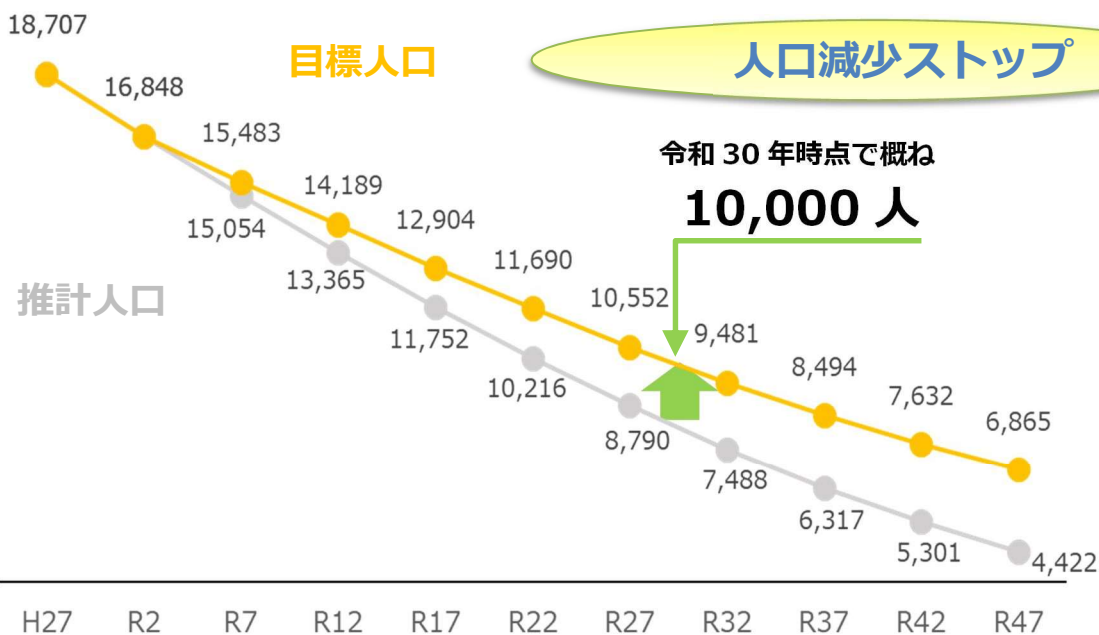
今後、日本全体で人口減少が進む中で、本町だけが人口増加に転じることは極めて困難であると考えられますが、急激な人口減少は住民生活にも行政運営にも大きな影響を与えることから、人口減少の抑制に努める必要があります。

そこで、30年後の人口が現状18,707人（平成27年度）の半分以上にならないように安定させるため、令和30年時点で概ね10,000人の人口を維持することを目標とします。

人口・世帯数の推移



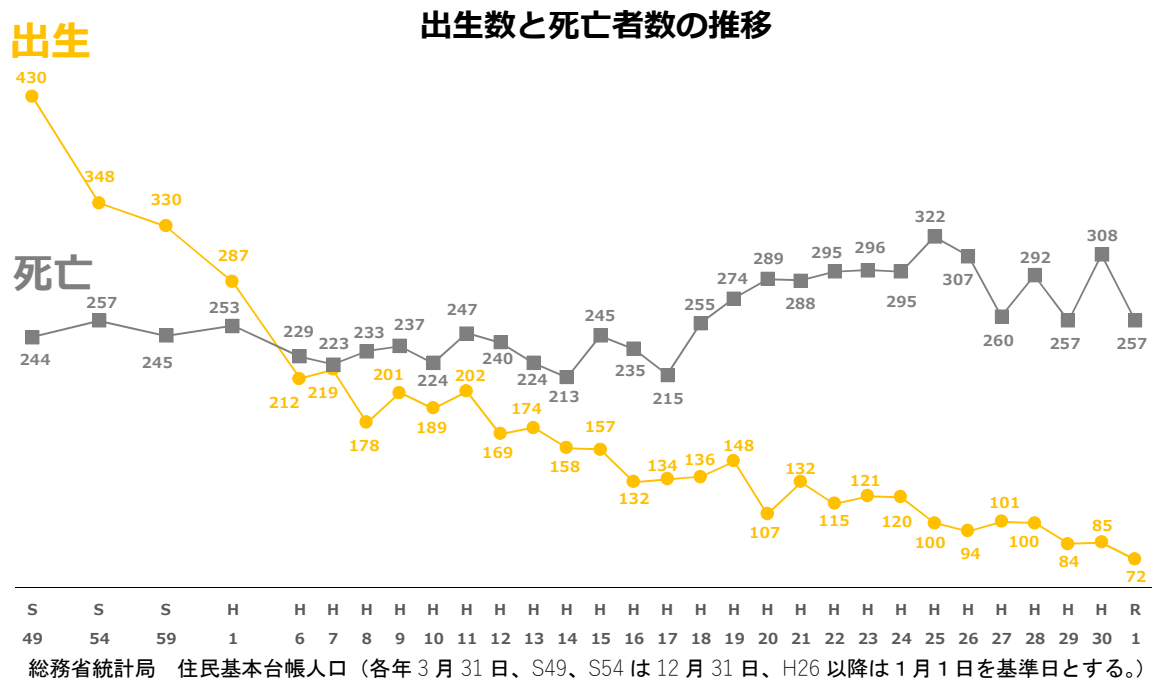
南知多町の将来人口予測と目標人口



2. 少子化への対応

本町の自然動態（出生数と死亡数の変動）の推移をみると、平成6年以降は、自然減（出生数より死亡数が上回る状態）になっています。出生数は減少傾向が続いており、今後も減少することが予想されていることから、人口の自然減が続く推計となっています。

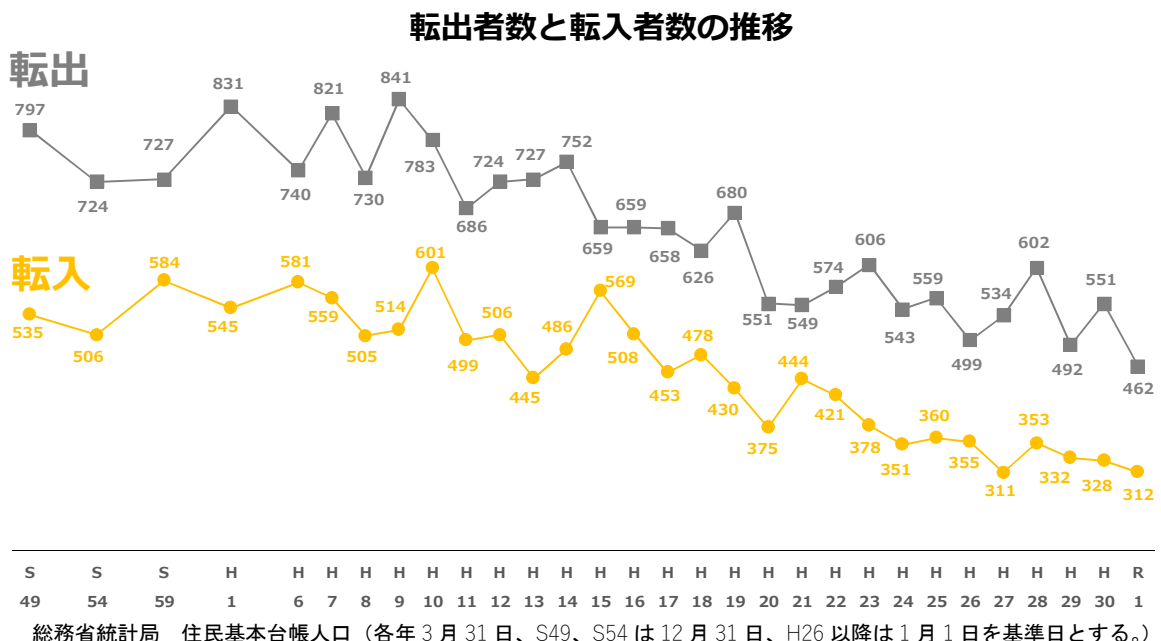
そのため、出生数を向上させるための、少子化対策が求められます。



3. 人口流出への対応

本町の社会動態（転入者数と転出者数の変動）の推移をみると、昭和49年以降、社会減（転出が転入を上回る状態）が一貫して続いています。

そのため、転出を防ぎ、転入を促進するため、移住・定住対策が求められます。

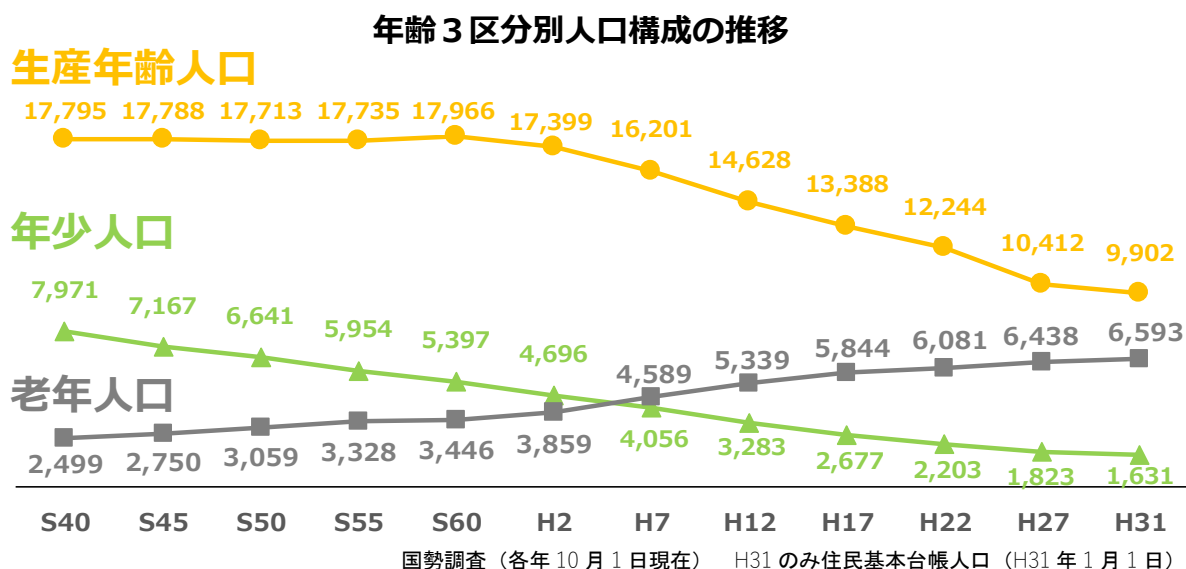


4. 高齢化社会への対応

本町の高齢化率の上昇は著しく、生産年齢人口（15～65歳）と年少人口（0～14歳）の割合が減少する一方で、老年人口（65歳以上）の割合は増加を続けています。

しかし、本町の総人口が減少の一途をたどる中で、老年人口や高齢化率も増加率はピークを過ぎています。また国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和2年前後から老年人口は減少に転じることが予想されています。

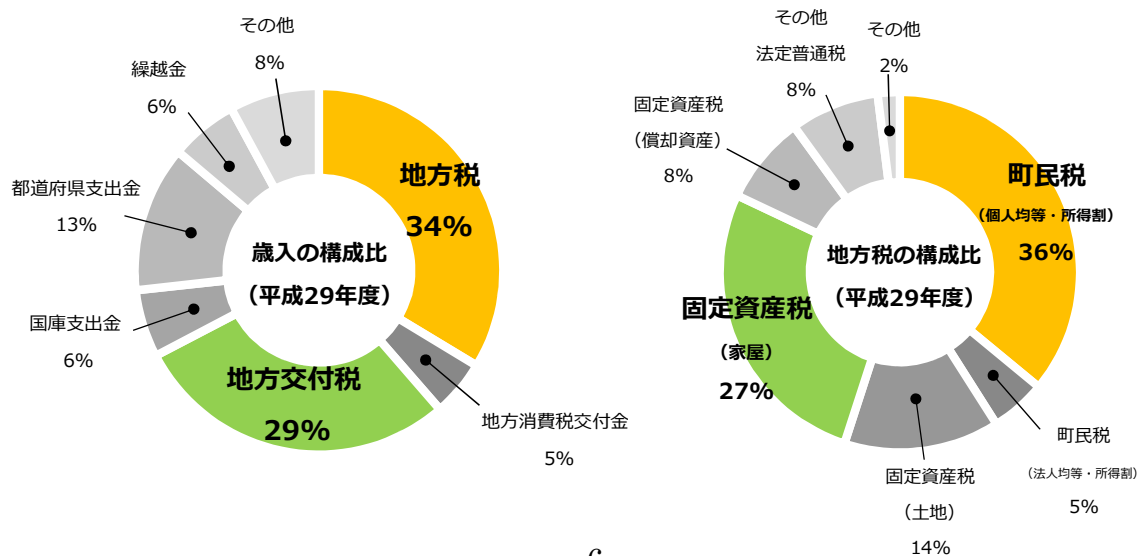
そのため、医療・福祉分野をはじめ、今後、高齢者の増加が進む都市部とは異なる対策が求められます。



5. 行財政上の人口減少抑制と町民所得向上の必要性

本町の歳入の主なものは地方税と地方交付税です。地方税は個人、法人の所得より変動し、地方交付税は基準財政需要の測定単位として国勢調査時の人口を用いています。行政サービスの財源を確保するためには、人口減少を抑制し、人口の安定化を図る必要があります。

また、人口減少は日本全体で進んでおり、本町の人口が今後も減少することは避けられません。そのため、人口減少下においても安定した財源を確保するためには、一人当たりの町民所得の増加が必要となります。



目標指標（K G I）の設定

住民生活を将来にわたり持続可能なものとしていくためには、少子化、人口流出、高齢化に対応し、将来の人口減少を抑制し、行財政の持続可能性を確保していくことが必要となります。これらの課題に向き合い、解決に向けまちづくりに取り組んでいくために目指すべき指標として、第7次総合計画のK G I（目標指標：Key Goal Indicator）を出生数とします。

令和30年時点で概ね10,000人の人口を維持するために、第7次総合計画の終了（令和14年度）時点で維持すべき出生数として、K G Iの目標数値を75人とします。

KGI

令和14年度時点で維持すべき出生数 75人

出生数の向上には、若年層の転出の抑制と転入の増加、出生率の向上など、人口の安定化に必要な多くの要素が関わっています。これらの要素を向上させるには、子育て支援だけでなく、仕事、住環境など、様々な観点から魅力あるまちづくりが必要となります。次章以降では、具体的にどのようなまちづくりを目指すのか、方向性や将来像を定め、それを実現していく戦略、政策、施策を検討していきます。

南知多町を取り巻く環境と目指すべき方向性

1. 今後想定される社会環境の変化

本町が人口減少を抑制し、今後も独自性をもった持続的な自治体として存続するためには、急速な社会環境の変化に絶えず向き合いながら、常に長期的な社会の変化を見定めた上で、本町が目指すべき焦点と方向性を示す必要があります。



2050年の

「世界」

アジアやアフリカの台頭により世界の構図が大きく変化

- | | |
|----|---|
| 人口 | <ul style="list-style-type: none"> ● 約 77 億人（2019 年）から約 97 億人（2050 年）へ増加する ● アジアやアフリカにおいて人口が大幅に増加する ● 欧州や北米地域の少子化と高齢化が進む |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化対策のため温室効果ガスの削減の必要性が増大する ● 海洋汚染などに対する環境保護の必要性が増大する ● 最貧国の人口増加が持続可能な開発に影響を及ぼす |
| 経済 | <ul style="list-style-type: none"> ● アジアやアフリカが世界経済における存在感を強める ● 人、モノ、情報の動きが世界規模で加速し続ける ● 水、食料、エネルギーの需要が世界規模で増加する |



2050年の

「日本」

人口減少と高齢化により社会と経済の構造が変化

- | | |
|----|---|
| 人口 | <ul style="list-style-type: none"> ● 約 1 億 2,600 万人（2019 年）から約 1 億 1,920 万人（2050 年）へ減少する ● 老年（65 歳以上）人口がピークを迎え減少に転じる ● 75 歳以上の一人暮らし世帯が 500 万世帯を超える |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ● 社会保障給付費が約 6 割増加する ● 環境に配慮した持続可能な開発が求められる ● 仮想空間と現実空間が融合された高度な技術革新が進む |
| 経済 | <ul style="list-style-type: none"> ● 世界経済における日本の存在感が弱まる ● 世界市場へ参入した外需型産業の必要性が増大する ● 内需型産業は医療・福祉分野が中心となる |



2050年の

「南知多町」

人口減少と高齢化による地域内経済の縮小が加速

- | | |
|----|---|
| 人口 | <ul style="list-style-type: none"> ● 約 1 万 7,700 人（2019 年）から約 7,500 人（2050 年推計）へ減少する ● 出生数が大幅に減少する ● 高齢化率が 50%を超えるが高齢者の人口は減少する |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少と高齢化により自治機能が低下する ● 高齢化にともなう医療・福祉分野の需要が増加する ● 行政の広域化により行政の仕組みが変化する |
| 経済 | <ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少と高齢化により地域内経済の縮小が加速する ● 世界的な食糧需要の増大により一次産業のニーズが拡大する ● 各産業の後継者不足が深刻化する |

2. AIを活用した持続可能な日本の未来に向けた政策提言

平成29年9月5日に公表された、国立大学法人京都大学（以下「京都大学」という。）こころの未来研究センターの広井良典教授と、京都大学と株式会社日立製作所が開設した、日立未来課題探索共同研究部門（日立京大ラボ）の研究チームが行った共同研究「AIの活用により、持続可能な日本の未来に向けた政策を提言」により、AIを活用して、これからの日本に関する社会構想と政策提言が行われました。

AIを用いたシミュレーションにより、有識者があげた①人口や出生率、②財政や社会保障、③都市や地域、④環境や資源、⑤雇用の維持、⑥格差の解消、⑦幸福、⑧健康の維持・増進に関する149個の社会要因についての因果関係モデルに基づき、2018年から2052年までの35年間で約2万通りの未来シナリオの予測を行った結果、主に「都市集中シナリオ」と「地方分散シナリオ」の2つの傾向に分かれました。

「都市集中シナリオ」では、主に都市の企業が主導する技術革新によって、人口の都市への一極集中が進行することで、政府は支出を都市へ集中することができ、政府の財政は持ち直すものの、出生率の低下と格差の拡大がさらに進行し、個人の健康寿命と幸福感が低下します。

「地方分散シナリオ」では、政府の財政あるいは環境（CO2排出量など）を悪化させる可能性があるものの、地方への人口分散が起こり、出生率が持ち直して格差が縮小するとともに、個人の健康寿命や幸福感が増大します。

提言内容としては、2050年に向けた未来シナリオとして、日本全体が（2017年時点から）今後8～10年後までに「都市集中シナリオ」と「地方分散シナリオ」のどちらかを選択して必要な政策を実行すべきであり、持続可能性の観点からは「地方分散シナリオ」を選択して早急に対応することが望ましいとされました。

また、持続可能な「地方分散シナリオ」を実現するためには、地方税収、地域内エネルギー自給率、地方雇用など、地域内の経済循環を高める政策を（2017年時点から）約17～20年後まで継続的に実行する必要があります。

AIの活用により、持続可能な日本の未来に向けた政策を提言（抜粋）

- ① 2050年に向けた未来シナリオとして主に都市集中型と地方分散型のグループがある。
- ② （2017年時点から）8～10年後までに都市集中型か地方分散型かを選択して必要な政策を実行すべきである。
- ③ 持続可能な地方分散シナリオの実現には、（2017年時点から）約17～20年後まで継続的な政策実行が必要である。

持続可能な地方分散シナリオの実現に必要な政策

地方税収、地域内エネルギー自給率、地方雇用などについて経済循環を高める政策を継続して実施する必要がある

3. 人口減少下における持続可能な行財政運営

人口減少下における持続可能な行財政運営を行うためには、財源の確保のみならず、歳出の一層のスリム化を図ることが必要です。人口に見合った公共施設の運営、費用対効果の高い事業を優先する、町単独ではなく近隣の自治体と連携して公共サービスを運営・提供するなど、効率的かつ効果的な行財政運営が求められます。

また、地域のニーズや課題の全てに行政の力だけで対応することは極めて困難です。そのため、行政、町民、企業、関係団体、その他多くの人々が力を合わせ、ともにまちづくりを推進していく協働体制を構築することが必要です。

4. S D G s への取り組み

S D G s（持続可能な開発の目標：Sustainable Development Goals）は、2015年9月に国連サミットで採択された、2030年までに達成する必要がある国際目標です。

日本でも、環境問題、高齢化、人口減少などに対応した社会の持続可能性が求められており、S D G s 達成に向けて取り組むこととしています。

そのため、本町においても、住民生活が将来にわたって持続可能になるよう、S D G s の視点を取り入れる必要があります。



5. Society5.0 による社会の変化

Society5.0 は、第5期科学技術基本計画において提唱された、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会です。

Society5.0 で実現する社会は、I o T（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有されることで、今までにない新たな価値を生み出し、少子高齢化や地方の過疎化などの課題を克服することが期待されます。

そのため、本町においても、Society5.0 による社会変化を想定した上で、既存の行政運営の在り方を見直す必要があります。



6. 南知多町の目指すべき方向性

社会が激変する中においても、本町が持続可能な行財政運営を維持するためには、先進技術を活用しつつ、本町の潜在力を引き出し、様々な不確実性に対応することが求められます。

そのため、行政、町民、企業、関係団体、その他多くの人々が、目指すべき焦点と方向性を共有し、戦略的に行動する必要があります。

南知多町の5つの潜在力	南知多町の4つの危機
【地勢】 ● 名古屋市近郊 ● 中部国際空港近郊 ● 海に面した半島と島しょ部 【資源】 ● 恵まれた自然環境 ● 豊富な水産物と農産物 ● 国内外に発信できる観光資源 【産業】 ● 恵まれた自然環境を活かした水産業、農業 ● 様々な観光資源を活用した観光業 【歴史文化】 ● 多種多様な祭礼 ● 島しょ部（篠島・日間賀島）の漁師文化 【生活】 ● 人とのつながりに基づく生活 ● 自然環境を生かした生活	【自然災害の危機】 ● 大規模地震及び津波被害による都市機能の喪失 ● 異常気象による災害の増加 ● 海水温の上昇に伴う海洋生態系の変化 【人口の危機】 ● 人口減少による地域内の経済循環の縮小 ● 税収減と義務的経費の増加による財政状況の悪化 【産業の危機】 ● 後継者不足による一次・二次産業の衰退 ● 人口減少による三次産業の衰退 ● 新型感染症の流行による景気の悪化 【公共施設の危機】 ● 人口減少にともなう運営効率の低下 ● 老朽化による、事故、維持管理費の増大 ● 公共交通機関の縮小

目指すべき方向性

時代のニーズに応えるべく、行政、町民、企業、関係団体、その他多くの人々の協働によって地域の潜在力を生かし、今後直面する危機に対処することで、持続可能なまちづくりを実現し、安心して「暮らし続けられるまち」をつくる。

まちづくりの将来イメージと基本理念

1. 将来イメージ

本町にかかわる人々が、第7次総合計画期間が終了する12年後、そしてさらにその先の将来も「こうあってほしい」と共有する本町の姿を、将来イメージとしてまとめました。

将来イメージ 絆・選ばれる理由があるまち

～ Bonding , reason to be chosen ～

＜将来イメージに込められた願い＞

本町には、現代社会で薄れているご近所づきあいやコミュニティ活動、地域での支え合いなど、人と人とのつながりが生活に残っています。これは、不安感と孤独感が立ち込める現代社会において、希望になりうる本町の強みです。

このつながりを、ご近所だけでなく、町内の地域間、近隣市町、全国、世界に広げる。また、多様な世代や文化、産業間、公と民、地方と都市など、異なるもの同士でもつながる。人口が減っていく中でも、助け合い支え合うことで心豊かに暮らしていける。色んなものがつながり合うことで、これまでになかった方法で課題を解決し、地方から新しい価値を創造する。

このように、多様なつながり＝「絆」を大切にし、活かすことで、心豊かで創造的なまちとなる。それが魅力となって住む・働く・訪れるまちとして「選ばれる」、そんな姿を本町の将来イメージとして提案します。

2. まちづくりの基本理念

将来イメージ「絆・選ばれる理由があるまち」を実現していくために、まちづくりに関わる人々の行動指針として、基本理念を以下のようにまとめました。

基本理念 暮らし続けられるまちを“あなた” とつくる

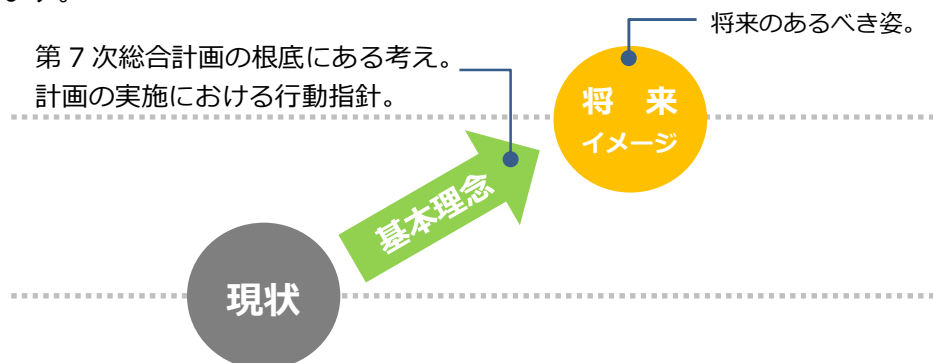
＜基本理念に込められた想い＞

将来イメージを実現するためのまちづくりは、行政の力だけではできません。

なぜなら、魅力的なまちは、行政だけでなく、町民、企業、関係団体、その他多くの人々の日々の積み重ねによってつくられるものだからです。

また、「自分がまちをつくっている」という実感をまちづくりに関わる全ての人が持つことによって、地域に対する愛着が湧いていき、「ここで暮らし続けたい」という思いに繋がります。

そのため、このまちを選んできた全ての「あなた」とともに、暮らし続けられるまちづくりを行います。



南知多町がとるべき戦略

将来イメージを実現していくために打つべき手を、戦略として以下にまとめました。

1. 子育て世代の居住と就業促進

町民が安心して生活していくための行政サービスの財源を、今後も安定して維持していくには、本町の税収構造からは「所得のある方が町内に不動産を所有して暮らす」ことが最も重要です。特に、子育て世代は、その多くが就労世帯であり、まとまった人数が自己の所有する住居に長期間居住する可能性が高いため、税収に直接的な影響を持つと考えられます。そのため、子育て世代に居住してもらうための魅力ある環境づくりが、戦略的に取り組む政策として求められます。

また、若い世代が子どもをもつために必要と感じる条件として最も大きいのは、仕事と育児の両立や安定した雇用といった、経済的な要素となっています。本町においては人口減少や高齢化に伴い就業者人口も減少しているため、子育て世代に対する就業等の支援を強化することで居住を促進すると同時に、働き手を増やし産業を活性化させ、さらに所得の増加を通じて税財源の安定化を図るといった、子育て支援と産業政策の連携が必要となります。



2. 高齢者の就業促進

社会全体の高齢化が進む中で、人生 100 年時代の到来も目前となっています。本町においても高齢化は進んでいますが、同時に町内の就業者人口も減少している中、人手不足を解消し町内産業を活性化するためには、**就業を希望する高齢者について就業を促進する環境作りが重要です。**

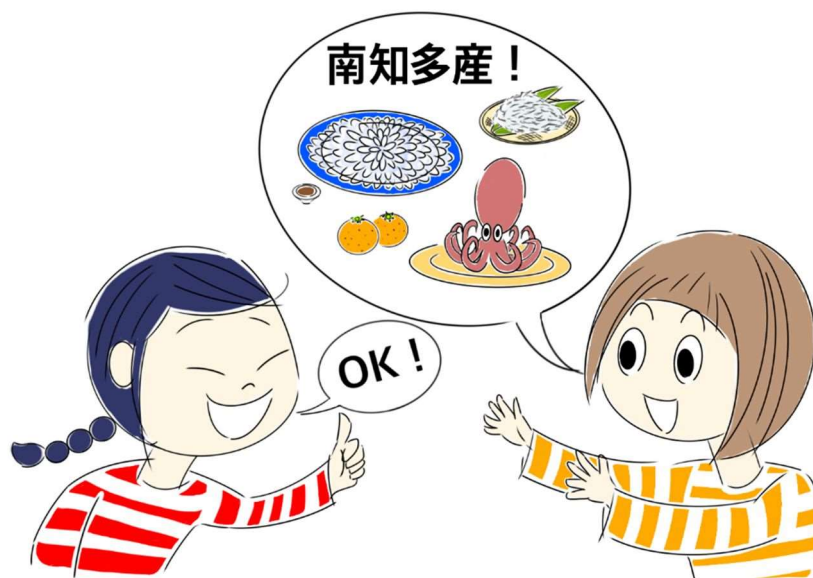
高齢者の健康寿命の延伸を図るとともに就業を促進することは、高齢者自らが就業することで所得が向上するだけでなく、病気や介護のリスクを低下させ、今後増加する社会保障給付費の負担を軽減することが期待されます。また、子育て世代への支援のための新たなサービスなどに高齢者が活躍するなど、産業政策だけでなく、子育て世代への支援政策と連携することも期待されます。

そのため、高齢者が健康であるとともに様々な分野で活躍できる環境を整備し、就業を促進する必要があります。

3. 地域内経済循環を拡大する「地消地産」

人口減少が進むことで、地域内経済の循環が縮小し、産業の衰退と町税の減収につながるものが想定されます。その結果、地域内の経済循環が十分に機能せず、地域の衰退が加速するとともに町の財政が悪化し、持続不能となることが懸念されます。地域内経済の循環を拡大するためには、人口減少を抑制し地元雇用を促進するだけでなく、物やサービスなど地元で消費するものは極力地元産にする「地消地産¹」を促進することで、「地域内のお金」が地域外へ流出しないようにするとともに、「地域外のお金」が地域内に流入する仕組みが求められます。

そのため、町民の「地消地産」を促進して「地域内のお金」が流出するのを防ぐとともに、町内観光客による「地消地産」を促進して「地域外のお金」を流入させることで、地域内経済の循環を拡大する必要があります。



4. 訪日外国人観光客による「インバウンド消費」の促進

日本全体の人口減少が進む中で、今後内需型産業の規模は衰退していくことが予想されるため、増大する世界人口に目を向け外需型産業を成長させる必要があります。近年、訪日外国人による消費額の増加が著しく、本町においても、中部国際空港近郊であること、訪日外国人の内で大部分を占める東アジアの国々の中でも珍しい島しょ部特有の生活があるなど、観光資源を有効活用することでインバウンド消費を取り込む素地は十分にあると考えられます。

そのため、「訪日外国人観光客を増やす」「地消地産による地域内経済循環の拡大」等によるインバウンド消費を促進する必要があります。

¹ 地消地産

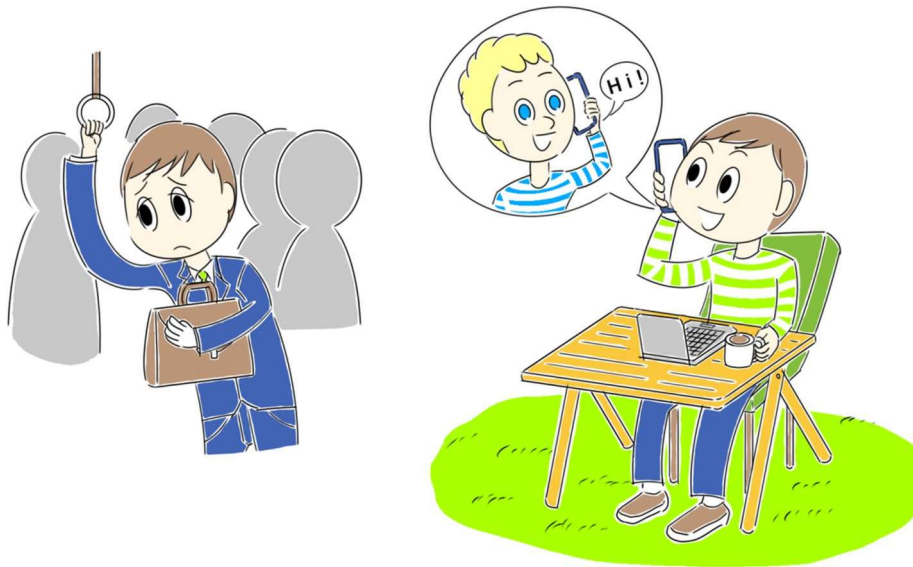
株式会社日本総合研究所 主席研究員 藻谷浩介氏が提唱する、「地元で消費するものは極力地元産にする」概念であり、「地域で生産したものを地域で消費する」地産地消とは異なるもの。

5. 都会にはない魅力を提示する就業と生活のモデルの創造

過去に実施した本町の住民意識調査結果では、転出したい理由として通勤・通学や生活の利便性が多く挙げられており、生産年齢人口（特に若者）の転出が人口の社会減の要因となっています。これは、「都会の方が就業しやすい」「都会の方が生活しやすい」という考えで、都市部での生活を希望している方々が相応にいますと考えられます。

一方で、自然環境に恵まれた農山漁村地域で暮らしたいと考える都市部の移住希望者は多く、また今後、Society5.0の実現に向かい技術革新が進む中で、居住地域に左右されない就業や生活スタイルが普及することが想定され、都市部に居住するメリットは低下すると考えられます。

そのため、都会にはない自然恵まれた魅力と其中での就業と生活のモデルを創造・提示し、町内外へ発信することで、町民の転出の抑止とともに移住の促進を図る必要があります。



6. 人口減少と高齢化が進む地域だからこそ「一歩進んだ」まちづくり

日本全体の高齢化が進む中で、現状において高齢化が進んでいない大都市ほど今後、高齢者が激増することが想定されます。それに対し、地方では人口減少と相まって、高齢者の絶対数が減少に転じることが想定されます。その結果、大都市では医療介護の体制整備が追い付かないのに対し、地方では現状で必要な医療介護体制を維持、供給できれば、今後も持続可能な運営となり、住みやすさの面で地方が優位になる可能性があります。

また、高齢化した地方において成立する持続可能なビジネスモデルを獲得することができれば、競合のない市場で高い利益を得ることができる、先行者ならではの利益である「先行者利益」を獲得することが可能となります。

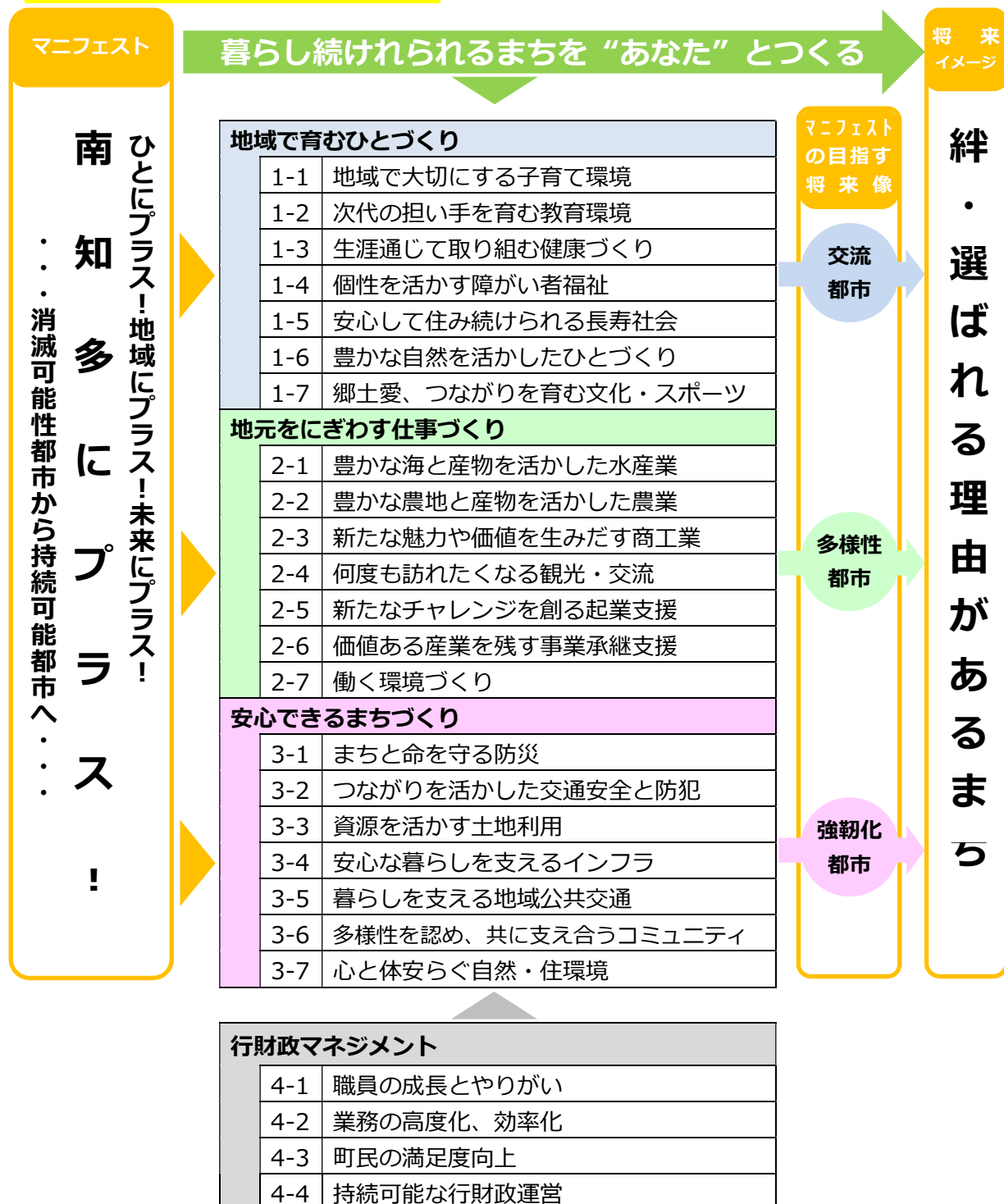
本町は、日本国内の他自治体と比較しても、早い時期から人口減少と高齢化が進んでいます。これを単に危機としてとらえるのではなく、他の自治体よりも先行して問題に着手できるチャンスととらえる発想も求められます。

そのため、厳しい現状に対して、行政、町民、企業、関係団体、その他多くの人々の協働によって地域の強みを生かし、前例がないことでも失敗を恐れず挑戦し、機敏性をもって対応する必要があります。

まちづくりの施策体系

1. まちづくりの基本目標・基本施策

将来イメージや町長マニフェストを実現していくため、「地域で育むひとづくり」「地元をにぎわす仕事づくり」「安心できるまちづくり」の3つの基本目標プラス「行財政マネジメント」を柱とし、それぞれで実施すべき施策を以下のように25の基本施策を定め、暮らし続けられるまちづくりを力強く実行していきます。



まちづくりの基本目標（KPI）

施策や事業の実施により、本町が将来イメージに近づけているか、実現具合を図る尺度として、3つの基本目標に対し「ひとづくり指標」「仕事づくり指標」「まちづくり指標」をKPI（管理指標：Key Performance Indicator）として設定します。

まちづくりは、町民、企業、関係団体、その他多くの人々が、それぞれの取り組みについて知り、積極的にに関わり、可能な範囲で貢献し、それらの活動によって満足度を高めていくことが重要です。そのため、住民意識調査により3つの基本目標を構成する21の基本施策に対し重要度、認知度、満足度、貢献度、（※1）を測り、これらを総合して数値化したものを指標とします（※2）。KPIの向上を通じて、多様な人々がつながり、選ばれるまちづくりを目指します。

さらに21の基本施策では、住民意識調査による満足度をKPIとして設定し、毎年度測定することで、基本目標の達成に向け、各施策の課題を把握し改善を図っていきます。

将来
イメージ

絆・選ばれる理由があるまち

地域で育むひとづくり

KPI：ひとづくり指標 85pt（令和2年度） → 89pt（令和14年度）

地元をにぎわす仕事づくり

KPI：仕事づくり指標 77pt（令和2年度） → 81pt（令和14年度）

安心できるまちづくり

KPI：まちづくり指標 87pt（令和2年度） → 91pt（令和14年度）

※1 例）認知度の場合：住民意識調査で、「よく知っている」「ある程度知っている」「知りたいと思っている」と回答した方の割合。関連度、貢献度についても同様。

満足度については重要度について「とても重要」「ある程度重要」「少しは重要」と答えた人のうち「とても満足」「ある程度満足」「少しは満足」と回答した方の割合。

※2 数値化の計算式：認知度×0.3 + 満足度×0.4 + 貢献度×0.3

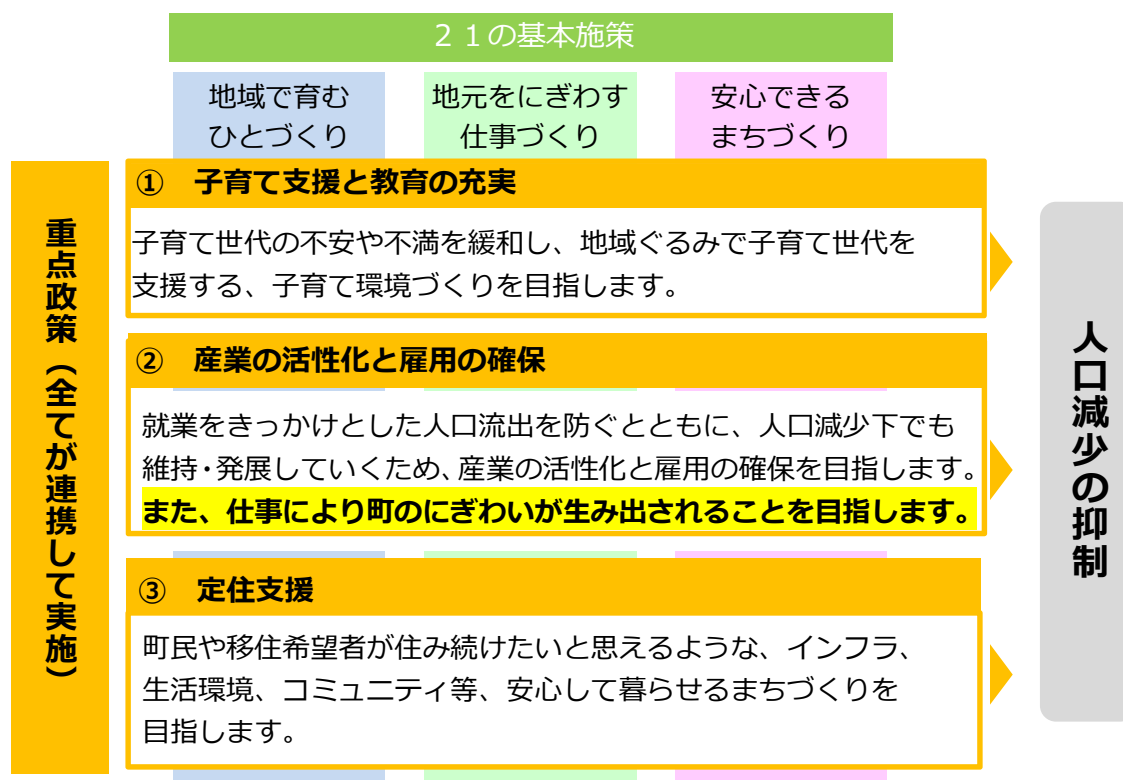
重点政策

本町が将来も安心して暮らし続けられるまちであるために、優先的に取り組まなければならない政策を、重点政策として位置付けました。

1. 重点政策の考え方

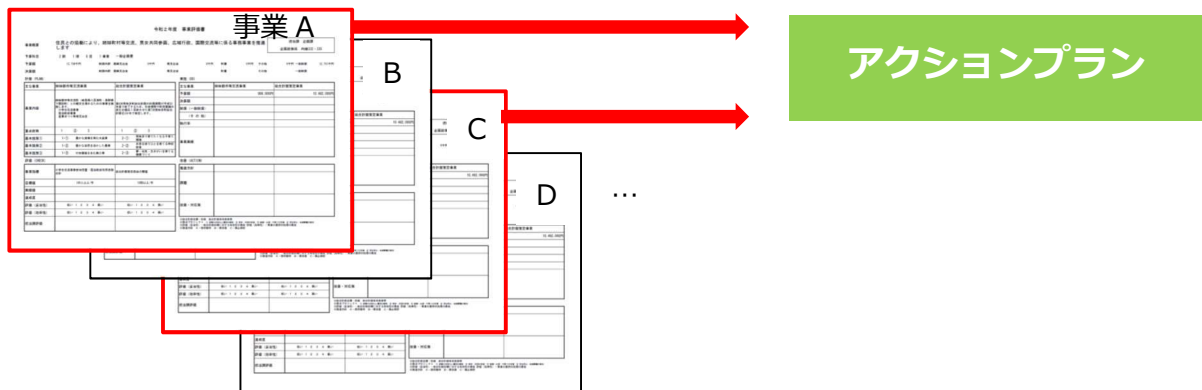
早期に人口の安定化を図り、住民生活及び行財政の持続可能性を確保していくための施策は、一つの分野だけで実現できるものではありません。例えば、子どもを産み育てるために子育て支援だけでなく、生活を支える仕事や収入や、仕事と子育てを両立できる職場環境も重要です。そのため、「まちづくりの施策体系」で整理した21の基本施策の全てが横断的に連携し取り組んでいく「重点政策」を定めました。

重点政策は「子育て支援と教育の充実」、「産業の活性化と雇用の確保」、「定住支援」の3本とし、優先順位を定めて実施していきます。



2. 重点政策の実行

行政が実施する様々な事業のうち、重点政策に該当する事業を、総合計画を実行するための「アクションプラン」に記載します。アクションプランに記載した事業は、優先的に予算を配分し、行政の縦割りの壁を越えて様々な部署が連携して実施していきます。



3. 重点政策の管理指標（KPI） 4

重点政策が実現できているか進捗を確認するための指標と毎年度の目標値を、以下のように設定しました。総合計画の見直しまでの4年間、目標値を達成できているか毎年度確認し、目標と実態に大きな差が生じた場合は原因を分析し改善につなげていきます。

① 子育て支援と教育の充実

- 希望の保育所に入所している乳・幼児の割合 100%
- 放課後児童クラブの申込みに対する充足率 100%
- 赤ちゃん訪問の実施率 100%

② 産業の活性化と雇用の確保

- 新規漁業就業者数 6人／年
- 新規農業就業者数 2人／年
- 観光客数 270万人／年
- 商工会会員数 1000事業者

③ 定住支援

- 空き家バンク相談件数 56人／年
- 空き家バンク契約件数 14人／年
- 空き家バンク移住者数 17人／年
- コミュニティバス利用者数 20万人／年

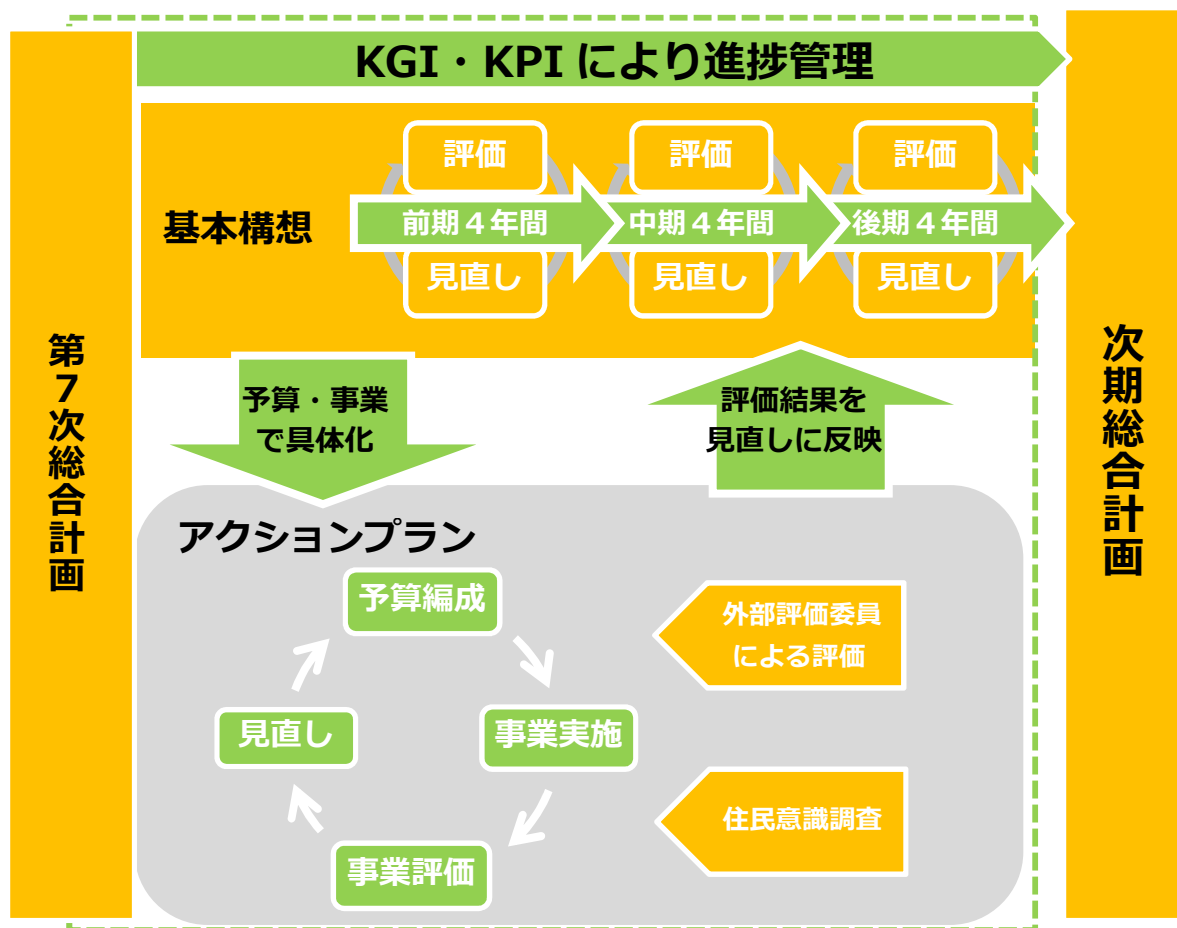
総合計画の実行

1. アクションプラン

総合計画は作って終わりではなく、実現に向けて実行に移していくことが重要です。総合計画の実現に向けて重点的に実行すべき事業3箇年分を「アクションプラン」として別途まとめ、毎年度の予算に反映して実施していきます。

アクションプランは毎年度、外部有識者の参画する外部評価委員による評価や、住民意識調査を踏まえたKPI（管理指標）による進捗管理により、見直しを行っていきます。

また、KGI（目標指標）の達成に向けたアクションプランの効果の検証結果と、社会情勢の変化を考慮して、4年ごとに基本構想を見直し、改善を図ります。



2. 総合計画の推進体制

総合計画を実現するためには、行政、町民、企業、関係団体、その他多くの人々がそれぞれの立場でまちづくりに取り組む必要があります。

そのため、本計画により向かうべき方向性を共有し、町が一体となってまちづくりが行えるよう、「南知多町総合計画条例」を策定し、議会や審議会の役割を定め、個別の分野の取り組みが総合計画の内容に沿うよう整理することで、計画を推進する体制を整えました。

基本施策

第12章1 地域で育むひとづくり

1-1 地域で大切にする子育て環境

該当するSDGsのアイコン



1. 現状と課題

本町の強みとして、自然が豊かで遊びのびと遊べる環境がある一方で、出生数は減少傾向にあり、子育て環境整備に向けた取り組みが必要となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

母子の健康が保持・増進され、豊かな自然の中で子どもが遊び、子育てと仕事が両立できる、子育て世代に選ばれるまちを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

子育て環境は各家庭の問題と捉えるのではなく、地域全体で取り組んでいく重要なテーマであると位置付け、以下の内容に取り組んでいきます。

乳幼児健診、訪問指導、育児相談等切れ目のない子育て支援サービスの充実を図ります。

保育所再配置を検討し、適正な児童数での保育所運営、公園環境の維持管理、歩道の整備等を進めます。

十分な福祉・医療サービスを受け、安心して生活するために、子どもやひとり親などの医療費や不妊に悩む夫婦の一般不妊治療費を助成します。

現在実施している子育て支援事業や一時保育、延長保育等の保育サービスを充実させるとともに、**ファミリー・サポート・センター等の新しい事業についてはニーズを考慮し実施を検討するなど、町として子育てを応援するため実践的な取り組みを行っていきます。**

(3) 地域との協働

地域の大人が子どもを見守り、子育て世代同士が協力し合う活動を支援します。また、近年普及しているスマートフォンアプリを利用した子育て関係のサービス等、民間サービスの普及による課題への対応を検討します。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町子ども・子育て支援事業計画	令和２年度～令和６年度
南知多町保育所再配置計画	令和２年度～令和２１年度
南知多町ごみ減量化（有料化）実施計画	平成２９年度～
橋梁長寿命化修繕計画	平成２７年度～令和６年度
舗装修繕計画	平成２８年度～令和１７年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和２年度)	目標値 (令和６年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	89	93

1-2 次代の担い手を育む教育環境

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

町内の小中学校はすべて小規模学校であり、きめ細やかな教育指導が行われています。しかし、集団の中で、切磋琢磨することを通じて、判断力や社会性などを身に付けていくためには、一定規模の児童生徒の集団を確保することが必要であり、**それを踏まえた適正な学校規模を図っていく必要があります。**

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

学校、家庭、地域が連携して「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」からなる「生きる力」を育むことができる学校環境を整え、本町の次代を担う人材の育成を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

実現したい教育の姿・環境を見据え、「南知多町立小中学校規模適正化基本計画」に沿って、学校の適正配置、規模の適正化を進めていきます。

老朽化状況の把握、各学校施設の改築、長寿命化を行っていくための、長寿命化計画を策定します。

外国語や、プログラミング教育など、次代に必要な教育カリキュラムの作成、実施を進めます。

「GIGAスクール構想」の実現に向けて、国等の支援も活用して学校のICT環境の整備とICTを活用した学習活動の充実を進めます。

児童・生徒が地域に愛着を持つために、農・漁業体験をはじめとした自然の中での学習、伝統行事等への参加、地元の食材を使った給食等、郷土教育の拡充に取り組みます。**また、それらを踏まえた上で、児童・生徒が本町の未来を考える機会の創出を推進します。**

(3) 地域との協働

地域の方からの意見や活動に対する協力をいただき、地域に開けた学校運営ができるよう進めます。

郷土教育や総合学習等を通じて、地域社会が教育に参加いただけるよう取り組みます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町教育基本計画	令和3年度～令和13年度
南知多町自殺対策計画	令和2年度～令和6年度
学校施設長寿命化計画	令和3年度～令和42年度
南知多町立小中学校規模適正化基本計画	令和2年度～未定
南知多町新学校給食センター整備基本計画	平成30年度～令和3年度
南知多町ごみ減量化（有料化）実施計画	平成29年度～

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	86	90

1-3 生涯通じて取り組む健康づくり

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

誰もが本人の希望に応じ働き続け、退職後も元気で充実した老後を送るためには、生涯を通じた健康づくりが重要です。一方で、医師・保健師等の確保、救急医療体制の確保、健診受診率の向上、生活に不可欠な医療機関へのアクセス、地域の保健医療体制の整備が課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

生活習慣の改善などの日常的な健康づくりや予防医療の充実により、重篤な病気にかかる可能性を減らし、健康寿命を延ばすことで、町民の生活の質を高めるとともに、医療に関わるコストの削減を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

母子健診や特定健診、その他の健診について、受診対象世代等に応じた工夫、拡充に取り組み、受診率を向上を図ります。

健康教育、食生活改善事業、介護予防講座など、町民の健康づくりに役立つ機会の充実に取り組みます。

乳幼児から高齢者まで健康と生命を守る予防接種事業を推進します。

医師・保健師等の待遇改善に必要となる財源の確保や、遠隔地医療など新たな技術の活用等、医師・保健師等の確保対策を検討します。

行政、知多南部地域における公的病院の医療機関と地域医療機関の連携により、安定的、継続的な医療の確保を図ります。

(3) 地域との協働

ご近所同士や友人知人など、誘い合って健診等へ参加いただくことで、より多くの方に健康づくりの機会を提供していきます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
けんこう南知多プラン	平成27年度～令和6年度
特定健康審査等実施計画・国民健康保険データヘルス計画	平成30年度～令和5年度
南知多町自殺対策計画	令和2年度～令和6年度

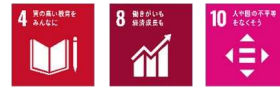
4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	89	93

1-4 個性を活かす障がい者福祉

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

本町の障がい者手帳所持者数はほぼ横ばい傾向ですが、身体障がい者や重度障がい者は65歳以上の高齢者の割合が多くなっていることから、以下が課題となっています。

- ・ 障がい者の高齢化や重度化
- ・ 介護者・介助者の高齢化
- ・ 障がい者の自立と親亡き後の生活
- ・ グループホーム等の施設の不足
- ・ 福祉サービスの人材確保

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

思いやりの心によってみんなで支え合い、誰もが地域の中で自立した生活ができ、それぞれの特性に応じた多様性が発揮できるような地域福祉の実現を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

各障がい福祉サービスの見込量や確保方針を示すための、障害者基本法、障害者総合支援法及び児童福祉法に基づく計画を進めます。

自立支援等の充実により、福祉施設の入所者の地域生活への移行や福祉施設から一般就労への移行等を図ります。

企業等による障がい者の雇用や、多様性を活かした社会参加を支援します。

コミュニティやボランティアなど町民の自発的な福祉活動の推進を支援します。

不自由なく医療・福祉サービスを受け、安心して生活するために、障がい者の医療費助成や障がい福祉サービスを提供していきます。

(3) 地域との協働

障がいへの理解、支援を町民や住民団体に広げるとともに、民間事業者における積極的な障害者雇用促進等を通じ、地域と行政との協働による福祉活動を推進します。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
障がい者計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画	令和3年度～令和5年度
知多地域成年後見制度利用促進計画	令和2年度～令和6年度
南知多町都市計画マスタープラン	令和3年度～令和13年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	84	89

1-5 安心して住み続けられる長寿社会



1. 現状と課題

本町は、漁師や農家、観光業者など自営業が多く、一般的な定年の年齢後も、体力の続く限り元気に働く人が多いという強みがあります。一方で、高齢化と若年層の流出に伴い家族による介護力の低下が予想され、受け皿となるサービス基盤や地域づくりが課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

保健、医療、福祉等の各政策や、互いに助け合い支えあうコミュニティにより、年をとっても、また要介護状態となっても、住み慣れた地域で暮らし続けられる長寿社会の実現を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

登下校や遊び・教育等を始めとした地域の様々な場で、元気な高齢者に活躍いただくなど、若い世代と高齢者が交流し、支え合いの意識を持つ機会を創出します。

効果的な介護の方法の習得、介護者の不安・悩みの緩和等の機会を提供します。

高齢者の暮らしを支えるための、在宅福祉サービス、高齢者支援事業を提供していきます。また民間事業者を含めた介護サービスに従事する人材の確保を支援します。

地域ケア会議等を通じて、在宅医療、介護連携等の環境整備を推進します。

(3) 地域との協働

子どもや若い世代と、高齢者が交流し、互いに支え合い見守り合う地域づくりを推進します。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
けんこう南知多プラン	平成27年度～令和6年度
南知多町自殺対策計画	令和2年度～令和6年度
南知多町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画	令和3年度～令和5年度
知多地域成年後見制度利用促進計画	令和2年度～令和6年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	86	91

1-6 豊かな自然を活かしたひとづくり

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

町内外で実施された各種のアンケートでは、町民や移住希望者の自然を重視する結果が出ており、選ばれるまちであるためには、自然とふれあう機会の充実が重要と考えられます。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

多くの方にとって本町が、住みたい・住み続けたい・戻りたいと思えるように、自然と親しむ機会が確保されることを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

地域への愛着づくりや、移住、事業承継のきっかけづくりとして、農・漁業体験や、自然とふれあうプログラムの充実を図ります。

より多くの方が余暇に自然と親しむため、自然のなかで行うアウトドア等の活動の普及・展開を支援します。

また、上記の取組ができるよう、**美しい自然を守る活動の普及・展開を支援します。**

(3) 地域との協働

美しい自然を守るため、地域や諸団体等とともに、自然環境の保全に取り組みます。また、**美しい南知多を日頃から楽しみ、SNS等で積極的に魅力を発信いただくとともに、環境改善の取り組みにも理解いただけるよう取り組みます。**

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
浜の活力再生プラン	令和元年度～令和５年度
浜の活力再生広域プラン	令和３年度～令和７年度
南知多農業振興地域整備計画	令和２年度～令和１１年度
南知多町子ども・子育て支援事業計画	令和２年度～令和６年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和２年度)	目標値 (令和６年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	83	88

1-7 郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ



1. 現状と課題

伝統行事やスポーツ活動は、町民の交流の場となり、健康で充実した余暇を過ごすために重要である一方、高齢化に伴う参加者や後継者の減少を踏まえた活動の在り方の見直し、施設の老朽化への対応が課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

伝統・文化を保存し次代へ伝え、情報発信することで、地元へ愛着と誇りを持てる次代の育成や、文化を活かした観光・交流の振興を目指します。また、文化・スポーツ活動が、町民の交流や、健康の維持増進につながることを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

今後必要となる公共施設再配置方針を定め、施設の再配置や長寿命化、修繕を進めます。
郷土教育や**高齢者が持つ伝統技術など**、若い世代が伝統文化や技術に触れる機会の確保に取り組めます。

生涯学習講座やスポーツ等の行事は、町民のニーズに即した内容や運営により、参加者の維持・増加を図ります。

文化財や伝統文化保存の担い手確保など、従来の文化財等の保存・活用の取り組みのほか、新たな取り組みについても検討します。

伝統文化に触れ、体験する観光プログラムの開発、実施について検討します。

(3) 地域との協働

地域行事等は、社会教育法の趣旨に基づき、地域独自の活動を尊重しつつ、地域の求めに応じて助言を行うなど、それぞれの活動が円滑に進められるよう協力します。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
けんこう南知多プラン	平成27年度～令和6年度
教育基本計画	令和3年度～令和13年度
南知多町生涯学習推進計画	平成24年度～令和3年度
南知多町文化財保存活用地域計画	令和4年度～未定
南知多町公共施設等総合管理計画	平成29年度～令和12年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	78	82

2-1 豊かな海と産物を活かした水産業

該当するSDGsのアイコン



1. 現状と課題

本町の水産業は、豊かな漁場や良好な漁港といった強みから、愛知県内最大の水揚げ量、県内最多の漁業従事者を擁しています。また、水産業は本町の重要な観光資源でもあり、町民にとっても南知多町の象徴的な存在です。

一方で、漁場の環境悪化による漁獲量減少や燃料費高騰などのコスト高、食生活の変化による消費量減少など、経営環境が悪化し、従事者の高齢化や後継者不足が続いています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

経営が安定し、水産業従事者や就業希望者にとって魅力ある水産業を目指します。

また、若者をはじめとした町民にとっても、観光客にとっても、美味しい海の幸が本町の魅力であり続け、本町産業全体の価値創出の源泉であり続けることを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

水産資源の持続可能性を確保するため、漁場の造成や水質の改善などの環境保全、栽培漁業や資源管理型漁業を推進します。

水産物消費量の拡大のため、魚食普及のPRや、観光・宿泊での目玉としての水産物の活用を促進します。

水産業者等の設備の近代化支援により、生産性向上や、水産業従事者の就労環境の改善、衛生管理の強化を図ります。

現代の生活スタイルに適した加工品、市場に出荷しても安い魚種の有効活用、輸出力の強化など、販売の安定化と高付加価値化を図ります。

(3) 地域との協働

美味しい南知多の水産物を日頃から味わい、SNS（社会的ネットワークを構築するサービス：SOCIAL NETWORKING SERVICE）や口コミ等で積極的に魅力を発信いただくとともに、環境改善の取り組みにも理解いただけるよう取り組みます。

また、水産資源の持続可能性の確保に向け、町内外の水産業界が連携いただけるよう取り組みます。

3. 関連する個別計画

目指すべき将来像の実現に向けて、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
浜の活力再生プラン	令和元年度～令和５年度
浜の活力再生広域プラン	令和３年度～令和７年度
漁港施設機能保全計画	漁港ごとに設定
離島の振興を促進するための南知多町（日間賀島・篠島地区）における産業の振興に関する計画	平成３０年度～令和４年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和２年度)	目標値 (令和６年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	83	87

2-2 豊かな農地と産物を活かした農業

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

本町では、農業にとって気候条件が恵まれ、広大な優良農地や広域農道などのインフラが整備されているなどの強みがあり、高齢でも元気に働く農業従事者が数多くいます。

一方で、農畜産物の価格低迷など厳しい経営環境から、農業従事者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加といった問題が生じています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

経営が安定し農業従事者や就業希望者にとって魅力ある農業を目指します。

また、農業を起点として、加工や販売、観光などの多様な産業が本町で価値を生み出す、付加価値の源泉として農業が活躍するとともに、多面的機能（良好な自然環境や景観を保全するなど、多様な機能）を発揮することを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

農業経営の安定化だけでなく、自然災害被害の防止など多面的機能の観点からも、ため池や用排水路といった、農業を取り巻く環境の管理体制の構築に取り組みます。

農業資源が有効に活用されるよう、農用地の計画的な利用や、耕作放棄地の再生及び利用促進を支援します。

経営規模拡大やICT（情報通信技術）を活用したスマート農業など、農業の生産性向上、農業従事者の負担軽減を支援します。

他産業と連携した農畜産物の6次産業化や観光農園等の体験型観光、高品質で魅力的な農畜産物の生産や輸出など、農業の高付加価値化、販路拡大を支援します。

(3) 地域との協働

地域住民や町外の農業ボランティアが、自然や農業に親しみ楽しみながら、地域の農業・農地整備に参画することで、南知多のファンを増やしつつ、環境保全と持続可能な農業を実現することを目指します。

3. 関連する個別計画

目指すべき将来像の実現に向けて、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多農業振興地域整備計画	令和2年度～令和11年度
人・農地プラン	毎年度更新
農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画	平成29年度～令和5年度
離島の振興を促進するための南知多町（日間賀島・篠島地区）における産業の振興に関する計画	平成30年度～令和4年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	78	82

2-3 新たな魅力や価値を生み出す商工業

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

小規模経営が中心となる本町の商工業では、人口減少に伴う地域経済活動の縮小や後継者不足による廃業等が見られることから、地元企業の振興、起業・創業の支援、雇用の確保が重要な課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

地域の特色や資源を生かした地元企業の振興や、起業・創業の支援により、地域の商工業が活性化し、世代、国籍を問わず魅力ある雇用の場が拡大することを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

関係団体と連携して地元企業の設備投資、商品開発、販路開拓等を促し、労働生産性を高めます。

ICT（情報通信技術）を活用した熟練技術の継承や、新しい技術の導入や運用に必要なデジタル人材の育成など、技能伝承や生産性向上のための人材育成を支援します。

町内で生産された良質な農・水産物を、町内の製造業者により魅力あるデザインで製品化された製品を認定することにより、農業、水産業などと連携した6次産業化、ブランド化を進めます。

地域ブランドを、ふるさと納税への出品、SNS（社会的ネットワークを構築するサービス）等のインターネットを活用した積極的な情報発信、外国人観光客のインバウンド消費などにより、販売の拡大を支援します。

観光産業を中心として、農業、水産業などの地域の特色を生かした新しい地場産業の確立を目指します。

(3) 地域との協働

(2) 将来像の実現に向けての取り組みは、商工会や、観光、農、水産業者等と連携して促進していきます。

また、町民においても、地域ブランドをはじめ町内生産品を積極的に購入・利用いただき、SNSや口コミ等で情報発信いただけるよう取り組みます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
先端設備等導入計画	平成30年度～令和3年度
離島の振興を促進するための南知多町（日間賀島・篠島地区）における産業の振興に関する計画	平成30年度～令和4年度
創業支援事業計画	令和2年度～令和6年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	83	88

2-4 何度も訪れたくなる観光・交流

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

本町には海鮮料理、温泉、海水浴など、四季を通じての観光資源が豊富にあり、観光業は本町の主要な産業となっています。

一方で、近年は観光客数の減少、観光施設等の老朽化への対策、今後さらに多様化が見込まれる観光客の新たなニーズへの対応、感染症拡大という新たな脅威への対応が重要な課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

本町の持つ自然環境、歴史・文化、豊富な食を生かし、農業、水産業、商工業と連携しながら国際化にも対応できる魅力ある観光・まちづくりを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

南知多町観光協会と密接な連携を図り、来訪観光客の滞在時間の延伸、宿泊数増加を図ります。

老朽化した観光施設等の適切な管理を行うとともに、集客が見込まれる観光センター等のインフラ整備を検討します。

展示会・イベント等への積極的な出店、SNS（社会的ネットワークを構築するサービス）等のインターネットを活用し全国、海外へ情報発信を行う等、PRを強化します。

岐阜県八百津町や長野県下諏訪町との交流事業、知多半島や三河湾エリアでの協力体制など、他市町村との連携を図ります。

観光関連事業者の情報発信や、外国人対応等のノウハウ取得を支援します。

インバウンド観光が見込めない間も、地元や近場の方も含めた国内旅行者が安心安全に訪れることができるように、感染拡大防止の環境づくりや、地域の魅力の再発見と発信を行っていきます。

(3) 地域との協働

除草・清掃など、地域の力を活かして良好な景観を維持するとともに、住民団体等と連携し、地域ぐるみのおもてなしの充実、体験プログラムの開発によって、地域の交流の機会にもなるような取り組みを進めます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
浜の活力再生プラン	令和元年度～令和5年度
浜の活力再生広域プラン	令和3年度～令和7年度
南知多農業振興地域整備計画	令和2年度～令和11年度
離島の振興を促進するための南知多町（日間賀島・篠島地区）における産業の振興に関する計画	平成30年度～令和4年度
創業支援事業計画	令和2年度～令和6年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	81	86

2-5 新たなチャレンジを創る起業支援

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

社会の急速な変化の中でも地域産業の衰退を防ぎ発展させていくため、既存の枠組みにとらわれず活躍できる人材を呼び込み、起業等を促進することが求められます。

こうした中、本町の強みである豊かな自然は、移住希望者等の、自然豊かな地方で働きたいというニーズを取り込むための地域資源となり得ます。

また、ICT（情報通信技術）の進歩により、地方でのサテライトオフィスなど場所を選ばない働き方を可能とする技術的環境や、地域の課題解決に取り組む社会的起業や企業の社員による週末起業等が広がっているといった機運など、起業へのチャンスが拡大しています。

2. 目指すべき将来像

（1）目指すべき将来像

起業・新規就業を促進することで、産業を発展させるとともに、人材を呼び込み定着させ、人口減少に伴う諸課題の解決にも貢献することを目指します。

（2）将来像の実現に向けて

国の補助金をはじめとした支援制度等のワンストップ相談窓口、空き家の利活用等による開業コストの低減などにより、起業・新規就業や、開業等後の成長を支援します。

マッチングサイトなどの活用や移住希望者に伝わりやすい情報発信、実際に起業した方との意見交換の機会等により、支援内容や事例等の積極的な情報発信を行います。

（3）地域との協働

既存産業と起業家等との連携による新たなビジネスチャンスの創出や、地域と社会的起業家との協働による地域の課題の解決の促進に取り組みます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
浜の活力再生プラン	令和元年度～令和5年度
浜の活力再生広域プラン	令和3年度～令和7年度
南知多農業振興地域整備計画	令和2年度～令和11年度
離島の振興を促進するための南知多町（日間賀島・篠島地区）における産業の振興に関する計画	平成30年度～令和4年度
創業支援事業計画	令和2年度～令和6年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	73	77

2-6 価値ある産業を残す事業承継支援

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

今後、後継者不在のため廃業する事業者の増加が懸念されるため、事業を承継する後継者を確保し、価値ある既存産業が受け継がれていく必要があります。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

本町の経済を支える事業者の事業が円滑に引き継がれることで、地域に必要な製品・サービスが将来も供給され、雇用の場が確保されることを目指します。

さらに、地方での就業や移住を望むU I Jターン人材が事業を引き継ぎ、当該事業が発展することで人材をさらに惹きつける好循環の醸成を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

町内の小規模事業者のイメージが向上するよう情報発信等に取り組みます。

後継者・新規就業者獲得に向けた情報発信、空き家等を利用した住居支援、町内の事業者等の元で行う体験・研修により、後継者・新規就業者の発掘や育成を支援します。

移住等希望者と事業者を繋ぐ機会の創出や移住希望者に伝わりやすい情報発信、事業者・承継希望者のニーズに即した支援策を検討します。

(3) 地域との協働

(2) 将来像の実現に向けての取り組みは、国や県、金融機関、商工会、事業承継のノウハウのある士業、その他の民間事業者等と連携して促進します。

また、町民や移住希望者に、小規模事業者の本町経済における重要性を認識いただくとともに、就業の選択肢としていただけるよう取り組みます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
浜の活力再生プラン	令和元年度～令和５年度
浜の活力再生広域プラン	令和３年度～令和７年度
南知多農業振興地域整備計画	令和２年度～令和１１年度
離島の振興を促進するための南知多町（日間賀島・篠島地区）における産業の振興に関する計画	平成３０年度～令和４年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和２年度)	目標値 (令和６年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	76	80

2-7 働く環境づくり

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

本町の産業を持続可能なものとするため、次のような環境整備が必要となっています。

- ・ 人手不足の深刻化に対応するための、多様な人材が活躍できる職場環境整備
- ・ 農業用施設、漁業用施設等のインフラの老朽化対策
- ・ 産業の高度化を進めるための通信網の整備

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

町内で事業を営む事業者の生産活動や物流等が円滑に行われ、効率的に事業を営むことができる、インフラの整備・維持を目指します。

女性や高齢者、外国人等、誰もが働き続け多様性を発揮し、付加価値の高い仕事ができる、町内の事業所等の職場環境の整備を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

企業の人手不足を解消するため、女性、高齢者及び外国人の活用を支援します。

事業所等のワークライフバランス（仕事と生活の調和）への理解を促進します。また技能実習生等の外国人が地域にとけこみ、安心して働くことができるよう支援します。

(3) 地域との協働

事業所等とともに、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）を実現できる職場環境の整備に取り組みます。地域社会とともに、外国人をはじめ多様な人材との積極的な交流による共生の土壌づくりに取り組みます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
特定事業主行動計画	平成2年度～令和6年度
南知多町における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画	令和3年度～令和7年度
南知多町業務継続計画	毎年度更新
漁港施設機能保全計画	漁港ごとに設定
浜の活力再生プラン	令和元年度～令和5年度
浜の活力再生広域プラン	令和3年度～令和7年度
先端設備等導入計画	平成30年度～令和3年度
南知多町自殺対策計画	令和2年度～令和6年度
庁内環境率先実行計画	令和3年度～令和7年度
橋梁長寿命化修繕計画	平成27年度～令和6年度
舗装修繕計画	平成28年度～令和17年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	80	84

3-1 まちと命を守る防災

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

本町は、南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域に指定されるなど、大規模地震による被害が危惧されており、災害発生時のライフラインや建物の安全性の確保、孤立化防止対策、集中豪雨や台風による災害の防災対策、各種災害発生に対する防災対策の充実が課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

建物やインフラが必要な災害耐性を有し、消防・防災施設等が有効に機能し、事業者や町民が災害対応に取り組むことで、安心して生活し事業を営み、いざ発災した際には一人でも多くの命が守られること、早期の復旧、復興を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

情報収集・伝達体制の強化や、防災訓練等により、町の防災力向上に取り組めます。また、必要な消防・防災施設等を維持していきます。

災害時の緊急物資等輸送のため、道路、橋梁、漁港、港湾等の耐震化を進めます。

公共施設の耐震化を進め、住宅等の耐震化を支援するとともに、避難路の整備を進めます。

自主防災活動の支援、要配慮者対策、防災教育等により、地域防災力を強化します。

発災後、本町が早期に復旧、復興が行えるよう対策を進めます。

(3) 地域との協働

個人、法人を含め、地域全体が、「自分の身は、自分で守る」という意識を持ち、非常用備蓄、家具の固定、住宅の耐震化や避難訓練に取り組めるよう支援、啓発を進めます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町国土強靱化地域計画	令和３年度～
南知多町地域防災計画	毎年度更新
南知多町津波避難計画	平成２７年度～
南知多町業務継続計画	平成２９年度～
南知多町防災備蓄計画	令和元年度～令和４年度
南知多町国民保護計画	平成２３年度～
南知多町耐震改修促進計画	令和３年度～令和７年度
橋梁長寿命化修繕計画	平成２７年度～令和６年度
南知多町災害廃棄物処理計画	平成２９年度～

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和２年度)	目標値 (令和６年度)
住民意識調査による満足度 (ｐｔ)	85	89

3-2 つながりを活かした交通安全と防犯

該当するSDGsのアイコン



1. 現状と課題

本町における交通事故発生件数は、半田警察署管内（※）で最も少なくなっています。しかし、公共交通が充実しておらず、主な移動手段が自動車であるため、高齢者による交通事故の割合が高くなっています。

防犯については、犯罪者が一番嫌がるのは地域の連帯と信頼感であり、近所づきあいが活発で地域コミュニティがしっかりとしているまちは、犯罪に強いとされています。本町では半田警察署管内で最も犯罪発生件数が少なくなっており、住民同士のつながりが残っていることがその一因と考えられる一方、犯罪の少なさゆえに、防犯意識が低くなっているという課題もあります。

※ 1市5町（半田市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町）

2. 目指すべき将来像

（1）目指すべき将来像

交通安全と防犯について、町民の意識の向上や地域ぐるみの活動の推進などを図り、引き続き交通事故と犯罪の少ない安全なまちを目指します。

（2）将来像の実現に向けて

町、警察、その他関係団体が連携した、啓発活動を実施します。

町広報紙、回覧、自治体メール及びケーブルテレビ等による交通安全と防犯に関する広報活動に取り組みます。

地域行事等の多くの方が連れ立って参加する機会を捉え、効果的な啓発を実施します。

（3）地域との協働

住民同士が日頃から声をかけ合い、地域行事等に積極的に参加いただくことの重要性を認識いただき、コミュニティや町民のつながりを活かした、地域との協働による交通事故と犯罪の抑止に取り組みます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町交通安全計画	※令和2年度中に改訂予定

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	90	94

3-3 資源を活かす土地利用

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

三方を海に囲まれた本町は、各地域の特性に合わせた市街地形成、地域産業がありますが、若年層の人口の流出が続き、単身高齢世帯の割合が年々増加していることから、空き家が急速に増加しており、対策が必要となっています。

人口減少や空き家、空き地の増加に歯止めをかけるためにも、地域の特性を活かした土地利用が課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

本町の豊かな自然環境を保全しつつ、町民の生活を支える機能の維持、集約を図るため、土地や建物の効率的な活用と、産業の振興に繋がる適切な土地利用を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

管理不全な状態にある空き家については、所有者に対して適切な管理を求めています。また、土地・建物所有者への啓発や、空き家の利活用の提案、相続相談等の支援に取り組めます。

快適な住環境を維持するとともに、住居と産業を適正に配置するための土地利用や、コンパクトで災害等にも適応したまちづくりについて、実行可能な将来目標を検討します。

(3) 地域との協働

所有者による適切な管理や、境界確定等への地域の理解、空き屋等活用のノウハウを持つ民間事業者との連携など、地域や民間との協働による対策を進めます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町空家等対策計画	平成30年度～令和4年度
南知多町公共施設等総合管理計画	平成29年度～令和12年度
南知多町都市計画マスタープラン	令和3年度～令和13年度
人・農地プラン	毎年度更新
地域再生計画	令和元年度～令和3年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	73	77

指標名 (地域再生計画)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)
移住相談延べ件数	570 人	850 人
空き家バンク制度を利用した延べ移住者数	137 人	220 人
空き家バンク制度の契約成立延べ件数	108 件	180 件

3-4 安心な暮らしを支えるインフラ

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

道路、港、水道などは、暮らしや経済に欠かせないインフラであると同時に、道路や港、海岸は、本町の緑や海などの景色を楽しむことができる観光資源でもあります。

一方で、インフラの老朽化対応や安全を確保するための管理、公共交通の維持等が課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

安心して町民が住み続け、観光客等が訪れ、事業者が活動をするための、生活と地域経済の基盤として、安全なインフラや公共交通を守っていくことを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

道路については、幹線町道の再整備、生活道路の維持修繕、安全な歩行空間の確保など、快適で安全な道路環境の整備を進めます。

港湾・漁港・海岸・公園・町営住宅・駐車場については、老朽化した施設の点検、補修、改修等を行うとともに、全庁的な再配置方針等の必要性の検討を進めます。

上水道については、耐震性の向上を図るとともに、効率的な経営に努めます。

(3) 地域との協働

インフラ施設の異常の早期発見・通報や、除草・清掃など、地域の力を活かしてインフラの安全性・快適性、良好な景観を維持するとともに、そうした活動が地域の交流の機会にもなるような、地域と行政との協働による取り組みを進めます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町国土強靱化地域計画	令和３年度～
社会資本総合整備計画	令和３年度～令和５年度
南知多町地域公共交通網形成計画	令和３年度～令和７年度
辺地総合整備計画	令和元年度～令和６年度
橋梁長寿命化修繕計画	平成２７年度～令和６年度
舗装修繕計画	平成２８年度～令和１７年度
漁港施設機能保全計画	漁港ごとに設定
漁港海岸保全施設長寿命化計画	平成３０年度～令和４９年度
港湾海岸保全施設長寿命化計画	平成３０年度～令和４９年度
南知多町水道施設更新計画	平成２８年度～令和７年度
生活基盤施設耐震化等事業計画	令和３年度～令和７年度
知多南部地域ごみ処理基本計画	平成２８年度～令和７年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和２年度)	目標値 (令和６年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	86	91

3-5 暮らしを支える地域公共交通



1. 現状と課題

町内を移動する公共交通は路線バスのほか、島民の通勤・通学には定期航路が利用されています。通勤・通学や高齢者の移動手段として不可欠な、バス・航路の維持、利便性の向上が課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

鉄道、バス及び海上交通等の利便性の向上と利用促進を図り、生活に不可欠な移動手段が十分に確保されることで、町民が住み続けたいと思えるまちづくりを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

自動車を運転できない高齢者の増加や、潜在利用者のニーズの変化に合わせ、運行ルートや時間帯、バス停留所等を見直していきます。

駐車場など、利用者の利便性に大きく影響する周辺環境の改善に取り組みます。

自動運転などの先進技術の導入、環境に配慮した車両等の導入、地域による公共交通、路線の再編等について、財政負担を抑えつつ、住民や観光客の需要に応じた移動手段を確保・充実する方法を検討します。

(3) 地域との協働

公共交通の維持に必要な収益確保のため、多くの方に積極的に利用いただけるよう周知を行います。また、地域主体の公共交通の導入を検討するなど、地域と協働した移動手段の確保を進めます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町地域公共交通網形成計画	令和3年度～令和7年度
南知多町交通安全計画	平成23年度～平成27年度
橋梁長寿命化修繕計画	平成27年度～令和6年度
舗装修繕計画	平成28年度～令和17年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	76	79

3-6 多様性を認め、共に支え合うコミュニティ

該当するSDGsのアイコン



1. 現状と課題

本町では町民や地域のつながり、助け合いが残っている一方で、若者の町外への流出により地域活動の中心が高齢者となっており、活動の新たな担い手の確保、地域と移住者等の交流の促進等の課題が生まれています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

少子高齢化、核家族化、若者・高齢者の単独世帯化が進み、人々の価値観やライフスタイルも多様化している中、町民それぞれの価値観などを認めた上で、ボランティア活動や町民の自主的なまちづくり活動、男女共同参画、国際交流活動の充実など、世代等の背景を超えたふれあいの機会が充実し、将来にわたり支え合い、助け合いが残っていくまちづくりを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

町民や各種団体によるまちづくり事業を支援します。また、地域課題の解決や将来的な移住に向けた裾野を拡大するため、「関係人口」の確保に取り組みます。

既存団体の合併や世代交代、移住者の地域参画等を促すための、各種情報提供等に努めます。

登下校や授業等の教育の場、生涯学習講座等で、子どもと高齢者など、世代間交流の機会の充実を図ります。

外国人もコミュニティに溶け込み、多様な文化が共生していくための、情報提供、相互理解の場の提供を進めます。

(3) 地域との協働

町民が積極的に地域活動へ参加し、多様な国籍や世代など垣根を越えて交流し、地域の将来を担う若者や移住者の意見が尊重されるまちづくりを進めます。

用語の定義：「関係人口」

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、特定の地域に継続的に多様な形で関わる者のこと。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組めます。

計画名	計画期間
南知多町男女共同参画計画	平成30年度～令和13年度
地域再生計画	令和元年度～令和3年度
南知多町自殺対策計画	令和2年度～令和6年度
南知多町生涯学習推進計画	平成24年度～令和3年度
南知多町文化財保存活用地域計画	令和4年度～未定

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	83	87

3-7 心と体安らぐ自然・住環境

該当する SDGs のアイコン



1. 現状と課題

本町は豊かな海や緑に囲まれた魅力ある住環境が強みです。一方で、雑草や冠水等の自然に由来する問題、狭隘な市街・道路等の改善が住環境の課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

身近な環境美化や、公園や河川、排水施設等の適切な管理、省エネルギー化等の推進により、環境に優しく、自然豊かな住環境を感じられるまちづくりを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

安全な道路や公園環境の整備、排水施設の点検・改修や河川の土砂浚渫など、良好な生活環境を実感するために重要となる対策を進めます。

身近な環境美化について、町民や地域等による、自主的な除草・剪定や河川・海岸清掃等の取り組みを支援します。

家庭における省資源・省エネルギー型ライフスタイルや、ごみの減量化・リサイクル等の推進を支援します。

(3) 地域との協働

家庭での取り組みや地域による環境美化などに取り組んでいただくことで、地域と行政が補完し合う環境整備を進めます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
ごみ減量化基本計画	平成28年度～令和4年度
知多南部地域ごみ処理基本計画	平成28年度～令和7年度
南知多町災害廃棄物処理計画	平成29年度～
南知多町ごみ減量化（有料化）実施計画	平成29年度～
南知多町空家等対策計画	平成30年度～令和4年度
地域再生計画	令和元年度～令和3年度
南知多町水道施設更新計画	平成28年度～令和7年度
生活基盤施設耐震化等事業計画	令和3年度～令和7年度
生活排水処理計画	令和3年度～令和7年度
市内環境率先実行計画	令和3年度～令和7年度
橋梁長寿命化修繕計画	平成27年度～令和6年度
舗装修繕計画	平成28年度～令和17年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度 (p t)	82	87

行財政マネジメントについて

1. 行政の使命

本町が目指す将来イメージの実現のため、行政は以下の使命に基づいて行財政マネジメントを行います。

行政の使命 **自ら行動し地域の活力の最大化に貢献する**

2. 行財政マネジメントの基本方針

厳しい財政状況が続く中で、将来イメージを実現するためには、行政の縦割りの壁を越え、多くの政策分野を横断的に取り組み、様々な部署が連携するだけでなく、地域や民間の活力を活用するなど、従来の行財政マネジメントを革新していくことが求められます。

そのため、以下を行財政マネジメントの基本方針とします。

行財政マネジメントの基本方針

【基本責務】

限られた予算を有効に活用し、より高い成果を追求する。

【執行手段の焦点と方向性】

焦点①：行政組織の内部運営の効率化

方向性：法的制約がないものは、実施過程の改善を探求する。

焦点②：市場メカニズム（機能）の活用

方向性：行政よりも効率的・効果的なものは民間へ外部委託。

焦点③：住民自治・自助・共助の支援

方向性：行政ありきではなく、町民や自治組織等との協働を促進。

【執行手段の評価の徹底】

事業効果は絶えず検証し、反省点を次に生かす。

【執行手段の革新化】

失敗を恐れず、小さく始め、高速で改善し、革新的な手段を模索する。

【職員の行動指針】

町民、企業、関係団体、その他多くの人々を巻き込んでまちづくりを楽しむ。

4-1 職員の成長とやりがい



1. 現状と課題

本町が持続していくための政策や事業を企画・実行していくには、人材の確保、成長、意欲、挑戦が必要となります。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

町職員が継続的に学び、やりがいを持って働くことで成長し、前例にとらわれず挑戦し、活気ある職場が人材を惹きつける好循環の醸成を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

町として求める人材像が職員に浸透するよう、人材育成等の方針を職員に継続的に伝達します。また今後重要となる知識・技術について、習得を促すための研修を組織的・計画的に実施するとともに、職員の自己研鑽を支援します。

そのため、自己研鑽に励んでいる職員や実績を残した職員が報われる人事評価制度の運用を進めます。

職員のやりがいと意欲を引き出し、仕事の成果と生活の充実が好循環を生み出すための、残業の削減をはじめとした働き方改革を進めます。

3. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
職員意識調査による実感度(仮) (%)	87	91

4-2 業務の高度化、効率化



1. 現状と課題

人口減少や高齢化、インフラ等の老朽化に伴う課題が深刻化する中、限られた予算・人員で課題の解決に取り組んでいくためには、業務の高度化・効率化が求められます。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

町組織の体制や業務の見直し、新たな技術やデータの活用により、業務の高度化・効率化を進め、予算・人員が限られる中でも、地域の課題解決や住民満足度の向上を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

地域社会をとりまく環境の変化に合わせて適切に人員配置を行い、迅速に意思決定を行うていくため、組織機構の見直しを検討します。

業務を自動化・効率化し、職員が政策企画等に注力するため、革新技術の導入やデータ連携の推進と、併せて業務の流れの見直しを検討します。

地域課題の解決や民間のデータ活用に資するため、データの積極的な公開を進めるとともに、政策等立案や行財政運営におけるデータ活用を進めます。

新技術等の導入に伴って発生する情報漏洩等のリスクに対応するため、適切な内部統制を構築し、職員及び関係者のセキュリティ意識の向上を図ります。

3. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
職員意識調査による実感度(仮) (%)	89	93

4-3 町民の満足度向上



1. 現状と課題

人口の流出を抑制し地域社会を持続可能なものとするためには、町民が生活に満足することが必要であり、それが町外にも伝わることも重要です。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

町民の満足度が向上することで、本町に住み続けたいと思う町民が増加することを目指します。また、近年ではSNS（社会的ネットワークを構築するサービス）等により、住みやすさ等についての町民のイメージも容易に拡散するため、良いイメージが町外に広がることを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

町民の不満や前向きな意見を効果的に吸い上げるため、アンケートの実施方法を工夫し、満足度の変化を追跡調査していくことを検討します。

効果的に住民満足度を高めるため、従来の政策を漫然と継続するのではなく、ターゲットとする世代等にとって重要な分野について重点的に予算、人員等の行政資源を配分していきます。

業務の効率化等により、政策立案や住民対応等、満足度向上に重要な業務に職員が注力できる環境を整えとともに、住民対応に係る自己点検や研修に取り組みます。

(3) 地域との協働

住民意識調査への協力や、建設的な意見を頂き、町は事業等に可能な限り反映させるなど、町民との協働による満足度向上に取り組みます。

3. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
職員意識調査による実感度（仮） （％）	84	88

4－4 持続可能な行財政運営



1. 現状と課題

人口減少・高齢化や厳しい財政状況が深刻化する中でも、本町の行財政を持続可能なものとしていくため、今から備えていく必要があります。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

将来にわたり持続可能な財政を維持し、かつ必要な行政サービスも維持していくための財務体質の構築を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

インフラ、建物等の公共施設について、人口・財政の長期的な見通しに基づき、重要なものは維持しつつ、人口規模等に応じた適切な水準への再編を進めます。また、将来の維持管理費を削減するための長寿命化等の対策を進めます。

現在、町が直営で実施しているサービスについて、コスト削減やサービスの向上、より効率的な業務が期待できる場合は、民間活用を検討します。

各種補助金等に加え、企業版ふるさと納税等の新たな手法も含め、必要に応じ可能な限り有利な資金調達方法を検討します。

本町の自然、コミュニティ、人材等、地域の資源を活かして、各分野の政策・事業を展開します。

(3) 地域との協働

生活や事業の水準を可能な限り落とすことなく行政をコンパクト化していくために、民間のノウハウの活用、地域社会との連携を進めます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向けて、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町公共施設等総合管理計画	平成29年度～令和12年度
地域再生計画	令和元年度～令和3年度
辺地総合整備計画	令和元年度～令和6年度
南知多町ごみ減量化（有料化）実施計画	平成29年度～
庁内環境率先実行計画	令和3年度～令和7年度
橋梁長寿命化修繕計画	平成27年度～令和6年度
舗装修繕計画	平成28年度～令和17年度
漁港施設機能保全計画	漁港ごとに設定

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
職員意識調査による実感度（仮） (%)	84	88

第 14 章 基本施策と個別計画

基本施策は、各分野の個別計画と連動させ、体系的に実行していきます。

基本施策と個別計画との関係は以下のとおり整理しました。個別計画は、関連する基本施策をより効果的に実施するためのものとして位置付け、個別に進捗管理を行い、評価と見直しを行います。

個別計画名／政策名	1-1 地域で大切に する子育て環 境	1-2 次代の担い手 を育む教育環 境	1-3 生涯通じて取 り組む健康つ くり	1-4 個性を活かす 障がい者福祉	1-5 安心して住み 続けられる長 寿社会	1-6 豊かな自然を 活かしたひと づくり	1-7 郷土愛、つな がりを育む文 化・スポーツ	2-1 豊かな海と産 物を活かした 水産業	2-2 豊かな農地と 産物を活かした 農業	2-3 新たな魅力や 価値を生みだ す商工業	2-4 何度も訪れた くなる観光・ 交流	2-5 新たなチャレ ンジを創る起 業支援	2-6 価値ある産業 を残す事業承 継支援	2-7 働く環境づく り	3-1 災害に強く安 全に暮らせる まちづくり	3-2 つながりを活 かした交通安 全と防犯	3-3 資源を活かす 土地利用	3-4 安心な暮らし を支えるイン フラ	3-5 暮らしを支え る地域公共交 通	3-6 多様性を認め 、共に支え合 うコミュニティ	3-7 心と体安らぐ 自然・住環境	4-1 職員の成長と やりがい	4-2 業務の効率化	4-3 町民の満足度 向上	4-4 持続可能な財 政
特定事業主行動計画														●											
南知多町における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画														●											
南知多町空家等対策計画																	●				●				
南知多町交通安全計画																●			●						
南知多町国土強靱化地域計画															●			●							
南知多町地域防災計画															●										
南知多町津波避難計画															●										
南知多町業務継続計画														●	●										
南知多町防災備蓄計画															●										
南知多町国民保護計画															●										
社会資本総合整備計画																		●							
南知多町男女共同参画計画																			●						
南知多町公共施設等総合管理計画																	●							●	
南知多町地域公共交通網形成計画																		●	●						
地域再生計画																	●		●	●					●
辺地総合整備計画																		●							●
南知多町耐震改修促進計画															●										
南知多町都市計画マスタープラン																	●								
南知多町緑の基本計画																									
橋梁長寿命化修繕計画	●													●	●			●	●		●				●
舗装修繕計画	●													●				●	●		●				●
漁港施設機能保全計画								●						●				●							●
漁港海岸保全施設長寿命化計画																		●							
港湾海岸保全施設長寿命化計画																		●							

個別計画名／政策名	1-1 地域で大切に する子育て環 境	1-2 次代の担い手 を育む教育環 境	1-3 生涯通じて取 り組む健康づく り	1-4 個性を活かす 障がい者福祉	1-5 安心して住み 続けられる長寿 社会	1-6 豊かな自然を 活かしたひとづく り	1-7 郷土愛、つなが りを育む文化・ スポーツ	2-1 豊かな海と産物 を活かした水産業	2-2 豊かな農地と産 物を活かした農業	2-3 新たな魅力や価 値を生み出す商工 業	2-4 何度も訪れたく なる観光・交流	2-5 新たなチャレン ジを創る起業支 援	2-6 価値ある産業を 残す事業承継支 援	2-7 働く環境づくり	3-1 災害に強く安全 に暮らせるまち づくり	3-2 つながりを活か した交通安全と 防犯	3-3 資源を活かす土 地利用	3-4 安心な暮らしを 支えるインフラ	3-5 暮らしを支える 地域公共交通	3-6 多様性を認め、 共に支え合うコ ミュニティ	3-7 心と体安らぐ自 然・住環境	4-1 職員の成長とや りがいい	4-2 業務の効率化	4-3 町民の満足度向 上	4-4 持続可能な財政
南知多農業振興地域整備計画						●			●		●	●	●												
浜の活力再生プラン						●		●			●	●	●	●											
浜の活力再生広域プラン						●		●			●	●	●	●											
先端設備等導入計画										●				●											
人・農地プラン									●								●								
農業の有する多 面的機能の発揮 の促進に関する 計画									●																
離島の振興を促 進するための南 知多町（日間賀 島・篠島地区） における産業の 振興に関する計 画								●	●	●	●	●	●												
創業支援事業計 画										●	●	●													
南知多町水道施 設更新計画																		●			●				
生活基盤施設耐 震化等事業計画																		●			●				
特定健康審査等 実施計画・国民 健康保険データ ヘルス計画			●																						
南知多町子ども ・子育て支援事 業計画	●					●																			
障がい者計画・ 障がい福祉計画 ・障がい児福祉 計画				●																					
知多地域成年後 見制度利用促進 計画				●	●																				
南知多町自殺対 策計画		●	●		●									●						●					
南知多町保育所 再配置計画	●																								
生活排水処理計 画																					●				
日間賀漁港漁業 集落排水処理施 設機能保全計画																									
ごみ減量化基本 計画																					●				
知多南部地域ご み処理基本計画																		●			●				
南知多町災害廃 棄物処理計画															●						●				
南知多町ごみ減 量化（有料化） 実施計画	●	●																			●				●
庁内環境率先実 行計画														●							●				●
けんこう南知多 プラン			●		●		●																		
南知多町高齢者 福祉計画及び介 護保険事業計画					●																				
学校施設長寿命 化計画		●																							
教育基本計画		●					●																		
南知多町立小中 学校規模適正化 基本計画		●																							
南知多町生涯学 習推進計画							●													●					
文化財保存活用 地域計画							●													●					
南知多町新学校 給食センター整 備基本計画		●																							

総合計画素案の修正 新旧対照表（第2回審議会意見反映）

素案の 該当ページ	修正の趣旨	修正前	修正後
4	記載内容について下部の グラフとのつながりがわ かるよう文言を修正	本町の将来人口は、令和32年時点で約7,500人となり、令和47年時点で4,500人を下回ります。（中略）そこで、30年後の人口が現状の半分以下にならないように安定させるため、令和30年時点で概ね10,000人の人口を維持することを目標とします。	本町の将来人口は、以下の「 <u>南知多町の将来人口予測と目標人口</u> 」で示す通り令和32年時点で7,488人となり、令和47年時点で4,422人と推測されています。（中略）そこで、30年後の人口が現状18,707人（平成27年度）の半分以下にならないように安定させるため、令和30年時点で概ね10,000人の人口を維持することを目標とします。
8	文言をわかりやすく修正	●道州制等の自治体再編により行政構造が変化する	● <u>行政の広域化により行政の仕組みが変化する</u>
13	就業を希望する高齢者の 就業促進を行う旨に文言 を修正	人手不足を解消し町内産業を活性化するためには、高齢者についても就業を促進する必要があります。	人手不足を解消し町内産業を活性化するためには、 <u>就業を希望する高齢者について就業を促進する環境作りが重要です。</u>
15	「固定概念」という文言 の削除	これは、「都会の方が就業しやすい」「都会の方が生活しやすい」という固定概念が影響しているものと考えられます。	「これは、「都会の方が就業しやすい」「都会の方が生活しやすい」という考えで、 <u>都市部での生活を希望している方々が相応にいるためと考えられます。</u>
16	町長マニフェストに関連 する文言を追加	将来イメージや町長マニフェストを実現していくため、「地域で育むひとづくり」「地元をにぎわす仕事づくり」「安心できるまちづくり」の3つの基本目標プラス「行財政マネジメント」を柱とし、それぞれで実施すべき施策を以下のように25の基本施策として整理し、まちづくりを推進していきます。	将来イメージや町長マニフェストを実現していくため、「地域で育むひとづくり」「地元をにぎわす仕事づくり」「安心できるまちづくり」の3つの基本目標プラス「行財政マネジメント」を柱とし、それぞれで実施すべき施策を以下のように25の基本施策を定め、 <u>暮らし続けられるまちづくりを力強く実行していきます。</u>

素案の 該当ページ	修正の趣旨	修正前	修正後
18	町のにぎわいを生み出すことを目指す旨の文言の追加	就業をきっかけとした人口流出を防ぐとともに、人口減少下でも維持・発展していくため、産業の活性化と雇用の確保を目指します。	就業をきっかけとした人口流出を防ぐとともに、人口減少下でも維持・発展していくため、産業の活性化と雇用の確保を目指します。 <u>また、しごとにより町のにぎわいが生み出されることを目指します。</u>
21ほか（第12章全体）	算定誤りのあったKPI指標について修正	別紙	別紙
21	子育てについて地域全体で取り組んでいく旨の文言の追加	乳幼児健診、訪問指導、育児相談等切れ目のない子育て支援サービスの充実を図ります。	<u>子育て環境は各家庭の問題と捉えるのではなく、地域全体で取り組んでいく重要なテーマであると位置付け、以下の内容に取り組んでいきます。</u> 乳幼児健診、訪問指導、育児相談等切れ目のない子育て支援サービスの充実を図ります。
21	「保護者の負担軽減のための子どもの見守り支援」に取り組む旨の記載を追加	延長保育等保育サービスを充実させ、ファミリー・サポート・センター等について実施を検討します。	現在実施している子育て支援事業や一時保育、延長保育等の保育サービスを充実させるとともに、 <u>ファミリー・サポート・センター等の新しい事業についてはニーズを考慮し実施を検討するなど、町として子育てを応援するため実践的な取り組みを行っていきます。</u>

素案の 該当ページ	修正の趣旨	修正前	修正後
23	「実現したい教育」を踏まえて学校規模の適正化を図る旨の記載を追加	(1. 現状と課題) 一定規模の児童生徒の集団を確保することが必要であり、適正な学校規模となっていないという課題があります。 (2. 目指すべき将来像) 「南知多町立小中学校規模適正化基本計画」に沿って、学校の適正配置、規模の適正化を検討します。	(1. 現状と課題) 一定規模の児童生徒の集団を確保することが必要であり、それを踏まえた<u>適正な学校規模を図っていく必要があります。</u> (2. 目指すべき将来像) <u>実現したい教育の姿・環境を見据え、</u>「南知多町立小中学校規模適正化基本計画」に沿って、学校の適正配置、規模の適正化進めていきます。
26	児童・生徒が本町の未来を考える機会を創出する旨の文言を追加	児童・生徒が地域に愛着を持つために、農・漁業体験をはじめとした自然の中での学習、伝統行事等への参加、地元の食材を使った給食等、郷土教育の拡充に取り組めます。	児童・生徒が地域に愛着を持つために、農・漁業体験をはじめとした自然の中での学習、伝統行事等への参加、地元の食材を使った給食等、郷土教育の拡充に取り組めます。 <u>また、それらを踏まえた上で、児童・生徒が本町の未来を考える機会の創出を推進します。</u>
31	自然保護活動の普及展開やその取り組みの発信について取り組む旨の文言を追加	(2. (2) 将来像の実現に向けて) より多くの方が余暇に自然と親しむため、自然のなかで行うアウトドア等の活動の普及・展開を支援します。 (2. (3) 地域との協働) 美しい自然を守るため、地域や諸団体等とともに、自然環境の保全に取り組めます。	(2. (2) 将来像の実現に向けて) より多くの方が余暇に自然と親しむため、自然のなかで行うアウトドア等の活動の普及・展開を支援します。<u>また、上記の取組ができるよう、美しい自然を守る活動の普及・展開を支援します。</u> (2. (3) 地域との協働) 美しい自然を守るため、地域や諸団体等とともに、自然環境の保全に取り組めます。<u>また、美しい南知多を日頃から楽しみ、SNS等で積極的に魅力を発信いただくとともに、環境改善の取り組みにも理解いただけるよう取り組みます。</u>

素案の 該当ページ	修正の趣旨	修正前	修正後
33	「高齢者の持つ伝統技術」の継承に関する文言の追加	郷土教育など、若い世代が伝統文化に触れる機会の確保に取り組みます。	郷土教育や高齢者が持つ伝統技術など、若い世代が伝統文化や技術に触れる機会の確保に取り組みます。

基本目標	基本施策	満足度 (修正前)	満足度 (修正後)	目標値(案) (修正前)	目標値(案) (修正後)
ひとづくり	1-1 地域で大切にする子育て環境	76 →	89	80 →	93
	1-2 次代の担い手を育む教育環境	79 →	86	83 →	90
	1-3 生涯通じて取り組む健康づくり	79 →	89	83 →	93
	1-4 個性を活かす障がい者福祉	68 →	84	71 →	89
	1-5 安心して住み続けられる長寿社会	80 →	86	84 →	91
	1-6 豊かな自然を活かしたひとづくり	70 →	83	73 →	88
	1-7 郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ	68 →	78	71 →	82
仕事づくり	2-1 豊かな海と産物を活かした水産業	68 →	83	71 →	87
	2-2 豊かな農地と産物活かした農業	47 →	78	50 →	82
	2-3 新たな魅力や価値を生みだす商工業	71 →	83	74 →	88
	2-4 何度も訪れたい観光・交流	67 →	81	70 →	86
	2-5 新たなチャレンジを創る起業支援	45 →	73	47 →	77
	2-6 価値ある産業を残す事業承継支援	59 →	76	62 →	80
	2-7 働く環境づくり	68 →	80	71 →	84
まちづくり	3-1 まちと命を守る防災	79 →	85	83 →	89
	3-2 つながりを活かした防犯	86 →	90	90 →	94
	3-3 資源を活かす土地利用	66 →	73	70 →	77
	3-4 安心な暮らしを支えるインフラ	83 →	86	88 →	91
	3-5 暮らしを支える地域公共交通	76 →	76	79 →	79
	3-6 多様性を認め、共に支え合うコミュニティ	72 →	83	75 →	87
	3-7 心と体安らぐ自然・住環境	81 →	82	86 →	87

住民意識調査(モニター調査)結果について

第7次総合計画のKPI指標を算出することを目的として、住民意識調査を及び職員意識調査を以下の通り実施しました

住民意識調査及び職員意識調査の実施概要

住民意識調査		職員意識調査
住民モニター	職員※	
調査期間	➤ 令和2年6月（1か月間）	➤ 令和2年6月（1か月間）
調査対象	➤ 団体が推薦する南知多町在住の方100名 ➤ うち回答者数100名	➤ 南知多町役場に在勤する職員146名 ➤ うち回答者数146名
	➤ 南知多町役場に在勤する職員139名（出向中等の職員は除く） ➤ うち回答者数139名	

※ 職員が回答した住民意識調査については参考値とし、総合計画のKPI指標には反映しない

住民意識調査及び職員満足度調査の結果、基本目標及び各施策のKPI(満足度)は以下の通りとなりました

KPIの結果(施策)

単位: pt

施策名	KPI指標	目標(案)	参考: 職員
地域で育むひとづくり			
1-1 地域で大切にする子育て環境	89 →	95	97
1-2 次代の担い手を育む教育環境	86 →	95	92
1-3 生涯通じて取り組む健康づくり	89 →	95	97
1-4 個性を活かす障がい者福祉	85 →	95	96
1-5 安心して住み続けられる長寿社会	88 →	95	97
1-6 豊かな自然を活かしたひとづくり	84 →	95	92
1-7 郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ	79 →	95	95
地域をにぎわす仕事づくり			
2-1 豊かな海と産物を活かした水産業	84 →	95	97
2-2 豊かな農地と産物活かした農業	79 →	95	93
2-3 新たな魅力や価値を生み出す商工業	84 →	95	93
2-4 何度も訪れたい観光・交流	82 →	95	97
2-5 新たなチャレンジを創る起業支援	74 →	89	89
2-6 価値ある産業を残す事業承継支援	77 →	93	88
2-7 働く環境づくり	81 →	95	94
安心できるまちづくり			
3-1 まちと命を守る防災	85 →	95	96
3-2 つながりを活かした防犯	90 →	95	99
3-3 資源を活かす土地利用	74 →	89	94
3-4 安心な暮らしを支えるインフラ	88 →	95	95
3-5 暮らしを支える地域公共交通	76 →	91	94
3-6 多様性を認め、共に支え合うコミュニティ	84 →	95	97
3-7 心と体安らぐ自然・住環境	82 →	95	97

施策名	KPI	目標値(案)	参考: 職員
行財政マネジメント			
職員の成長とやりがい	87	95	—
業務の高度化・効率化	89	95	—
町民の満足度向上	84	95	—
持続可能な行政運営	84	95	—

※ 目標値(案)は一律満足度を95ptに向上させること(95ptにするのに現状値から20人%の向上が必要な場合は、20%を上限)を目標にして設定しています。

住民意識調査及び職員満足度調査の結果、基本目標及び各施策のKPI(満足度)は以下の通りとなりました

KPIの結果(基本目標)

単位:pt

	認知度 (0.3)	満足度 (0.4)	貢献度 (0.3)	合計	目標値案
地域で育むひとづくり	24	35	26	85	95
地元をにぎわす仕事づくり	20	32	24	77	91
安心できるまちづくり	26	34	27	87	95

※ 評価項目のカッコ内は重みづけの係数

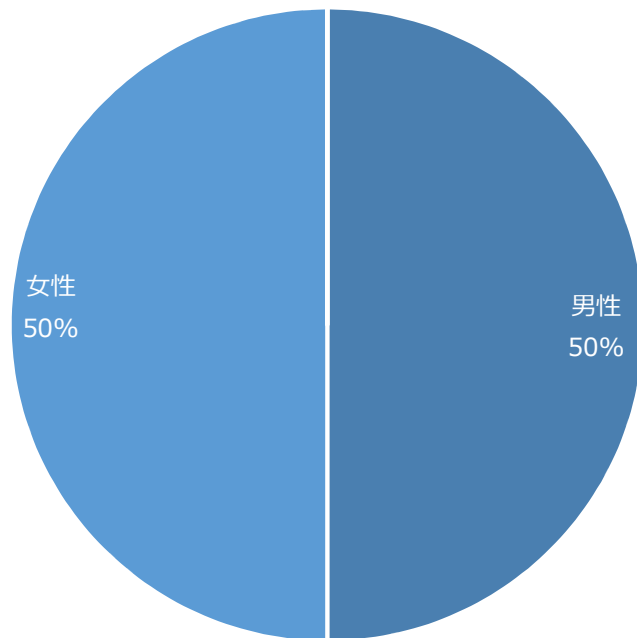
※ 各評価項目の点数は基本目標の中の7つの施策の平均値を重みづけしたもの

※ 目標値(案)は原則一律95ptに向上(95ptに向上させるのに現状値から20%以上向上させるのが必要な場合は20%を上限)させることを目標にして設定しています。

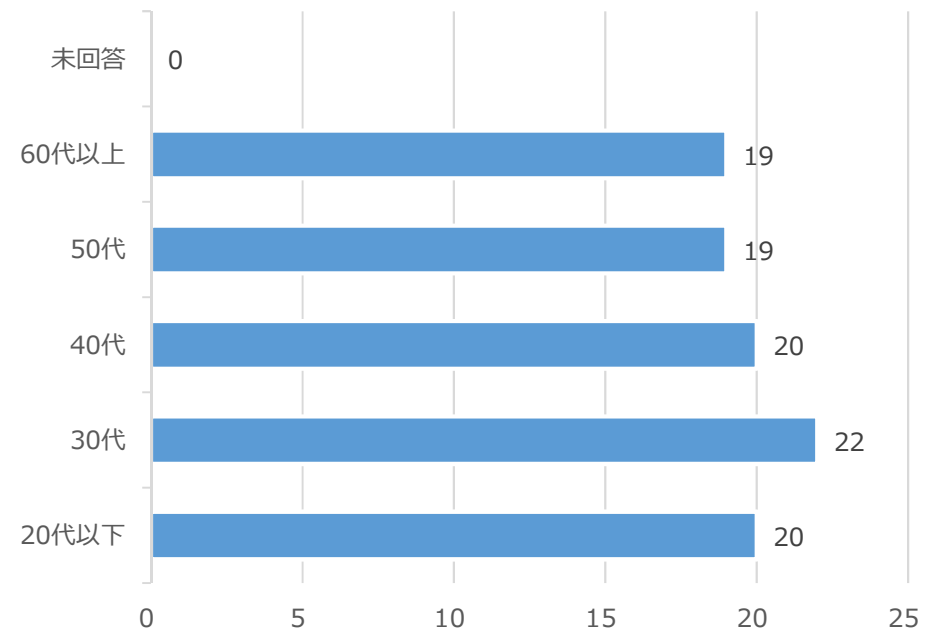
住民意識調査の回答者属性は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答者属性

男女比



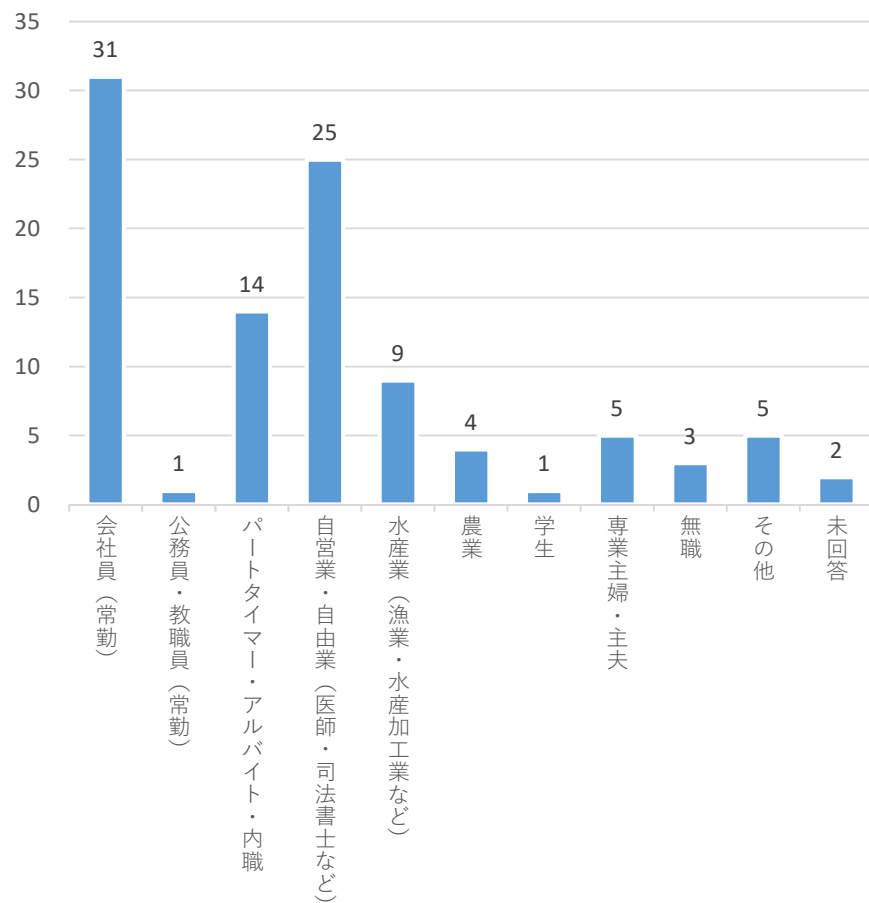
年齢構成



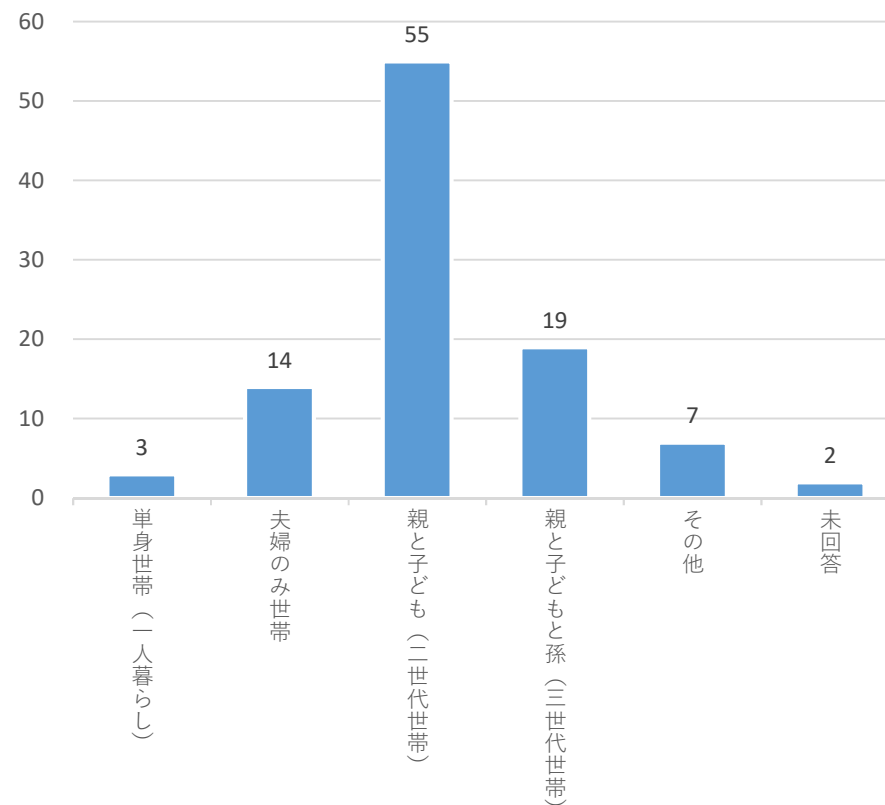
住民意識調査の回答者属性は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答者属性

職業



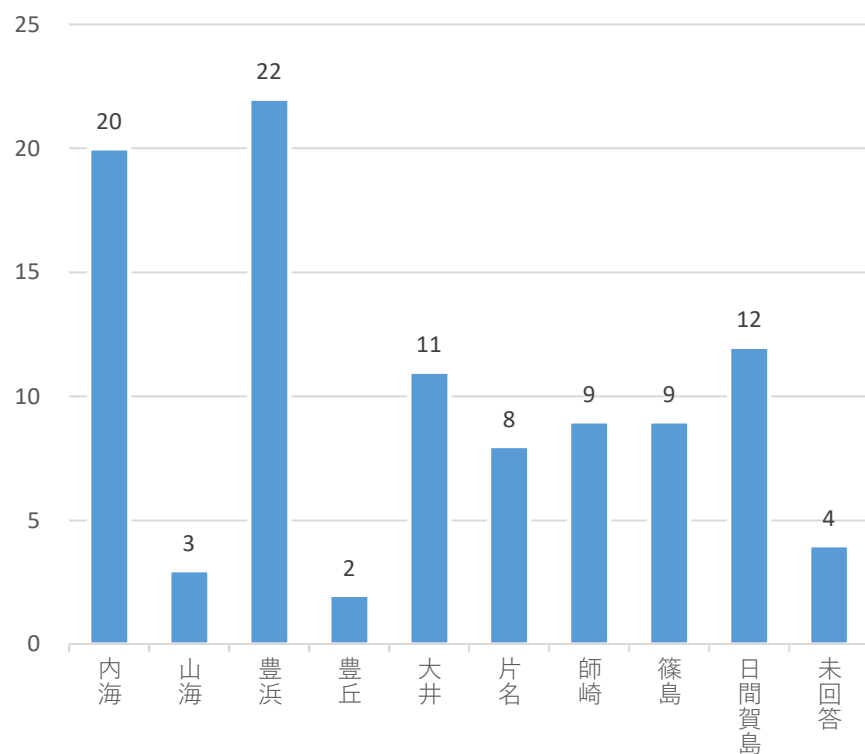
家族構成



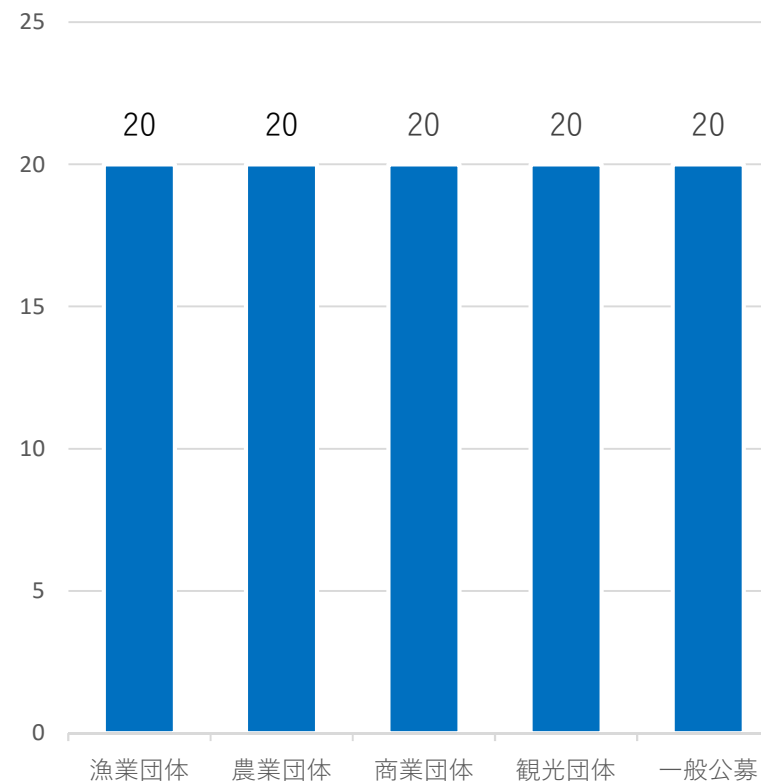
住民意識調査の回答者属性は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答者属性

在住・在勤地



推薦団体



基本目標①「地域で育むひとづくり」分野では以下の結果が得られました

回答結果の要約

各指標の状況(地域で育むひとづくり)	
重要度	➤ 全ての項目において重要度は99pt、もしくは100ptとなっています。
認知度	➤ 認知度の全施策平均は78pt、基本目標①の施策平均は79ptとなっています。 ➤ 最も認知度が高かったのは「次代の担い手を育む教育環境」(85pt)で、最も認知度が低かったのは「個性を活かす障がい者福祉」と「豊かな自然を活かしたひとづくり」(72pt)でした。
満足度	➤ 満足度の全施策平均は84pt、基本目標①の施策平均は87ptとなっています。 ➤ 最も満足度が高かったのは、「地域で大切に育てる子育て環境」(91pt)で最も満足度が低かったのは「個性を活かす障がい者福祉」と「郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ」(79pt)でした。
貢献度	➤ 貢献度の全施策平均は87pt、基本目標①の施策平均は87ptとなっています。 ➤ 最も貢献度が高かったのは「生涯通じて取り組む健康づくり」(94pt)最も低かったのは、「郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ」(80pt)でした。

モニター調査結果のポイント

- ✓ 他の基本目標の結果と比較すると、いずれの指標もほぼ平均的な結果となっています。
- ✓ 一方で、認知度の値が他の指標と比べると低くなっており、基本目標全体として認知度を高めるための取組が必要であると考えられます。

参考:職員へのアンケート調査結果との比較

- ✓ 住民と最も乖離が大きかったのは「郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ」でした(+17pt)
- ✓ 住民と最も乖離が小さかったのは「次代の担い手を育む教育環境」でした(+6pt)

基本目標①「地域で育むひとづくり」分野（自由記述）のテキストマイニング結果

結果の要約

	ひとづくり・ポジティブにだけ出現	ひとづくり・ポジティブによく出る	両方によく出る	ひとづくり・ネガティブによく出る	ひとづくり・ネガティブにだけ出現
出現 多	参加 少ない イベント 個人 大切 発信 豊か 開催 上 住民 師崎 整備 無し 田舎 町外 移住者 統廃合 若い世代 7次 コース サポート サービス スポーツ ハイキング バリアフリー 予約 体験 しまう よい 小さい	自然 子ども づくり 必要 祭り 高齢者 地域	ほしい 思う 学校 南知多 良い できる いい 世代 作る 住む 増える 新しい	内海 保育 子育て 小学校 無い 増やす いく 入れる 考える おる	移住 訪問 地元 授業 道路 壊す 言う しやすい 多い 狭い 2人目 ict ファミサポ ボランティア 保存会 帰る 目指す 違う 偉い 悪い 早い 暗い 行きやすい 高い あきらめる いける がる くれる こだわる すぎる
出現 少					

マイニング結果の解釈

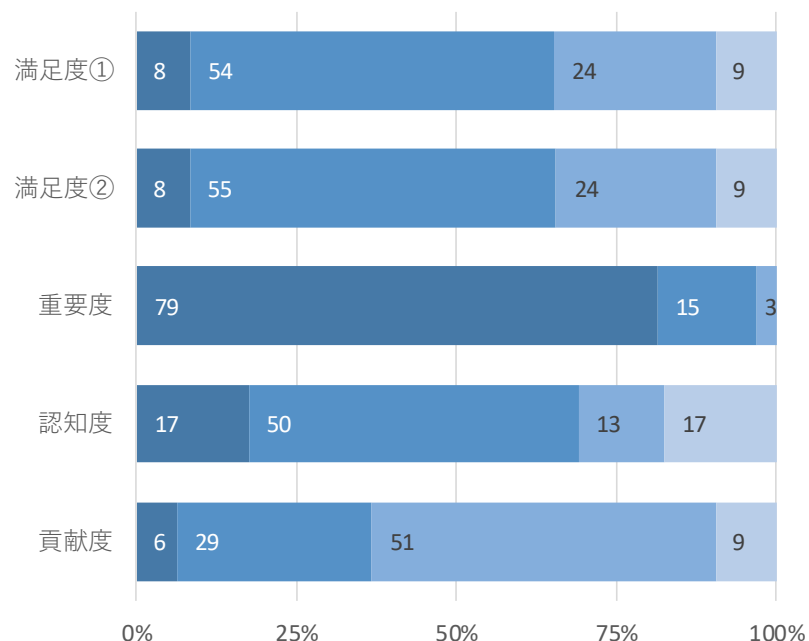
- ✓ ポジティブな回答者は、「子ども」や「高齢者」も含めた世代間で、「自然」や「イベント」など「地域」へ「参加」できることを重視している一方で、その機会が「少ない」と感じていると考えられます。
- ✓ ネガティブな回答者は、「保育」や「子育て」環境への不満が、ネガティブな回答につながっていると考えられます。
- ✓ いずれの回答者も、統廃合を含めた「学校」の在り方に関心が高いことが伺えます。

参考：分析方法及び結果の見方

- ・ユーザーローカル テキストマイニングツール
(<https://textmining.userlocal.jp/>)による分析
- ・青字：名詞、赤字：動詞、緑字：形容詞
- ・ネガティブ：アンケートで選択肢「4」の回答が平均よりも多い回答者の記述。ポジティブはその逆。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-1 地域で大切にする子育て環境)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計（人・％）	未回答
	8 (8%)	54 (57%)	24 (25%)	9 (9%)	95 (100%)	5

基本施策KPI：(8+54+24)/97(重要度でポジティブな回答をした人)×100= 89pt

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計（人・％）	未回答
	8 (8%)	55 (57%)	24 (25%)	9 (9%)	96 (100%)	4

基本目標KPI：(8+55+24)/96×0.4×100= 91pt

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計（人）	未回答
	79 (81%)	15 (15%)	3 (3%)	0 (0%)	97 (100%)	3

認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計（人・％）	未回答
	17 (18%)	50 (52%)	13 (13%)	17 (18%)	97 (100%)	3

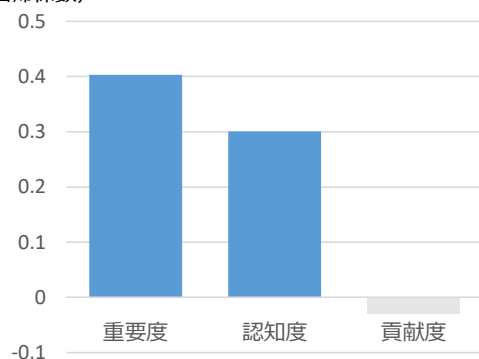
基本目標KPI：(17+50+13)/97×0.3×100= 82pt

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計（人・％）	未回答
	6 (6%)	29 (31%)	51 (54%)	9 (9%)	95 (100%)	5

基本目標KPI：(6+29+51)/95×0.3×100= 91pt

満足度を向上させる効果

(回帰係数)



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない（P値<0.1）。

- ✓ 満足度については、「ある程度満足」と回答した人が54人と最も多くなっています。認知度については「ある程度知っている」回答した人が最も多く、半数を占めています。貢献度については「やってみようと思う」と回答した人が最も多く、半数を占めています。
- ✓ 重要度、認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知りその重要性を理解いただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-1 地域で大切にする子育て環境)

■具体的な要望等

- 車が無い人は何もサポート受けられず、支援センターは遠い上に階段のみ、ベビーキープ無し、施設のユニバーサルデザイン無し、総合体育館も子どもを連れてトイレに行けない。一時保育柔軟性無し、産後・育児ヘルパーの補助無し、個人でも呼べない田舎、自然が豊かでも自由に遊んで良い自然無し。それでも住んでいるのは、心の豊かさがあるから。いじめがほとんどないって素敵。
- 子育てしやすい町を目指すという割に、保育園の園庭が狭い、学校にプールが無いなど設備が悪い。土地が無いとか都市部と違うのに何故なのだろうと疑問。塾もほぼ無いのに図書館も暗く勉強する気が起こるのかと思う。
- 実現されないファミサポは検討中止してほしい。狭すぎるコミュニティである南知多ではマッチングが困難で現実的ではない。それより子育て支援センターに駐在する保育士さんの数をもう1~2人増やし、一時保育や「訪問型保育」で派遣できるようにしてはどうか。素人のボランティアに頼るファミサポよりプロの保育士さんが1~2時間でも訪問保育に来てくれたら子育ての大変さは格段に変わる。今でも「赤ちゃん訪問」があるが、これを拡大し、例えば生後0~2歳を対象に、訪問保育をしてもらえたら2人目、3人目を産もうという余裕ができる。祖父母に頼れない人は2人目以降をあきらめており、単身世帯や移住者への子育て支援を希望する。
- 学校の部活に地域の人に関われたら良いのではないかな。
- 南知多(特に島の人たち)からだ、高校に通うのも大変なため、学費・交通費等の補助。

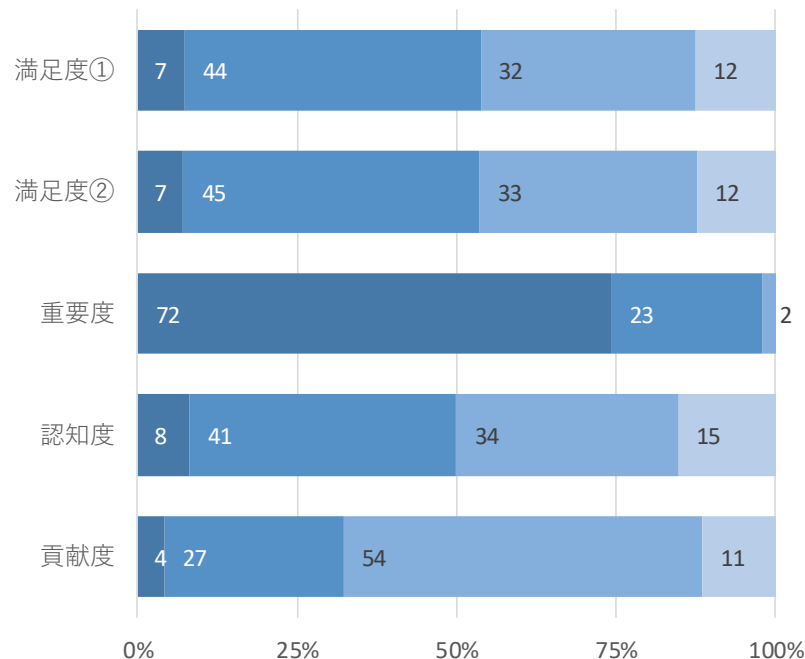
- 行政の発信が足りない。せっかく良い行事をしても参加者の喜んだ顔が外に発信できていない。参加者に撮影許可を得るなどしてもっと発信すべき。「個人情報云々」は言い訳。
- 子育て関連の優遇過剰。ある程度にとどめる。
- 町が開催する親子イベント、勉強会、体験などが少ない。地域が別々に開催しているので、師崎地区等地区単位で開催するのはやめてほしい。南知多全体が一つになることが大切だとずっと感じている。

■抽象的な提案、意見等

- 子育て世代の住みやすい町づくりをもっとしてほしい。子どもがいる中でこの町に住みたいという強みがほしい。
- 子どもが小さい頃、子育て支援センターや親子ふれあい広場には大変お世話になった。特に他町から来た母親には心強いと思う。
- 田舎だからこそできることがあると思う。名古屋ではできないことをするべき。
- 電車が無いのを理由に奥さんが来たがらずやむなく半田・河和に家を建てる場合があるという。電車を引っ張ってくるか、河和の街中を通らずに早く半田・武豊へ行ける、有料ではない、道路があればいいと思う。
- 若い世代に南知多に住み続けてもらうため、大切なことだと思う。
- 1-7「環境づくり」と同じ問題で、子育てできる住民の保育、学校などを一貫のものとして考え、若い世代にアピールすることが(そのような網羅した政策バンクなどを作る)必要かと思う。

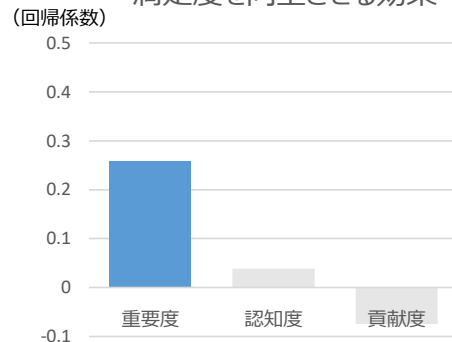
住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-2 次代の担い手を育む教育環境)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	7 (7%)	44 (46%)	32 (34%)	12 (13%)	95 (100%)	5
基本施策KPI: $(7+44+32)/97$ (重要度でポジティブな回答をした人) $\times 100 =$						86pt
満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	7 (7%)	45 (46%)	33 (34%)	12 (12%)	97 (100%)	3
基本目標KPI: $(7+45+33)/97 \times 0.4 \times 100 =$						88pt
重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	72 (74%)	23 (24%)	2 (2%)	0 (0%)	97 (100%)	3
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	8 (8%)	41 (42%)	34 (35%)	15 (15%)	98 (100%)	2
基本目標KPI: $(8+41+34)/98 \times 0.3 \times 100 =$						85pt
貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	4 (4%)	27 (28%)	54 (56%)	11 (11%)	96 (100%)	4
基本目標KPI: $(4+27+54)/96 \times 0.3 \times 100 =$						89pt

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度については「ある程度満足」と回答した人が最も多く、ついで「少しは満足」となっています。認知度については、「ある程度知っている」と回答した人が最も多く、ついで「知りたいと思う」となっています。貢献度については「やってみようと思う」と回答している人が最も多く全体の半数以上を占めています。
- ✓ 重要度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策の重要性について理解いただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-2 次代の担い手を育む教育環境)

■具体的な要望等

- ・ 部活動の活発化、行事の盛り上げを望むのなら学校の統合は必要不可欠であると考える。
- ・ 学校の統廃合は仕方ないと思うが、少人数もこの町の魅力であると思うし、移住者呼び込みには現行に近い形が良いと思う。1000人超の小中学校育ちの自分としてはどちらでも構わない。小学校はまだバラしておいた方が良い。ただ子どもはどんな環境でも順応性は身につくと思う。
- ・ 部活に参加できたらよいと思う。
- ・ 内海小学校と豊浜小学校の合併に反対。やるなら内海小と内海中一貫で。より住み移る住人が減る。私立の学校誘致はできないのか？
- ・ 「学校規模・適正化」というが、現在国でも少人数学級の議論がされており、アフターコロナの現在、少人数学級は移住希望者への大きなアピールになる。ICT授業など、町の各教室をモニターでつなぎ、大人数授業もチームティーチングも可能となる。ICTに力を入れてほしい。旧内海高校跡地現運動場に、内海小学校を移して内海小を維持してほしい。新しく人が帰ってくる、移住する可能性があるのは内海である。駅がある南知多の玄関口。内海に小学校・中学校両方残さないと内海に帰ってくる人、移住する人はなくなる。
- ・ 給食にもう少し力を入れてほしい。
- ・ 地元の祭り、行事、歴史を学ぶ授業を増やして地域に愛着を持てるようにしてほしい。
- ・ 中学校の統合を進めてほしい。
- ・ 新しい生活様式としての学校規模は少人数学校であることが証明

された。学校統廃合計画を見直すべきではないか。

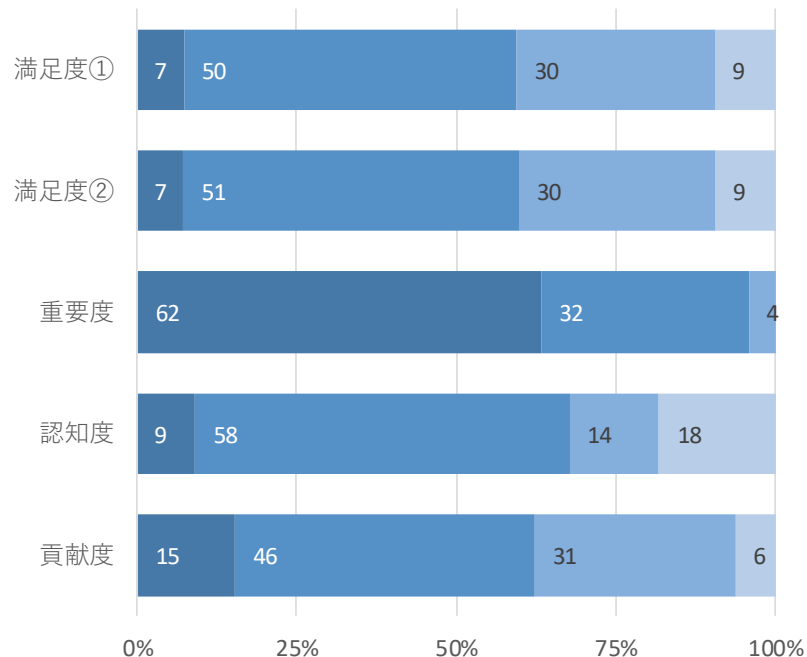
- ・ 適正化と総合計画は相反する。第6次計画の統括を私たちに提供して、その到達の上に第7次を修正補強の上で作成すべきであると思う。
- ・ 学校適正化が検討されているが、この第7次総合計画と相反することだと思う。これ以上、統廃合が続けば住民は離反し、若い人は町外へと進むと思われる。結果ますます人口減少をたどると考える。

■抽象的な提案、意見等

- ・ ボランティアは「やってあげてる」という精神が見えるので、町の雇用種類を増やすという観点からも職業になると良いと思う。
- ・ 田舎の良さはある。

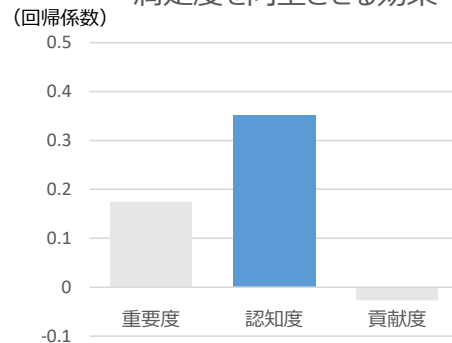
住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-3 生涯通じて取り組む健康づくり)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	7 (7%)	50 (52%)	30 (31%)	9 (9%)	96 (100%)	4
基本施策KPI: (7+50+30)/98 (重要度でポジティブな回答をした人) × 100 = 89pt						
満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	7 (7%)	51 (53%)	30 (31%)	9 (9%)	97 (100%)	3
基本目標KPI: (7+51+30)/97 × 0.4 × 100 = 91pt						
重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	62 (63%)	32 (33%)	4 (4%)	0 (0%)	98 (100%)	2
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	9 (9%)	58 (59%)	14 (14%)	18 (18%)	99 (100%)	1
基本目標KPI: (9+58+14)/99 × 0.3 × 100 = 82pt						
貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	15 (15%)	46 (47%)	31 (32%)	6 (6%)	98 (100%)	2
基本目標KPI: (15+46+31)/98 × 0.3 × 100 = 94pt						

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度については「ある程度満足」と回答した人が最も多く、約半数を占めています。認知度については「ある程度知っている」と回答した人が最も多く、約6割を占めています。貢献度については、「ある程度はある」が最も多く、次いで「やってみようと思う」となっています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-3 生涯通じて取り組む健康づくり)

■具体的な要望等

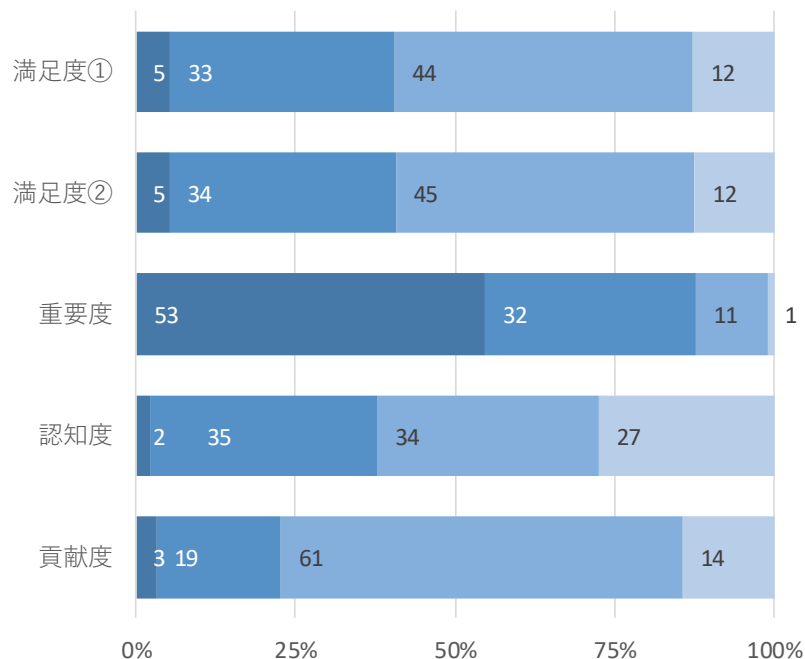
- ・ 診療所も毎日診察している訳でもないし、もっと重要性がある。特に高齢化しているのでなおさら毎日居てほしいです。曜日で居る意味が良く分からない。島民の事を考えて頂きたい。
- ・ 医者・歯医者等に行きやすい環境づくり(老人は車で運転して行けない人もいるため)。
- ・ 健康診断(住民健診)をより手軽に受けられるよう、各地域毎での開催日数を増やしたり、無料化できると良い。予約制のものは予約するのが面倒である。いっそのこと義務化したら良いと思う。
- ・ 高齢者だけでなく、町でスポーツクラブを作り、町民の中で講師ができる人にいろんなスポーツ教室をやってほしい。ヨガ、歩き方、走り方など参加しやすさも大切。

■抽象的な提案、意見等

- ・ 老人が長生きしやすい町づくりより、働き世代、子ども向けに目を向けないと人口の流出は止まらないと思う。
- ・ より価値があり、より多くのものを生み出すためには個人個人の活力が必要だと思う。

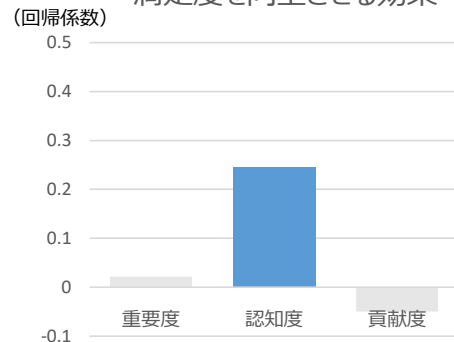
住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-4 個性を活かす障がい者福祉)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	5 (5%)	33 (35%)	44 (47%)	12 (13%)	94 (100%)	6
基本施策KPI: (5+33+44)/96 (重要度でポジティブな回答をした人) × 100 =						85pt
満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	5 (5%)	34 (35%)	45 (47%)	12 (13%)	96 (100%)	4
基本目標KPI: (5+34+45)/96 × 0.4 × 100 =						88pt
重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	53 (55%)	32 (33%)	11 (11%)	1 (1%)	97 (100%)	3
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	2 (2%)	35 (36%)	34 (35%)	27 (28%)	98 (100%)	2
基本目標KPI: (2+35+34)/98 × 0.3 × 100 =						72pt
貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	3 (3%)	19 (20%)	61 (63%)	14 (14%)	97 (100%)	3
基本目標KPI: (3+19+61)/97 × 0.3 × 100 =						86pt

満足度を向上させる効果



- ・ 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- ・ 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- ・ グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度については、「少しは満足」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度満足」となっています。認知度について「知らない」「知りたいと思う」と回答した方が併せて6割以上、貢献度については特に「やってみようと思う」と答えた人が6割以上を占めています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-4 個性を活かす障がい者福祉)

■具体的な要望等

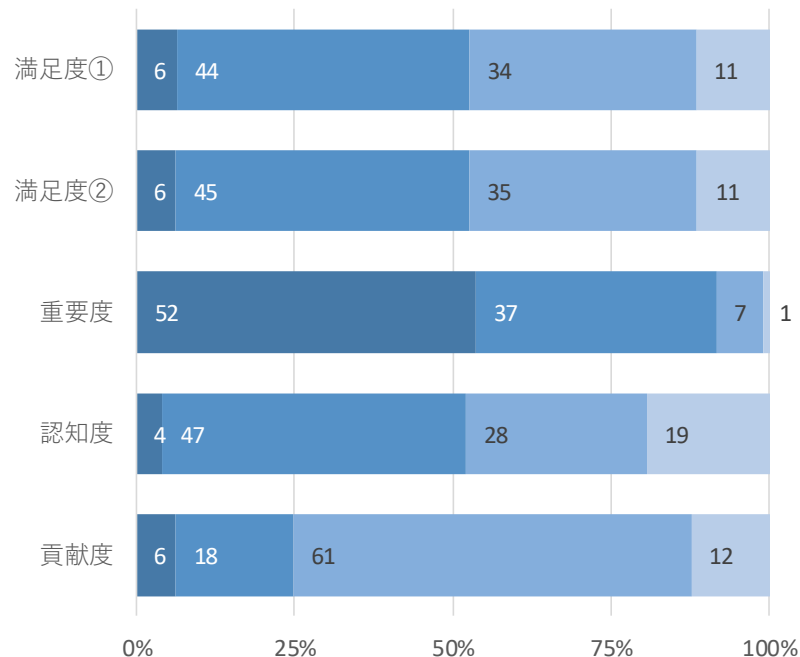
- まだまだバリアフリーの足りていない施設(特に駅)があるため、少しずつでもバリアフリー化を進めてほしい。
- 福祉作業所の商品がどこで売られているかわからない為、知れるところがどこなのかと思う。
- 一般のスーパー、薬局など、どこにでも授産施設で作った製品や食品を置けないのか。収入の一部(全部でも)を支援金にすれば良いと思う。
- 障がい者への義足利用登用の補助差別などを解消することが必要。役所の障がい者雇用の実態はどうなっているか明らかにしてほしい。

■抽象的な提案、意見等

- 授産施設が南知多にあることは知らなかった。友達と一緒に買い物に行ってみたい。
- 店は車いす対応で作った。車いすの方にも気軽に来て頂けたらと思う。

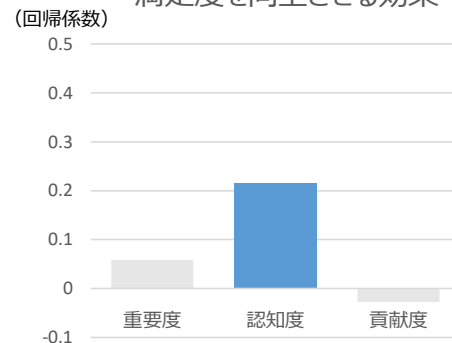
住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-5 安心して住み続けられる長寿社会)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	6 (6%)	44 (46%)	34 (36%)	11 (12%)	95 (100%)	5
基本施策KPI : (6+44+34) / 96 (重要度でポジティブな回答をした人) × 100 =						88pt
満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	6 (6%)	45 (46%)	35 (36%)	11 (11%)	97 (100%)	3
基本目標KPI : (6+45+35) / 97 × 0.4 × 100 =						89pt
重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	52 (54%)	37 (38%)	7 (7%)	1 (1%)	97 (100%)	3
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	4 (4%)	47 (48%)	28 (29%)	19 (19%)	98 (100%)	2
基本目標KPI : (4+47+28) / 98 × 0.3 × 100 =						81pt
貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	6 (6%)	18 (19%)	61 (63%)	12 (12%)	97 (100%)	3
基本目標KPI : (6+18+61) / 97 × 0.3 × 100 =						88pt

満足度を向上させる効果



- ・ 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- ・ 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- ・ グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度については、「ある程度満足」と回答した人が最も多く、ついで「少しは満足」となっています。認知度については「ある程度知っている」が最も多く、半数近くを占めています。貢献度については「やってみようと思う」と回答した人が最も多く、6割以上を占めています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-5 安心して住み続けられる長寿社会)

■具体的な要望等

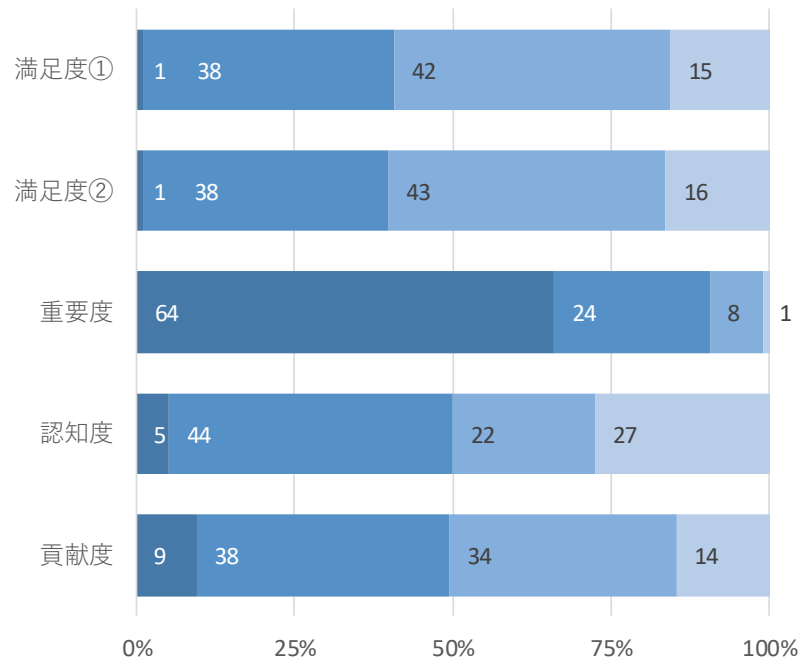
- ・ 要介護になった親を他所にいる子どもが地元に戻ってきて世話をするのは簡単にはいかない場合が多いのでは。取り組みの理念は良いと思うが、介護を続けていると神経をすり減らしているので、役場の人の言葉遣い一つで気分を害したりする。親のおむつを取り替えたことがない人に偉そうに言われたくない。
- ・ 老人が集まれるサロンなど、かなり数も増えてきたが、回数が少なく、もう少し増やせないのかと思う。喫茶店が老人憩いの場となっているが、そのような場を提供できないのか。
- ・ 配食サービスに従事する業者・個人の価格や回数など現行を改善させる。高齢者サービスの内容について広く広報等で知らせることを願う。

■抽象的な提案、意見等

- ・ 子どもを幅広い世代の人、価値観に触れさせる機会として高齢者と交流したい。
- ・ 高齢者の実状を知る会のようなものがあれば何か見つけやすいと思う。
- ・ 高齢者の話し相手、情報を入手することができないため、サポートが必要。
- ・ 手すりなど、いたるところに付けた。会話がとても大切だと思うので、そういった時間を作るようにしていきたい。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-6 豊かな自然を活かしたひとづくり)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	1 (1%)	38 (40%)	42 (44%)	15 (16%)	96 (100%)	4

基本施策KPI: $(1+38+42)/96$ (重要度でポジティブな回答をした人) $\times 100 = 84\text{pt}$

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	1 (1%)	38 (39%)	43 (44%)	16 (16%)	98 (100%)	2

基本目標KPI: $(1+38+43)/98 \times 0.4 \times 100 = 84\text{pt}$

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	64 (66%)	24 (25%)	8 (8%)	1 (1%)	97 (100%)	3

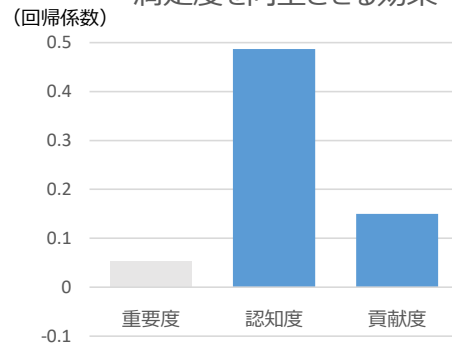
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	5 (5%)	44 (45%)	22 (22%)	27 (28%)	98 (100%)	2

基本目標KPI: $(5+44+22)/98 \times 0.3 \times 100 = 72\text{pt}$

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	9 (9%)	38 (40%)	34 (36%)	14 (15%)	95 (100%)	5

基本目標KPI: $(9+38+34)/95 \times 0.3 \times 100 = 85\text{pt}$

満足度を向上させる効果



- ・ 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- ・ 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- ・ グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度については「少しは満足」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度満足」となっています。認知度については「ある程度知っている」と回答した人が最も多くなっています。貢献度については「ある程度はある」と回答した人が最も多く、ついで「やってみようと思う」となっています。
- ✓ 認知度、貢献度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、特に施策を知っていただくことが有効と考えられます。また、施策に参加いただくことでも満足度を高められる可能性があります。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-6 豊かな自然を活かしたひとづくり)

■具体的な要望等

- 観光客は師崎を通過し、日間賀へ行ってしまふ。豊浜、師崎のめばしいスポットが浮かばない。ハイキングコースや観光スポットが町外の人には宣伝されていないと思う。(看板も少ない)
- 町の公募・案内看板が不足している。来町者は通り過ぎるだけになっている。バス停などの整備・サイクリング者や四国霊場巡りなど、道々に簡易雨よけ所など設置・遊歩道やハイキングコース整備など半島の中でも遅れています。
- 子どもを育てるのには自然とふれあえて良い環境です。ただ生活面などは不便も多く、やはり船に乗るという事自体が、時間に追われ。やることすらままならず、値段が高い。
- 単なる自然とのふれあいではなく、きちんと感じる必要があるため、自然の良さを感じてもらえるようにしたい。
- 夕日を撮影してツイッターにあげている。一過性で終わらず、継続が大事だと思う。
- SNSで自然の季節を発信している。南知多まで遊びに来ていただければ知多半島に利点がある。
- 山を削ってソーラーパネルを設置したり、風車を立てようとしているのに、目指すことが自然とはどういうことか。町が町に愛着があるとは思えない。大井に限って言えば、寺を分断してまで作った道路のせいで文化も壊しているし、街並みも壊しているし、明治の小学校の石柱も壊しているし、自然は無くなるばかりだ。道路は必要だが、造るところが違っていたと思う。

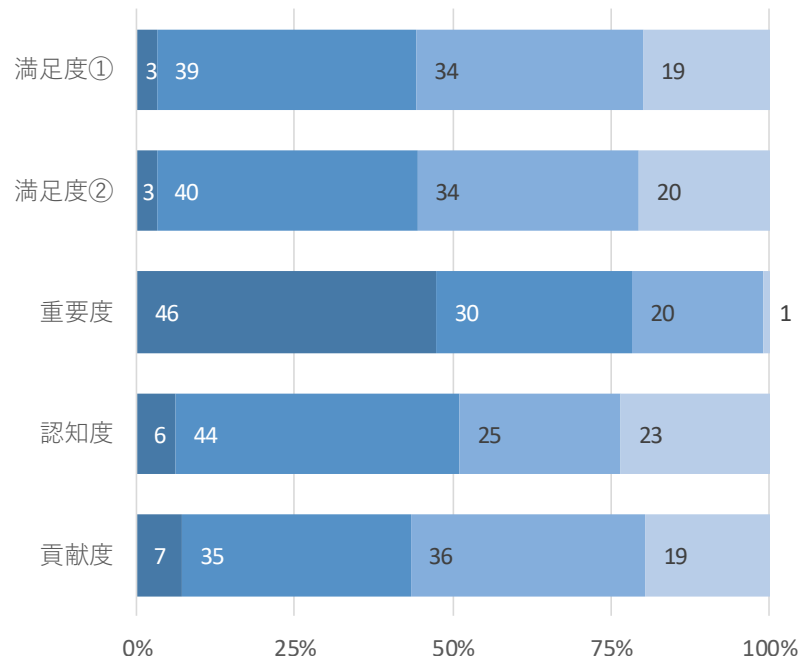
■抽象的な提案、意見等

- 片名の砂浜について、砂が入ってから海の生き物が非常に少なくなってしまうことが気になっている。貝類はもちろんウミウシやアメフラシなども、ほとんど見かけなくなってしまった。
- 町外の人が何度も訪れたいと思える自然保護と景観づくりをしてほしい。
- 子ども同士が友達の農家さんや山林を持っている方々の農地に山に入らせてもらっている。自身が内陸育ちなので、海の遊び方は分からないが入れる所へは出向いている。学生時代からしばらくグリーンツーリズムや環境教育に携わっていたし、心を豊かにして地域活性は目標であるから、いずれは生業としてやっていきたい。

- 自然環境は最高だと思うが、子育て世代には残念だが、仕事場がないと、子どもに言われる。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-7 郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	3 (3%)	39 (41%)	34 (36%)	19 (20%)	95 (100%)	5

基本施策KPI: $(3+39+34)/96$ (重要度でポジティブな回答をした人) $\times 100 = 79\text{pt}$

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	3 (3%)	40 (41%)	34 (35%)	20 (21%)	97 (100%)	3

基本目標KPI: $(3+40+34)/97 \times 0.4 \times 100 = 79\text{pt}$

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	46 (47%)	30 (31%)	20 (21%)	1 (1%)	97 (100%)	3

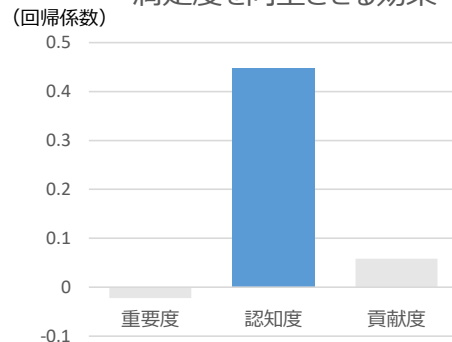
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	6 (6%)	44 (45%)	25 (26%)	23 (23%)	98 (100%)	2

基本目標KPI: $(6+44+25)/98 \times 0.3 \times 100 = 77\text{pt}$

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	7 (7%)	35 (36%)	36 (37%)	19 (20%)	97 (100%)	3

基本目標KPI: $(7+35+36)/97 \times 0.3 \times 100 = 80\text{pt}$

満足度を向上させる効果



- ・ 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- ・ 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- ・ グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度については、「ある程度満足」と回答した人が最も多く、ついで「少しは満足」となっています。認知度については「ある程度知っている」と回答した人が最も多く次いで「知りたいと思う」となっており、併せて約7割の人が認知しています。貢献度については「やってみようと思う」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度はある」となっています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策1-7 郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ)

■具体的な要望等

- ・ 祭りの規模が年々小さくなっている。見に来ている人が参加できるような体験ができると面白い。
- ・ 町の図書館が西端のため遠く、また蔵書数も少なく不便。近隣市町の図書館を利用している。図書館が町の中央寄りに移転すると嬉しいが、難しいと思うので安城市のような電子図書館の実現ができれば、若～中年層の利用者が増加するのではないか。
- ・ 様々な年齢の人たちが気軽に参加したいと思えるイベントか活動づくりをしてほしい。
- ・ メディアを使ってイベント紹介してもらいたい。南知多はスポーツ活動は苦手なので自然イベントがいい。
- ・ 地区の祭り保存会、山車保存会などの存続に力を入れてほしい。資料の収集をやっているならもっと示してほしい。
- ・ 貝がら公園の修復の為に支援を求めたい。大井聖崎公園などは整備と住民参加の維持が図られているが。

■抽象的な提案、意見等

- ・ 移住者であるが、祭りに参加し女性の会にも入り込ませていただき豊かに生きているが、伝統の田舎のスタイルで現代の若い世代が祭りを継承しようとする女性に家庭の負担が偏るなど様々な負担が増え(移住者は核家族)参加したくない人が増え、結果伝統は途絶えてしまいます。後継者の減少で、祭りの「頭」の世代が乳

幼児の親となってしまっています。

- ・ 祭に参加しているのだが、人数が限定されており、やりかたを転換する時期が来ていると思う。
- ・ 伝統を伝えていくことは良いですが、やはり維持や年齢も高齢者が増えているので無理があるのでは。
- ・ コロナの影響で夏祭りが中止になり、内海音頭も存続の危機。
- ・ 地元文化、活動等にこだわらないこと。無くすことの方が重要な時代。

基本目標②「地元をにぎわす仕事づくり」分野では以下の結果が得られました

回答の要約

各指標の状況(地元をにぎわす仕事づくり)

重要度

- 全ての項目において重要度は99pt、もしくは100ptとなっています。

認知度

- 認知度の全施策平均は78pt、基本目標②の施策平均は68ptとなっています。
- 最も認知度が高かったのは「何度も訪れたくなる観光・交流」と「働く環境づくり」(78pt)で、最も認知度が低かったのは「新たなチャレンジを創る起業支援」(52pt)でした。

満足度

- 満足度の全施策平均は84pt、基本目標②の施策平均は79ptとなっています。
- 最も満足度が高かったのは、「豊かな海と産物を活かした水産業」と「新たな魅力や価値を生みだす商工業」(84pt)で最も満足度が低かったのは「新たなチャレンジを創る起業支援」(74pt)でした。

貢献度

- 貢献度の全施策平均は87pt、基本目標②の施策平均は81ptとなっています。
- 最も貢献度が高かったのは「豊かな海と産物を活かした水産業」(94pt)最も低かったのは「新たなチャレンジを創る起業支援」(67pt)でした。

モニター調査結果のポイント

- ✓ 他の基本目標の平均値と比較すると、すべての指標が全体の平均値よりも低くなっています。
- ✓ 特に、認知度指標の平均68ptと最も低くなっており、基本目標全体として改善が必要と考えられます。

参考: 職員へのアンケート調査結果との比較

- ✓ 住民と最も乖離が大きかったのは「何度も訪れたくなる観光・交流」と「新たなチャレンジを創る起業支援」(16pt差)でした
- ✓ 住民と最も乖離が小さかったのは新たな魅力や価値を生みだす商工業」(10pt差)でした

基本目標②「地元をにぎわす仕事づくり」分野（自由記述）のテキストマイニング結果

結果の要約

	仕事づくり・ポジティブにだけ出現	仕事づくり・ポジティブによく出る	両方によく出る	仕事づくり・ネガティブによく出る	仕事づくり・ネガティブにだけ出現
出現 多	町内 仕事 地域 情報 町外 起業 取り組み 大切 移住者 課題 考える 交流 仕組み 個人 情報発信 整備 減少 認識 道の駅 都市 重要 量 少ない 新しい いける 買う 働く 持つ 減る もったいない	多い 必要 町民 漁業 知る 発信 内海 場所 大事 問題 支援 環境 海 自然 行く	南知多 思う ほしい できる 農業 入れる 作る sns 魚 野菜 地元 客 時代 移住 宣伝 使う 良い いく 言う 増やす いい 低い 安い 借りる 分かる 採れる 冷たい 欲しい 見やすい	もらう 観光 食べる よい 住む 感じる 美味しい 始める 活かす 縛る 頼る	ありがとう ようこそ おいしい スマホ 南知多町 役場 わかる 帰る hp ページ 仕組み 見る 調べる 逃げる 飛べる しやすい わかりづらい 分かりづらい 厳しい 怖い 悪い 悪い 汚い 細かい 見にくい 詳しい
出現 少					

マイニング結果の解釈

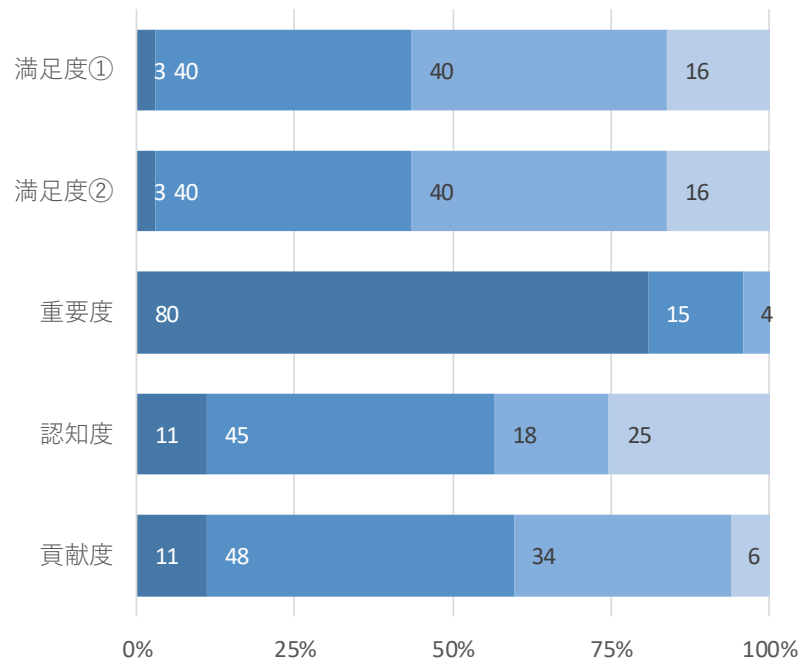
- ✓ ポジティブな回答者は、「起業」も含め魅力的な「仕事」の場と、それらに関する「情報発信」を重要視していると考えられます。
- ✓ ネガティブな回答者は、「美味しい」「食」などを活かしていない、「スマホ」の普及に対応できていない「HP」などの「わかりづらさ」、等の「観光」の在り方を問題視していると考えられます。
- ✓ いずれの回答者も、「魚」や「野菜」等の地域の食について「SNS」による「宣伝」に関心があると考えられます。

参考：分析方法及び結果の見方

- ・ユーザーローカル テキストマイニングツール
(<https://textmining.userlocal.jp/>)による分析
- ・青字：名詞、赤字：動詞、緑字：形容詞、灰字：感動詞
- ・ネガティブ：アンケートで選択肢「4」の回答が平均よりも多い回答者の記述。ポジティブはその逆。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-1 豊かな海と産物を活かした水産業)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	3 (3%)	40 (40%)	40 (40%)	16 (16%)	99 (100%)	1

基本施策KPI: $(3+40+40)/99$ (重要度でポジティブな回答をした人) $\times 100 = 84\text{pt}$

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	3 (3%)	40 (40%)	40 (40%)	16 (16%)	99 (100%)	1

基本目標KPI: $(3+40+40)/99 \times 0.4 \times 100 = 84\text{pt}$

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	80 (81%)	15 (15%)	4 (4%)	0 (0%)	99 (100%)	1

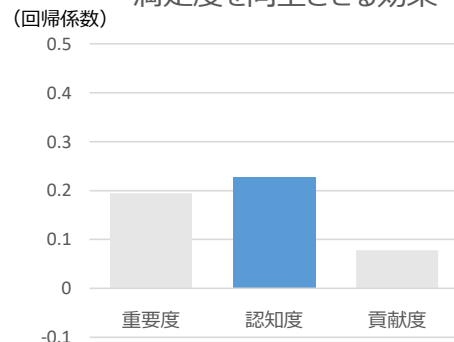
認知度	よく知っている	ある程度知っている	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	11 (11%)	45 (45%)	18 (18%)	25 (25%)	99 (100%)	1

基本目標KPI: $(11+45+18)/99 \times 0.3 \times 100 = 75\text{pt}$

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	11 (11%)	48 (48%)	34 (34%)	6 (6%)	99 (100%)	1

基本目標KPI: $(11+48+34)/99 \times 0.3 \times 100 = 94\text{pt}$

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度については「少しは満足」と「ある程度満足」が同数で合わせて8割となっています。認知度については、「ある程度知っている」が最も多く、半数近くとなっています。貢献度については「ある程度はある」と回答した人が最も多く、ついで「やってみようと思う」となっています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-1 豊かな海と産物を活かした水産業)

■具体的な要望等

- ・ インスタ・Twitter等南知多から発信されているSNSが弱いと感じる。中途半端ではなく統一感をもってフォローしてもらえるような見やすい投稿で情報発信してほしい。
- ・ もう少し、漁業者に対しての支援を多くしてもいいのでは？
- ・ 漁業関係者のみではなく観光業者(ホテル・民宿・海上タクシー)にも補助金の支援が必要。
- ・ 浜清掃に参加(町民全体)ができる仕組み。
- ・ 住民もさらに魚介を手に入れやすい(購入を主として)場所や環境、企画が多いと地域経済がもっと回るのでは。働き盛り子育て世代のためにある程度調理してあるものがあるとさらに売れる。
- ・ 師崎の朝市など商品は安くておいしいのに、施設の老朽化が目立ち人が汚いと思う環境なのが残念に思う。
- ・ 漁業者が使う施設の老朽化が目立つ。
- ・ 外国人労働者への依存などでかなり人手不足。南知多で子育てしてもらい現状(漁師が南知多に住まない、住居を構えない)という問題に対する町の取組みが不十分。第一次産業者が南知多に住んだ際の特典をより拡大すべき。
- ・ 海の状態が日々変化している中、捕獲量が不安定ではないか。漁業就業者も経済的には苦しく、将来の後継者も期待が薄くなるのではないかと不安だ。町をあげて養殖などに力を入れてはどうか。
- ・ 名古屋から車で1時間の距離ということもあり、土日の日帰りドライブ客などは十分多い。問題は平日の宿泊客。飲食店も夜間は閑古鳥の店が多い。ただ美味しいだけではなく、気軽さ、お値打ちさ、お得感などもアピールしなければ、都市の寿司チェーンなどには到底勝てない。
- ・ 現在町内で水産業・農業・観光業に従事している方の割合を知りたい。
- ・ 町内で新鮮な地の魚を販売している場所がもっとあると有難い。
- ・ 内海・山海ばかりきれいになっているイメージがある。(防波堤)
- ・ 一般釣り客がゴミを捨てていく。マナーが悪い。
- ・ ユーチューブなどで南知多町で上がる魚を一匹ずつ詳しく紹介する(食べ方も)など。食材はいいのだから、調理法を都会の人、若者に抵抗なく魚を食べてもらう宣伝を増やすなど。普段から小中学校の給食に地元でとれた魚介を出してほしい。美味しい魚や野菜がある町で何で冷凍ものを食べさせるのか。中国産の野菜をまさか仕入れているのではないのだろうか。

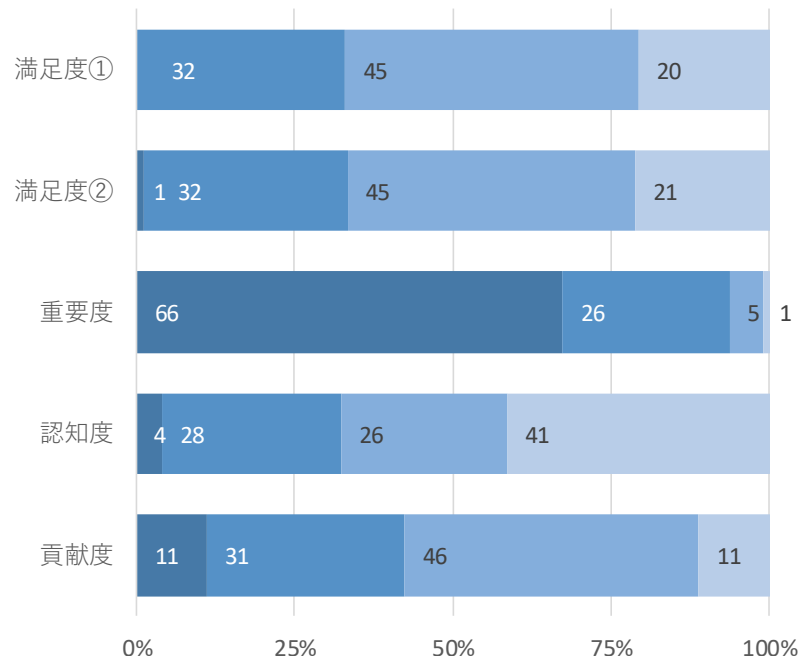
- ・ 魚の採りすぎ、温暖化、環境問題等で漁獲量が減り、漁師は食べていけない方が出てきている。若者も親の漁師の仕事を継いでくれない。漁業者が食べていけるよう十分な補償を願う。魚が減ってきた原因を研究し、町民に啓蒙してほしい。(特に環境問題)
- ・ 山川・森など自然を充実させることが水産業の充実につながると考える。町民会等で守る・整備する運動を進めてほしい。
- ・ 漁業関係者が外国人労働力に頼っている面が多いと思うが、これまで以上に外国人に対する就業の機会を増やすこと。また安心して生活できる環境を作ることが行政として必要であること。昨年の台風被害により、豊浜漁港棧橋等がしばらく封鎖されたが、緊急対応が必要だったのでは。コロナに前後してイワシ等の豊漁が続き、多くの釣り客が押し寄せた。漁港周辺にはゴミが散乱し、釣船客の乗用者からのゴミのポイ捨てなど観光客に対するマナー教育も必要なのではないか。

■抽象的な提案、意見等

- ・ 設備投資、漁業、地元水産物などのSNSなどによる情報発信などこれからの時代には必要不可欠ですね！私はその先の後継者への問題も課題の一つだと考えます。
- ・ 魚を増やすための方策・枠組方策は町単位でも大事ですが、海域・領域で取組むのが大事である。自分が言うのもなんですが大変かと思います。
- ・ 実際SNSは良し悪しはあります。特に20代と10代は。
- ・ SNSを使い情報発信をしているが町民の考えが古く、数十年前のバブル期のことばかりを比較し、前に進んでいない。南知多の良さをもっと町民が理解することが大切。
- ・ 主人は海の仕事をしています。海がきれいであれば魚が採れる。採れば売れてお金がで、買い物をする、というように回り回ってみんなが幸せになれると思う。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-2 豊かな農地と産物活かした農業)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	0 (0%)	32 (33%)	45 (46%)	20 (21%)	97 (100%)	3

基本施策KPI: $(0+32+45) / 97$ (重要度でポジティブな回答をした人) $\times 100 = 79\text{pt}$

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	1 (1%)	32 (32%)	45 (45%)	21 (21%)	99 (100%)	1

基本目標KPI: $(1+32+45) / 99 \times 0.4 \times 100 = 79\text{pt}$

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	66 (67%)	26 (27%)	5 (5%)	1 (1%)	98 (100%)	2

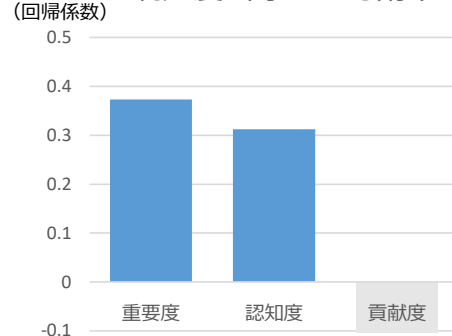
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	4 (4%)	28 (28%)	26 (26%)	41 (41%)	99 (100%)	1

基本目標KPI: $(4+28+26) / 99 \times 0.3 \times 100 = 59\text{pt}$

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	11 (11%)	31 (31%)	46 (46%)	11 (11%)	99 (100%)	1

基本目標KPI: $(11+31+46) / 99 \times 0.3 \times 100 = 89\text{pt}$

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度については「少しは満足」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度満足」となっています。認知度については「知らない」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度知っている」となっています。貢献度については「やってみようと思う」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度はある」となっています。
- ✓ 重要度、認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知りその重要性を理解いただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-2 豊かな農地と産物活かした農業)

■具体的な要望等

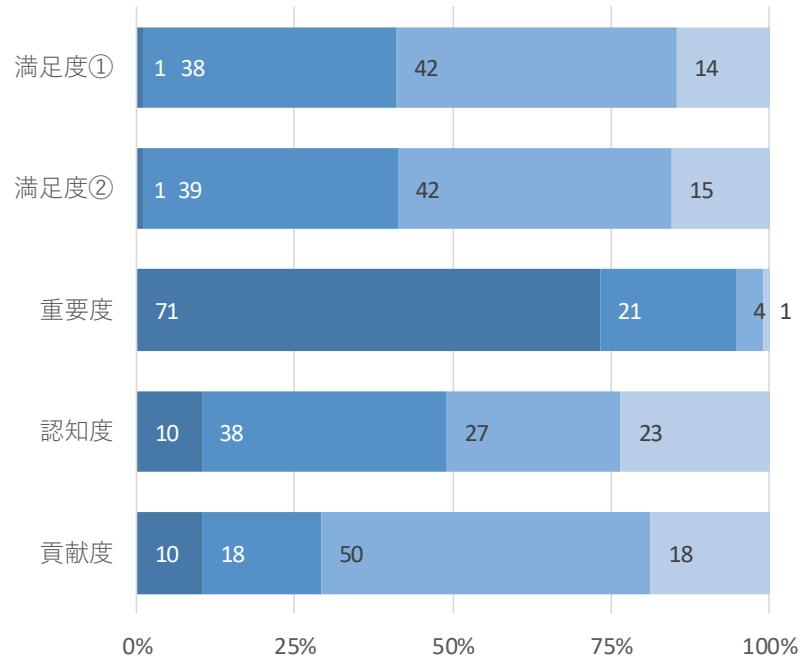
- ・ 休耕地がまだまだ多くみられるため、ふれあい農家の拡大か地産地消を軸とした産直施設の設置を少しでもして欲しい。
- ・ 道路・舗装をしても特に田んぼをされる方が道を汚すため必要無いのでは。
- ・ 有機農業や循環型農業は付加価値があるものの生産性も低く里山や自然の涵養性を啓発するまでの余裕はありません。もったいないです。間に環境系のNPOや団体を入れて主導しないと対外的な「豊かな自然と農業」の発信は難しい。
- ・ 地元の野菜はヤナギの野菜村で買う程度。店舗と農業者をつなぐマッチングの機会があれば行くかも。そもそも今南知多でどんな野菜が作られ、どこに連絡すればそれが入手できるのか知らない。
- ・ パイロットファームは利用されているが、それ以外の農地は耕作放棄地になっていることが問題。農業者の多数は兼業農家・自給農家であり、彼ら及び次世代に住み続けてもらう為の取組みが不十分だ。「南知多の自然に魅かれて移住したい人が兼業農家・週末農業を始められる環境」が作れていない。この先移住者に来てもらおうとしても無理である。例として空家バンクと並行して農地バンクを実施し空き家と一緒に借りる際は、「営農三反以上」の縛りをやめ、自治体が仲介借主になる等の「新規農業希望者特別枠」を作り、小型農機具の買い上げ支援をし、簡単に始められるような応援が必要である。
- ・ これからはマルシェの時代ではなく、参加型イベントを中心に町全体で新しいことに目を向けることが大切だと思います。町の自然を街の人たちに体験、体感して頂くこと。田舎だからできる、ゆったりとした時間を味わってほしい。
- ・ ミーナコーンのような町特産品をJAと協議して生産者に指導。町ブランド化を図る。生産者の安定収入。
- ・ 町で実施している取り組みに関して、どのようにしてその情報は得られるのか。どこを見たら分かるのか。
- ・ 農家のベテラン主婦たちの作る漬物とか煮物はとにかく何でもとても上手でおいしいはずなので、町で採れる野菜を使った料理の動画を作って宣伝するとか。その日に採った野菜を使った給食を毎回出せないものか。
- ・ 農業のことをもっと知ってみたいし、どんな産物があるのか知りたい。
- ・ 南知多の農産物直売店が少なく、美浜の鵜ノ池まで買いに行くことがある。JAでももう少し野菜の種類や量を増やせないか。
- ・ 農業従事者が貴重。従事者への保護・応援をしてほしい。
- ・ 南知多で農業をやりたい、やってみたい人はたくさんいる。(経営ではなく)これから町外の人に田んぼや畑の耕作地を安く提供できる、海も畑もある南知多も宣伝すること。その中から移住者が生まれてくると考える。

■抽象的な提案、意見等

- ・ 漁業と同じく、農業の方も後継者心配はないのでしょうか？
- ・ 一部の農業者のみ経営安定、みんなが平等に。

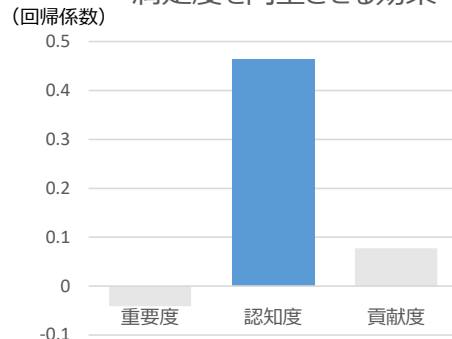
住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-3 新たな魅力や価値を生み出す商工業)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	1 (1%)	38 (40%)	42 (44%)	14 (15%)	95 (100%)	5
基本施策KPI: (1+38+42)/96 (重要度でポジティブな回答をした人) × 100 = 84pt						
満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	1 (1%)	39 (40%)	42 (43%)	15 (15%)	97 (100%)	3
基本目標KPI: (1+39+42)/97 × 0.4 × 100 = 85pt						
重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	71 (73%)	21 (22%)	4 (4%)	1 (1%)	97 (100%)	3
認知度	よく知っている	ある程度知っている	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	10 (10%)	38 (39%)	27 (28%)	23 (23%)	98 (100%)	2
基本目標KPI: (10+38+27)/98 × 0.3 × 100 = 77pt						
貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	10 (10%)	18 (19%)	50 (52%)	18 (19%)	96 (100%)	4
基本目標KPI: (10+18+50)/96 × 0.3 × 100 = 81pt						

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度については「少しは満足」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度満足」となっています。認知度については、「ある程度知っている」と回答した人が最も多く、ついで「知りたいと思う」となっています。貢献度については、「やってみようと思う」と回答した人が半数以上を占めています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-3 新たな魅力や価値を生み出す商工業)

■具体的な要望等

- もっと地域ブランドを広めていける場作りが必要と思う。「ミーナの恵み」という認定品があるのを知らない町民もいるのでは？
- 「南知多」らしさのある商品をまとめて手に入れられる「道の駅」のような場所と様々に取り揃えたネットショップがあれば、旅行者や「地のもの」好きが買いに来ますよ。
- スマホアプリか何かで南知多ニュースが流れるようにしたら良い。
- 地域ブランド自体・浸透していないと思う。時代のトレンドに合わせた話題性のある商品を作ってもらいたい。地元の人たちが就職できるような事業誘致をしてほしい。
- 第6次産業は商工会の者であるという印象がある。本来加工品にせずとも、そのまま売り、そのまま食べてもらえた方が良い。それでも加工品にするメリットは「今の人が食べやすい形にする」ことの為、今の若い人や子供の意見をもっと反映される商品開発が求められる。子供に南知多の食材に慣れ親しんでもらうイベントと抱き合わせにしたり、町民による「親子商品開発料理教室」のような体験教育の開催を商工会主導で実施してほしい。例として、高知県の小学生が日除けで栽培したゴーヤをおいしく食べきるため、様々の料理を考案し「ゴーヤバーグ」が高知県中の学校給食に採用され好きな夏野菜トップ10にゴーヤがランクインした事例など。
- 他都市では道の駅などの運営が盛んだが、南知多はあまり見当たらない。ふるさと納税への取り組みなど具体的な報告を求める。

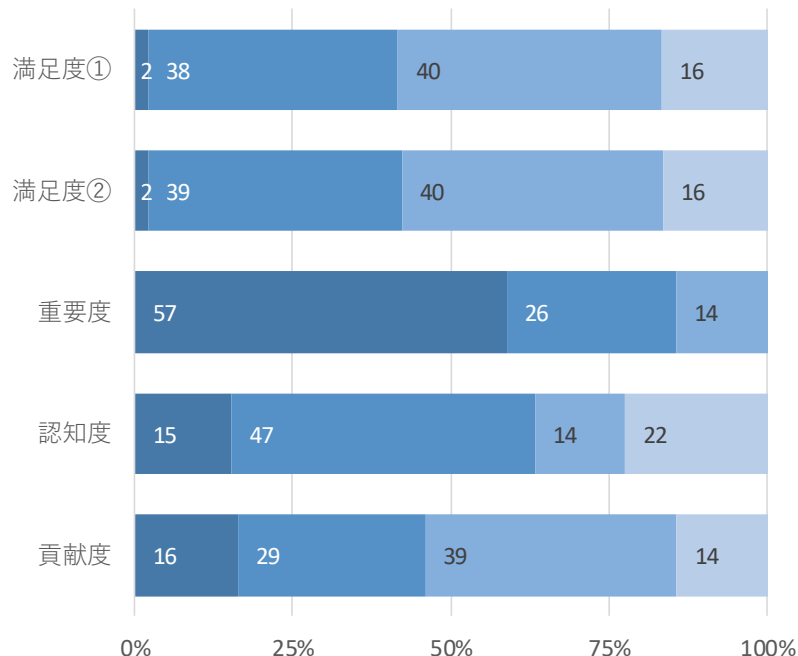
- お店でしこの露を取り扱っているが、町内での扱いが地味すぎるとそのうち消滅してしまうのではないかと危惧している。味は個性的で気に入っているし、しこの露を使ったコースもちょうくよく注文されている。見た目のインパクトが薄いのか。イワシを姿のまま丸々一本入れるとかどうだろうか。ラベルも正直ダサい。今風のデザインにモデルチェンジしてはどうか。
- 商工業は農漁業より個別に自由にSNSを使って世界に宣伝しやすいのではないと思う。今回のコロナによる外国人客だけに頼る商売は不安定であることが改めて周知されたのではないか。地元の人を大事にする商売の在り方を町でもっと促進してほしい。
- 町のおすすめ品の広告が不十分である。ある程度知っていても購入までいっていない。

■抽象的な提案、意見等

- 外部の人は美浜町と南知多町が一緒になっている人が多い。もっと南知多ならではの特化したものがあつたらなと思う。
- 個々で頑張るブランドよりも地域が一つになってブランドを作ることも大切。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-4 何度も訪れたくなる観光・交流)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	2 (2%)	38 (40%)	40 (42%)	16 (17%)	96 (100%)	4

基本施策KPI: $(2+38+40)/97$ (重要度でポジティブな回答をした人) $\times 100 = 82\text{pt}$

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	2 (2%)	39 (40%)	40 (41%)	16 (16%)	97 (100%)	3

基本目標KPI: $(2+39+40)/97 \times 0.4 \times 100 = 84\text{pt}$

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	57 (59%)	26 (27%)	14 (14%)	0 (0%)	97 (100%)	3

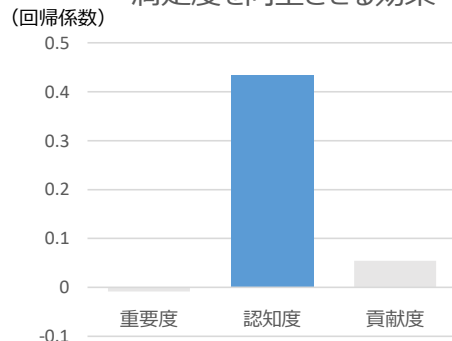
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	15 (15%)	47 (48%)	14 (14%)	22 (22%)	98 (100%)	2

基本目標KPI: $(15+47+14)/98 \times 0.3 \times 100 = 78\text{pt}$

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	16 (16%)	29 (30%)	39 (40%)	14 (14%)	98 (100%)	2

基本目標KPI: $(16+29+39)/98 \times 0.3 \times 100 = 86\text{pt}$

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度については、「少しは満足」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度満足」となっています。認知度については「ある程度知っている」と回答した人が最も多く、「よく知っている」と回答した人と合わせると6割以上の人に認知されています。貢献度については「やってみようと思う」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度はある」となっています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-4 何度も訪れたくなる観光・交流)

■具体的な要望等

- ・ 農業、漁業を活性化させるとともに、観光客を呼び込める施策(農家レストランや道の駅的なもの)を作してほしい。
- ・ 姉妹都市交流が田舎町同士では盛り上がっていきません。人、モノ、情報が交流し発展するためには、この町に無いものを持った所、都市部の「市」とも交流すると良い。持続可能性を高めるために、観光業では現状に満足せず、接客レベルを上げたり、また来なくなる仕組みを作るとリピーターが増える。
- ・ SNSやネットをよく見るが、南知多町の町が実施していることを全く知らないののでアピール不足かなと思う。インスタグラムで南知多町のお店のごはんメニューやテイクアウトを見てもあまり出てこない。(魚ばかり)
- ・ 南知多のHPは前時代的であると思う。今はスマホで調べて観光する時代のため、たとえば福岡県糸島市は博多から車で45分、海と山の幸が目玉で南知多とよく似た観光地であるが、スマホで糸島市のHPを見るととても見やすく観光ページにも目的別で飛べるようになっている。対して南知多のページは文字が多くPDFの張り付けが多く自治体の取り組みサービス等もわかりにくく、スマホから読みにくい。糸島市のようにトップページで目的別に観光情報の見出しがわかるようにし、観光協会の「ふらっと南知多」へ飛べるようにできないか。ただ「ふらっと南知多」も探せば目的別の項目もあるが、分かりづらく内容は細かい文字の一覧の為、地域別の表示等がなく観光中の人ドライブプランを立てるにも不便でありわかりづらい。スマホ用ページの充実がこれからの観光発展には不可欠であり紙の媒体以上に注力してほしい。私が観光して調べたいことは日帰り温泉・海鮮料理もあるが、多目的トイレ・授乳室・おむつ交換台のある場所である。授乳・おむつ替えOKなお店やポイントを呼びかけ増やし、町のHPでMAP案内することで、多様な人に観光で来てもらいたいというアピールもでき町民参加の観光地づくりができると思う。子どもたちの商品開発力を生かせたら大きなムーブメントになると思う。
- ・ 自然環境を活かすというならなぜ風力発電を認可したのか疑問。しかも逃げられて。ソーラー発電も山を削って設置されているところも多いが、言っていることとやっていることが違う。

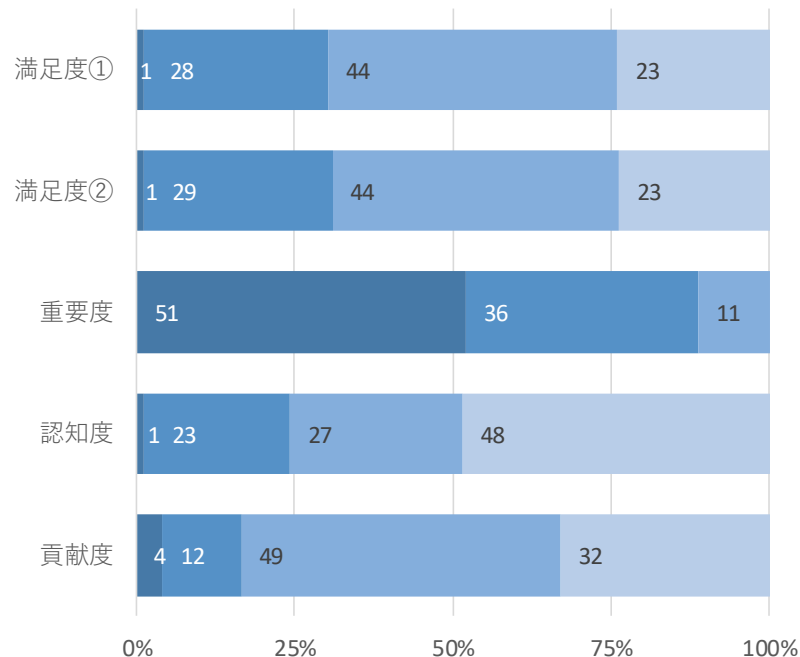
- ・ 来訪者や地元の町民が訪れやすいよう、公共の交通機関の整備が大事である。
- ・ 内海に関していえば、せっかくのロケーションをほとんど活かしきれていない。特に海水浴シーズン以外の内海は素通りする町として認識されてしまっている。秋から冬にかけて空気が澄んだ時の夕日はとても美しいが、知らない人がほとんど。内海のどこに行けば見られるのかを知らない人も多い。何気に内海は展望台がない。(旅館に泊まれば高いところから眺められるが)非常にもったいない。ランドマーク的な意味でも、あってもよいと思う。(利権者がどう言うかは分からないが)
- ・ 他地域の方に南知多は観光地だけど「食」以外の楽しめる場所が少ないと何度か言われたことがある。そのため、宿泊までは至らず日帰り観光が多い気がする。子どもも楽しめる場所・景色や見どころのアピールがもっと必要ではないかと思う。
- ・ 町の自慢できる良さを町民が知らないことが多く、町内で内海・山海・豊浜・師崎・片名・大井が分裂して活動していることがおかしい。
- ・ 南知多には多くの価値ある史跡があるが、放置されたままのものも多く、予算をつけて保存のための対策をとってほしい。
- ・ 南知多には素晴らしい歴史遺産があり、子どもたちの教育資材として活用されていると思うが、現在はあまり活用されていない。町内のみでなく、対外的にもアピールできる場が必要。また郷土史「みなみ」など優れた研究と財産があり、文化面でも他都市に負けない取り組みが必要だと思う。

■抽象的な提案、意見等

- ・ 観光協会に所属しているが、活動内容に疑問を感じる。活動内容を再考する必要があると思います。今の活動に誰も疑問を感じていないことに一番の恐怖を覚えます。
- ・ 個人レベルでSNSなら町の為に動ける。(YouTuberのように。)自分にはないと思った。PRする仕方に対し、ある程度の地域の人が共通認識を持つことが大切である。
- ・ 知名度の高い材料はある。いかに町全体で後押ししていくかだと思う。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-5 新たなチャレンジを創る起業支援)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	1 (1%)	28 (29%)	44 (46%)	23 (24%)	96 (100%)	4

基本施策KPI: $(1+28+44)/98$ (重要度でポジティブな回答をした人) $\times 100 = 74\text{pt}$

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	1 (1%)	29 (30%)	44 (45%)	23 (24%)	97 (100%)	3

基本目標KPI: $(1+29+44)/97 \times 0.4 \times 100 = 76\text{pt}$

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	51 (52%)	36 (37%)	11 (11%)	0 (0%)	98 (100%)	2

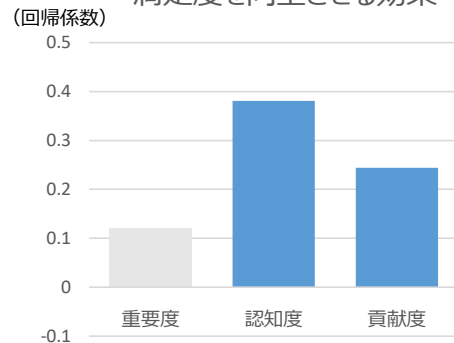
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	1 (1%)	23 (23%)	27 (27%)	48 (48%)	99 (100%)	1

基本目標KPI: $(1+23+27)/99 \times 0.3 \times 100 = 52\text{pt}$

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	4 (4%)	12 (12%)	49 (51%)	32 (33%)	97 (100%)	3

基本目標KPI: $(4+12+49)/97 \times 0.3 \times 100 = 67\text{pt}$

満足度を向上させる効果



- ・ 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- ・ 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- ・ グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度については「少しは満足」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度満足」となっています。認知度については「知らない」と回答した人が最も多く、半数近くの人に認知されていません。貢献度については、「やってみようと思う」と回答した人が最も多く、ついで「やったことがない」となっています。
- ✓ 認知度、貢献度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知り、積極的に参加いただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-5 新たなチャレンジを創る起業支援)

■具体的な要望等

- ・ 新しく農業を始めたい人が農地をすぐに借りられるところがある気がします。
- ・ さらなる発展のためには、個人の起業で留めておくだけでは足りません。それぞれを結び付けて大きなネットワークを作り、消費者が多く先着できる魅力を発信できる仕組みが必要。また、広報にも力を入れて集客を図ると良い。
- ・ 空き家バンクと並行して「農地バンク」も行ってほしい。そして「3反以上」の縛りを緩和し、「週末農業をしたい」という小規模の新規就農希望者へのサービスが行き届くように対象を広げてほしい。
- ・ 起業者の情報を何も知らない。事業内容などのリストがあれば見てみたい。
- ・ 三重県の空き家バンクでは住居とともに仕事のあっせんを行っている市町村があると聞いたことがある。
- ・ 結局他所から来た人がなじめずに失敗した話も耳にしたことがある。安易に他所の人を入れるより、地元で愛着のある人たちを支援してほしい。本当に本気でやっている人は町の助けはいらないだろうけれど。何か訳わからない農業か商売をやるために田舎にあこがれてくる人がいるが、思想が偏っている場合が多いので不安だ。転出する人を減らす、生まれ育った人を残すことに力を入れてほしい。
- ・ クラウドファンディングなる表現は避けるべき。一般の人々の理解度は低い。使用するならその言葉の背景なり必要性なり、解説欄を設けて読む人にしっかり理解してもらうことが必要。町民一般は行政の上から目線の言動には厳しいものがある。

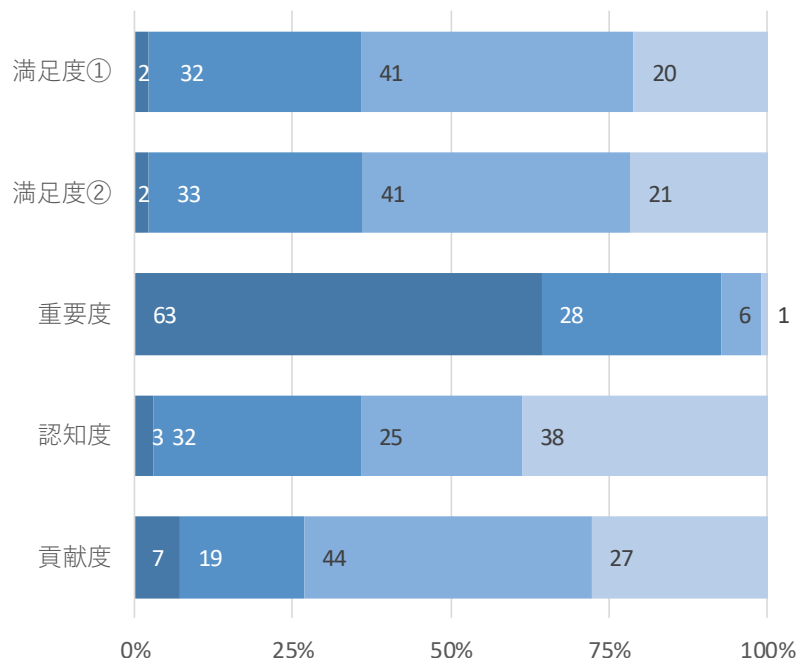
- ・ 町おこしに重要であると思うが、宣伝が今一つ不足しているように思う。起業したいと思い町に相談しても一般的な法律に縛られ(役所はそれしか指導しない)断念することになっている。

■抽象的な提案、意見等

- ・ 地産品のものに付加価値をつけるのは大事なことで個人の努力も重要と認識している。
- ・ 漁業、農業のみ優遇ではなく、町民全体平等になるように。
- ・ 町民の中で町外の移住に協力的じゃない方も多く、新しいことをする人たちの受け入れは整っているのか。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-6 価値ある産業を残す事業承継支援)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	2 (2%)	32 (34%)	41 (43%)	20 (21%)	95 (100%)	5

基本施策KPI: $(2+32+41)/97$ (重要度でポジティブな回答をした人) $\times 100 = 77\text{pt}$

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	2 (2%)	33 (34%)	41 (42%)	21 (22%)	97 (100%)	3

基本目標KPI: $(2+33+41)/97 \times 0.4 \times 100 = 78\text{pt}$

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	63 (64%)	28 (29%)	6 (6%)	1 (1%)	98 (100%)	2

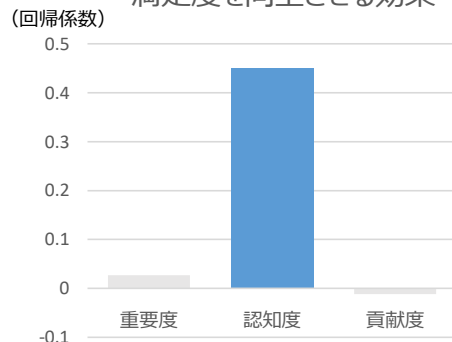
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	3 (3%)	32 (33%)	25 (26%)	38 (39%)	98 (100%)	2

基本目標KPI: $(3+32+25)/98 \times 0.3 \times 100 = 61\text{pt}$

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	7 (7%)	19 (20%)	44 (45%)	27 (28%)	97 (100%)	3

基本目標KPI: $(7+19+44)/97 \times 0.3 \times 100 = 72\text{pt}$

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度については「少しは満足」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度満足」となっています。認知度については「知らない」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度知っている」となっています。貢献度については、「やってみようと思う」と回答した人が最も多く、ついで「やったことがない」となっています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-6 価値ある産業を残す事業承継支援)

■具体的な要望等

- ・ 役場のホームページも地味で見にくい。
- ・ CMやSNS等で発信してはどうか。
- ・ 私がUターンで南知多へ帰ってきた際、住民票を移すため役場へ行ったがとても事務的で対応が冷たく「帰ってきてもらいたくないのか」と感じた。例えばプリント1枚でもよいが「南知多に住んでくださりありがとう、これから南知多を盛り上げていきましょう！何かお困りごとがあればなんでも役場に相談ください」という紙を渡すとか、移住のお祝い品として「南知多にはこんなおいしいものがあります。ようこそ！元気な南知多の魅力を一緒に発信しよう」と焼き海苔とかをプレゼントするとかあれば、「帰ってきてよかった、自分は歓迎されている、南知多の為に自分もがんばろう」と思う。高価なものが欲しいわけではなく、町の姿勢や気持ちが伝わるとよいと思う。
- ・ 商工会青年部に所属しているが、年々部員が減少している。親会である商工会も会員は減少の一途。町内の空き家が空きスペースを町が借り上げ、商売やアトリエの場として町外の希望者に安く提供することはできないだろうか。
- ・ 商工会に加入していますが、人数もどんどん減ってきている。町独自で事業承継支援として税金の優遇対策などがあると魅力的。
- ・ 町の職員から情報発信している人が少ない中、情報は本当に発信できているのか。
- ・ 美味しい魚介と美味しい野菜をもっと宣伝できるように個々の農業漁業従事者の人たちに啓蒙したらどうか。

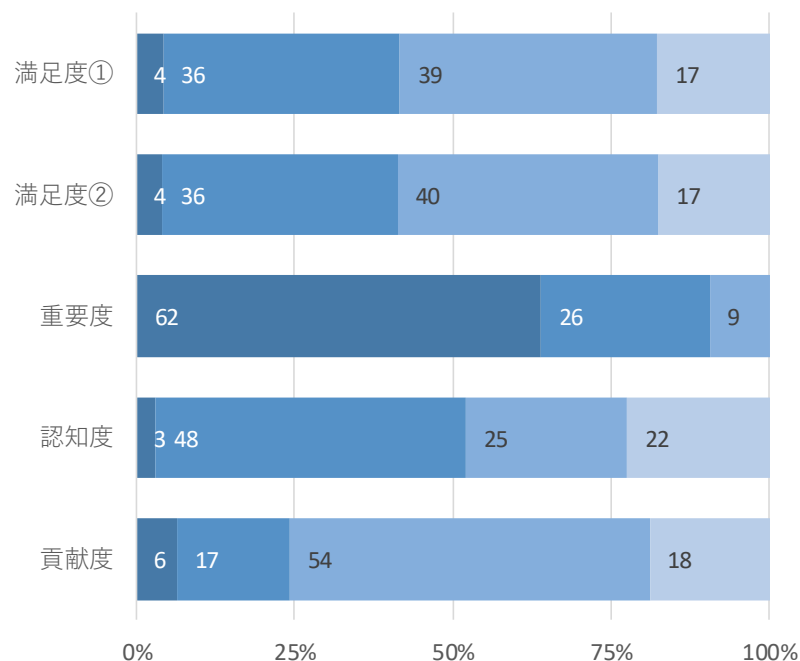
- ・ 起業したいと町へ相談に行った町外からの転入者(移住者)に対し、とても冷たい態度であったと聞いた。町の担当者の親切な対応を望む。

■抽象的な提案、意見等

- ・ 既存の産業事業に入り込めない風潮がある。この地域の強い言葉や特有の物言いも排他的になっている要因。理想と現実の問題、課題を照らして第三者的視点(移住者側)も持ち、コンサルや地域コーディネーターを入れて実現可能性を探るべき。
- ・ 大事なことであるが、立ち位置が遠い。一つ一つの機能が町にとって需要だと思うので頑張してほしい。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-7 働く環境づくり)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	4 (4%)	36 (38%)	39 (41%)	17 (18%)	96 (100%)	4

基本施策KPI : $(4+36+39) / 97$ (重要度でポジティブな回答をした人) $\times 100 = 81\text{pt}$

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	4 (4%)	36 (37%)	40 (41%)	17 (18%)	97 (100%)	3

基本目標KPI : $(4+36+40) / 97 \times 0.4 \times 100 = 82\text{pt}$

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	62 (64%)	26 (27%)	9 (9%)	0 (0%)	97 (100%)	3

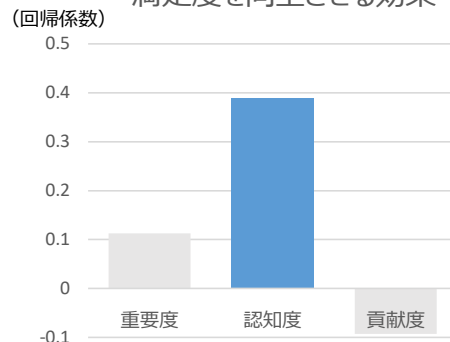
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	3 (3%)	48 (49%)	25 (26%)	22 (22%)	98 (100%)	2

基本目標KPI : $(3+48+25) / 98 \times 0.3 \times 100 = 78\text{pt}$

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	6 (6%)	17 (18%)	54 (57%)	18 (19%)	95 (100%)	5

基本目標KPI : $(6+17+54) / 95 \times 0.3 \times 100 = 81\text{pt}$

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度について「少しは満足」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度満足」となっています。認知度については「ある程度知っている」と回答している人が最も多く、次いで「知りたい」と回答した人が多く、合わせて7割以上となっています。貢献度については、「やってみようと思う」と回答した人が最も多く、半数以上を占めています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策2-7 働く環境づくり)

■具体的な要望等

- ・ 他県より移住し、町内外で様々な仕事をしました。「この町で働きたくない・雇われたくない」と思い起業を考えるも課題が多く、雇われても賃金は低く、旧時代的で横柄という所ばかりでした。根本に近いところの問題なので、いっそのこと「町外で働き町内に住むことで納税を増やす」方が、高効率です。子どもたちの預かり体制を強化し、安心して働けるよう町独自のサポートがあれば移住者は増えます。
- ・ 元気な高齢者が比較的に多いと思われ、シルバー人材センターは貴重な役割を果たすと思う。しかし、需要という面では広く認識してもらうことが課題。
- ・ 「インフラの整備」をもっと具体的に進めてほしい。Wi-Fi完備の町営アパート・マンションなどリモートワークの需要が高まっている今こそチャンスだと思う。
- ・ 質問④(あなたに出来ること)の上に例示されている取り組みに支援が欲しい。(補助金等)
- ・ 保育園児、小学生の下校時の見守りをもっとシルバーさんや老人会を活用して不審者から守る姿勢を見せてほしい。
- ・ 南知多で(移住を始め)暮らしたい若い世代にとっては子育て(保育)と学校は選択基準である。公報では、世帯数・人口ともに減少傾向が抑えられていない。保育園と学校はこれ以上減少させてはならない。

■抽象的な提案、意見等

- ・ もっと多様な人が働くための場づくりや子どもがいる世帯の働きやすい環境づくりを続けていってほしい。
- ・ 何もやれていないが、やらなければならないと思う。
- ・ やってみたいが、そんな時間はありません。
- ・ 町内の人は働き者が多く、素晴らしい町だと感じる。

基本目標③「安心できるまちづくり」分野では以下の結果が得られました

各指標の状況(安心できるまちづくり)	
重要度	➤ 全ての項目において重要度は97pt以上となっています。
認知度	➤ 認知度の全施策平均は78pt、基本目標③の施策平均は86ptとなっています。 ➤ 最も認知度が高かったのは「心と体安らぐ自然・住環境」(92pt)で、最も認知度が低かったのは「資源を活かす土地利用」(77pt)でした。
満足度	➤ 満足度の全施策平均は84pt、基本目標③の施策平均は83ptとなっています。 ➤ 最も満足度が高かったのは、「つながりを活かした防犯」(90pt)で最も満足度が低かったのは「資源を活かす土地利用」(74pt)でした。
貢献度	➤ 貢献度の全施策平均は87pt、基本目標③の施策平均は91ptとなっています。 ➤ 最も貢献度が高かったのは「まちと命を守る防災」(97pt)最も低かったのは「資源を活かす土地利用」(81pt)でした。

モニター調査結果のポイント

- ✓ 他の基本目標の結果と比較すると、満足度を除く二つの指標で平均を上回っています。
- ✓ 一方で、満足度がほかの指標と比べて低くなっており、改善の必要があると考えられます。

参考:職員へのアンケート調査結果との比較

- ✓ 住民と最も乖離が大きかったのは「資源を活かす土地利用」(21pt差)でした。
- ✓ 住民と最も乖離が小さかったのは「つながりを活かした防犯」と「安心な暮らしを支えるインフラ」(9pt差)でした。

基本目標③「安心できるまちづくり」分野（自由記述）のテキストマイニング結果

結果の要約

出現 多 ↑ 出現 少	まちづくり・ポジティブにだけ出現	まちづくり・ポジティブによく出る	両方によく出る	まちづくり・ネガティブによく出る	まちづくり・ネガティブにだけ出現
	活動 青 青 青 青 道路 赤 赤 赤 赤 名鉄 青 青 青 青 定期的 青 青 青 青 補助金 青 青 青 青 使える 赤 赤 赤 赤 いける 青 青 青 青 下げる 赤 赤 赤 赤 しやすい 青 青 青 青 っぽい 青 青 青 青 出やすい 青 青 青 青	必要 青 青 青 バス 青 青 青 感じる 赤 赤 赤	ほしい 青 青 青 町民 青 青 青 バス停 青 青 青 少ない 青 青 青 続ける 青 青 青 安い 青 青 青 住む 青 青 青 もったいない 青 青 青 狭い 青 青 青	多い 青 青 青 生活 青 青 青 考える 赤 赤 赤 悪い 青 青 青 行く 青 青 青 広い 青 青 青 遅い 青 青 青	エビ 青 青 ソーラーパネル 青 青 公園 青 青 青 マナー 青 青 青 勉強 青 青 青 客 青 青 青 状態 青 青 青 減る 赤 赤 赤 恐ろしい 青 青 青 申し訳ない 青 青 青 あたる 赤 赤 赤

マイニング結果の解釈

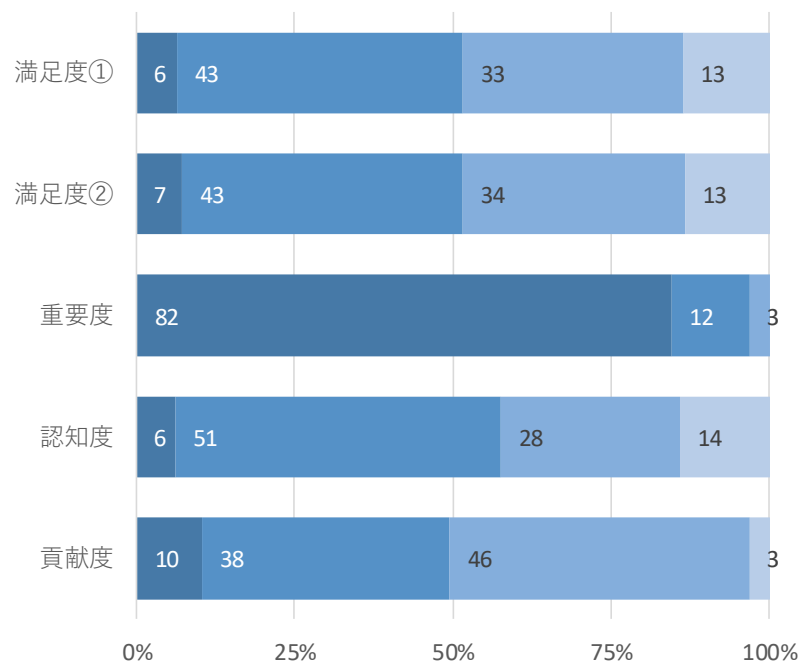
- ✓ ポジティブな回答者は、「バス」や「鉄道」の「利用」しやすさを重視しており、また「ごみ」の「清掃」「活動」など、まちづくり活動への意欲が高いと考えられます。
- ✓ ネガティブな回答者は、「島民」にとって重要な移動手段である「船」が「不便」であることなどが、ネガティブな回答につながっていると考えられます。
- ✓ いずれの回答者も、「空き家」の「危険性」を問題視していることが伺えます。

参考：分析方法及び結果の見方

- ・ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析
- ・青字：名詞、赤字：動詞、緑字：形容詞、灰字：その他
- ・ネガティブ：アンケートで選択肢「4」の回答が平均よりも多い回答者の記述。ポジティブはその逆。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-1 まちと命を守る防災)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	6 (6%)	43 (45%)	33 (35%)	13 (14%)	95 (100%)	5

基本施策KPI: $(6+43+33)/97$ (重要度でポジティブな回答をした人) $\times 100 = 85\text{pt}$

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	7 (7%)	43 (44%)	34 (35%)	13 (13%)	97 (100%)	3

基本目標KPI: $(7+43+34)/97 \times 0.4 \times 100 = 87\text{pt}$

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	82 (85%)	12 (12%)	3 (3%)	0 (0%)	97 (100%)	0

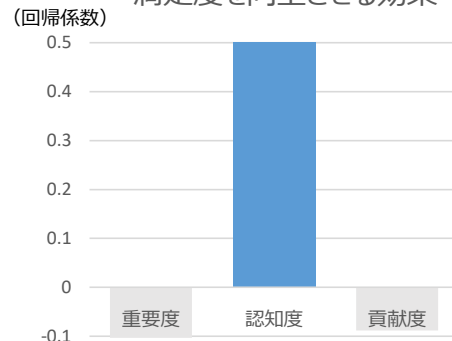
認知度	よく知っている	ある程度知っている	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	6 (6%)	51 (52%)	28 (28%)	14 (14%)	99 (100%)	0

基本目標KPI: $(6+51+28)/99 \times 0.3 \times 100 = 86\text{pt}$

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	10 (10%)	38 (39%)	46 (47%)	3 (3%)	97 (100%)	0

基本目標KPI: $(10+38+46)/97 \times 0.3 \times 100 = 97\text{pt}$

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度について「ある程度満足」と回答した人が最も多く、ついで「少しは満足」となっています。認知度については「ある程度知っている」と回答した人が最も多く、半数以上を占めています。貢献度については「やってみようと思う」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度はある」となっています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-1 まちと命を守る防災)

■具体的な要望等

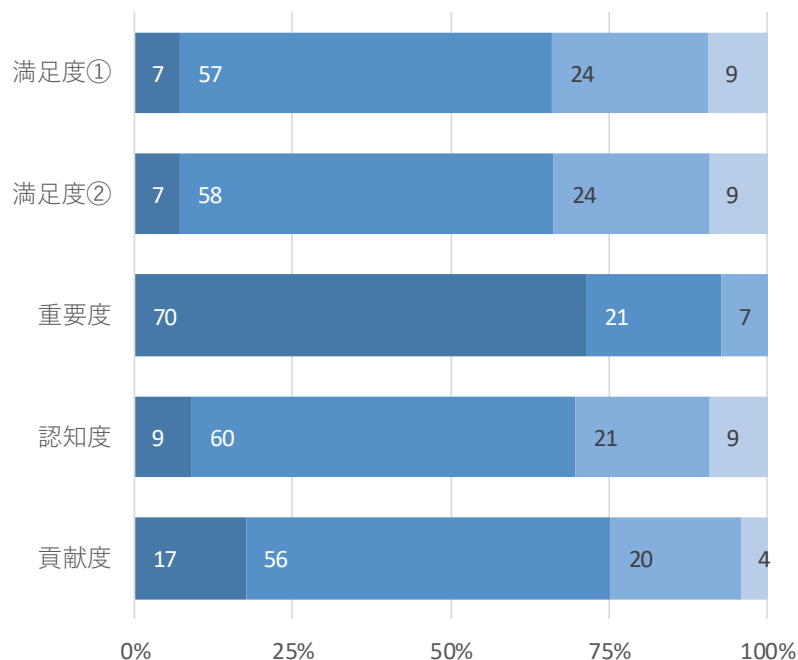
- 消防法の改正によって今まで通りの営業ができなくなった観光業者のひともいるため、支援が必要である。
- 東日本大震災の発生後、宮城県気仙沼市一帯へ災害対策の勉強に行き、想像を絶する被害であったことを学んだ。南海トラフの大地震が発生した場合、気仙沼市のような壊滅状態に南知多町もなるのであろうかと考えると恐ろしい気持ちになる。町民の防災意識の向上の為の施策、ハザードマップの強化、事前復興、避難所の整備と発電機の設置などを今後もぜひ推進し、安心して住み続けられる街にしてほしい。
- 町民の人達がもう少し消防団活動について知ることができる場づくりと防災意識を高められる活動がほしい。災害時に弱そうな道や建物が多く見受けられるため、早急に対策が必要。
- 勤務中に発災したら子どもを迎えにいけないので不安。師崎(低地)から内海までどう行けば良いのか。車で町民グラウンドへ逃げたいが、やはり車が流されても身一つが良いのか…。
- 住民に、町の取組みが伝わっていない。地震や津波の際の対処をもっと直接知らせるべき(特に高齢者に)
- 各地域・地区ごとに、避難・防災訓練を何度も行い、いざ発災したときにパニックにならないよう、落ち着いて行動できるよう頃から意識を高める必要がある。
- 内海トラフへの町としての対応について、漠然としているように感じる。(町民への説明など)
- 大地震に備え、津波から逃れるための道が雑草等で覆われていて道も狭く不安。
- 備蓄をしっかりとしないといけないと思う。
- 消防団を最縮小化して、所員を増加する。経費削減。火の用心の中止(睡眠、勉強、子育ての妨害)。
- 防災センターが災害の時や災害(防災)のためにしか使えない。判断のハードルが高い。もっと慣れた場所になるよう、どうしたら利用のハードルが下げられるのか、頭を使ってほしい。生死に関わる時に使える保険みたいな建物のために税金を使っているのか？他市町のように多目的に使えるにはどうしたらよいか。国に相談してほしい。
- 町内で保存食が商店のどこにでもあれば良いと思う。町内で買うなら消費税は無しなど。
- 師崎は老人福祉センターを避難所として訓練してきたが、年に一度の活用ではもったいない。日常的に活動できる場として利用できないか。
- 防災は最大の弱点となっている。例えば高浜谷などは、かるも保育園が避難所に指定されているが、いざという時には水路が並行してあり、毎日保育園に通う道は渋滞で動けない。住民に進まない状況を説明すべき。今進めている防災センターは日常的に住民が集まり活用できるように利用を検討する必要がある。

■抽象的な提案、意見等

- 島なので、どこまで対応して島民の事を考え取り組んでいただけたかが、災害などには重要ではないかと思う。
- 南知多の防災について家族と話をしたこともなかった。津波が来たら終わりだと思っていた。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-2 つながりを活かした防犯)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	7 (7%)	57 (59%)	24 (25%)	9 (9%)	97 (100%)	3

基本施策KPI: $(7+57+24)/98$ (重要度でポジティブな回答をした人) $\times 100 = 90\text{pt}$

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	7 (7%)	58 (59%)	24 (24%)	9 (9%)	98 (100%)	0

基本目標KPI: $(7+58+24)/98 \times 0.4 \times 100 = 91\text{pt}$

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	70 (71%)	21 (21%)	7 (7%)	0 (0%)	98 (100%)	0

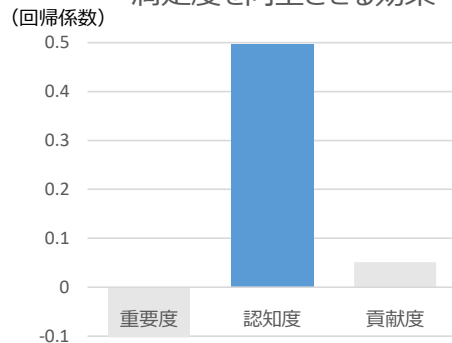
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	9 (9%)	60 (61%)	21 (21%)	9 (9%)	99 (100%)	0

基本目標KPI: $(9+60+21)/99 \times 0.3 \times 100 = 91\text{pt}$

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	17 (18%)	56 (58%)	20 (21%)	4 (4%)	97 (100%)	0

基本目標KPI: $(17+56+20)/97 \times 0.3 \times 100 = 96\text{pt}$

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度について「ある程度満足」と回答した人が最も多く、ついで「少しは満足」となっています。認知度については「ある程度知っている」と回答した人が最も多く、約6割を占めています。貢献度については「ある程度はある」と回答した人が最も多く、約6割を占めています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-2 つながりを活かした防犯)

■具体的な要望等

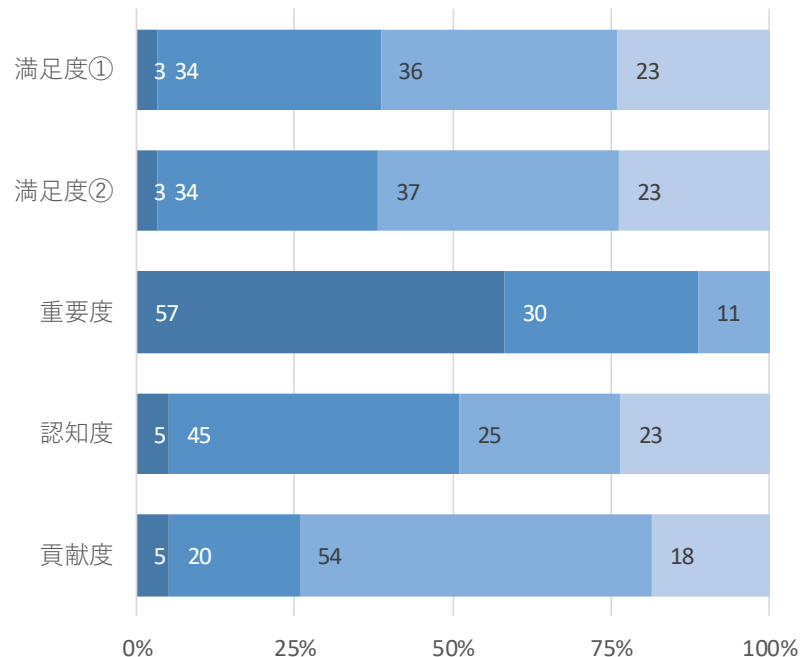
- ・ 通学路で見づらい場所が多く危険な道が多い。カーブミラーの設置か歩道を広くするなどの対策がほしい。
- ・ 高齢者のドライバーが多すぎる。狭い道でスピード出す人が多い。飲酒運転が減っていない。1年生ぐらいの子も自転車で走りまわっており、飛び出しが多い。子どもを外で遊ばせるのが心配。
- ・ 飲酒運転の人が多い。タクシーが無いから？宅飲みが多いから？警察署が無いからなのか？
- ・ 島民は島民の生活・交通・安全などルールはありますが、最近観光客も増えてマナーが悪い。若い子はSNSもあるが、島民には島民の生活があるため守っていただいて色々迷惑をかけないようにしていただきたいです。
- ・ ここ数か月の間、南知多町内で幼い子どもへの声掛けや付け回し、連れ去りの未遂事件の報告を見ました。私も幼い子供を持つ母として心配でなりません。幼い子供への防犯に力をもっと入れてほしいと思います。
- ・ 何もしていない人は子どもたちの登下校の時間に外に出て声掛けをしてほしい。防犯になる。
- ・ シルバーセンターの人や老人会の人たちを活かして、特に夕方の交通安全を見守ってほしい。
- ・ 飲酒運転の防止、定期的な取り締まりと啓発活動を進める必要性を感じる。

■抽象的な提案、意見等

- ・ 自分の意識が低いと思うので、気を付ける。
- ・ ご近所づきあいは自慢できるレベルなので安心。結婚して他町へ出て、南知多のご近所づきあいが素晴らしいと感じた。子どもを育てるにも安心できる町。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-3 資源を活かす土地利用)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計（人・％）	未回答
	3 (3%)	34 (35%)	36 (38%)	23 (24%)	96 (100%)	4

基本施策KPI：(3+34+36)/98(重要度でポジティブな回答をした人)×100= 74pt

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計（人・％）	未回答
	3 (3%)	34 (35%)	37 (38%)	23 (24%)	97 (100%)	0

基本目標KPI：(3+34+37)/97×0.4×100= 76pt

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計（人）	未回答
	57 (58%)	30 (31%)	11 (11%)	0 (0%)	98 (100%)	0

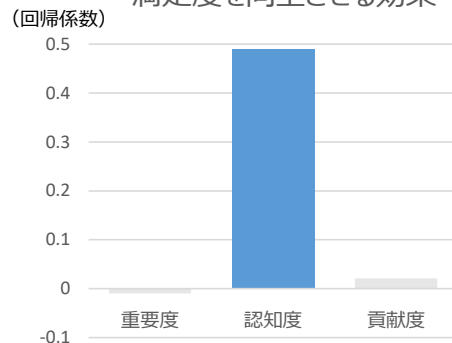
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計（人・％）	未回答
	5 (5%)	45 (46%)	25 (26%)	23 (23%)	98 (100%)	0

基本目標KPI：(5+45+25)/98×0.3×100= 77pt

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計（人・％）	未回答
	5 (5%)	20 (21%)	54 (56%)	18 (19%)	97 (100%)	0

基本目標KPI：(5+20+54)/97×0.3×100= 81pt

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない（P値<0.1）。

- ✓ 満足度について「少しは満足」と回答した人が最も多く、ついで「ある程度満足」となっています。認知度については「ある程度知っている」と回答した人が最も多くなっています。貢献度については「やってみようと思う」と回答した人が最も多く、半数以上を占めています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-3 資源を活かす土地利用)

■具体的な要望等

- 危険な空き家が減っている気がしない。危険な空き家以外でも、非常に邪魔な空き家もどうかしてほしい。
- 町民が空き家バンクを知らなかったり、空き家、空き地をそのままにしているので景観も悪く、欲しい人がいるのにもったいない。
- 壊れそうな空き家が多いので、取り壊してほしい。
- 空き家対策はとても重要であり、個人レベルでできることがあれば教えてほしい。
- やはり高齢者も多いため、(亡くなって使用していない場合)空き家などは解体していただきたい。放置だと衛生面的に悪いため。
- 河和台や美浜緑苑のように、山や丘を開発し、住宅分譲地を作る。「コロナのでいていない」安全な街をアピールする。
- 危険な空き家はできるだけ早く解体・撤去すべきと思う。子どもたちの通学路で崩れかけているブロック塀がありとても危険。
- 増え続ける耕作放棄地の問題への取組みが不十分だと思う。小規模農家や週末農業をしようとする新規移住者と、小さな農地のマッチングが必要だ。空き家バンクも並行してリフォームへの助成金や、農地バンクとの抱き合わせで提案できるワンストップ窓口が必要だと思う。
- 空き家バンクで、下見に来られたりしてどれだけの家が契約成立をしているのか知りたい。(実際にその物件に住み始めてどうなのかなども)
- ソーラーパネルを設置させているのに、豊かな自然環境をうたわないでほしい。

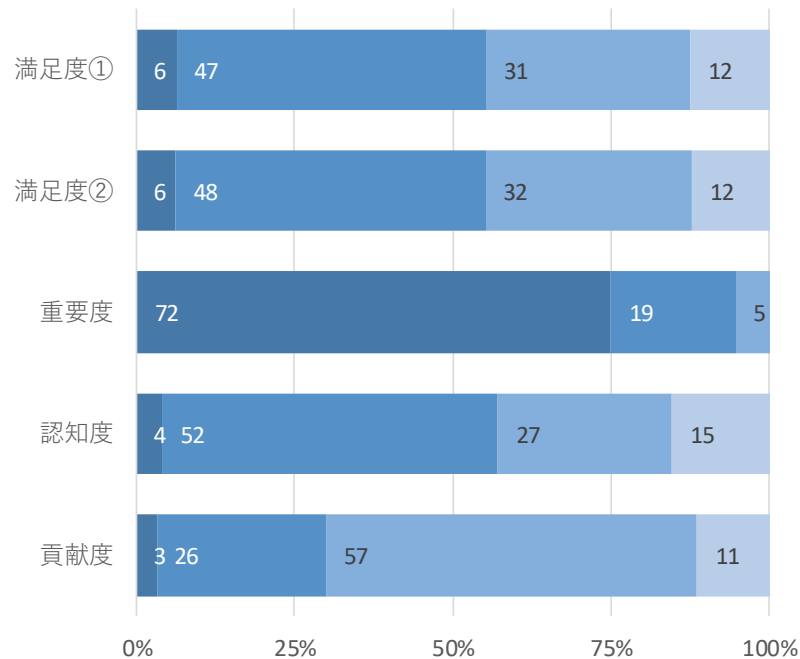
- 空家リフォームの際には、都市景観を守るためある程度の指導を業者側にすべきだと思う。(町が都市景観について統一した見解を持ち、業者などへも周知させる)
- 劣化が激しく、大修繕をしなければ住めない空き家の所有者の中には、解体の補助金がもらえるまで故意に放置する方もいると聞く。補助金の制度見直しが必要かと思う。
- 時間がかかるが、空き家の将来像を所有者に確認、アドバイスしてほしい。地域で空き家を活用するモデルなど作成または応援してほしい。
- 空き家ばかり目立つが、いざ借りようと思うとなかなか見つからない。ネットに紹介されている空き家の数も少なく、人に紹介できない。
- 空き家の持ち主になぜ空き家なのかと実態調査・その理由・結果の公表。

■抽象的な提案、意見等

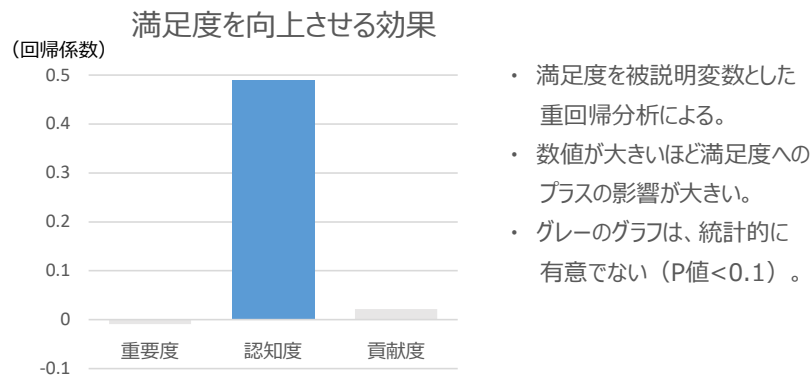
- 家主不在の空き家から白アリ被害がある。
- 今後高齢化の進行に伴い空き家問題はさらに深刻になると思う。自宅近くの空き家のレンガが台風の際に飛び、車に当たりそうになった。代理執行での処分費用で税金が脅かされたり、空き家が所有者不明・相続放棄当になる前に何かできることはないか、町民一体となって考えていきたい。
- 空き家が多く、もっと多くの人に移住してほしい。家もだけど畑も利用してほしい。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-4 安心な暮らしを支えるインフラ)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	6 (6%)	47 (49%)	31 (32%)	12 (13%)	96 (100%)	4
基本施策KPI: (6+47+31) / 96 (重要度でポジティブな回答をした人) × 100 = 88pt						
満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	6 (6%)	48 (49%)	32 (33%)	12 (12%)	98 (100%)	0
基本目標KPI: (6+48+32) / 98 × 0.4 × 100 = 88pt						
重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	72 (75%)	19 (20%)	5 (5%)	0 (0%)	96 (100%)	0
認知度	よく知っている	ある程度知ってい	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	4 (4%)	52 (53%)	27 (28%)	15 (15%)	98 (100%)	0
基本目標KPI: (4+52+27) / 98 × 0.3 × 100 = 85pt						
貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	3 (3%)	26 (27%)	57 (59%)	11 (11%)	97 (100%)	0
基本目標KPI: (3+26+57) / 97 × 0.3 × 100 = 89pt						



- ✓ 満足度について「ある程度満足」と回答した人が最も多く、ついで「少しは満足」となっています。認知度については「ある程度知っている」と回答した人が最も多く、半数以上を占めています。貢献度については「やってみようと思う」と回答した人が最も多く、約6割を占めています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-4 安心な暮らしを支えるインフラ)

■具体的な要望等

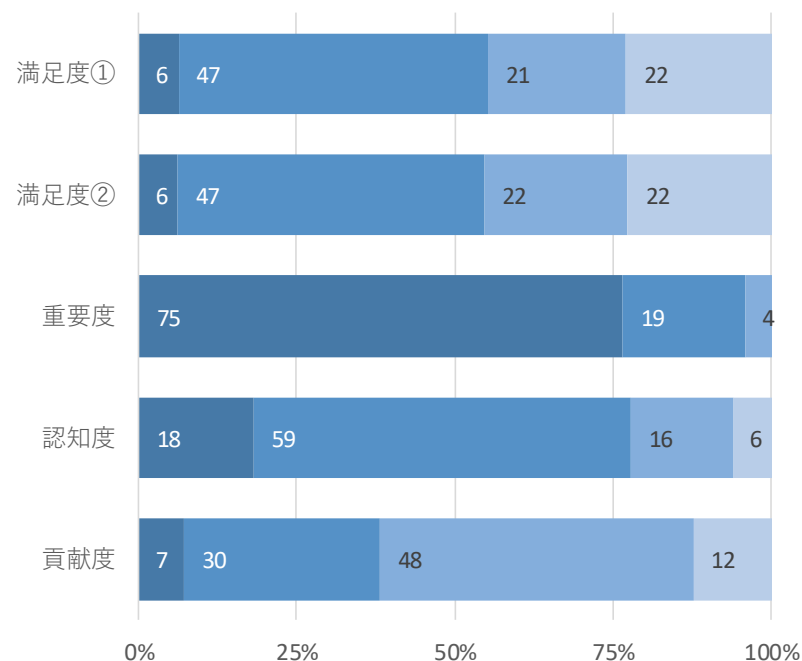
- 南知多は停電が多く、復旧が遅いと思った。
- 道路沿いの歩道が狭く危険なところがあり、車道に出る際ミラーがあっても見にくい場所があり、飛び出し(歩行者・自転車)で事故になりそうな場所がある。
- 道路などのインフラ整備の際には、デザイン性も重視してほしい。観光客が「おっ」と目を引くような。
- 電車は必要。
- 町が実施していないのであれば申し訳ないが、片名にある車エビの設置場所は間違っていると思う。通行する車も少ないし、エビがもったいない。エビを前面に出してエビの町を宣伝するならばバス停をエビにすればいいと思う。現にバス停をフルーツにしてインスタ映えしているところがある(長崎県諫早市)。知多には7つのエビがあるという賛歌がある。いろいろエビのモニュメントがあればいい。
- 田舎暮らしを進めているものにとっては公共料金の引き上げは厳しいものがある。日常に重要な取り組みなので頑張ってほしい。
- 道路の白線が消えかかっていたら通報しようと思う。
- 何度も答えていますが、生活するのには不便な住まいです。橋や船など利用料金も安くなり24時間あるのが理想です。
- 道路沿い樹木の剪定には努力されていると感じる。

■抽象的な提案、意見等

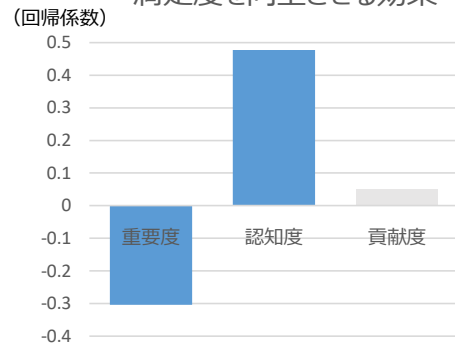
- 内海の砂時計の町みたいな案内板は観光地っぽくて目を引くしかわいい。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-5 暮らしを支える地域公共交通)



満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

49

満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	6 (6%)	47 (49%)	21 (22%)	22 (23%)	96 (100%)	4
基本施策KPI: (6+47+21) / 98 (重要度でポジティブな回答をした人) × 100 =						76pt
満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	6 (6%)	47 (48%)	22 (23%)	22 (23%)	97 (100%)	0
基本目標KPI: (6+47+22) / 97 × 0.4 × 100 =						77pt
重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	75 (77%)	19 (19%)	4 (4%)	0 (0%)	98 (100%)	0
認知度	よく知っている	ある程度知っている	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	18 (18%)	59 (60%)	16 (16%)	6 (6%)	99 (100%)	0
基本目標KPI: (18+59+16) / 99 × 0.3 × 100 =						94pt
貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみたいと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	7 (7%)	30 (31%)	48 (49%)	12 (12%)	97 (100%)	0
基本目標KPI: (7+30+48) / 97 × 0.3 × 100 =						88pt

- ✓ 満足度について「ある程度満足」と回答した人が最も多く、ついで「満足していない」となっています。認知度については「ある程度知っている」と回答した人が最も多く、約6割を占めています。貢献度については「やってみたいと思う」と回答した人が最も多く、約半数を占めています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。
- ✓ 一方で、重要度が高いほど満足度が低くなっており、施策が重要な方ほど満足できていない実態が伺えます。次項の自由記述では重要度が高く満足度が低い回答者によるものが多いことから、こうした意見を踏まえた改善が有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-5 暮らしを支える地域公共交通)

■具体的な要望等

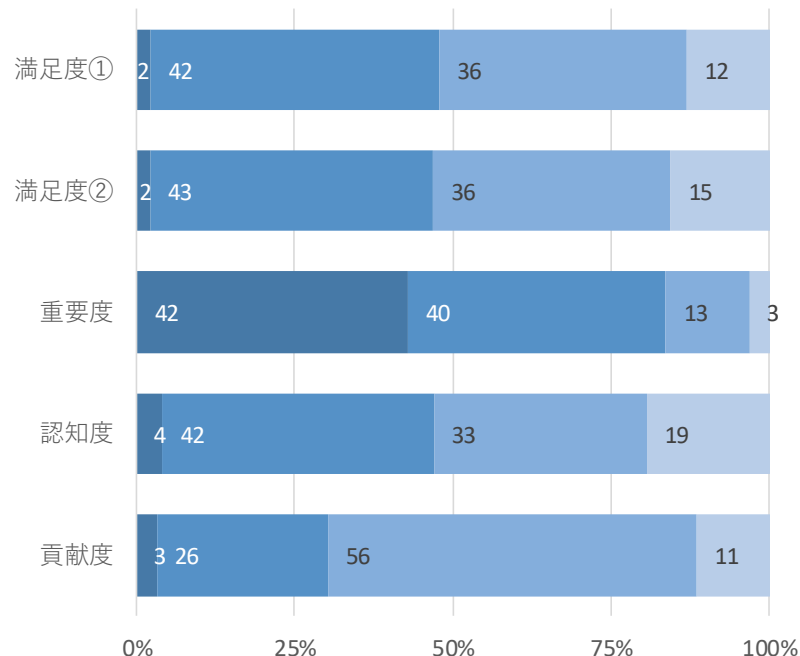
- ・ 観光船は島民にとっては必要な移動手段なので、もう少し安く。
- ・ 定期船の交通費が高すぎるので安くしてほしい(補助)
- ・ 子育てサポートバス、タクシーがあったら良い。町内も大事だが、外に働きに出やすいように南知多道路(高速道路)を町民が使い放題とか専用通勤定期などがあると、町外へ引っ越さずここに残ります。
- ・ 半田の高校へ通うのに、バスの時間がないから朝練・朝学に参加できないと聞いた。ここで子育てするのを不安に思うし、他の人が思わないような子が少なすぎる。クラス替えが無いなど、人が考えなくても良いものが悩みになっていて悲しい。
- ・ 前のページ同様、船の料金が安い。時間に追われて不便。師崎の立体駐車場も観光客も増えれば渋滞にもなり船に乗りたいのに乗れない状態。島民にとって船は生活航路ですからとても大事です。島民にあんなに運賃頂いて、陸の方は何か同様なことはありますか？
- ・ 学生や高齢者が利用しやすくするため、住宅密集地にバス停を増やす。理想は師崎地区まで鉄道開通してほしい。
- ・ 船は両島民の生活路なので、料金をもう少し下げてほしい。高校生の船代も、国からの補助金内でまかなえるくらいまでにしてほしい。便数も少ない乗客数の時間帯の部分を夜の方に回し、終便をもう少し遅い時間にならないか。(前回試験的に実施したのは効果なしだったのか)
- ・ 電車がいないと発展の見込みなし。
- ・ 内海駅にエレベーターを設置してほしい！(もしくはエスカレーター)高齢化社会には不可欠。
- ・ バスはなかなか乗らない。本数が少ない。
- ・ バス停の見直しが必要と感じている。40年も前と同じところにバス停があってもいいのだろうか。観光施設を利用しやすくしたり、公共施設に重点を置かなくていいのだろうか。観光の町のはずなのに。
- ・ 電車の料金は安くないのか。乗客が少ない。そうしたら観光客も電車に乗る バスを使うだろう。住民だけでバス利用を増やすのは難しいと思う。(鉄道×バス割引切符など)
- ・ 島の人だけが船の助成があるより全町民に助成があれば、豊浜、師崎地区の住民も島に今より気軽に行けるのでは。コミュニティバスを便数増やすか、個性的な車にするのはどうか。トゥクトゥクのようなオープンカー(観光用)など。
- ・ 高齢化する南知多にとって交通手段は死活問題。バス停のイス設置、バスや電車との接続を望む。
- ・ 個人としては自転車とバスしか手段がない。バスと電車の接続を利便よくすること。内海駅はエレベーター設置(緊急)、島への交通費補助の増設、通学・通勤で島の住民の生活を保障する。

■抽象的な提案、意見等

- ・ ちょっとしたことを見つけて実行しようと思う。
- ・ うみっこバスの回数券を購入し、活用している。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-6 多様性を認め、共に支え合うコミュニティ)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	2 (2%)	42 (46%)	36 (39%)	12 (13%)	92 (100%)	8

基本施策KPI: $(2+42+36)/95$ (重要度でポジティブな回答をした人) $\times 100 = 84\text{pt}$

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	2 (2%)	43 (45%)	36 (38%)	15 (16%)	96 (100%)	0

基本目標KPI: $(2+43+36)/96 \times 0.4 \times 100 = 84\text{pt}$

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	42 (43%)	40 (41%)	13 (13%)	3 (3%)	98 (100%)	0

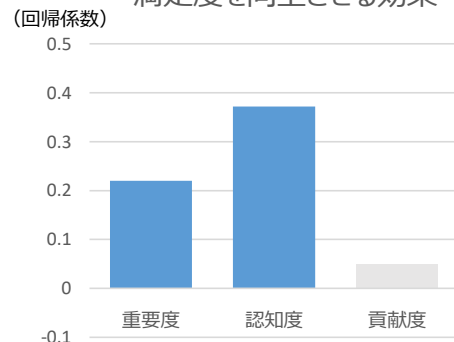
認知度	よく知っている	ある程度知っている	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	4 (4%)	42 (43%)	33 (34%)	19 (19%)	98 (100%)	0

基本目標KPI: $(4+42+33)/98 \times 0.3 \times 100 = 81\text{pt}$

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	3 (3%)	26 (27%)	56 (58%)	11 (11%)	96 (100%)	0

基本目標KPI: $(3+26+56)/96 \times 0.3 \times 100 = 89\text{pt}$

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度について「ある程度満足」と回答した人が最も多く、ついで「少しは満足」となっています。認知度については「ある程度知っている」と回答した人が最も多くついで「知りたいと思う」となっています。貢献度については「やってみようと思う」と回答した人が最も多く、6割近くを占めています。
- ✓ 重要度、認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知りその重要性を理解いただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-6 多様性を認め、共に支え合うコミュニティ)

■具体的な要望等

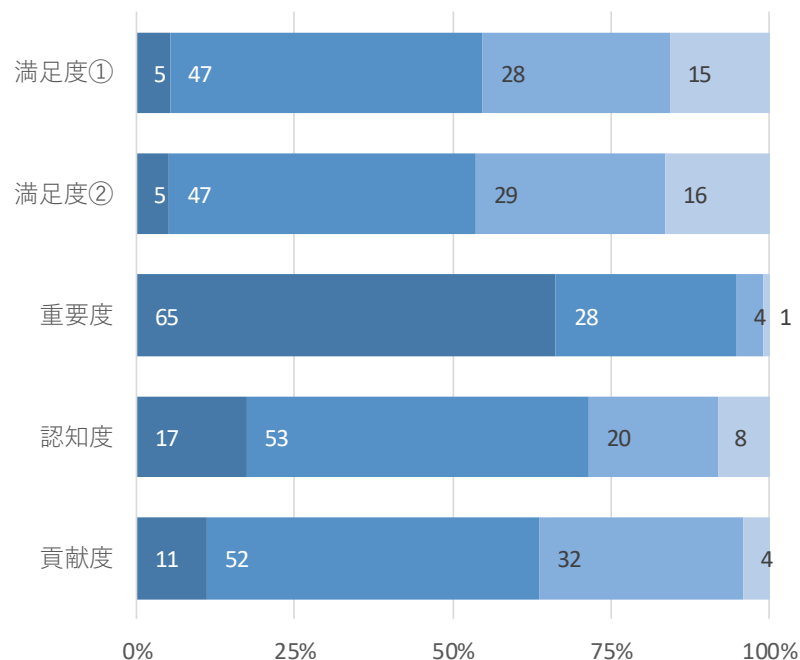
- ・ 移住ではなく、南知多で働く場所づくりを手助けをしている。南知多をもっともっと多くの人に知ってほしい。知多半島の中でも観光地であり自然を楽しむ町。
- ・ 町づくり協議会の補助はいいと思う。男女共同参画で男女の意見をまとめようとする姿勢がまだ区にない。ただ、共同参画でイデオロギーに利用されることはやめてほしい。あくまで男女の意見を言う、合わせるための言葉であってほしい。
- ・ 男女共同だけでなく、ジェンダーや平等意識が持てるよう、町として進めてほしい。
- ・ 議会運営の改善。移住してきて不思議に思う。この町は民主主義が欠けていると思う。

■抽象的な提案、意見等

- ・ 移住者だけど受け入れてもらえています！
- ・ 町の為と言われたらそうではないが、裏山の整備に興味がある。
- ・ 移住者交流会をやりたいと考えている。
- ・ 老人が多い。手助けの必要な人が沢山いると思う。

住民意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-7 心と体安らぐ自然・住環境)



満足度①	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	5 (5%)	47 (49%)	28 (29%)	15 (16%)	95 (100%)	5

基本施策KPI: $(5+47+28) / 97 \times 100 = 82\text{pt}$

満足度②	とても満足	ある程度満足	少しは満足	満足していない	合計 (人・%)	未回答
	5 (5%)	47 (48%)	29 (30%)	16 (16%)	97 (100%)	0

基本目標KPI: $(5+47+29) / 97 \times 0.4 \times 100 = 84\text{pt}$

重要度	とても重要	ある程度重要	少しは重要	重要でない	合計 (人)	未回答
	65 (66%)	28 (29%)	4 (4%)	1 (1%)	98 (100%)	0

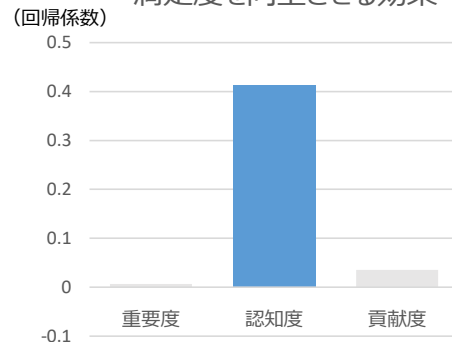
認知度	よく知っている	ある程度知っている	知りたいと思う	知らない	合計 (人・%)	未回答
	17 (17%)	53 (54%)	20 (20%)	8 (8%)	98 (100%)	0

基本目標KPI: $(17+53+20) / 98 \times 0.3 \times 100 = 92\text{pt}$

貢献度	大いにある	ある程度はある	やってみようと思う	やったことがない	合計 (人・%)	未回答
	11 (11%)	52 (53%)	32 (32%)	4 (4%)	99 (100%)	0

基本目標KPI: $(11+52+32) / 99 \times 0.3 \times 100 = 96\text{pt}$

満足度を向上させる効果



- 満足度を被説明変数とした重回帰分析による。
- 数値が大きいほど満足度へのプラスの影響が大きい。
- グレーのグラフは、統計的に有意でない (P値<0.1)。

- ✓ 満足度について「ある程度満足」と回答した人が最も多く、ついで「少しは満足」となっています。認知度については「ある程度知っている」と回答した人が最も多く、半数以上を占めています。貢献度については「ある程度はある」と回答した人が最も多く、半数以上を占めています。
- ✓ 認知度が高いほど満足度が高い傾向があります。今後、満足度を高めるには、施策を知っていただくことが有効と考えられます。

住民意識調査の各施策における回答結果(自由記述)は以下の通りとなっています

住民意識調査の回答結果(施策3-7 心と体安らぐ自然・住環境)

■具体的な要望等

- 公園数の少なさと、整備具合に不便さを感じる。町内では荒れている公園をよく見かけ、代わりに近隣市町の運動公園で南知多町の住民と会うことが多数ある。きれいで広い公園が増え、運動公園に広場やジョギングコースが整備されるともっと町民が運動・交流できるような場所が増えると嬉しく思う。
- 町民や観光客が参加できる清掃イベントみたいなものを開催してもいいかも。
- 釣り客のゴミが多く、釣り客からのお金を取ってほしい。マナーが守られておらず、海にも平気でゴミを捨てる。地元の人が気を付けていても、他所から来た人が守ってくれないと困る。
- とても細かく、細分化分別を。仙台市に住んでいた時は、容器包装など様々に分別することで啓発になっていた。
- 特に人の集まるところ(観光スポット)周辺は、古くさびれた空家は撤去してほしい。観光客や移住する人は整備された街並みに好感を持つ。
- 地区の一斉清掃活動の回数を増やした方が良い。家庭ゴミ有料化によって、不法投棄が増えてしまうのではないかなと思う。一人一人がゴミを減らす意識を高める必要がある。
- リサイクルと言いながらしていないものは分別しなくてよい。分別など町民の手間を減らす。
- 環境美化を言うならソーラーパネルはいらない。

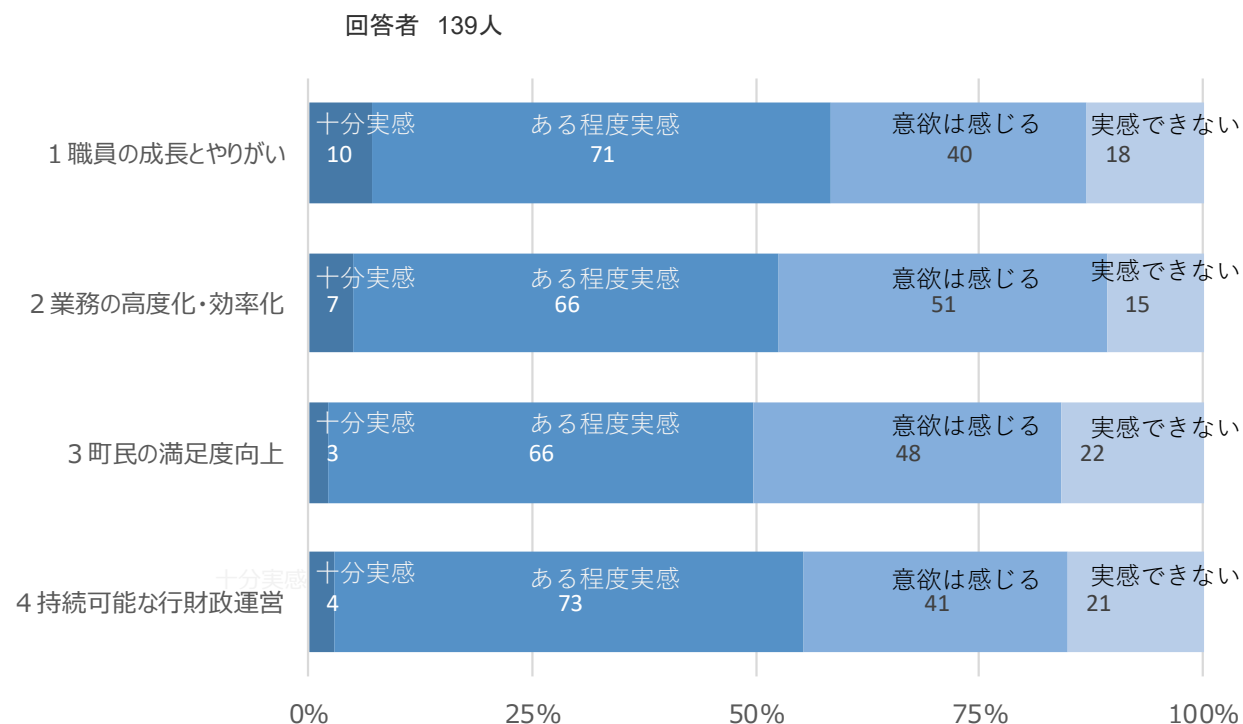
- なぜ、プラごみを捨ててはいけないのかを学習する場(講演会や講座)を設けることができないか。地球温暖化も。
- 身近な場所にエコステーションを作してほしい。
- 業者の積極的な清掃活動をお願いしたい(海岸で営業している方)
- 南知多で、15年NPOのボランティアを続けている。従事してみてこれから守り発展させることの重要だと強く感じる。漁業従事者のごみは産業ごみと思うが家庭ごみとして処理が多い。改善の指導を願う。環境自然推進型の考え方を日常的に訴えていく必要がある。

■抽象的な提案、意見等

- レジ袋は使わないようにしているので、いろいろ考えていきたい。
- レジ袋は少なくする動きで頑張ります。海を汚すことはしたくない。

職員意識調査の各施策における回答結果は以下の通りとなっています

職員意識調査の回答結果



- ✓ 「1 職員の成長とやりがい」
「2 業務の高度化・効率化」
「3 町民の満足度向上」
「4 持続可能な行財政運営」
いずれについても、8割程度の職員が町の取り組みを前向きに捉えています。
- ✓ しかし、取り組みの効果を実感している割合は約半数であり、更なる工夫が求められます。

第7次南知多町総合計画（案）に対するみなさんの意見を募集します （パブリックコメント）

1 概要

現在、南知多町では、令和3年度からの町が目指す12年後の将来イメージとそれを実現するための手段を示した第7次南知多町総合計画を策定しています。

この新しい総合計画を「わかりやすい計画」「つかう計画」にするため、計画（案）に対するみなさんのご意見を募集します。

どなたでも意見を提出することができますので、より良い計画にするため、ぜひご意見をお寄せください。

2 対象案件

第7次南知多町総合計画（案）

3 募集期限

令和2年10月14日（水）まで ※郵送の場合は消印有効

4 閲覧場所

- （1）南知多町ホームページ
- （2）南知多町役場（1階 住民課窓口、3階 企画課窓口）
- （3）町内各サービスセンター

5 意見の提出方法

- （1）メール kikaku@town.minamichita.lg.jp
- （2）持参 南知多町役場（1階 住民課窓口、3階 企画課窓口）及び、各サービスセンターにて提出用の箱を設置しております
- （3）郵送 〒470-3495 南知多町大字豊浜字貝ヶ坪18番地
企画課企画政策係 宛
- （4）FAX 0569-65-0694

6 意見提出に係る留意事項

提出にあたっては、別紙意見書（任意様式も可）に該当ページ番号、住所、氏名（団体の名称）、連絡先（電話番号、メールアドレス）を必ず記載してください。なお、意見書様式は、ホームページ及び閲覧場所に設置しています。また、電話や窓口など、口頭での受け付けは行いません。

7 問い合わせ先

〒470-3495 南知多町大字豊浜字貝ヶ坪18番地

南知多町役場 企画部企画課企画政策係 （担当：奥村）

午前8時30分から午後5時15分まで

電話：0569-65-0711（内線：332）

FAX：0569-65-0694

E-mail：kikaku@town.minamihita.lg.jp

8 意見の取扱い

提出された意見については、内容を検討の上、策定の参考とさせていただきます。また、提出された意見の概要及び意見に対する町の考え方はホームページで公表し、意見の提出者への個々の回答は行わないものとします。なお、提出された意見書等は返却いたしません。

9 個人情報の取扱い

提出された意見について、個人情報保護条例により非公開とされる記述は公表いたしません。また、提出者の住所・氏名・電話番号・メールアドレスについても公表いたしません。

第7次南知多町総合計画（案）パブリックコメント意見書

令和 年 月 日

南知多町長 行

住 所 (所在地)	〒 —
氏 名 (名称及び代表者名)	(ふりがな)
電 話 番 号 メールアドレス	— — @

※上記の情報は公表いたしません。

項 目	意 見 等 の 内 容
(ページ番号・関連する章・記述内容等を記載してください。)	

項 目	意 見 等 の 内 容
(ページ番号・関連する章・記述内容等を記載してください。)	

締 切
提出先等

令和2年10月14日(水) ※当日消印有効

【持 参】南知多町役場 3階 企画課企画政策係 (担当:奥村)
午前8時30分から午後5時15分まで(土・日・祝日を除く)
電話0569-65-0711(内線332)

【郵 送】〒470-3495

南知多町大字豊浜字貝ヶ坪18番地 企画課企画政策係 宛

【FAX】0569-65-0694

【メール】kikaku@town.minamichita.lg.jp

(案)

資料 6

第 7 次南知多町総合計画

2 0 2 1 年度（令和 3 年度）

第 0 期アクションプラン 2 0 2 1－2 0 2 4

令和 3 年 3 月
南知多町

目 次

第一章 アクションプラン策定にあたって

- 1 アクションプラン策定の趣旨について
- 2 アクションプランの計画期間について
- 3 アクションプランの構成について
- 4 アクションプランの進行管理について
- 5 アクションプランの見方について

第二章 重点政策に基づく主要事業（実施計画書）

- 1 重点政策とは
- 2 重点事業一覧
- 3 実施計画書の見方
- 4 重点事業Ⅰ「子育てと教育の充実」
- 5 重点事業Ⅱ「産業の活性化と雇用の促進」
- 6 重点事業Ⅲ「定住支援」

第三章 予算科目に基づく事業評価（事業評価書）

- 1 事業評価とは
- 2 事業評価書の見方
- 3 重点事業に基づく事業一覧
- 4 それ以外の予算科目に基づく事業一覧

第四章 基本目標・基本施策の進行管理（施策評価書）

- 1 施策評価とは
- 2 施策評価書の見方
- 3 施策評価書一覧

第五章 住民意識調査結果（分析）

- 1 住民意識調査結果（モニター）について
- 2 住民意識調査結果（モニター以外等）について
- 3 その他参考となる事項

第六章 管理指標（K P I）一覧

- 1 基本目標の管理指標（K P I）
- 2 基本施策の管理指標（K P I）
- 3 行財政マネジメントの管理指標（K P I）

資料編

- 1 財政計画表

第11期実施計画調査票事業一覧

款項目事業	事業名	所属	R02予定額	R03予定額	R04予定額	R05予定額	基本目標	10期掲載	R02概要	11期掲載
02.01.14.01	公共交通対策事業費	05企画部 地域振興課	107,725	105,506	105,506	105,506	1	●	●	●
06.03.04.01	漁港建設事業費（公共）	07建設経済部 建設課	166,900	148,750	10,000	21,000	1	●	●	●
08.02.01.01	道路橋りょう維持補修事業費	07建設経済部 建設課	201,000	167,300	135,300	111,700	1	●	●	●
08.04.01.02	港湾施設維持管理費	07建設経済部 建設課	8,357	7,357	7,357	7,357	1	●		●
08.05.01.01	都市計画一般管理費	07建設経済部 建設課	26,257	5,208	3,865	6,304	1	●	●	●
02.01.10.02	交通安全施設整備費	02総務部 防災安全課	2,100	7,800	6,200	6,200	2			●
02.01.13.02	空家等対策事業費	02総務部 防災安全課	9,005	8,827	8,754	9,554	2	●	●	●
09.01.04.01	防災対策事業費	02総務部 防災安全課	27,077	21,373	20,089	25,505	2	●	●	●
09.01.04.02	災害対策事業費	02総務部 防災安全課	11,595	11,370	11,370	11,370	2	●		●
09.01.04.04	防災施設維持管理費	02総務部 防災安全課	6,693	7,426	7,426	7,426	2	●		●
09.01.04.05	防災・減災施設整備事業費	02総務部 防災安全課	49,776	18,590	3,369	0	2	●	●	●
02.01.08.05	地方創生推進事業費（空き家・まちづくり推進事業）	05企画部 地域振興課	18,100	16,800	16,800	16,800	2	●	●	●
08.06.01.03	住宅耐震改修費	07建設経済部 建設課	11,835	9,866	9,866	9,866	2	●	●	●
04.01.03.01	環境保全対策事業費	12厚生部 環境課	23,771	57,933	57,710	57,710	2	●	●	●
04.02.01.01	ごみ処理業務費	12厚生部 環境課	64,170	76,165	102,780	120,205	2			●
04.02.01.02	ごみ減量収集対策事業費	12厚生部 環境課	42,987	54,347	63,569	63,580	2	●	●	●
03.01.05.02	子ども医療費	10厚生部 住民課	56,511	54,525	54,559	53,878	3	●	●	●
03.01.07.02	障害者総合支援事業費	11厚生部 福祉課	275,928	295,597	295,597	291,863	3	●	●	●
03.02.02.01	保育所一般管理費	11厚生部 福祉課	152,298	144,726	143,522	147,578	3	●	●	●
03.02.02.02	子育て支援センター・どんぐり園事業費	11厚生部 福祉課	3,562	3,487	5,815	5,814	3	●	●	●
03.02.02.03	放課後児童健全育成事業費	11厚生部 福祉課	10,361	15,798	10,421	10,550	3	●	●	●
04.01.01.01	保健衛生一般管理費	13厚生部 保健介護課	7,286	5,166	5,166	5,166	3	●	●	●
04.01.02.01	予防接種事業費	13厚生部 保健介護課	38,676	38,676	35,866	35,866	3	●	●	●
04.01.04.01	母子保健事業費	13厚生部 保健介護課	19,224	19,224	19,224	19,224	3	●	●	●
06.01.05.01	農業用施設維持管理費	07建設経済部 建設課	13,507	20,507	24,007	21,507	4		●	●
06.01.05.03	県営経営体育成基盤整備事業費	07建設経済部 建設課	37,500	25,000	25,000	25,000	4	●	●	●
06.01.05.05	県営ため池整備事業費	07建設経済部 建設課	3,890	5,900	10,800	14,450	4	●	●	●
06.01.03.02	農業振興対策事業費	08建設経済部 産業振興課	33,929	33,066	33,272	33,272	4	●	●	●
06.01.03.04	産業連携推進事業費	08建設経済部 産業振興課	1,451	1,201	1,201	1,201	4	●	●	●
06.03.02.01	漁業振興対策事業費	08建設経済部 産業振興課	43,006	283,569	338,193	374,743	4	●	●	●
06.03.02.02	栽培漁業振興対策事業費	08建設経済部 産業振興課	5,532	5,532	5,532	5,532	4	●	●	●
07.01.04.01	観光振興事業費	08建設経済部 産業振興課	46,496	47,846	46,496	47,846	4	●	●	●
07.01.04.02	観光資源保全事業費	08建設経済部 産業振興課	42,940	56,487	39,561	30,561	4		●	●
07.01.04.10	内海観光センター改築事業	08建設経済部 産業振興課	0	0	8,096	39,259	4			●
10.01.03.01	教育振興一般管理費	16教育委員会 学校教育課	55,015	50,826	50,970	51,834	5	●		●
10.02.01.02	教育環境整備事業費	16教育委員会 学校教育課	6,433	2,977	2,977	2,977	5	●	●	●
10.02.02.01	教育振興一般管理費	16教育委員会 学校教育課	45,845	25,812	33,840	41,447	5	●	●	●
10.03.01.02	教育環境整備事業費	16教育委員会 学校教育課	11,778	15,732	2,752	2,757	5	●	●	●
10.03.02.01	教育振興一般管理費	16教育委員会 学校教育課	34,385	43,461	34,200	34,184	5	●	●	●
10.04.02.03	公民館整備事業費	17教育委員会 社会教育課	2,461	4,446	27,500	1,257	5	●	●	●
10.04.03.03	尾州廻船主内田家維持管理費	17教育委員会 社会教育課	7,452	9,958	7,600	11,350	5	●		●
10.05.03.01	総合体育館維持管理費	17教育委員会 社会教育課	206,871	31,472	29,662	60,891	5	●	●	●
10.05.03.02	運動公園等維持管理費	17教育委員会 社会教育課	8,881	13,287	83,889	9,410	5	●		●
10.05.04.03	学校給食施設整備事業費	18教育委員会 学校給食センター	544,360	566,407	59,233	0	5	●	●	●

第11期実施計画調査票事業一覧

款項目事業	事業名	所属	R02予定額	R03予定額	R04予定額	R05予定額	基本目標	10期 掲載	R02 概要	11期 掲載
02.01.02.01	広報広聴事業費	04企画部 企画課	9,396	7,217	7,396	7,396	6		●	●
02.01.08.01	一般企画費	04企画部 企画課	12,736	11,219	9,899	2,507	6	●	●	●
02.01.09.01	電算一般管理費	04企画部 企画課	97,049	102,728	116,924	112,174	6	●	●	●
02.01.08.03	離島振興費	05企画部 地域振興課	30,939	21,648	19,809	19,809	6		●	●
02.01.08.04	まちづくり推進事業費	05企画部 地域振興課	6,233	6,846	6,233	6,846	6	●	●	●
02.01.03.02	ふるさと納税事業費	06企画部 検査財政課	91,297	90,757	90,757	90,757	6	●	●	●

第6次総合計画 第11期実施計画調査票

事業名	一般企画費		予算科目	2款1項8目1事業				
概要	住民との協働により、姉妹都市等交流、男女共同参画、広域行政、国際交流等に係る事務事業を推進します							
担当課	企画課		基本目標	6	重点プロジェクト	1 ・ ② ・ 3 ・ ④		
年度	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
予定事業費	12,736千円		11,219千円		9,899千円		2,507千円	
一般財源	12,731千円		11,219千円		9,899千円		2,507千円	
事業内容	姉妹都市等交流事業	姉妹都市等交流事業	姉妹都市等交流事業	姉妹都市等交流事業				
	姉妹都市等交流町（岐阜県八百津町・長野県下諏訪町）との親交を深めるための事業を実施します。 小学生交流事業 宿泊助成事業 産業まつり等相互出店	姉妹都市等交流町（岐阜県八百津町・長野県下諏訪町）との親交を深めるための事業を実施します。 小学生交流事業 宿泊助成事業 産業まつり等相互出店	同左	同左				
事業内容	総合計画策定事業	町制60周年記念事業	公共施設再配置計画策定事業	男女共同参画事業				
	第6次南知多町総合計画の計画期間が平成32年度で終了するため、社会情勢や町民意識の変化を幅広く反映させた第7次南知多町総合計画を2か年で策定します。	令和3年6月1日に南知多町制施行60周年を迎えるにあたり記念事業を実施します。 ・記念式典 公共施設再配置計画策定事業 南知多町公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の再配置を効果的かつ効率的に推進するため、南知多町公共施設再配置計画を2か年で策定します。	南知多町公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の再配置を効果的かつ効率的に推進するため、南知多町公共施設再配置計画を2か年で策定します。	第2次南知多町男女共同参画計画に基づき、南知多町の現状と特徴を捉え、時代の流れに対応した男女共同参画の取組みを推進します。				

令和元年度 事業評価書

事業概要

住民との協働により、総合計画、姉妹町村等友好交流、男女共同参画、広域行政、国際交流等に係る事務事業を推進します

担当課 企画課
企画政策係 内線332・335

予算科目

2 款 1 項 8 目 1 事業 一般企画費

予算額	10,357千円	財源内訳	国庫支出金	0千円	県支出金	0千円	町債	0千円	その他	5千円	一般財源	10,352千円
決算額	8,984千円	財源内訳	国庫支出金	0千円	県支出金	0千円	町債	0千円	その他	0千円	一般財源	8,984千円

計画（PLAN）

主な事業	姉妹都市等友好交流事業	総合計画策定事業
事業内容	姉妹都市等交流町（岐阜県八百津町・長野県下諏訪町）との親交を深めるための事業を実施します。 小学生交流事業 宿泊助成事業 産業まつり等相互出店	第6次南知多町総合計画の計画期間が令和2年度で終了するため、社会情勢や町民意識の変化を幅広く反映させた第7次南知多町総合計画を2か年で策定します。
総合計画目標①	632-① 地域間交流の促進が図られている	651-① 行政改革が推進されている
総合計画目標②	632-② 世代間の交流等の充実が図られている	652-② 財政運営の効率化が図られている
総合計画目標③	611-⑤ 各種団体との協働と連携の促進が図られている	652-③ 計画的な行財政運営が図られている
重点プロジェクト	1 ② 3 ④	① ② ③ ④

評価（CHECK）

事業指標	小学生交流事業参加児童・宿泊助成利用者数合計	総合計画策定部会の開催
目標値	100人以上/年	10回以上/年
実績値	71人/年	12回/年
達成度	未達成	達成
評価（妥当性）	低い 1 2 3 ④ 高い	低い 1 2 3 ④ 高い
評価（効率性）	低い 1 2 3 ④ 高い	低い 1 2 3 ④ 高い
担当課評価	小学生交流事業についてはほぼ定員の参加があり、有用なサービス提供ができたが、宿泊助成利用者については、利用者の低迷が続いている。	推進本部会議の開催に加え、職員研修及び住民意識調査を実施し、社会情勢や町民意識の変化を幅広く反映させた素案を完成させることができたと考えている。

実施（DO）

主な事業	姉妹都市等友好交流事業	総合計画策定事業
予算額	614,000円	7,506,000円
決算額	371,616円	7,370,000円
財源（一般財源）	360,016円	7,370,000円
（その他）	11,600円	0円
執行率	60.5%	98.2%
事業実績	小学生による交流事業 参加者：69人 宿泊助成事業 利用者：2人 八百津町産業文化祭R1.11.9～10 長野県下諏訪町農業祭R1.9.14 南知多町産業まつりR1.11.3	第7次総合計画策定支援業務委託 総合計画推進本部 ・本部会議 12回／年 ・調整会議 12回／年 ・作業部会 12回／年 住民意識調査 R1.12

改善（ACTION）

推進方針	A	A
課題	宿泊助成については周知が不足している。	令和3年度から計画の運用を開始するにあたり、住民参画及び外部評価について検討する必要がある。
改善・対応策	庁内の関係する事業で宿泊助成が利用可能な団体利用への周知、SNSを活用した周知を行う。	町内各団体からの推薦者等で組織する審議会の設置及び住民意識調査について、モニター制を導入し、幅広く町民意見の把握及び反映に努める。

※総合計画目標…別紙 総合計画体系表参照
※重点プロジェクト ① 産業の活性化と雇用の確保 ② 移住・交流の促進 ③ 結婚・出産・子育ての支援 ④ 安全安心・地域課題の解決
※評価（妥当性）…総合計画目標に対する有効性の高低 評価（効率性）…事業の費用対効果の高低
※推進方針 A…現状維持 B…要改善 C…廃止検討

(案)

02.01.08.01

更新日時

2020/3/31 0:00

前期アクションプラン掲載

○

事業名	一般企画費			予算科目	2款1項8目1事業		
概要	住民との協働により、姉妹都市等交流、男女共同参画、広域行政、国際交流等に係る事務事業を推進します						
担当課	企画課	重点政策	1 ・ ② ・ 3	基本施策	2-④	1-⑥	2-③
年度	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度
予定事業費	12,736千円		10,783千円		11,758千円		2,507千円
一般財源	12,731千円		10,783千円		11,758千円		2,507千円
事業内容	姉妹都市等交流事業	姉妹都市等交流事業		姉妹都市等交流事業		姉妹都市等交流事業	
	姉妹都市等交流町（岐阜県八百津町・長野県下諏訪町）との親交を深めるための事業を実施します。 小学生交流事業 宿泊助成事業 産業まつり等相互出店	姉妹都市等交流町（岐阜県八百津町・長野県下諏訪町）との親交を深めるための事業を実施します。 小学生交流事業 宿泊助成事業 産業まつり等相互出店		同左		同左	
	総合計画策定事業	町制60周年記念事業		公共施設再配置計画策定事業		男女共同参画事業	
	第6次南知多町総合計画の計画期間が平成32年度で終了するため、社会情勢や町民意識の変化を幅広く反映させた第7次南知多町総合計画を2か年で策定します。	令和3年6月1日に南知多町制施行60周年を迎えるにあたり記念事業を実施します。 ・記念式典 公共施設再配置計画策定事業 南知多町公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の再配置を効果的かつ効率的に推進するため、南知多町公共施設再配置計画を2か年で策定します。		南知多町公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の再配置を効果的かつ効率的に推進するため、南知多町公共施設再配置計画を2か年で策定します。		第2次南知多町男女共同参画計画に基づき、南知多町の現状と特徴を捉え、時代の流れに対応した男女共同参画の取組みを推進します。	
推進方針	継続・拡充・縮小・廃止		継続		継続		継続
特記事項	推進方針による事業の特記事項を記述する		町制60周年記念事業は単年度で終了 姉妹都市は一部縮小するものの事業は継続		公共施設再配置計画策定事業についてはR4年度で終了		特別な事業は予定がないため、予算規模は縮小するが事業は継続

(案)

事業概要	住民との協働により、姉妹町村等交流、男女共同参画、広域行政、国際交流等に係る事務事業を推進します										担当課 企画課 企画政策係 内線332・335
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----------------------------

予算科目	2 款	1 項	8 目	1 事業	一般企画費						
予算額	10,357千円			財源内訳	国庫支出金	0千円	県支出金	0千円	町債	0千円	その他 5千円 一般財源 10,352千円
決算額	8,984千円			財源内訳	国庫支出金	0千円	県支出金	0千円	町債	0千円	その他 0千円 一般財源 8,984千円

計画（PLAN）

主な事業	姉妹都市等交流事業			総合計画策定事業		
事業内容	姉妹都市等交流町（岐阜県八百津町・長野県下諏訪町）との親交を深めるための事業を実施します。 小学生交流事業 宿泊助成事業 産業まつり等相互出店			第6次南知多町総合計画の計画期間が平成32年度で終了するため、社会情勢や町民意識の変化を幅広く反映させた第7次南知多町総合計画を2か年で策定します。		
基本施策① ※①	2-④	何度も訪れたいくなる観光・交流		4-③	町民の満足度向上	
基本施策② ※①	1-⑥	豊かな自然を活かしたひとづくり		3-⑥	多様性を認め、共に支え合うコミュニティ	
基本施策③ ※①	2-③	新たな魅力や価値を生み出す商工業		4-④	持続可能な行財政運営	
重点政策 ※②	1	②	3	①	2	3

評価（CHECK）

事業指標	宿泊助成利用者数	総合計画策定部会の開催
目標値	50人以上/年	10回以上/年
実績値	2人/年	12回/年
達成度	未達成	達成

担当課評価 ※③	小学生交流事業についてはほぼ定員の参加があり、有用なサービス提供ができたが、宿泊助成利用者については、利用者の低迷が続いている。	推進本部会議の開催に加え、職員研修及び住民意識調査を実施し、社会情勢や町民意識の変化を幅広く反映させた素案を完成させることができたと考ええる。
----------	--	---

基本施策有効評価（妥当性）※④	低い 1 2 3 ④ 5 高い	低い 1 2 3 4 ⑤ 高い
費用対効果評価（効率性）※④	低い 1 ② 3 4 5 高い	低い 1 2 3 4 ⑤ 高い

実施（DO）

主な事業	姉妹都市等交流事業	総合計画策定事業
予算額	614,000円	7,506,000円
決算額	371,616円	7,370,000円
財源（一般財源）	360,016円	7,370,000円
（その他）	11,600円	0円
執行率	60.5%	98.2%
事業実績	小学生による交流事業 参加者：69人 宿泊助成事業 利用者：2人（H30：13人） 八百津町産業文化祭R1.11.9～10 長野県下諏訪町農業祭R1.9.14 南知多町産業まつりR1.11.3	第7次総合計画策定支援業務委託 総合計画推進本部 ・本部会議 12回／年 ・調整会議 12回／年 ・作業部会 12回／年 住民意識調査 R1.12

改善（ACTION）

課題	宿泊助成については周知、認知が不足している。	令和3年度から計画の運用を開始するにあたり、住民参画及び外部評価について検討する必要がある。
改善・対応策	庁内の関係する事業で宿泊助成が利用可能な団体利用への周知、SNSを活用した周知を行う。 利用実績の低迷も加味した予算要求を検討。	町内各団体からの推薦者等で組織する審議会の設置及び住民意識調査について、モニター制を導入し、幅広く町民意見の把握及び反映に努める。
推進方針 ※⑤	C	B

※① 基本目標・基本施策…別紙 総合計画体系表参照
※② 重点政策 ① 子育て支援と教育の充実 ② 産業の活性化と雇用の確保 ③ 定住支援
※③ 事業に対する評価及び、前年度事業評価書ACTIONIに対する評価
※④ 評価（妥当性）…基本施策に対する有効性の高低（効率性）…事業の費用対効果の高低
※⑤ 推進方針 A…拡充 B…現状維持 C…縮小 D…廃止検討

(案)

総合計画 施策評価シート

総合計画 P35

記載日：2020年3月6日

基本施策	4 何度も訪れたくなる観光・交流	基本目標	2 地元をにぎわす仕事づくり
------	------------------	------	----------------

1. 管理指標(pt) 住民意識調査による満足度

現状地 (R2)	目標値 (R6)	R3	R4	R5	R6
61	64				

2. 現状と課題

本町には海鮮料理、温泉、海水浴など、四季を通じての観光資源が豊富にあり、観光業は本町の主要な産業となっています。一方で、近年は観光客数の減少、観光施設等の老朽化への対策、今後さらに多様化が見込まれる観光客の新たなニーズへの対応、感染症拡大という新たな脅威への対応が重要な課題となっています。

3. 目指すべき将来像

本町の持つ自然環境、歴史・文化、豊富な食を生かし、農業、水産業、商工業と連携しながら国際化にも対応できる魅力ある観光・まちづくりを目指します。

4. 将来像を実現するために町が実施している主な取り組み

○姉妹都市等交流町の岐阜県八百津町と長野県下諏訪町との親交を深めるために小学生の交流や宿泊料の割引などを行っています。
○観光協会と協力して、観光パンフレットの作成、イベントの支援を行っています。

5. 主な予算事業

事業名	部署名	事業概要	R1決算	R2予算	重点政策	実施計画	事業評価書
一般企画費 (姉妹都市等友好交流事業)	企画課	住民との協働により、総合計画、姉妹都市等交流、男女共同参画、広域行政、国際交流等に係る事務事業を推進します	360,016円	999,000円	①・②	POO	POO
観光振興事業費 (観光振興補助金)	産業振興課	町観光協会と協力して、観光宣伝等を実施することにより、積極的に観光振興を推進します	29,724,000円	29,625,000円	②	POO	POO

6. ニーズ

・農業、漁業を活性化させるとともに、観光客を呼び込めるし背う(農家レストラン)が道の駅的なものを作ってほしい。
・姉妹都市交流が田舎町同士では盛り上がりません。人、モノ、情報が交流し発展するためには、この町に無いものを持った所、都市部の「市」とも交流すると良い。持続可能性を高めるために、観光業では現状に満足せず、接客レベルを上げたり、また来なくなる仕組みを作るとりピーターが増える。
・SNSやネットをよく見るが、南知多町の町が実施していることを全然知らないのではアピール不足かなと思う。インスタグラムで南知多町のお店のごはんメニューやテイクアウトを見てもあまり出てこない。(魚ばかり)
・個人レベルでSNSなら町の為に動ける。(YouTuberのように。)自分にはないと思った。PRする史跡に対しある程度の地域の人に共通認識を持つことが大切である。
・南知多のHPは前時代的であると思う。今はスマホで調べて観光する時代のため、たとえば福岡県糸島市は博多から車で45分、海と山の幸が目玉で南知多とよく似た観光地であるが、スマホで糸島市のHPを見るととても見やすく観光ページにも目的別で飛べるようになっている。対して南知多のページは文字が多くPDFの張り付けが多く自治体の取組みサービス等もわかりずらく、スマホから読みにくい。糸島市のようにトップページで目的別に観光情報の見出しがわかるようにし、観光協会の「ふらっと南知多」へ飛べるようにできないか。ただ「ふらっと南知多」も探せば目的別の項目もあるが、分かりづらく内容は細かい文字の一覧の為地域別の表示等がないため観光中の人がドライブプランを立てるにも不便でありわかりづらい。スマホ用ページの充実がこれからの観光発展には不可欠であり紙の媒体以上に注力してほしい。私が観光して調べたいことは日帰り温泉・海鮮料理もあるが、多目的トイレ・授乳室・おむつ交換台のある場所である。授乳・おむつ替えOKなお店やポイントを呼びかけ増やし、町のHPでMAP案内することで、多様な人に観光で来てもらいたいというアピールもでき町民参加の観光地づくりができと思う。子供たちの商品開発力を生かせたらおきなムーブメントになると思う。
・来訪者や、地元の町民訪れやすいよう、公共の交通機関の整備が大事である。
・内海に関していえば、せっかくのロケーションをほとんど活かし切れていない。特に海水浴シーズン以外の内海は素通りする町として認識されてしまっている。秋から冬にかけて等空気が澄んだ時の夕日はとても美しいが、知らない人がほとんど。内海のどこに行けば見られるのかを知らない人も多い。何気内海は展望台がない。(旅館に泊まれば高いところから眺められるが)非常にもったいない。ランドマーク的な意味でも、あってもよいと思う。(利権者がどう言うかは分からないが)
・他地域の方に南知多は観光地だけ「食」以外の楽しめる場所が少ないと何度か言われたことがある。そのため、宿泊までは至らず日帰り観光が多い気がする。子供も楽しめる場所・景色や見どころのアピールがもっと必要ではないかと思う。
・町の自慢できる良さを町民が知らないことが多く、町内で内海・山海・豊浜・師崎・片名・大井が分裂して活動していることがおかしい。
・コロナウイルスのせいで旅館が休館になっている。早くみんなが元気で仕事ができるようになったらと、心から願っている。私は弁当の配達をしているが、配達しているお爺さんに「あんたがコロナになったら俺らどうしたらええ」と言われた。本当に気を付けないといけないと思う。今私のできることをきちんとやって、今を乗り越えたいと思っている。
・南知多には多くの価値ある史跡があるが、放置されたままのものも多く、予算をつけて保存のための対策をとってほしい。
・知名度の高い材料はある。いかに町全体で後押ししていくかだと思う。
・南知多には素晴らしい歴史遺産があり、子供たちの教育資料として活用されていると思うが、現在はあまり活用されていない。町内のみでなく、対外的にもアピールできる場が必要。また郷土史など「みなみ」優れた研究と財産があり、文化面でも他都市に負けない取り組みが必要だと思う。

7. 外部委員会評価

・
・
・
・
・

第7次南知多町総合計画住民向け説明会・意見交換会開催報告

1 目的

第7次南知多町総合計画は、作って終わりではなくその後も様々な場面で活用される計画とするため、「わかりやすい計画」「つかう計画」ということを重視して素案を作成しました。この新しい計画を、町民の方に幅広く知ってもらうとともに、これからの12年間の計画の使い方や町政に住民意見を反映する仕組みについて理解を深めていただくため、住民参画の取り組みの一つとして、意見交換会を開催し、住民の方々の意見を募りました。

2 開催概要

町内5地区で意見交換会を開催し、参加者の内訳は以下の通りでした。

(1) 開催日時・及び場所

地区	開催日	開催場所	参加人数	内訳		
				モニター	中学生	一般
豊浜	9月1日(火)	南知多町役場	17	8	4	5
内海	9月2日(水)	内海防災センター	14	5	8	1
日間賀島	9月3日(木)	日間賀島公民館	13	6	4	3
篠島	9月4日(金)	篠島開発総合センター	15	2	0	13
師崎	9月8日(火)	師崎中学校 武道場	17	5	4	8

(2) 開催内容

第1部 イン트로ダクション

総合計画とはどのようなものか、第7次総合計画はどのようなコンセプトで策定を進めているのかについてプレゼンテーションを行いました。

第2部 意見交換会

総合計画の概要版(素案)等を題材にして、以下の内容についてワークショップ(グループワーク形式で意見交換)を行いました。

<ワークショップテーマ>

① 住民参画についてイメージができますか？

概要版(素案)を事前にお配りし、デザインや内容がわかりやすいか、わかりにくいのか及びその理由について意見交換を行いました。

② このまちのために私たちができること

南知多町で一番好きなものを挙げていただくとともに、それに対して住民の方ご自身がどんなことに取り組みたいもしくは取り組むことができると考えているのかについて意見交換を行いました。

③ 総合計画のキャッチコピーを考えよう

総合計画を手に取りやすく、親しみやすくするためのキャッチコピーについて住民の方からアイデアを募集し、地区ごとの代表案を選定しました。

3 開催結果

参加者の主な意見は別紙「意見交換会結果まとめ」のとおり。

4 今後の取組方針

(1) 概要版（素案）の修正について

意見交換会でいただいた意見を反映し、概要版（素案）をより見やすく、わかりやすいものに修正を行います。

(2) キャッチコピーの案について

意見交換会で各地区からいただいたキャッチコピーの案は、これまでのキャッチコピー（太陽と海と緑豊かなまちづくり）及び事務局で選定した1案を加えた計7案でインターネット投票を行い、新キャッチコピーとして今後使用する予定です。

（参考）各地区で提案されたキャッチコピーの案

キャッチコピー（案）
豊かな自然 もう一度行きたいまち
しあわせ満ちた！南知多
あふれる幸せ感じらまい
取扱説明書（トリセツ）
※5 地区で一人ずつ代表者の写真を掲載
愛と自然の南知多！それいけ！素晴らしい町へ！
9/22（火）までに応募のあった案から代表案を事務局で選定
太陽と海と緑豊かなまちづくり

【投票期間】

令和2年10月14日（水）まで

【投票方法】

町公式ホームページの投票フォームより投票。（投票の際は、地区名は出しません）

キャッチコピー 第7次南知多町総合計画

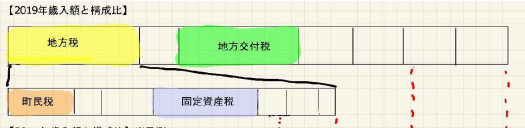
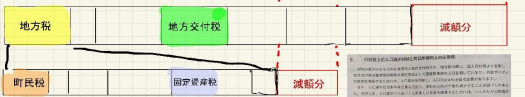
←ここに使われます

第7次南知多町総合計画 意見交換会結果まとめ

ワークショップテーマ				
セッション①住民参画についてイメージができますか？		セッション②このまちのために私たちができること		セッション③総合計画のキャッチコピーを考えよう
わかりやすい	わかりにくい	この町の好きなところ/好きなところのために自分たちができること		総合計画のキャッチコピー※太字は地区の代表案
・Q&A式がわかりやすい ・絵が多くわかりやすい	・表現が固い ・文字が多く詰まって記載され、かつ文章が長いためわかりにくい。 ・読み仮名が無くわかりにくい ・背景色と文字色が同系色のためよみにくい ・漫画形式にするとわかりやすいのでは？	・友達（困っているとき悩んでいるときに力になってあげる/一緒に飲み会をする/ぐちを言い合う ・海（SNSで共有する/ゴミ拾いをする/ゴミを出さない生活をする） ・魚（たくさん食べる/地産地消/地元の飲食店を利用する/PRする） ・ひまわり（名所等をSNSを通じて発信する） ・住民、人とのつながり（イベントにたくさん参加する/積極的に挨拶や会話をする） ・祭り（積極的に友達に参加する/祭りにあるボランティアに参加する）		・ウミヒトミライのまちづくり ・「やっぱり南知多！！」って言われたい ・太陽と海と観光の町 ・豊かな自然もう一度行きたいまち
・Q&A方式がわかりやすい ・様々な図があるので、文字だけになりすぎず飽きにくくわかりやすい ・文字が比較的大きく、わかりやすい	・漢字が多いので読みづらい。難しい感じに振り仮名を付けたほうがわかりやすい。 ・大切なところに下線等があるとわかりやすい ・文章が多くわかりにくいので、簡潔にかいてあるとよい ・PDCAをイメージしやすいイラストにしたほうがわかりやすい ・同系色の背景、文字があり読みづらい	・農産物・魚（持続可能な農業に取り組む/食べ物を大切に/レシピを発信する/農場見学や援農受入れする） ・豊かな自然、海・里山（浜に落ちているゴミを拾う/きれいな海など写真を撮り、自然の豊かさを多くの人に共有する） ・暮らし、住民（住民と会ったら挨拶をしてよい関係を築く） ・食べ物（地元の子供たちに農産物を食べてもらう工夫をしたい/一人でも多くの人に南知多の美味しい食べ物を食べてもらう）		・しあわせ満ちた！南知多！ ・太陽と汗が輝くホワイトビーチ ・自然を愛し自然に愛される
・ミーナ（南知多キャラクター）に親しみをかんじるので良い ・絵で解説されている為、わかりやすい ・図表（吹き出し）等が使用されていてみやすい	・英語表記や文字が多くて読みにくい ・背景色と文字色が同系色のため見づらい（Q&A部分） ・文字の間隔が狭く見づらいため、間隔をあけたほうがよい ・今は7次だが、これまでの情報（結果）がわからない ・色使いや、図表がわかりにくい（矢印が多い）	・自然（ゴミを拾う・捨てない/草刈りをする/きれいな景色・風景アルバムを作る/写真を撮りためて紹介する） ・人、子ども（楽しい学校をつくる/自ら挨拶をする/助け合う/将来的に国内の子供たちを受け入れる＝交換留学） ・食（四季折々においておいしい食べ物があるので、友人に食のプレゼントをする/SNSで発信する/もっとブランド化する） ・観光（島全体を盛り上げる/自分が幸せでいる/特産品を広める/将来的にホームステイの受け入れをする）		・こどもたちが誇れる町へ ・南知多Future！ ・あふれる幸せ感じらまい
・イラストが多く親しみやすい ・色分けされており、カラフルになっているところはわかりやすい	・説明・前置きが長くわかりにくい（最初にゴール・目標を大きく掲げてほしい） ・文字数が多くわかりにくい、文章の簡素化をしてほしい ・言葉の使い方がわかりにくい（「総合計画」ではなくて他の言葉を使ってほしい） ・第6次までの成果がわからない ・同系色の背景に同系色の文字は見にくい	・自然、景色（ゴミを捨てない・ゴミを拾う/草刈りをする/自慢する/夕日を眺める） ・人、子ども（子どもを地域で育てる/挨拶をする/いろいろな付き合いの「輪」に参加する/どこの子でも面倒をみる/子どもが祭りに参加する仕組みを作る）		・遊ぼう暮らしそうみなみちた ・美味いぞ！見たいぞ！南知多！！ ・取扱説明書（トリセツ） ※5地区それぞれの人の顔写真を表紙に掲載
・図表・イラストなどが使用されており楽しく、わかりやすい ・カラーで示してあり、わかりやすい ・見出しと本文で字の大きさが変えられていて、みやすい	・英単語が多くわかりにくい、日本語を使用してほしい ・総合計画の使い方、もう少し文字数が少なくなるとわかりやすい ・言葉でルビを振っていない箇所があるので、必要な個所にふってほしい ・字が小さいので、もう少し大きくしてほしい ・図にたくさん色が使用されているのは良いが、ごちゃごちゃしてしまっており見づらい	・食べ物（地産地消する/友人にPRする/いただきます、をきちんとという） ・人（町民・区民が参加する行事に協力する/話しかけてくれたときに、やさしく返事をしたり大きな声であいさつする） ・自然（ごみを捨てない、拾う/植林活動をする/魚をとりすぎない） ・歴史、祭り（参加する/歴史をもっと知る機会が欲しい/見る人や参加する人を増やす） ・方言（しゃべりつつける）		・笑って食べてええがね南知多 ・まっとうええまち南知多 ・子育てサンサン南知多 ・愛と自然の南知多！それいけ！素晴らしい町へ！

総合計画審議会 第3回審議会及び意見・質問書まとめ

【事前意見】

項目	素案の該当箇所	意見質問	回答案
住民意識調査結果について（自由記述）		全般として伝わる意見ばかり。 話し合いの都度、何度も同じことを聞き、繰り返して感じる。進んでいない感がお互いの相違理解を生んでいるのか、実践している人達は頑張っている事ではあるが、関連者間の共有化不足がありそうな気がする。	
今後の取組について		各アクションプランとも満足度UPについて、「知らなかった」「やってみよう」と感じている人への対応がポイントとなりそう。住民参画を期待するのなら、住民が関心を持つやりたいことがやりやすい環境をつくることと思う。	
資料2 第7次南知多町総合計画（素案）について	P 1	全体的に… ・前回資料の訂正箇所や他の部分の黒色文字に黄色の網掛けは読みやすいが、P.1の図やその他の部分での黄色地に白文字では、文字がはっきりしない。また、黄色文字も同様。 ・前回資料より色のコントラストがはっきりして見やすい。	
資料4 住民意識調査（モニター調査）結果について		・各施策における回答結果（自由記述）では、様々な立場での多くの意見が出され参考になると思う。 ・回答者属性の年齢構成で60歳代以上が40人であった原因は、ネットでの調査であったからでしょうか？私も意識調査に回答しましたが、反映されていないのはなぜでしょうか？（図みに60歳代ですが…）	
資料5 第7次南知多町総合計画（案）に対するみなさんの意見を募集します（パブリックコメント）		より多くの住民の方々からの意見が寄せられるような周知の方法を…。	
資料6 （案）第7次南知多町総合計画2021年度（令和3年度）第0期アクションプラン2021-2024について		文字が小さくて読みづらい。 実際の紙の大きさはA3でしょうか？	
資料7 第7次南知多町総合計画住民向け説明会・意見交換会開催報告		4地区では中学生の参加もあり、グループワーク形式によって活発に意見交換がなされ、有意義な会であったと思う。師崎地区に参加した郷土愛が深い中学生からは、次時代を担う年代として、将来を考えた想いや率直な意見を聞くことができた。	
5. 行政上の人口減少抑制と町民所得向上の必要性について	P 6	「町民所得の増加」の必要性を訴えるのに、過去の構成比率をドーナツグラフで表されても、増加の必要性が伝わってこない。 平成29年度の歳入に占める地方税と、その地方税を構成する各種歳入の割合を示す棒グラフ。 そして数年後、現在の町民人口から推測できる歳入と地方税を示すグラフを併記して、減少幅を明確に示さないと、「町民所得の増加」の必要性は伝わってこない。加えて、バツと見て、2つのドーナツグラフの違いが分かりにくい。	【2019年歳入額と構成比】  【20●●年歳入額と構成比】※予測  【事業 6ページ】 円グラフではなく、棒グラフにして、人口減による歳入額の減収を2019年度と比較をすると財政上のひっ迫感がよりはっきり伝わると思います。 
資料5 パブリックコメントの意見募集について		・意見の提出方法として、町ホームページ上で入力フォームを設置して、そこへ入力する事はできないのか？ ・郵送とあるが、郵便料金は提出者負担になってしまうのか？ ・意見書を役場へ持参した場合、役場1階に受付BOX等の設置は考えていないのか？ ・閲覧場所が1階住民課にあるなら、受付BOXも住民課にあってもいいのでは？	
資料1について P6 素案第8章 まちづくりの施策体系についての回答案について	P 1 6	・後半のくだり「それぞれで実施すべき施策を以下のよう25の基本施策を定め、暮らし続けられるまちづくりを～」 ⇒「それぞれで実施すべき25の基本施策を定め、暮らし続けられるまちづくりを力強く実行～」	
資料2について P1 はじめに（掲載図）	右記該当ページ	・黄土色に白抜き文字は見づらい。はっきり読めるように！ 同様の箇所が、P2,3,9,11,12,16,17,20,63 にも	
P5 2. 少子化への対応 3. 人口流出への対応	P 5	・出生と転入の黄色点グラフは判読しにくい⇒工夫を	
P16 まちづくりの施策体系 1. への基本目標・基本施策	P 1 6	・地元をにぎわす仕事づくりを ⇒地元をにぎわすしごとづくりとしてはどうかひとづくり、まちづくりに合わせてひらがな表記で ・2-4 何度も訪れたい観光・交流を ⇒2-4 観光に活かす魅力づくりとにぎわいの拠点づくりに修正してはどうか ・安心できるまちづくり3-1「まちと命を守る防災」を ⇒3-1「災害に強く、安全に暮らせるまち」に防災を大きな視点でとらえて	
P10 4. SDGsへの取り組み	P 1 0	・文章の最後のくだりを⇒「～、SDGs 17項目 の実現が必須だと考えて、取り組むことが必要です。」としてはどうか	
4と5の掲載図	P 1 0	・もっと拡大して掲載してはどうか。現状だとそれらしきものがついていないな、という程度でわかりにくい。⇒図がもっと大きいと見やすい。拡大した場合文章は図の下段にきてもいいのでは	
P21 第12章 1 地域で育むひとづくり	P 2 1	・各基本施策の上に小見出しとして掲載されている基本目標を青地に黒字の見出しにしてはどうか ⇒基本目標がわかりやすく見える1-1～1-4-7 同様にする ・SDGsのアイコンとして、取り上げられている項目の番号と目標が小さすぎてわからない ⇒各基本施策に共通して、掲載されているアイコンについても同様。配慮や工夫が必要	
P35 第12章 2 地元をにぎわす仕事づくり	P 3 5	・基本目標2を 緑色地に黒字の見出しにする。2-1～2-7 同様に	
P49 第12章 3 安心できるまちづくり	P 4 9	・基本目標3を ピンク時に黒字の見出しにする3-1～3-7 同様に	
P69,70 第14章 基本施策と個別計画	P 6 9・7 0	・個別計画の表の上部に、基本目標との関わりも分かるように挿入して、明示するのはどうか、その際、この素案で統一されている色分けもすると、小さい文字の個別計画も見やすくなるのではないかと。さらに、1-7と2-1の間の縦罫線を太線に、同様に、2-7と3-1の間、3-7と4-1の間の縦線を太線にしてはどうか。また、個別計画名や政策名も数多くある（P69=25、P70=32）ので、各ページ10計画ごとに横罫線を太線にすると、小さくて見づらい表がより見やすくなるのではないかと。	
資料4 住民意識調査結果について（円グラフ） P94 男女比 P98 満足度、重要度、認知度、貢献度	P 9 4・9 8 右記該当ページ（右下ページ番号）	各ページの円グラフにも文字や数字の大きさの工夫を！ P100、P102、P104、P106、P108、P110、P113、P115、P117、P119、P121、P123、P125、P128、P130、P132、P134、P136、P138、P140、P142、P143	
資料5 パブリックコメントの意見書について		〈項目、意見等の内容〉の記入例みたいなものがあるとよいかもしれない。	
資料1 P6齋藤委員の人口ビジョンについての意見	P 6	人口減少による再入学の減収を、比較できるようグラフにする案に賛成です。	

資料 1 P8 3-6多様性を認め共に支え合うコミュニティに対する案への回答について		女性の就業率が高まると出生率が低下するような社会にはいけないですね。誰もがイキイキ働けて、出生率も向上するよう女性の就業を支援していく姿勢が求められると思います。 素案72pの「3-6多様性を認め共に支え合うコミュニティ (2) 将来像の実現に向けて」では、「(1) 目指すべき将来像」に記載されている「町民の自主的なまちづくり活動」への支援や、「国際交流活動の充実」への取り組みが記載されていますが、「男女共同参画」については取り組みの記載がありません。 男女共同参画の働き方やくらし方の町民意識の向上を促し、年齢や性別に関係なくすべての町民が意欲や能力を発揮できる社会の形成が大切です。 男女共同参画の実現に向けての取り組みも加えて頂きたいです。	
資料 1 P10 KIP指標について各委員の意見		「少しは満足」を「満足」に分類できるのか、という意見が複数の委員さんから出ました。KPIへの疑問・意見が多く上がっていますが、反映されていると感じられません。 将来イメージの「絆」という文言についても、複数の委員から意見がありましたが反映されませんでした。複数の委員から共通して出た意見については、もう少し対話や議論が必要な気がします。	
資料 4 P97 意識調査結果について		満足度において、『最も満足度が高かったのは「地域で大切に子育て環境」(89pt)』とありますが、子育て環境は「とても重要」と考える人が81%もいるにも関わらず「満足していない」と答えた人が23%もいて、なぜこれが「最も満足度が高い」という見方になるのでしょうか。 満足度の計算は、第二回審議会資料4p110によると、重要度で1とても重要～3少しは重要を回答した人に対して、満足度で1とても重要～3少しは重要を選択した人の割合でポイント化するとあるのですが、それで89ptになるというのがよく分かりません。「とても満足」は0人、「ある程度満足」も11%しかいないのにこれが「最も満足度が高い」という結果になる算出方法なのであれば算出方法を見直した方が良いのではないのでしょうか。	
資料 4 P98 意識調査結果について		『「満足度」を高めるためには認知度と貢献度を高める取り組みが必要であると考えられます。』この考え方がよくわかりません。不満足が多くて満足している人が少ない施策が、個人の自助や共助による貢献で満足度が上がるものなのでしょうか。公助の不足ではないのですか。	
資料 6 P149 目次		目次にある資料が欲しいです。	
資料 6 P150 第11期実施計画調査票事業一覧について		令和3年以降の予算額の増減について、この表をどう読み取ったら良いのがよくわかりません。	
資料 6 P154・155・156		実施計画調査票について、あまり変わっていないような気がしてしまいます。元々第一回審議会の資料には「複雑でわかりにくく、住民だけでなく職員にも理解、共有されていない」という問題点がありました。この新しい実施計画調査票案で各事業と総合計画とのひも付けが明確になって職員の方から見てわかりやすいものになりましたか。また「実際の事務の執行に当たり計画が形骸化しており実効性に乏しい」「政策や事業の優先順位が明確でないため(中略)財政の制約に対応した取捨選択が行いにくい」という元々の課題がありましたが、職員の方から見てこれらは解消されそうですか。施策評価シートについて。外部評価と予算決算の運動が十分で無いという問題は解消されそうですか。実務に携わる職員の方から見た意見を伺いたいです。	
資料 7 住民向け説明会・意見交換会について		意見交換会に参加しましたが、総合計画の中身についての説明ではなく、概要版の文章や図解のレイアウトデザインについての意見交換をしました。これは住民が考えることなのだろうかという疑問がありました。町の好きなところ、自分がどんな貢献ができるか、キャッチピーをそれぞれ3分ほど考えて各々が意見を小出ししグループで意見を集約しましたが、総合計画のまちづくりの中身を住民へ説明して「南知多をどんなまちにしていきたいか」の意見を募った、という形ではありませんでした。町の中学生から未来の南知多への思いを直接聞けるチャンスだと思ったのですが、パブリックコメントでも町民の意見は聞けませんが、町民が世代を越えてそれぞれお互いの意見を交換し、まちづくりについて考えを深めることは、パブリックコメントではできません。意見交換会がそういう機会になるといいなと思っていたので残念でした。	
P32 3.重点政策の管理指標と、第一回審議会資料 p87	P 3 2	「希望の保育園に入所している乳幼児の割合100%」「新規漁業就業者数6人/年」「商工会会員数1000事業者」などの目標値について、これらが政策の進捗を確認する上で適切なものか、そして達成するのに現実的であるか、他に目標として掲げた方が良い項目があるかなど、この目標値については慎重な議論が必要だと思うのですが、判断が難しいです。もともと、第一回審議会では計画されていた「産業団体・活動団体・子育て世代へのグループヒヤリング」で各分野の方々からこの目標値について意見を聞けたら良かったと思います。集まってる会の開催はコロナ禍では難しいと思いますが、例えば各産業団体や保護者の方々などをお願いして意見をいただくことは難しいでしょうか。	
2-1豊かな海と産物を活かした水産業 (2) 将来像の実現に向けて	P 3 5	(略) 水産物消費量の拡大のため、魚食普及のPRや、観光・宿泊での目玉としての水産物の活用を促進します。 一新型コロナウイルス感染症拡大によって、水産物が飲食業界の影響を大きく受けることになり、改めて外食産業の影響を実感しているところです。地産地消の更なる取組も含めたでしょうか。	
2-3新たな魅力や価値を生みだす商工業 (2) 将来像の実現に向けて	P 3 9	(略) 地域ブランドを、ふるさと納税への出品、SNS(社会的ネットワークを構築するサービス)等のインターネットを活用した積極的な情報発信、外国人観光客のインバウンド消費などにより、販売の拡大を支援します。 一観光産業を中心とした地域商工業者は、新型コロナウイルス感染症拡大によって、感染拡大防止と経済活動を両立する新しい生活様式が求められるので、BOPの啓蒙と取組の促進を追加して頂ければと思います。	
2-3新たな魅力や価値を生みだす商工業 3. 関連する個別計画	P 4 0	商工会及び商工会議所による小規模事業者の支援に関する法律(平成5年法律第51号)について、令和元年5月29日の第198回通常国会にて、改正法が成立し、同年7月16日に施行された。市町村との連携について、経営発達支援計画は、商工会又は商工会議所が単独又は共同で作成する仕組みでしたが、関係市町村と共同で計画を作成し申請することとなりますので、この計画は、含めることになるのでしょうか。	
2-6価値ある産業を残す事業継承支援 (3) 地域との協働	P 4 5	(2) 将来像の実現に向けての取り組みは、国や県、金融機関、商工会、事業承継のノウハウのある土業、その他の民間事業者等と連携して促進します。 一金融機関、商工会、事業承継のノウハウのある土業等の認定経営革新等支援機関を追加して頂ければと思います。	
2-7働く環境づくり (2) 将来像の実現に向けて	P 4 7	企業の人手不足を解消するため、女性、高齢者及び外国人の活用を支援します。事業所等のワークライフバランス(仕事と生活の調和)への理解を促進します。(略) 一企業の求人情報発信を文章の中に含めるといのではないのでしょうか。	
全体		グラフの黄色や、黄色に白抜きの文字が見づらいです。 紙質の問題?製本すると見えやすくなるならOKです。	
4. 高齢化社会の対応	P 6	4. 高齢化社会の対応 令和2年前後から高齢人口は減少～と記載がありますが、年齢3区のグラフに今後の予測も点線などで示してもらえると、更に理解しやすいです。	

5. 行政上の人口減少抑制と町民所得向上の必要性について	P 6	5. 行財政上の・・・ 町民所得の増加が必要と記載されていますが、グラフが平成29年度しかなく、町民税の比較ができません。 過去〇%だったが平成29年度は36% もしくは平成29年度は36%見込めていたが〇年後は〇%しかない予想 など比較するグラフがあると、更に町民所得の必要性がわかるのではないのでしょうか？	
資料4 住民意識調査結果について		住民意識調査の回答者 年齢構成で60代以上が0%になっていますが、60代以上の方にはアンケートを行っていないのでしょうか？ 70～74歳・75～79歳など70代のみ細かく記載があるのは理由があるのでしょうか？	
資料5 パブリックコメントについて（P144）		パブリックコメント・町民から意見募集・について 総合計画に対して、町民にこの長文を読んで理解し、コメントを求めても、回答するかたは少数ではないのでしょうか？もちろん方法の一つとして実行することは必要と思いますが、もっと精度の高い、確信をついた意見をもとめるなら、各団体、事業所で集まり時間を作ってもらい、ピンポイントで意見を伺うことができれば理想だと思います。（例えば、水産業のことなら漁業組合・子育て、教育環境のことなら保育所役員やPTAなど）また、町内の中高生・大学生に将来、南知多町に住み続けたいか？という環境なら住みたいか？というアンケートを取って意見が聞きたいと思いました。	

第7次総合計画の管理指標（KPI）に係る目標指標について

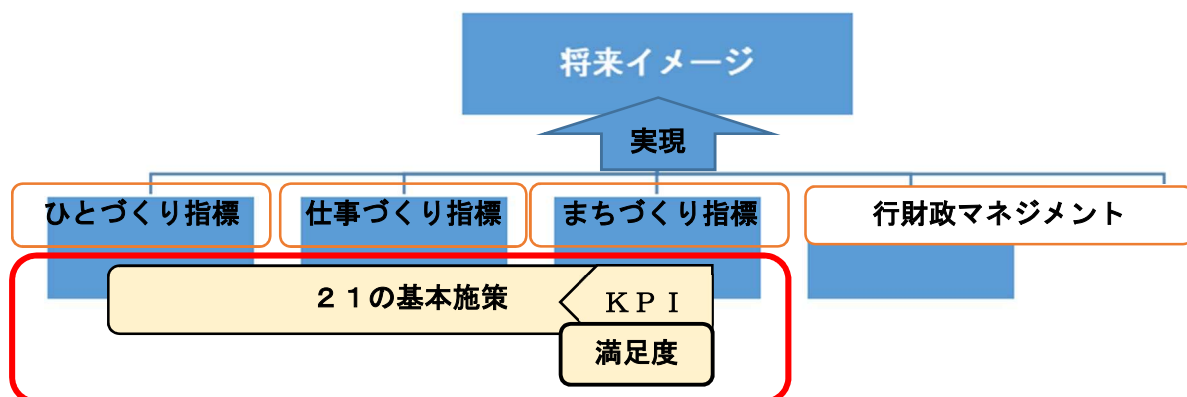
総合計画は作って終わりではなく、実現に向け実行し、進捗状況を分析・評価して改善していくことが重要です。そのため、第7次総合計画の素案（以下、「素案」といいます）では、目標の進捗状況を測るため、いくつかの指標を定めています。

来年度から開催する評価委員会では、指標を使って進捗状況をご報告する想定です。以下では、素案で定めた指標について目標数値設定とその考え方をご説明します。

（１）KPI 設定の考え方（再掲）

① 21の基本施策を評価する指標（KPI）

将来イメージを実現するために実施する、21の基本施策のそれぞれについて、施策により住民が満足できているか、住民意識調査で測定します。



- ・満足度の計算方法：施策を重要だと思う方の、満足度を測ります。

【指標の計算方法】

まず、全回答者のうち、住民意識調査の①重要度で1～3を回答した回答者を測定の対象とします。

測定対象者のうち、③満足度について、1～3を回答した方の割合を測ります（＝不満足と回答していない人の割合）。

例）全回答者 100 人

うち重要度 1～3 を回答した測定対象者 80 人

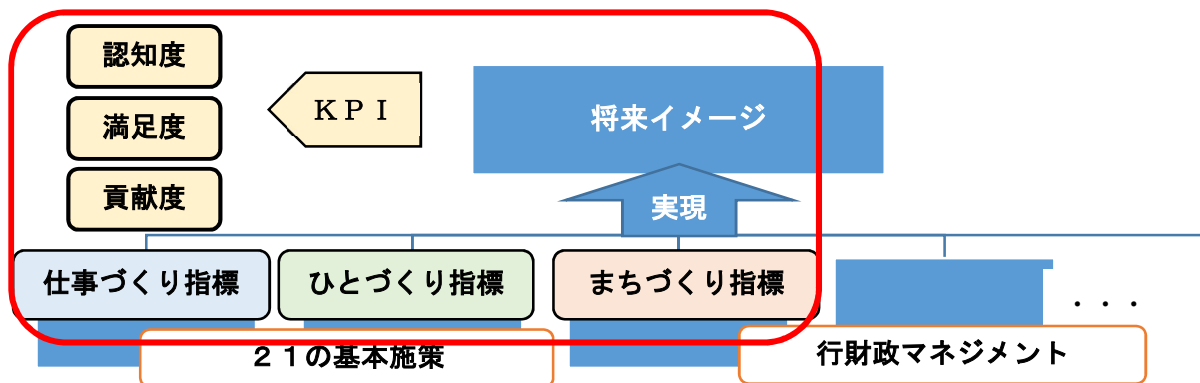
測定対象者のうち、質問 4（満足度）で 4～2 を回答した方 48 人

⇒ 満足度 48 人 ÷ 80 人 = 60 ポイント

②総合計画全体を評価する指標（KPI）

総合計画が目標としているのは、将来イメージの実現です。抽象的な将来イメージの達成を測るための具体的な指標（管理指標（K P I））を、素案では次のとおり考案しています。

管理指標（K P I）＝ 仕事づくり指標、ひとづくり指標、まちづくり指標



指標の計算方法

①の満足度と同じように、認知度、貢献度も計算します。

認知度、満足度、貢献度すべてをまとめて1つの指標で表現するため、次のような形で計算します。

例) 仕事づくり指標＝ $0.3 \times \text{認知度} + 0.4 \times \text{満足度} + 0.3 \times \text{貢献度}$

→ $0.3 \times \text{認知度 } 70 + 0.4 \times \text{満足度 } 40 + 0.3 \times \text{貢献度 } 60 = 55 \text{ ポイント}$

※認知度、満足度、貢献度共に同一基本目標内の施策平均を使用します。

（２）目標設定の考え方

① 21の基本施策を評価する指標（KPI）

・上記の KPI 設定の考え方を踏まえて目標数値を以下の通り設定します。

（ア）原則として全ての施策において KPI 指標値を現状値から95ポイントに上昇させる。

（イ）95ポイントに達するのに現状値から20%以上の上昇が求められる指標の場合（＝現状値：79ポイント以下）、現状値+20%を目標数値とする。

例) 現状値：75ポイント → 目標値：90ポイント

<考え方>

・第7次総合計画における KPI 設定の考え方では住民の方の満足度の質を高めていくことも大切にしながらも、現在不満足と感じている人の割合を減らしていくことにより重点を置いています。

- ・このため、住民意識調査において、当該施策について「重要」「ある程度重要」「少しは重要」と回答した人のうち、概ね9割強の人が満足している状態（＝不満足と答えた人が5%以下）の状態を目指して、目標数値を設定します。
- ・なお、一般的に一年で5%以上（4年で20%以上）の数値の向上は現実的でないことから、95ポイントに到達するのに現状値から20%以上の向上が求められる指標については現状値から20%を上限として目標数値を設定します。

② 総合計画全体を評価する指標（KPI）

- ・①と同じように KPI 設定の考え方を踏まえて目標数値を以下の通り設定します。
- （ア）原則として全ての基本目標において「認知度」「満足度」「貢献度」を現状値から95ポイントに上昇させる。
- （イ）95ポイントに達するのに現状値から20%以上の上昇が求められる場合（＝現状値：79ポイント以下）、現状値＋20%を目標数値とする。
例）現状値：75ポイント → 目標値：90ポイント
- （ウ）上記を踏まえ、各項目に所定の重みづけを行った合計点を目標数値とする。
例）認知度：95ポイント×0.3＋満足度95ポイント×0.4＋貢献度90ポイント×0.3＝93ポイント

<考え方>

- ・総合計画全体を評価する指標においては、満足度に加えて、認知度、貢献度についても数値化し、重みづけの上、KPI を算出しています。
- ・満足度においては（2）①において「概ね9割強の人が満足している状態を目指す」としているところ認知度、貢献度においても同様に9割強の人が認知、あるいは貢献している状態（＝「知らない」「やってみたくない」と答えた人が5%以下）の状態を目指して目標数値を設定します。
- ・（2）①と同様に一年で5%以上（4年で20%以上）の数値の向上は現実的でないことから、95ポイントに到達するのに現状値から20%以上の向上が求められる指標については、現状値から20%の向上を上限として目標数値を設定します。

（3）目標数値一覧

- ・上記の考え方を踏まえた各 KPI 指標の現状値と目標値は以下の通りとなっています。

■ 管理指標一覧

単位：pt

施策名		KPI指標	目標（案）	
地域で育む人づくり		85	→	95
1-1	地域で大切にすること子育て環境	89	→	95
1-2	次代の担い手を育む教育環境	86	→	95
1-3	生涯通じて取り組む健康づくり	89	→	95
1-4	個性を活かす障がい者福祉	84	→	95
1-5	安心して住み続けられる長寿社会	86	→	95
1-6	豊かな自然を活かしたひとづくり	83	→	95
1-7	郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ	78	→	94
地元をにぎわす仕事づくり		77	→	91
2-1	豊かな海と産物を活かした水産業	83	→	95
2-2	豊かな農地と産物活かした農業	78	→	94
2-3	新たな魅力や価値を生みだす商工業	83	→	95
2-4	何度も訪れたい観光・交流	81	→	95
2-5	新たなチャレンジを創る起業支援	73	→	88
2-6	価値ある産業を残す事業承継支援	76	→	92
2-7	働く環境づくり	80	→	95
安心できるまちづくり		87	→	95
3-1	まちと命を守る防災	85	→	95
3-2	つながりを活かした防犯	90	→	95
3-3	資源を活かす土地利用	73	→	88
3-4	安心な暮らしを支えるインフラ	86	→	95
3-5	暮らしを支える地域公共交通	76	→	91
3-6	多様性を認め、共に支え合うコミュニティ	83	→	95
3-7	心と体安らぐ自然・住環境	82	→	95
行財政マネジメント		-	→	-
4-1	職員の成長とやりがい	87	→	95
4-2	業務の高度化・効率化	89	→	95
4-3	町民の満足度向上	84	→	95
4-4	持続可能な行財政運営	84	→	95

<総合計画全体を評価する指標>

■ 現状値

	認知度	満足度	貢献度	KPI指標
ひとづくり	79	87	87	85
仕事づくり	68	81	81	77
まちづくり	86	84	91	87

■ 目標値（案）

	認知度	満足度	貢献度	KPI指標
ひとづくり	94	95	95	95
仕事づくり	82	95	95	91
まちづくり	95	95	95	95

キャッチコピー（一般公募枠）について

一般公募で応募のあったキャッチコピーを一つ選んで○をつけてください。

No.	キャッチコピー案	込められた想い
1	海 ひと 心 ずっと 住みたい、つなげたい。 みなみちた ええとこ！	海： 南知多の自然環境や恵みの象徴として表現 ひと：南知多に住み、これからも支えてくれる人は人材であり、宝として表現 心： 南知多町民の心情の良さ、人情のあつさ、今よりもよくしたいと願う心持ちを表現 中段・・・これから未来も、町としてあり続けてほしいという素朴な願いを表現 下段・・・自分へ、まわりの人へ、そして、将来仲間入りしてくれる人へのアピール 町が力を入れて、取り組んでいく事業や施策の根底に込める思いや願いは、それぞれ単発で考えるばかりではなく、横断的にとらえたり、共有したりして、取り組むことも必要であると思う。現在、「ウミ ひと ココロ」事業が定着しているので、その精神も生かせるのではと思った。
2	うねりを 明日へ 南知多を変えていく	「うねり」に、南知多を象徴する海の波、時代の変化をかけ合わせました。 2行目に、今、そして、これからの 必要なまちづくりへの覚悟を込めました。
3	かだいがある。 だから すすむ、みなみちた	まちづくりに向けて、現状認識を見据えて、取り組む思いを 込めました。
4	一緒にやる！ みらいをつくる みなみちた	南知多の未来について 共に夢を語り、知恵や考えを共有し、協働していく、そんな元気の若者男女のいるまちづくりが願いです。
5	この場所から笑顔の未来を創造する。	この場所から未来を創造する。 町の面影、歴史を残しながら時代のニーズと共に町は、変化し続ける。 笑顔あふれる南知多町に「住みたい！」「遊びに行こう！」と思われる未来を創造していく様をキャッチコピーにしました。
6	み 未来 見つけよう！ な なかまと つくろう！ み 魅力さがし ち ちた 先端には た たからものいっぱい	南知多の「過去」「現在」「未来」を見据えて、 みなみちた を「あいいうえお」作文風に 表してみました。
7	幸多く 活気溢れる まちづくり	我が町は、海の幸、山の幸が豊富で、南知多と言う文字の中にも、幸が見えます。幸に縦線二本加えれば南になります。行政と地域が共に幸せを支え合っているようで幸多くとれました。しかしながら、若い人が地元を離れ、人口が減少し、このままでは、寂れて行く一方でもっと活気溢れる町になるよう思い込め、このようなキャッチコピーを考えました。
8	どうなる？ こうしよう！ 南知多	まちづくりについて、誰でも興味を引くようにわかりやすく表現した。
9	ずっと南知多 もっと南知多 だから南知多	この町で生まれ育った人にも、観光で訪れる人にも、これから移り住もうとする人にも、南知多町を選ぶ理由がある。
10	おいしい海 たすけ合う人 つながる心 笑顔になれる町へ	海の幸や釣りや海水浴で楽しめる海を活かして、人と人との助け合いながら、いろんな思いがどんどんつながっていき、みんなにとって笑顔溢れる町になれるように。
11	す くら む 住・食・楽・夢 みなみちた	住 あたたかい人と豊かな自然 住んでよかったと言える町 食 海の幸 畑のお野菜 食べものはどれも美味しい町 楽 お囃子 お祭り コンサート 楽しい時間が過ごせる町 夢 どんどん夢がふくらみ 育てられる町 これらを維持するには住んでいる人が、協力して時にはふんばって守ったり乗り越える事も大切。「スクラム」でなく「すくらむ」やさしい連帯感をもって前に進みましょう！

選んだ番号

審議委員氏名

資料11

太陽と海と緑豊かなまちづくり

南知多町

ごあいさつ

令和3年3月

南知多町長 石黒和孝

はじめに

第7次南知多町総合計画では、「**わかりやすい計画**」「**つかう計画**」であることを最も重視し、これからの12年間において、本町が目指すべき方向性、とるべき戦略を明らかにし、「**日本一住みやすいまち**」を目指し「将来イメージ」を持って町全体が一丸となってまちづくりに取り組んでいくことが重要であります。

これまでも総合計画を策定し、それぞれの時代背景に沿ったまちづくりに取り組んできましたが、近年、社会情勢等が急激に変化する中、日本一住みやすいまちを目指して、**新しい総合計画の目玉**として、2つの転換を行いました。これは、毎年、町民のみなさんの意見や想いを町政に反映していく仕組みを取り入れました。

1つ目は、これまでの実施してきた**住民意識調査（アンケート調査）**の回答者を無作為抽出から、任期付きのモニター制度を導入し、継続的に満足度を測っていくこと。

2つ目は、この計画を具体化するための事業を記したアクションプランを住民のみなさまに**毎年評価**していただくこと。

この2つの仕組みは、南知多町創立60年の歴史で初めての試みであり、これまでにない町民のみなさんに寄り添った取り組みであります。

今ある南知多町の強みを大切に、進化し続ける南知多町として、町民一人ひとりが心豊かであり続け、多くの人から選ばれるまちに向かって、みなさんと一緒に新たな一歩を踏み出していきたいと思っています。

絆・選ばれる理由があるまち

～ Bonding , reason to be chosen ～

豊かな自然、きれいな海、恵みある里山、映える夕日。

恵まれた食、四季折々のおいしい海産物・農産物。

人とのつながり、のびのびとした暮らし。

素直な子ども、温かい友達、人情あふれる方言。

風情ある景観、受け継がれる歴史、にぎわいある祭り。

まちを盛り上げる観光、1年通して楽しむ花。

みんなが残したいみなみちたの好きなところ。

現代社会で薄れている良いところがたくさんある、

不安と孤独にとりこまれることのない希望のまち。

このまちの良さを、自分たちだけじゃなく、

地域を超えて、日本、世界に広げる。

世代の壁もなく、国や文化も関係なく、仲良くなり、

異なるもの同士でもつながる。

人が減っても、変わりなく助け合い支え合うことで心豊かに暮らしていける。

色んなものがつながり合うことで、

心豊かで新しい価値をつくっていくまちとなる。

多様なつながり＝「絆」を大切にし、活かすこと。

それが魅力となって住む・働く・訪れるまちとして「選ばれる」、

そんな姿を描いていきましょう。

目 次

第1章	計画策定にあたって	1
1	計画策定の趣旨	2
2	計画の在り方の見直し	3
3	計画の構成と期間	4
第2章	計画策定の背景	5
1	南知多町を取り巻く環境	6
2	社会情勢への対応	8
3	南知多町が目指すべき方向性	10
第3章	基本構想	11
1	将来イメージと基本理念	12
2	南知多町がとるべき戦略	14
3	まちづくりの基本目標・基本施策	18
4	人口ビジョンとKGI	20
5	重点政策	24
6	基本施策	26
7	行財政マネジメント	68
8	基本施策と個別計画との関連	75
第4章	計画の実現に向けて	77
1	総合計画の実行・進行管理	78
2	連携・協働・共創の推進	79
	資料編	80

第 1 章

計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

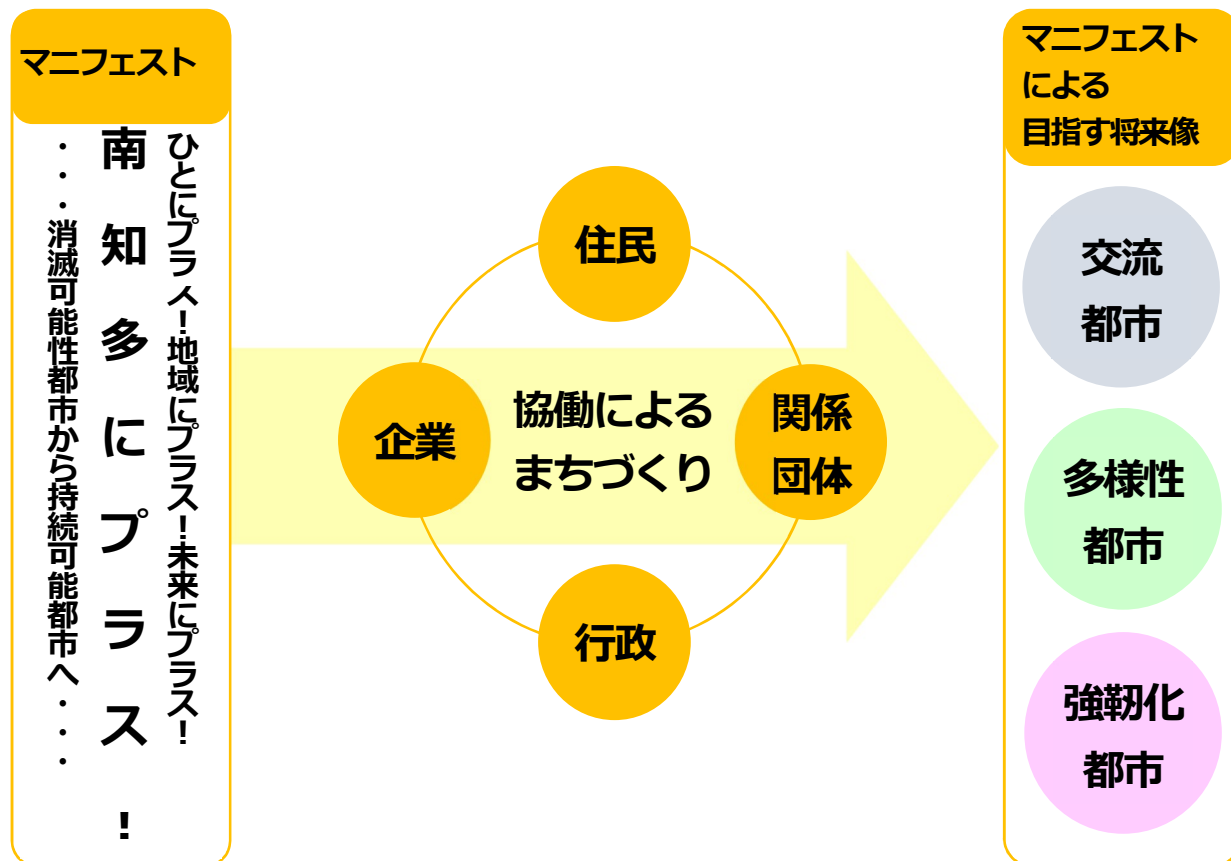
(1) 計画策定に向けて

地方自治法の一部改正（平成23年5月2日公布）により、国の地域主権改革のもと、市町村の基本構想の策定義務付けに関する規定が削除されましたが、本町では、地域の特色を生かした独自性のあるまちづくりの**最上位計画**として、今後も引き続き総合計画を位置づけていくため、総合計画策定に関する根拠条例を新たに整備し、第7次総合計画を策定することとしました。

(2) 総合計画の意義

総合計画は、本町のまちづくりの指針となるもので、本町が町長マニフェストを実行に移していくために町が実施する、施策や事業の計画です。

さらに、総合計画は行政のみならず、町民、企業、関係団体、その他多くの人々の協働によるまちづくりの実現を目指すための**総合的な戦略**として活用していくものでもあります。



2 計画の在り方の見直し

(1) これまでの取り組みと課題

本町ではこれまで、将来の本町の進むべき方向性を明らかにし、まちづくりの指針とするため、6次にわたり総合計画を策定し、その実行に取り組んできました。

しかし、実際の事務の執行にあたり計画が形骸化しており実効性に乏しいとの指摘もされるなど、様々な課題が生じてきています。

また、平成23年の地方自治法改正で、総合計画の基本構想の策定義務等が廃止されたことで、地方自治体の自主性と創意工夫による、地域の特色を生かした独自性のある取り組みが求められるようになっていきます。

そこで、第7次総合計画の策定にあたっては、これまでの課題や本町を取り巻く現状を踏まえ、本町における総合計画の在り方を見直すこととしました。

(2) 改善に向けた見直し

総合計画や個別計画（政策分野別の計画）等における課題とその改善の方向性を以下のとおり整理し、まちづくりの指針として分かりやすく実効性のある総合計画を目指します。

課 題

- 政策分野別の個別計画や、まち・ひと・しごと創生総合戦略など、多数の計画が存在しているため、複雑で効率的でない。
- 事業評価や予算・決算との連動が十分でないため、総合計画の実行や進捗管理、見直しが行いにくい。
- 総花的で、政策や事業の優先順位が明確でないため、人口の減少や財政の制約に対応した取舍選択が行いにくい。
- 文章量が多いため分かりにくく、町民に十分に理解、共有されていない。

改善の方向性

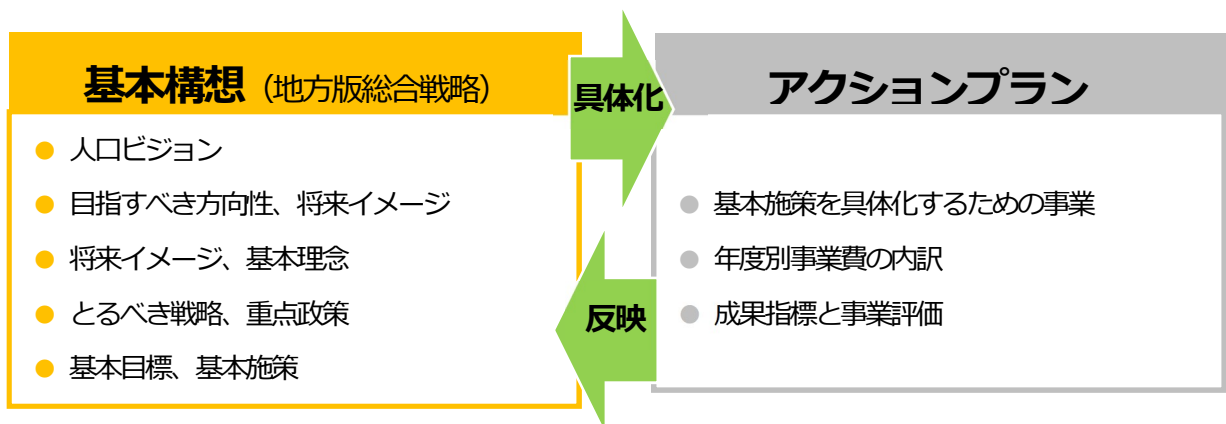
- 総合計画と各計画等との関係を整理、または一体化させることで、効率的な計画にする。
- 事業評価や予算、決算と連動させることで、実効的な計画にする。
- 政策の優先順位を明確にし、戦略的な計画にする。
- 簡潔な内容とすることで、わかりやすい計画にする。

わかりやすく、実効性のあるつかう総合計画を目指す

3 計画の構成と期間

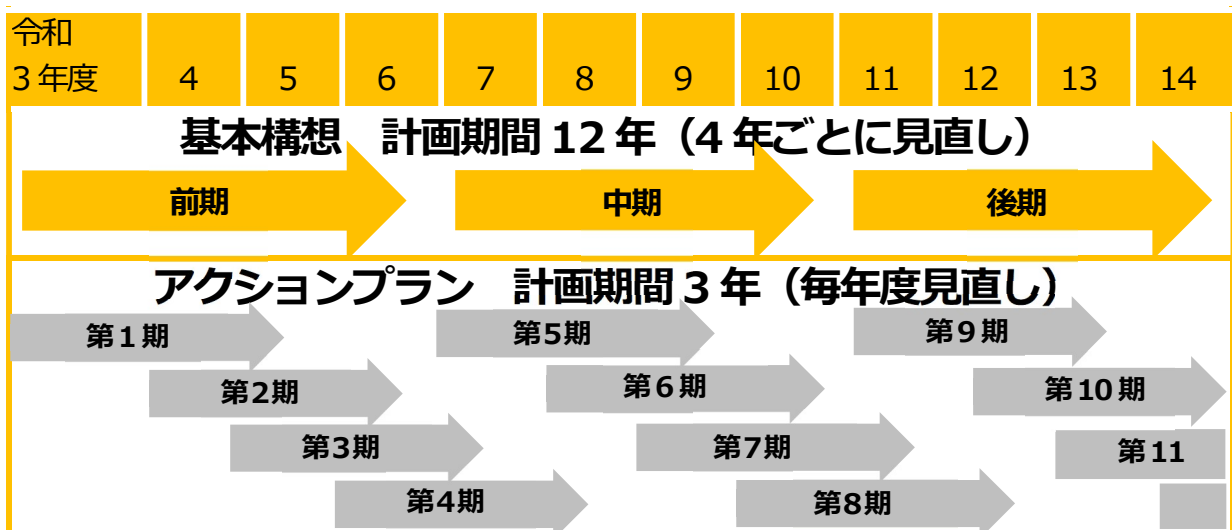
(1) 第7次総合計画の構成

第7次総合計画は、本町の目指すべき将来像等を示す「**基本構想**」と、それを実現するための「**アクションプラン**」の2層で構成されています。また、「基本構想」は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置付けることとします。「アクションプラン」は基本構想を具体化するもので、その進捗を毎年度評価し、基本構想の改訂に反映していきます。



(2) 第6次総合計画からの変更点

- 簡潔で分かりやすくするため、3部構成から**2部構成**に変更しました。
- 町長マニフェストとの整合を図るため、計画期間を11年から**12年**に変更しました。
第7次総合計画の計画期間は令和3年度から令和14年度までとします。
- 社会情勢の変化に柔軟に対応するため、総合計画の見直し期間を、5年ごとから**4年ごと**に変更しました。



第 2 章

計画策定の背景

1 南知多町を取り巻く環境

(1) 今後想定される社会環境の変化

本町が人口減少を抑制し、今後も独自性をもった持続的な自治体として存続するためには、急速な社会環境の変化に絶えず向き合いながら、常に長期的な社会の変化を見定めた上で、本町が目指すべき焦点と方向性を示す必要があります。



2050 年の
「世界」

アジアやアフリカの台頭により世界の構図が大きく変化

- | | |
|----|---|
| 人口 | <ul style="list-style-type: none">● 約 77 億人（2019 年）から約 97 億人（2050 年）へ増加する● アジアやアフリカにおいて人口が大幅に増加する● 欧州や北米地域の少子化と高齢化が進む |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none">● 地球温暖化対策のため温室効果ガスの削減の必要性が増大する● 海洋汚染などに対する環境保護の必要性が増大する● 最貧国の人口増加が持続可能な開発に影響を及ぼす |
| 経済 | <ul style="list-style-type: none">● アジアやアフリカが世界経済における存在感を強める● 人、モノ、情報の動きが世界規模で加速し続ける● 水、食料、エネルギーの需要が世界規模で増加する |



2050 年の
「日本」

人口減少と高齢化により社会と経済の構造が変化

- | | |
|----|---|
| 人口 | <ul style="list-style-type: none">● 約 1 億 2,600 万人（2019 年）から約 1 億 192 万人（2050 年）へ減少する● 老年（65 歳以上）人口がピークを迎え減少に転じる● 75 歳以上の一人暮らし世帯が 500 万世帯を超える |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none">● 社会保障給付費が約 6 割増加する● 環境に配慮した持続可能な開発が求められる● 仮想空間と現実空間が融合された高度な技術革新が進む |
| 経済 | <ul style="list-style-type: none">● 世界経済における日本の存在感が弱まる● 世界市場へ参入した外需型産業の必要性が増大する● 内需型産業は医療・福祉分野が中心となる |



2050 年の
「南知多町」

人口減少と高齢化による地域内経済の縮小が加速

- | | |
|----|---|
| 人口 | <ul style="list-style-type: none">● 約 1 万 7,700 人（2019 年）から約 7,500 人（2050 年推計）へ減少する● 出生数が大幅に減少する● 高齢化率が 50%を超えるが高齢者の人口は減少する |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none">● 人口減少と高齢化により自治機能が低下する● 高齢化にともなう医療・福祉分野の需要が増加する● 行政の広域化により行政の仕組みが変化する |
| 経済 | <ul style="list-style-type: none">● 人口減少と高齢化により地域内経済の縮小が加速する● 世界的な食糧需要の増大により一次産業のニーズが拡大する● 各産業の後継者不足が深刻化する |

(2) AIを活用した持続可能な日本の未来に向けた政策提言

平成29年9月5日に公表された、国立大学法人京都大学（以下「京都大学」という。）こころの未来研究センターの広井良典教授と、京都大学と株式会社日立製作所が開設した、日立未来課題探索共同研究部門（日立京大ラボ）の研究チームが行った共同研究「AIの活用により、持続可能な日本の未来に向けた政策を提言」により、AIを活用して、これからの日本に関する社会構想と政策提言が行われました。

AIを用いたシミュレーションにより、有識者があげた①人口や出生率、②財政や社会保障、③都市や地域、④環境や資源、⑤雇用の維持、⑥格差の解消、⑦幸福、⑧健康の維持・増進に関する149個の社会要因についての因果関係モデルに基づき、2018年から2052年までの35年間で約2万通りの未来シナリオの予測を行った結果、主に「都市集中シナリオ」と「地方分散シナリオ」の2つの傾向に分かれました。

「都市集中シナリオ」では、主に都市の企業が主導する技術革新によって、人口の都市への一極集中が進行することで、政府は支出を都市へ集中することができ、政府の財政は持ち直すものの、出生率の低下と格差の拡大がさらに進行し、個人の健康寿命と幸福感が低下します。

「地方分散シナリオ」では、政府の財政あるいは環境（CO2排出量など）を悪化させる可能性があるものの、地方への人口分散が起こり、出生率が持ち直して格差が縮小するとともに、個人の健康寿命や幸福感が増大します。

提言内容としては、2050年に向けた未来シナリオとして、日本全体が（2017年時点から）今後8～10年後までに「都市集中シナリオ」と「地方分散シナリオ」のどちらかを選択して必要な政策を実行すべきであり、持続可能性の観点からは「地方分散シナリオ」を選択して早急に対応することが望ましいとされました。

また、持続可能な「地方分散シナリオ」を実現するためには、地方税収、地域内エネルギー自給率、地方雇用など、地域内の経済循環を高める政策を（2017年時点から）約17～20年後まで継続的に実行する必要があります。

AIの活用により、持続可能な日本の未来に向けた政策を提言（抜粋）

- ① 2050年に向けた未来シナリオとして主に都市集中型と地方分散型のグループがある。
- ② （2017年時点から）8～10年後までに都市集中型か地方分散型かを選択して必要な政策を実行すべきである。
- ③ 持続可能な地方分散シナリオの実現には、（2017年時点から）約17～20年後まで継続的な政策実行が必要である。

持続可能な地方分散シナリオの実現に必要な政策

地方税収、地域内エネルギー自給率、地方雇用などについて経済循環を高める政策を継続して実施する必要がある

2 社会情勢への対応

（1）人口減少下における持続可能な行財政運営

人口減少下における持続可能な行財政運営を行うためには、財源の確保のみならず、歳出の一層のスリム化を図ることが必要です。人口に見合った公共施設の運営、費用対効果の高い事業を優先する、町単独ではなく近隣の自治体と連携して公共サービスを運営・提供するなど、効率的かつ効果的な行財政運営が求められます。

また、地域のニーズや課題の全てに行政の力だけで対応することは極めて困難です。そのため、行政、町民、企業、関係団体、その他多くの人々が力を合わせ、ともにまちづくりを推進していく協働体制を構築することが必要です。

(2) SDGsへの取り組み

SDGs（持続可能な開発の目標：Sustainable Development Goals）は、2015年9月に国連サミットで採択された、2030年までに達成する必要がある国際目標です。

日本でも、環境問題、高齢化、人口減少などに対応した社会の持続可能性が求められており、SDGs達成に向けて取り組むこととしています。そのため、本町においても、住民生活が将来にわたって持続可能になるよう、SDGsの視点を取り入れる必要があります。



(3) Society5.0による社会の変化

Society5.0は、第5期科学技術基本計画において提唱された、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会です。

Society5.0で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有されることで、今までにない新たな価値を生み出し、少子高齢化や地方の過疎化などの課題を克服することが期待されます。

そのため、本町においても、Society5.0による社会変化を想定した上で、既存の行政運営の在り方を見直す必要があります。



3 南知多町が目指すべき方向性

社会が激変する中においても、本町が持続可能な行政運営を維持するためには、先進技術を活用しつつ、本町の潜在力を引き出し、様々な不確実性に対応することが求められます。そのため、行政、町民、企業、関係団体、その他多くの人々が、目指すべき焦点と方向性を共有し、戦略的に行動する必要があります。

南知多町の5つの潜在力

【地勢】

- 名古屋市近郊
- 中部国際空港近郊
- 海に面した半島と島しょ部

【資源】

- 恵まれた自然環境
- 豊富な水産物と農産物
- 国内外に発信できる観光資源

【産業】

- 恵まれた自然環境を活かした水産業、農業
- 様々な観光資源を活用した観光業

【歴史文化】

- 多種多様な祭礼
- 島しょ部（篠島・日間賀島）の漁師文化

【生活】

- 人とのつながりに基づく生活
- 自然環境を生かした生活

南知多町の4つの危機

【自然災害の危機】

- 大規模地震及び津波被害による都市機能の喪失
- 異常気象による災害の増加
- 海水温の上昇に伴う海洋生態系の変化

【人口の危機】

- 人口減少による地域内の経済循環の縮小
- 税収減と義務的経費の増加による財政状況の悪化

【産業の危機】

- 後継者不足による一次・二次産業の衰退
- 人口減少による三次産業の衰退
- 新型感染症の流行による景気の悪化

【公共施設の危機】

- 人口減少にともなう運営効率の低下
- 老朽化による、事故、維持管理費の増大
- 公共交通機関の縮小

目指すべき方向性

時代のニーズに応えるべく、行政、町民、企業、関係団体、その他多くの人々の協働によって地域の潜在力を生かし、今後直面する危機に対処することで、持続可能なまちづくりを実現し、安心して「暮らし続けられるまち」をつくる。

第 3 章

基本構想

1 将来イメージと基本理念

(1) 将来イメージ

本町にかかわる人々が、第7次総合計画期間が終了する12年後、そしてさらにその先の将来も「こうあってほしい」と共有する本町の姿を、将来イメージとしてまとめました。

【将来イメージ】

絆・選ばれる理由があるまち

～ Bonding , reason to be chosen ～

<将来イメージに込められた願い>

本町には、現代社会で薄れているご近所づきあいやコミュニティ活動、地域での支え合いなど、人と人とのつながりが生活に残っています。これは、不安感と孤独感が立ち込める現代社会において、希望になりうる本町の強みです。

このつながりを、ご近所だけでなく、町内の地域間、近隣市町、全国、世界に広げる。また、多様な世代や文化、産業間、公と民、地方と都市など、異なるもの同士でもつながる。人口が減っていく中でも、助け合い支え合うことで心豊かに暮らしていける。色んなものがつながり合うことで、これまでになかった方法で課題を解決し、地方から新しい価値を創造する。

このように、多様なつながり＝「絆」を大切にし、活かすことで、心豊かで創造的なまちとなる。それが魅力となって住む・働く・訪れるまちとして「選ばれる」、そんな姿を本町の将来イメージとして提案します。

(2) まちづくりの基本理念

将来イメージ「絆・選ばれる理由があるまち」を実現していくために、まちづくりに関わる人々の行動指針として、基本理念を以下のようにまとめました。

基本理念

暮らし続けられるまちを“あなた” とつくる

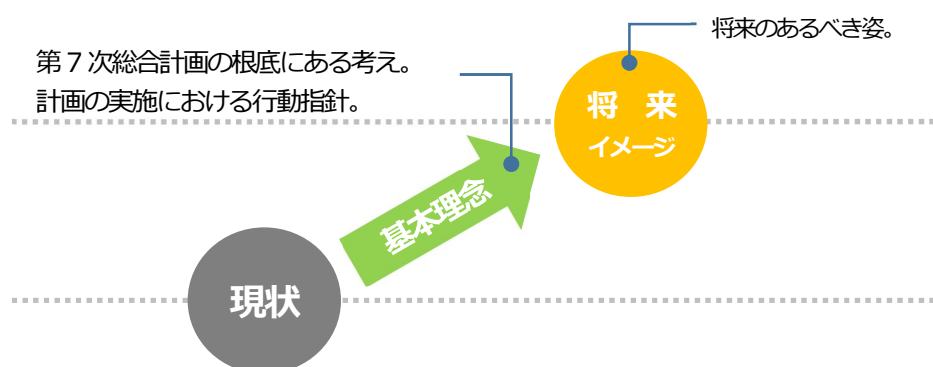
<基本理念に込められた想い>

将来イメージを実現するためのまちづくりは、行政の力だけではできません。

なぜなら、魅力的なまちは、行政だけでなく、町民、企業、関係団体、その他多くの人々の日々の積み重ねによってつくられるものだからです。

また、「自分がまちをつくっている」という実感をまちづくりに関わる全ての人が持つことによって、地域に対する愛着が湧いていき、「ここで暮らし続けたい」という思いに繋がります。

そのため、このまちを選んでくれた全ての「あなた」とともに、暮らし続けられるまちづくりを行います。

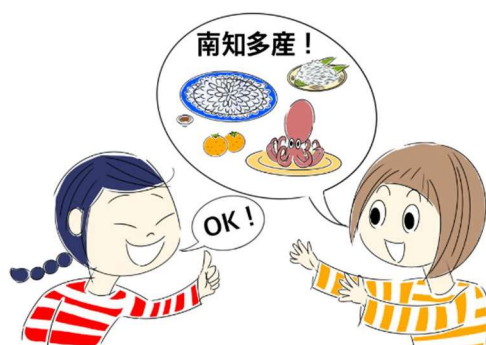


2 南知多町がとるべき戦略

(1) 子育て世代の居住と就業促進

町民が安心して生活していくための行政サービスの財源を、今後も安定して維持していくには、本町の税収構造からは「所得のある方が町内に不動産を所有して暮らす」ことが最も重要です。特に、子育て世代は、その多くが就労世帯であり、まとまった人数が自己の所有する住居に長期間居住する可能性が高いため、税収に直接的な影響を持つと考えられます。そのため、子育て世代に居住してもらうための魅力ある環境づくりが、戦略的に取り組む政策として求められます。

また、若い世代が子どもをもつために必要と感じる条件として最も大きいのは、仕事と育児の両立や安定した雇用といった、経済的な要素となっています。本町においては人口減少や高齢化に伴い就業者人口も減少しているため、子育て世代に対する就業等の支援を強化することで居住を促進すると同時に、働き手を増やし産業を活性化させ、さらに所得の増加を通じて税財源の安定化を図るといった、子育て支援と産業政策の連携が必要となります。



(2) 高齢者の就業促進

社会全体の高齢化が進む中で、人生 100 年時代の到来も目前となっています。本町においても高齢化は進んでいますが、同時に町内の就業者人口も減少している中、人手不足を解消し町内産業を活性化するためには、就業を希望する高齢者について就業を促進する環境作りが重要です。

高齢者の健康寿命の延伸を図るとともに就業を促進することは、高齢者自らが就業することで所得が向上するだけでなく、病気や介護のリスクを低下させ、今後増加する社会保障給付費の負担を軽減することが期待されます。また、子育て世代への支援のための新たなサービスなどに高齢者が活躍するなど、産業政策だけでなく、子育て世代への支援政策と連携することも期待されます。

そのため、高齢者が健康であるとともに様々な分野で活躍できる環境を整備し、就業を促進する必要があります。

(3) 地域内経済循環を拡大する「地消地産」

人口減少が進むことで、地域内経済の循環が縮小し、産業の衰退と町税の減収につながるものと想定されます。その結果、地域内の経済循環が十分に機能せず、地域の衰退が加速するとともに町の財政が悪化し、持続不能となることが懸念されます。地域内経済の循環を拡大するためには、人口減少を抑制し地元雇用を促進するだけでなく、物やサービスなど地元で消費するものは極力地元産にする「地消地産※1」を促進することで、「地域内のお金」が地域外へ流出しないようにするとともに、「地域外のお金」が地域内に流入する仕組みが求められます。

そのため、町民の「地消地産」を促進して「地域内のお金」が流出するのを防ぐとともに、町内観光客による「地消地産」を促進して「地域外のお金」を流入させることで、地域内経済の循環を拡大する必要があります。

※1 地消地産

株式会社日本総合研究所 主席研究員 藻谷浩介氏が提唱する、「地元で消費するものは極力地元産にする」概念であり、「地域で生産したものを地域で消費する」地産地消とは異なるもの。

(4) 訪日外国人観光客による「インバウンド消費」の促進

日本全体の人口減少が進む中で、今後内需型産業の規模は衰退していくことが予想されるため、増大する世界人口に目を向け外需型産業を成長させる必要があります。近年、訪日外国人による消費額の増加が著しく、本町においても、中部国際空港近郊であること、訪日外国人の中で大部分を占める東アジアの国々の中でも珍しい島しょ部特有の生活があるなど、観光資源を有効活用することでインバウンド消費を取り込む素地は十分にあると考えられます。

そのため、「訪日外国人観光客を増やす」「地消地産による地域内経済循環の拡大」等によるインバウンド消費を促進する必要があります。

(5) 都会にはない魅力を提示する就業と生活のモデルの創造

過去に実施した本町の住民意識調査結果では、転出したい理由として通勤・通学や生活の利便性が多く挙げられており、生産年齢人口（特に若者）の転出が人口の社会減の要因となっています。これは、「都会の方が就業しやすい」「都会の方が生活しやすい」という考えで、都市部での生活を希望している方々が相応にいるためと考えられます。

一方で、自然環境に恵まれた農山漁村地域で暮らしたいと考える都市部の移住希望者は多く、また今後、Society5.0の実現に向け技術革新が進む中で、居住地域に左右されない就業や生活スタイルが普及することが想定され、都市部に居住するメリットは低下すると考えられます。

そのため、都会にはない自然恵まれた魅力とそこでの就業と生活のモデルを創造・提示し、町内外へ発信することで、町民の転出の抑止とともに移住の促進を図る必要があります。



(6) 人口減少と高齢化が進む地域だからこそ「一歩進んだ」まちづくり

日本全体の高齢化が進む中で、現状において高齢化が進んでいない大都市ほど今後、高齢者が激増することが想定されます。それに対し、地方では人口減少と相まって、高齢者の絶対数が減少に転じることが想定されます。その結果、大都市では医療介護の体制整備が追い付かないのに対し、地方では現状で必要な医療介護体制を維持、供給できれば、今後も持続可能な運営となり、住みやすさの面で地方が優位になる可能性があります。

また、高齢化した地方において成立する持続可能なビジネスモデルを獲得することができれば、競合のない市場で高い利益を得ることができる、先行者ならではの利益である「先行者利益」を獲得することが可能となります。

本町は、日本国内の他自治体と比較しても、早い時期から人口減少と高齢化が進んでいますが、これを単に危機としてとらえるのではなく、他の自治体よりも先行して問題に着手できるチャンスととらえる発想も求められます。

そのため、厳しい現状に対して、行政、町民、企業、関係団体、その他多くの人々の協働によって地域の強みを生かし、前例がないことでも失敗を恐れず挑戦し、機敏性をもって対応する必要があります。

3 まちづくりの基本目標・基本施策

(1) 計画の体系図

将来イメージや町長マニフェストを実現していくため、「地域で育むひとづくり」「地元をにぎわす仕事づくり」「安心できるまちづくり」の3つの基本目標プラス「行財政マネジメント」を柱とし、それぞれで実施すべき施策を以下のように25の基本施策を定め、暮らし続けられるまちづくりを力強く実行していきます。

将来イメージ	基本理念	基本目標	基本施策	KPI (現状値)	KPI (目標値)
絆・選ばれる理由があるまち	暮らし続けられるまちを“あなた”とつくる	地域で育む人づくり	1-1 地域で大切にすること育て環境	89	95
			1-2 次代の担い手を育て教育環境	86	95
			1-3 生涯通じて取り組む健康づくり	89	95
			1-4 個性を活かす障がい者福祉	85	95
			1-5 安心して住み続けられる長寿社会	88	95
			1-6 豊かな自然を活かしたひとづくり	84	95
			1-7 郷土愛、つながりを育て文化・スポーツ	79	95
		地元をにぎわす仕事づくり	2-1 豊かな海と産物を活かした水産業	84	95
			2-2 豊かな農地と産物を活かした農業	79	95
			2-3 新たな魅力や価値を生みだす商工業	84	95
			2-4 何度も訪れたくなる観光・交流	82	95
			2-5 新たなチャレンジを創る起業支援	74	89
			2-6 価値ある産業を残す事業承継支援	77	93
			2-7 働く環境づくり	81	95
		安心できるまちづくり	3-1 まちと命を守る防災	85	95
			3-2 つながりを活かした交通安全と防犯	90	95
			3-3 資源を活かす土地利用	74	89
			3-4 安心な暮らしを支えるインフラ	88	95
			3-5 暮らしを支える地域公共交通	76	91
			3-6 多様性を認め、共に支え合うコミュニティ	84	95
			3-7 心と体安らぐ自然・住環境	82	95
		行財政マネジメント	4-1 職員の成長とやりがい	87	95
			4-2 業務の高度化、効率化	89	95
			4-3 町民の満足度向上	84	95
			4-4 持続可能な行財政運営	84	95

(2) まちづくりの基本目標（K P I）

施策や事業の実施により、本町が将来イメージに近づけているか、実現具合を図る尺度として、3つの基本目標に対し「ひとづくり指標」「仕事づくり指標」「まちづくり指標」をK P I（管理指標：Key Performance Indicator）として設定します。

まちづくりは、町民、企業、関係団体、その他多くの人々が、それぞれの取り組みについて知り、積極的に関わり、可能な範囲で貢献し、それらの活動によって満足度を高めていくことが重要です。そのため、住民意識調査により3つの基本目標を構成する21の基本施策に対し重要度、認知度、満足度、貢献度、（※1）を測り、これらを総合して数値化したものを指標とします（※2）。K P Iの向上を通じて、多様な人々がつながり、選ばれるまちづくりを目指します。

さらに21の基本施策では、住民意識調査による満足度をK P Iとして設定し、毎年度測定することで、基本目標の達成に向け、各施策の課題を把握し改善を図っていきます。

将来
イメージ

絆・選ばれる理由があるまち

地域で育むひとづくり

KPI：85pt（現状値）→ 95pt（目標値）

まちづくりのすべての基盤は「ひと」づくりです。町民1人ひとり心豊かであり続けられるよう目指します。

地元をにぎわす仕事づくり

KPI：77pt（現状値）→ 91pt（目標値）

恵まれた自然環境や様々な観光資源をを活かし、産業力を強化するとともに南知多町の強みを活かした雇用の場を確保できるよう目指します。

安心できるまちづくり

KPI：87pt（現状値）→ 95pt（目標値）

町民1人ひとりが希望を持ち、安全・安心でうるおいのある豊かな暮らしが実感できるよう目指します。

※1 例）認知度の場合：住民意識調査で、「よく知っている」「ある程度知っている」「知りたいと思っている」と回答した方の割合。関連度、貢献度についても同様。満足度については重要度について「とても重要」「ある程度重要」「少しは重要」と答えた人のうち「とても満足」「ある程度満足」「少しは満足」と回答した方の割合。

※2 数値化の計算式：認知度×0.3 + 満足度×0.4 + 貢献度×0.3

4 人口ビジョンとKGI

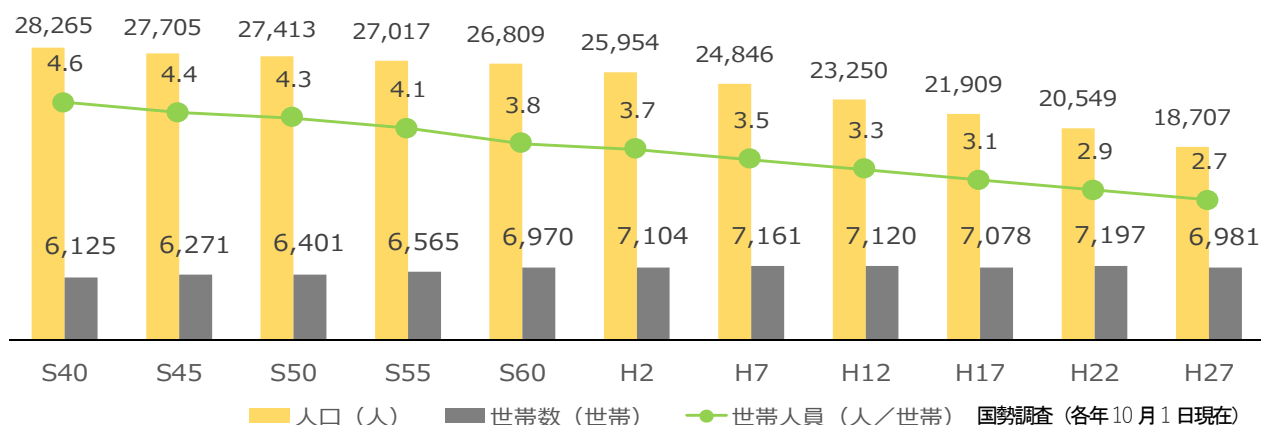
(1) 南知多町の将来人口と目標人口

本町の人口は、昭和40年以降、減少が続いており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、本町の将来人口は、以下の「南知多町の将来人口予測と目標人口」で示す通り令和32年時点で7,488人となり、令和47年時点で4,422人と推測されています。

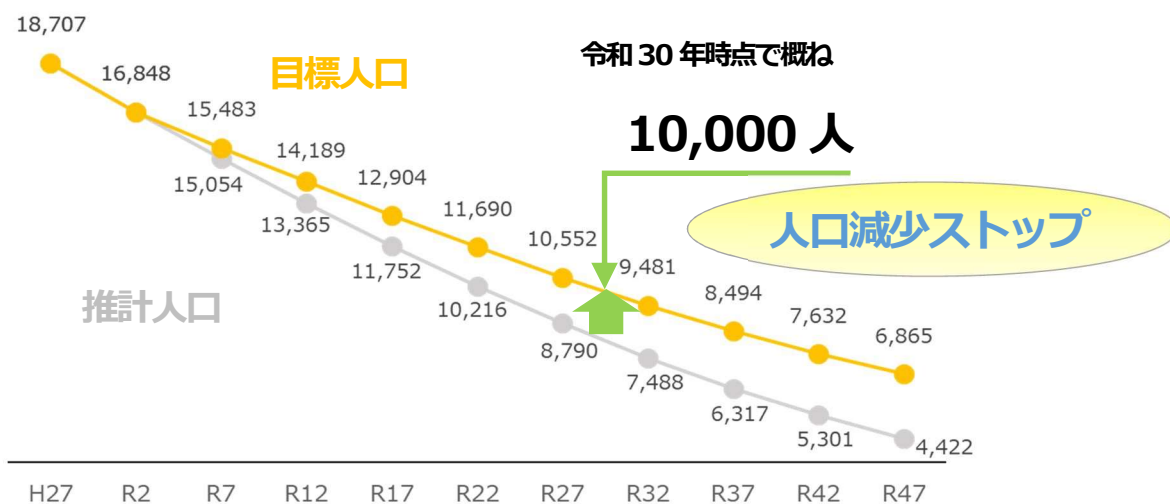
今後、日本全体で人口減少が進む中で、本町だけが人口増加に転じることは極めて困難であると考えられますが、急激な人口減少は住民生活にも行政運営にも大きな影響を与えることから、人口減少の抑制に努める必要があります。

そこで、30年後の人口が現状18,707人（平成27年度）の半分以下にならないように安定させるため、令和30年時点で概ね10,000人の人口を維持することを目標とします。

人口・世帯数の推移



南知多町の将来人口予測と目標人口



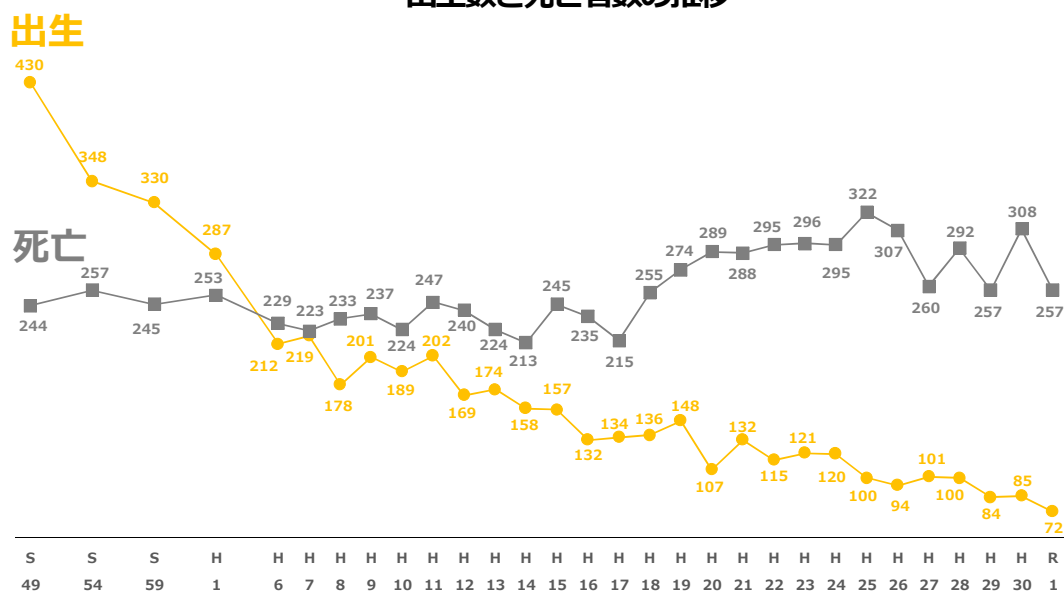
推計人口：国立社会保障・人口問題研究所推計結果に準拠して推計

(2) 少子化への対応

本町の自然動態（出生数と死亡数の変動）の推移をみると、平成6年以降は、自然減（出生数より死亡数が上回る状態）になっています。出生数は減少傾向が続いており、今後も減少することが予想されていることから、人口の自然減が続く推計となっています。

そのため、出生数を向上させるための、少子化対策が求められます。

出生数と死亡者数の推移



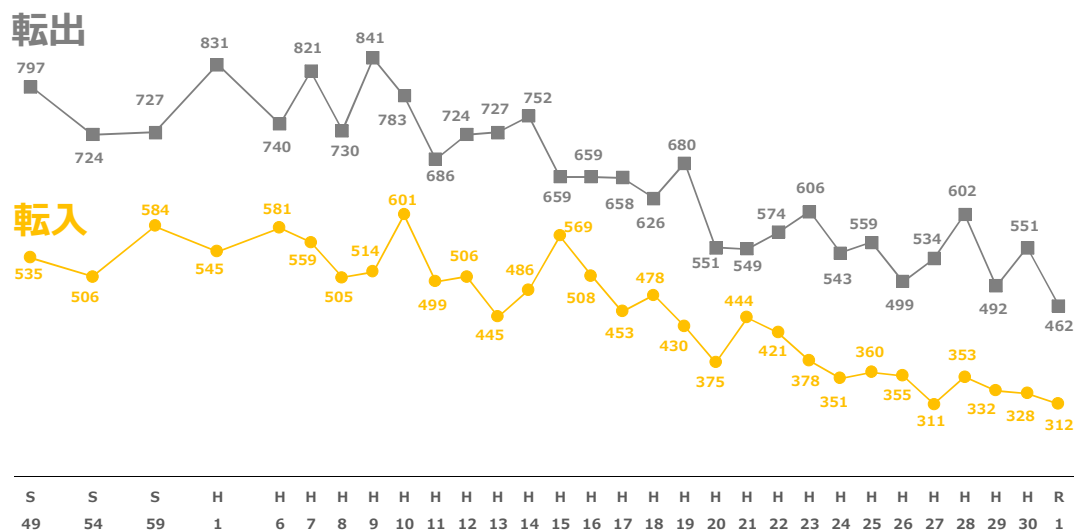
総務省統計局 住民基本台帳人口（各年3月31日、S49、S54は12月31日、H26以降は1月1日を基準日とする。）

(3) 人口流出への対応

本町の社会動態（転入者数と転出者数の変動）の推移をみると、昭和49年以降、社会減（転出が転入を上回る状態）が一貫して続いています。

そのため、転出を防ぎ、転入を促進するため、移住・定住対策が求められます。

転出者数と転入者数の推移



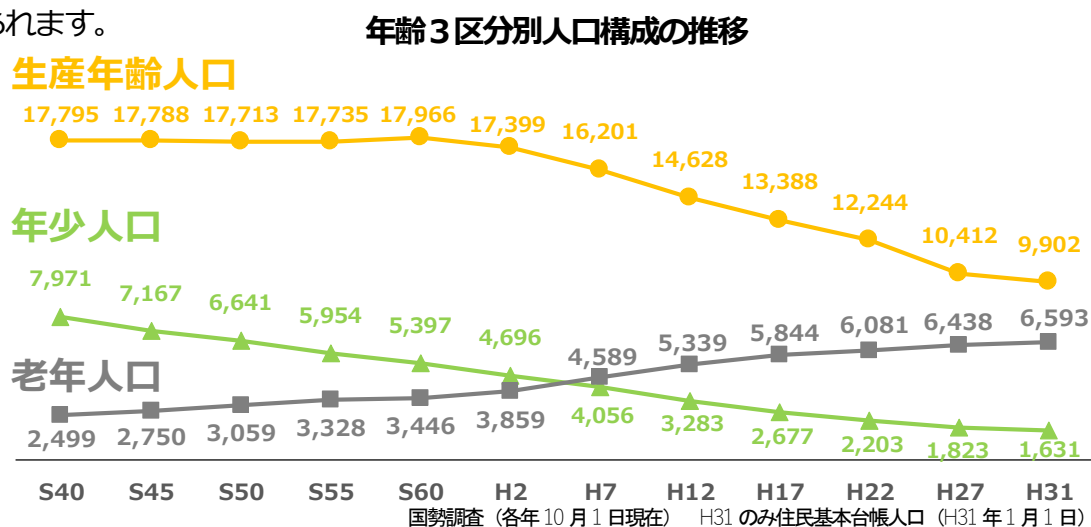
総務省統計局 住民基本台帳人口（各年3月31日、S49、S54は12月31日、H26以降は1月1日を基準日とする。）

(4) 高齢化社会への対応

本町の高齢化率の上昇は著しく、生産年齢人口（15～64歳）と年少人口（0～14歳）の割合が減少する一方で、老年人口（65歳以上）の割合は増加を続けています。

しかし、本町の総人口が減少の一途をたどる中で、老年人口や高齢化率も増加率はピークを過ぎています。また国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和2年前後から老年人口は減少に転じることが予想されています。

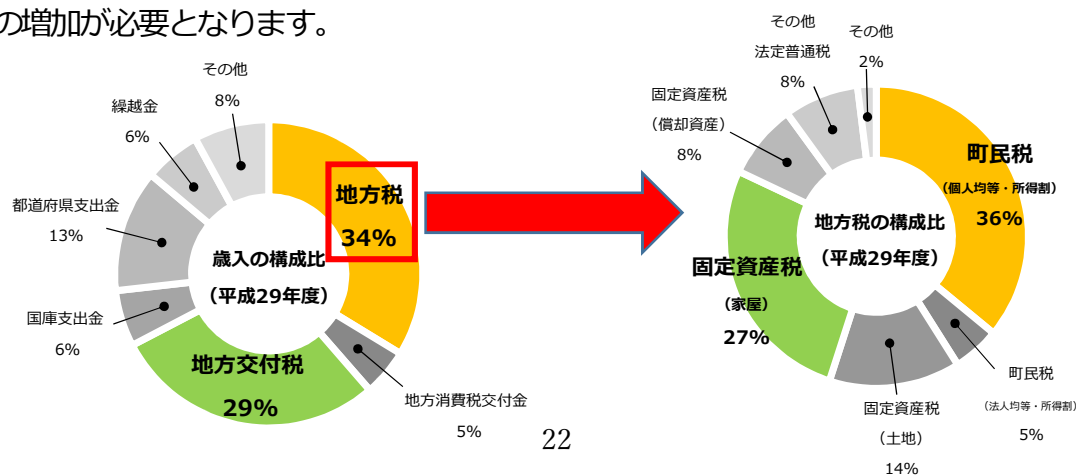
そのため、医療・福祉分野をはじめ、今後、高齢者の増加が進む都市部とは異なる対策が求められます。



(5) 行財政上の人口減少抑制と町民所得向上の必要性

本町の歳入の主なものは地方税と地方交付税です。地方税は個人、法人の所得より変動し、地方交付税は基準財政需要の測定単位として国勢調査時の人口を用いています。行政サービスの財源を確保するためには、人口減少を抑制し、人口の安定化を図る必要があります。

また、人口減少は日本全体で進んでおり、本町の人口が今後も減少することは避けられません。そのため、人口減少下においても安定した財源を確保するためには、一人当たりの町民所得の増加が必要となります。



(6) 目標指標（KGI）の設定

住民生活を将来にわたり持続可能なものとしていくためには、少子化、人口流出、高齢化に対応し、将来の人口減少を抑制し、行財政の持続可能性を確保していくことが必要となります。これらの課題に向き合い、解決に向けまちづくりに取り組んでいくために目指すべき指標として、第7次総合計画のKGI（目標指標：Key Goal Indicator）を出生数とします。

令和30年時点で概ね10,000人の人口を維持するために、第7次総合計画の終了（令和14年度）時点で維持すべき出生数として、KGIの目標数値を75人とします。

KGI

（KGIとは・・・Key Goal Indicator（キーゴールインディケーター）の略で、目標指標の事を言います。）

総合計画終了時点（令和14年度）で維持すべき出生数
75人

出生数の向上には、若年層の転出の抑制と転入の増加、出生率の向上など、人口の安定化に必要な多くの要素が関わっています。これらの要素を向上させるには、子育て支援だけでなく、仕事、住環境など、様々な観点から魅力あるまちづくりが必要となります。

次章以降では、具体的にどのようなまちづくりを目指すのか、方向性や将来像を定め、それを実現していく戦略、政策、施策を検討していきます。

5 重点政策

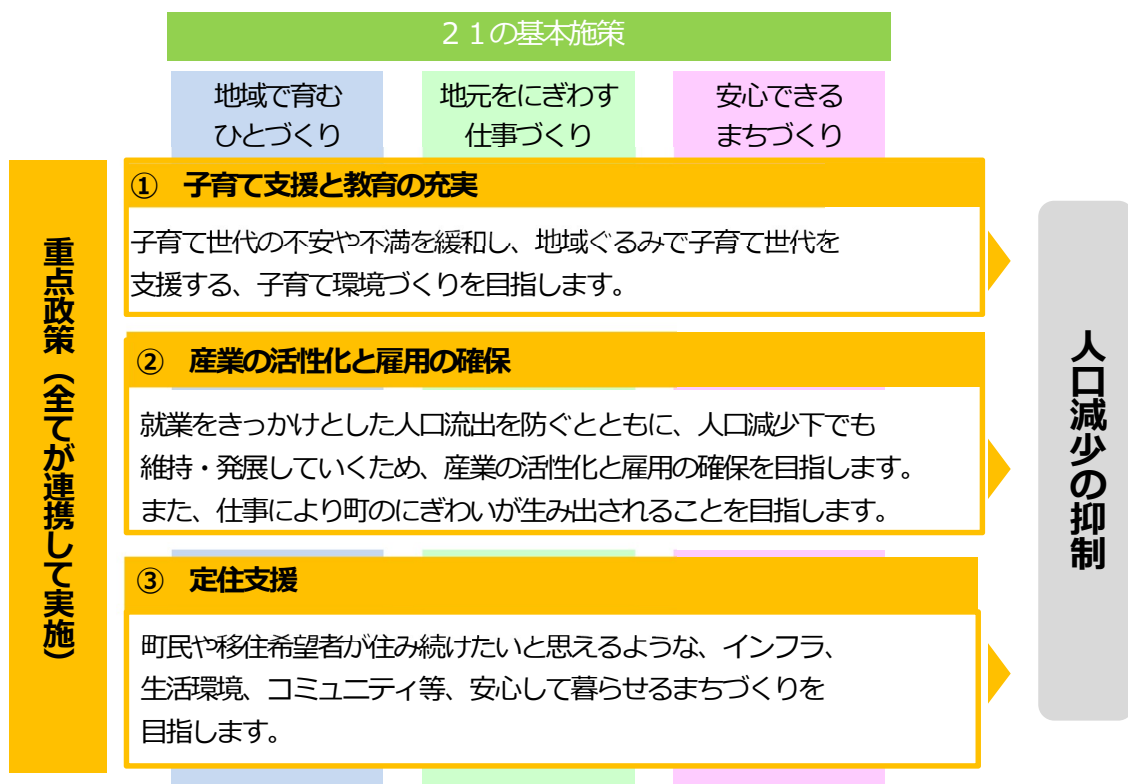
本町が将来も安心して暮らし続けられるまちであるために、優先的に取り組まなければならない政策を、重点政策として位置付けました。

(1) 重点政策の考え方

早期に人口の安定化を図り、住民生活及び行財政の持続可能性を確保していくための施策は、

一つの分野だけで実現できるものではありません。例えば、子どもを産み育てるために子育て支援だけでなく、生活を支える仕事や収入や、仕事と子育てを両立できる職場環境も重要です。そのため、「まちづくりの施策体系」で整理した21の**基本施策の全てが横断的に連携し取り組んでいく「重点政策」**を定めました。

重点政策は「**子育て支援と教育の充実**」、「**産業の活性化と雇用の確保**」、「**定住支援**」の3本とし、優先順位を定めて実施していきます。



(2) 重点政策の実行

行政が実施する様々な事業のうち、重点政策に該当する事業を、総合計画を実行するための「アクションプラン」に記載します。アクションプランに記載した事業は、優先的に予算を配分し、行政の縦割りの壁を越えて様々な部署が連携して実施していきます。



(3) 重点政策の管理指標（KPI）

重点政策が実現できているか進捗を確認するための指標と毎年度の目標値を、以下のように設定しました。総合計画の見直しまでの4年間、目標値を達成できているか毎年度確認し、目標と実態に大きな差が生じた場合は原因を分析し改善につなげていきます。

① 子育て支援と教育の充実

- 希望の保育所に入所している乳・幼児の割合 100%
- 放課後児童クラブの申し込みに対する充足率 100%
- 赤ちゃん訪問の実施率 100%

② 産業の活性化と雇用の確保

- 新規漁業就業者数 6人/年
- 新規農業就業者数 2人/年
- 観光客数 270万人/年
- 商工会会員数 1000事業者

③ 定住支援

- 空き家バンク相談件数 56人/年
- 空き家バンク契約件数 14人/年
- 空き家バンク移住者数 17人/年
- コミュニティバス利用者数 20万人/年

6 基本施策

基本目標1 地域で育む人づくり

1-1 地域で大切にする子育て環境



1. 現状と課題

本町の強みとして、自然が豊かで遊びのびと遊べる環境がある一方で、出生数は減少傾向にあり、子育て環境整備に向けた取り組みが必要となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

母子の健康が保持・増進され、豊かな自然の中で子どもが遊び、子育てと仕事が両立できる、子育て世代に選ばれるまちを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

子育て環境は各家庭の問題と捉えるのではなく、地域全体で取り組んでいく重要なテーマであると位置付け、以下の内容に取り組んでいきます。

乳幼児健診、訪問指導、育児相談等切れ目のない子育て支援サービスの充実を図ります。

保育所再配置を検討し、適正な児童数での保育所運営、公園環境の維持管理、歩道の整備等を進めます。

十分な福祉・医療サービスを受け、安心して生活するために、子どもやひとり親などの医療費や不妊に悩む夫婦の一般不妊治療費を助成します。

現在実施している子育て支援事業や一時保育、延長保育等の保育サービスを充実させるとともに、ファミリー・サポート・センター等の新しい事業についてはニーズを考慮し実施を検討するなど、町として子育てを応援するため実践的な取り組みを行っていきます。

(3) 地域との協働

地域の大人が子どもを見守り、子育て世代同士が協力し合う活動を支援します。また、近年普及しているスマートフォンアプリを利用した子育て関係のサービス等、民間サービスの普及による課題への対応を検討します。

住民の取組例
○子育て世代同士が交流したり、協力し合う活動に積極的に参加する。 ○近所の子供への声掛けや見守りをする。 ○違う地区同士の親子が関わり、連携できる機会を増やす。・・・など
行政の取組例
○18歳に達する年度末までの子どもの医療費（保険診療分）の自己負担額を助成しています。 ○子育て支援センターは親子で遊べる場所の提供や、子育てに関する相談などを行っています。どんぐり園は、親子通園を行い、一人一人の子どもの特性を理解し、保護者とともに子どもの発達を援助しています。 ○子育て世代の親が悩みを抱え孤立することを防ぐため、親子で気軽に参加できる「親子ふれあいひろば」を開催し、親同士が話し合うことができる場を提供しています。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町子ども・子育て支援事業計画	令和2年度～令和6年度
南知多町保育所再配置計画	令和2年度～令和21年度
南知多町ごみ減量化（有料化）実施計画	平成29年度～
橋梁長寿命化修繕計画	平成27年度～令和6年度
舗装修繕計画	平成28年度～令和17年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（p t）	89	95

1－2 次代の担い手を育む教育環境

該当するSDGsのアイコン



1. 現状と課題

町内の小中学校はすべて小規模学校であり、きめ細やかな教育指導が行われています。しかし、集団の中で、切磋琢磨することを通じて、判断力や社会性などを身に付けていくためには、一定規模の児童生徒の集団を確保することが必要であり、それを踏まえた適正な学校規模を図っていく必要があります。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

学校、家庭、地域が連携して「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」からなる「生きる力」を育むことができる学校環境を整え、本町の次代を担う人材の育成を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

実現したい教育の姿・環境を見据え、「南知多町立小中学校規模適正化基本計画」に沿って、学校の適正配置、規模の適正化を進めていきます。

老朽化状況の把握、各学校施設の改築、長寿命化を行っていくための、長寿命化計画を策定します。

外国語や、プログラミング教育など、次代に必要な教育カリキュラムの作成、実施を進めます。

「GIGAスクール構想」の実現に向けて、国等の支援も活用して学校のICT環境の整備とICTを活用した学習活動の充実を進めます。

児童・生徒が地域に愛着を持つために、農・漁業体験をはじめとした自然の中での学習、伝統行事等への参加、地元の食材を使った給食等、郷土教育の拡充に取り組みます。また、それらを踏まえた上で、児童・生徒が本町の未来を考える機会の創出を推進します。

(3) 地域との協働

地域の方からの意見や活動に対する協力をいただき、地域に開けた学校運営ができるよう進めます。

郷土教育や総合学習等を通じて、地域社会が教育に参加いただけるよう取り組みます。

住民の取組例
○登下校の見守り、学習支援、行事・部活動支援などの学校支援ボランティア。 ○地元産業の体験等、子供に体験学習の機会を提供すること。・・・など
行政の取組例
○個別の支援が必要な児童生徒に対して、学習生活支援員やスクールソーシャルワーカーなどきめ細かい学習生活サポートの実施や、地域のことを学習する総合学習、職場体験事業などを行っています。 ○児童生徒の望ましい教育環境の実現と教育の質の充実のため、学校の統廃合を含めて、学校規模適正化・適正配置の検討を行っています。 ○安全な給食を作るために、施設や調理器具などの修理・点検を行っています。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町教育基本計画	令和3年度～令和13年度
南知多町自殺対策計画	令和2年度～令和6年度
学校施設長寿命化計画	令和3年度～令和42年度
南知多町立小中学校規模適正化基本計画	令和2年度～未定
南知多町新学校給食センター整備基本計画	平成30年度～令和3年度
南知多町ごみ減量化（有料化）実施計画	平成29年度～

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	86	95

1－3 生涯通じて取り組む健康づくり



1. 現状と課題

誰もが本人の希望に応じ働き続け、退職後も元気で充実した老後を送るためには、生涯を通じて健康づくりが重要です。一方で、医師・保健師等の確保、救急医療体制の確保、健診受診率の向上、生活に不可欠な医療機関へのアクセス、地域の保健医療体制の整備が課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

生活習慣の改善などの日常的な健康づくりや予防医療の充実により、重篤な病気にかかる可能性を減らし、健康寿命を延ばすことで、町民の生活の質を高めるとともに、医療に関わるコストの削減を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

母子健診や特定健診、その他の健診について、受診対象世代等に応じた工夫、拡充に取り組み、受診率を向上を図ります。

健康教育、食生活改善事業、介護予防講座など、町民の健康づくりに役立つ機会の充実に取り組みます。

乳幼児から高齢者まで健康と生命を守る予防接種事業を推進します。

医師・保健師等の待遇改善に必要な財源の確保や、遠隔地医療など新たな技術の活用等、医師・保健師等の確保対策を検討します。

行政、知多南部地域における公的病院の医療機関と地域医療機関の連携により、安定的、継続的な医療の確保を図ります。

(3) 地域との協働

ご近所同士や友人知人など、誘い合って健診等へ参加いただくことで、より多くの方に健康づくりの機会を提供していきます。

住民の取組例
○規則正しい生活リズム、定期的な運動、禁煙などを心掛けている。 ○健康診断を積極的に受けている ○「健康経営（従業員の健康を、企業等の活力、生産性の向上につなげる取り組み）」を実践している。・・・など
行政の取組例
○篠島と日間賀島でも安心して医者にかかるように診療所の経費の一部を補助しています。 ○病気の予防と感染症の広がりを防ぐために、予防接種の実施を進めています。 ○がんをできるだけ早く発見し、治療できるようにがん検診を行っています。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
けんこう南知多プラン	平成27年度～令和6年度
特定健康審査等実施計画・国民健康保険データヘルス計画	平成30年度～令和5年度
南知多町自殺対策計画	令和2年度～令和6年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（p t）	89	95

1－4 個性を活かす障がい者福祉

該当するSDGsのアイコン



1. 現状と課題

本町の障がい者手帳所持者数はほぼ横ばい傾向ですが、身体障がい者や重度障がい者は65歳以上の高齢者の割合が多くなっていることから、以下が課題となっています。

- ・障がい者の高齢化や重度化
- ・介護者・介助者の高齢化
- ・障がい者の自立と親亡き後の生活
- ・グループホーム等の施設の不足
- ・福祉サービスの人材確保

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

思いやりの心によってみんなで支え合い、誰もが地域の中で自立した生活ができ、それぞれの特性に応じた多様性が発揮できるような地域福祉の実現を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

各障がい福祉サービスの見込量や確保方針を示すための、障害者基本法、障害者総合支援法及び児童福祉法に基づく計画を進めます。

自立支援等の充実により、福祉施設の入所者の地域生活への移行や福祉施設から一般就労への移行等を図ります。

企業等による障がい者の雇用や、多様性を活かした社会参加を支援します。

コミュニティやボランティアなど町民の自発的な福祉活動の推進を支援します。

不自由なく医療・福祉サービスを受け、安心して生活するために、障がい者の医療費助成や障がい福祉サービスを提供していきます。

(3) 地域との協働

障がいへの理解、支援を町民や住民団体に広げるとともに、民間事業者における積極的な障害者雇用促進等を通じ、地域と行政との協働による福祉活動を推進します。

住民の取組例
○授産施設や福祉作業所の製品を購入、サービスを利用している。 ○障害に対しての正しい知識を持っている。障がい者の得意なことや才能を知り、評価している。 ○授産施設に仕事を出すなど応援している。・・・など
行政の取組例
○社会福祉協議会や民生委員、児童委員などの社会福祉団体の活動に対して費用の支援を行っています。 ○障がいのある方への福祉サービスや医療サービスの提供を行っています。 ○障がいのある方が安心して暮らすことのできる地域社会をつくれます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
障がい者計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画	令和3年度～令和5年度
知多地域成年後見制度利用促進計画	令和2年度～令和6年度
南知多町都市計画マスタープラン	令和3年度～令和13年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	85	95

1-5 安心して住み続けられる長寿社会



1. 現状と課題

本町は、漁師や農家、観光業者など自営業が多く、一般的な定年の年齢後も、体力の続く限り元気に働く人が多いという強みがあります。一方で、高齢化と若年層の流出に伴い家族による介護力の低下が予想され、受け皿となるサービス基盤や地域づくりが課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

保健、医療、福祉等の各政策や、互いに助け合い支えあうコミュニティにより、年をとっても、また要介護状態となっても、住み慣れた地域で暮らし続けられる長寿社会の実現を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

登下校や遊び・教育等を始めとした地域の様々な場で、元気な高齢者に活躍いただくなど、若い世代と高齢者が交流し、支え合いの意識を持つ機会を創出します。

効果的な介護の方法の習得、介護者の不安・悩みの緩和等の機会を提供します。

高齢者の暮らしを支えるための、在宅福祉サービス、高齢者支援事業を提供していきます。また民間事業者を含めた介護サービスに従事する人材の確保を支援します。

地域ケア会議等を通じて、在宅医療、介護連携等の環境整備を推進します。

(3) 地域との協働

子どもや若い世代と、高齢者が交流し、互いに支え合い見守り合う地域づくりを推進します。

住民の取組例
○高齢者は子供の見守りや学習支援、若年者はPC・スマートフォン操作や体力の要る作業など、世代間でお互いをサポートしている。 ○子供と高齢者が交流する行事などに積極的に参加している。 ○移動販売や買い物支援、宅配サービスを充実させている・・・など
行政の取組例
○高齢者が自分の家でいつまでも暮らすことができるよう、配食サービスや、紙おむつの費用を支援する事業などを行います。 ○介護が必要になった高齢者に対して、ヘルパー派遣や施設入所等の福祉サービスを提供したり、いつまでも自分の力で生活できるよう、介護予防事業を行います。 ○高齢になっても地域において豊かな気持ちで元気に暮らし続けてもらうため、老人クラブ活動に対して費用を支援します。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
けんこう南知多プラン	平成27年度～令和6年度
南知多町自殺対策計画	令和2年度～令和6年度
南知多町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画	令和3年度～令和5年度
知多地域成年後見制度利用促進計画	令和2年度～令和6年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（p t）	88	95

1－6 豊かな自然を活かしたひとづくり



1. 現状と課題

町内外で実施された各種のアンケートでは、町民や移住希望者の自然を重視する結果が出ており、選ばれるまちであるためには、自然とふれあう機会の充実が重要と考えられます。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

多くの方にとって本町が、住みたい・住み続けたい・戻りたいと思えるように、自然と親しむ機会が確保されることを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

地域への愛着づくりや、移住、事業承継のきっかけづくりとして、農・漁業体験や、自然とふれあうプログラムの充実を図ります。

より多くの方が余暇に自然と親しむため、自然のなかで行うアウトドア等の活動の普及・展開を支援します。

また、上記の取組ができるよう、美しい自然を守る活動の普及・展開を支援します。

(3) 地域との協働

美しい自然を守るため、地域や諸団体等とともに、自然環境の保全に取り組みます。また、美しい南知多を日頃から楽しみ、SNS等で積極的に魅力を発信いただくとともに、環境改善の取り組みにも理解いただけるよう取り組みます。

住民の取組例
○町内の野山、河川、海などへ出かけ、自然と親しんでいる（個人）。 ○子供を自然の中で遊ばせ、自然との付き合い方を学ばせる（個人）。 ○農・水産業体験、地元の食材を使った料理体験、アウトドア体験などの機会を提供する（事業者）。・・・など
行政の取組例
○田畑周辺の草刈清掃、花の植栽など、農業者と地域住民との交流活動に対し支援を行っています。 ○河川の水質浄化につながる合併処理浄化槽の設置費用を補助します。また、豊かな自然に親しむため、自然観察会を開催します。 ○南知多町以外の地域からの移住・定住者を呼び込むための様々な取組を進めます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
浜の活力再生プラン	令和元年度～令和5年度
浜の活力再生広域プラン	令和3年度～令和7年度
南知多農業振興地域整備計画	令和2年度～令和11年度
南知多町子ども・子育て支援事業計画	令和2年度～令和6年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	84	95

1-7 郷土愛、つながりを育む文化・スポーツ

該当するSDGsのアイコン



1. 現状と課題

伝統行事やスポーツ活動は、町民の交流の場となり、健康で充実した余暇を過ごすために重要である一方、高齢化に伴う参加者や後継者の減少を踏まえた活動の在り方の見直し、施設の老朽化への対応が課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

伝統・文化を保存し次代へ伝え、情報発信することで、地元にも愛着と誇りを持てる次代の育成や、文化を活かした観光・交流の振興を目指します。また、文化・スポーツ活動が、町民の交流や、健康の維持増進につながることを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

今後必要となる公共施設再配置方針を定め、施設の再配置や長寿命化、修繕を進めます。

郷土教育や高齢者が持つ伝統技術など、若い世代が伝統文化や技術に触れる機会の確保に取り組めます。

生涯学習講座やスポーツ等の行事は、町民のニーズに即した内容や運営により、参加者の維持・増加を図ります。

文化財や伝統文化保存の担い手確保など、従来の文化財等の保存・活用の取り組みのほか、新たな取り組みについても検討します。

伝統文化に触れ、体験する観光プログラムの開発、実施について検討します。

(3) 地域との協働

地域行事等は、社会教育法の趣旨に基づき、地域独自の活動を尊重しつつ、地域の求めに応じて助言を行うなど、それぞれの活動が円滑に進められるよう協力します。

住民の取組例
○地域の伝統行事、文化・スポーツ活動などに積極的に参加する（個人）。 ○伝統行事の意味や歴史を学ぶ（個人）。 ○担い手が少なくなる中、伝統行事などを保存していくため、負担が少なく参加しやすい行事にするなど、地域で続く取り組みを考える（関係者）。・・・など
行政の取組例
○子どもから大人まで、様々な年代を対象とした講座（教室）や、「こどもまつり（映画会）」を開催し、町民に学習の機会を提供しています。 ○住民同士の交流や心身の健康増進のために、親子体育教室やミニテニス大会などのスポーツ教室や大会を開催しています。 ○町民に活動や学習の場を提供するため、公民館や図書室などの施設の点検・修理などを行い、正常で安全な状態に保ちます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
けんこう南知多プラン	平成27年度～令和6年度
教育基本計画	令和3年度～令和13年度
南知多町生涯学習推進計画	平成24年度～令和3年度
南知多町文化財保存活用地域計画	令和4年度～未定
南知多町公共施設等総合管理計画	平成29年度～令和12年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	79	95

2-1 豊かな海と産物を活かした水産業



1. 現状と課題

本町の水産業は、豊かな漁場や良好な漁港といった強みから、愛知県内最大の水揚げ量、県内最多の漁業従事者を擁しています。また、水産業は本町の重要な観光資源でもあり、町民にとっても南知多町の象徴的な存在です。

一方で、漁場の環境悪化による漁獲量減少や燃料費高騰などのコスト高、食生活の変化による消費量減少など、経営環境が悪化し、従事者の高齢化や後継者不足が続いています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

経営が安定し、水産業従事者や就業希望者にとって魅力ある水産業を目指します。

また、若者をはじめとした町民にとっても、観光客にとっても、美味しい海の幸が本町の魅力であり続け、本町産業全体の価値創出の源泉であり続けることを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

水産資源の持続可能性を確保するため、漁場の造成や水質の改善などの環境保全、栽培漁業や資源管理型漁業を推進します。

水産物消費量の拡大のため、魚食普及のPRや、観光・宿泊での目玉としての水産物の活用を促進します。

水産業者等の設備の近代化支援により、生産性向上や、水産業従事者の就労環境の改善、衛生管理の強化を図ります。

現代の生活スタイルに適した加工品、市場に出荷しても安い魚種の有効活用、輸出力の強化など、販売の安定化と高付加価値化を図ります。

(3) 地域との協働

美味しい南知多の水産物を日頃から味わい、SNS（社会的ネットワークを構築するサービス：SOCIAL NETWORKING SERVICE）や口コミ等で積極的に魅力を発信いただくと

もに、環境改善の取り組みにも理解いただけるよう取り組みます。

また、水産資源の持続可能性の確保に向け、町内外の水産業界が連携いただけるよう取り組みます。

住民の取組例
○マルシェや市などに参加し、地元の水産物を楽しみながら購入する（個人） ○地元の水産物の魅力（おいしさやレシピなど）を口コミや SNS で情報発信する（個人・事業者） ○旬の地元水産物をメニューや品揃えに取り入れる（個人・事業者） ○浜清掃に参加（個人・事業者）、漁具を海に落とさないよう管理する（事業者）など
行政の取組例
○稚魚の放流などを行い、育てる漁業にも力を入れています。 ○漁業協同組合を始め、漁業や水産業に関わる団体や個人に対し、補助金などの支援を行っています。 ○漁業者が使いやすい施設にするため、防波堤・岸壁などの補修工事や改良工事を行っています。

3. 関連する個別計画

目指すべき将来像の実現に向けて、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
浜の活力再生プラン	令和元年度～令和5年度
浜の活力再生広域プラン	令和3年度～令和7年度
漁港施設機能保全計画	漁港ごとに設定
離島の振興を促進するための南知多町（日間賀島・篠島地区）における産業の振興に関する計画	平成30年度～令和4年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	84	95

2-2 豊かな農地と産物を活かした農業



1. 現状と課題

本町では、農業にとって気候条件が恵まれ、広大な優良農地や広域農道などのインフラが整備されているなどの強みがあり、高齢でも元気に働く農業従事者が数多くいます。

一方で、農畜産物の価格低迷など厳しい経営環境から、農業従事者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加といった問題が生じています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

経営が安定し農業従事者や就業希望者にとって魅力ある農業を目指します。

また、農業を起点として、加工や販売、観光などの多様な産業が本町で価値を生み出す、付加価値の源泉として農業が活躍するとともに、多面的機能（良好な自然環境や景観を保全するなど、多様な機能）を発揮することを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

農業経営の安定化だけでなく、自然災害被害の防止など多面的機能の観点からも、ため池や用排水路といった、農業を取り巻く環境の管理体制の構築に取り組みます。

農業資源が有効に活用されるよう、農用地の計画的な利用や、耕作放棄地の再生及び利用促進を支援します。

経営規模拡大やICT（情報通信技術）を活用したスマート農業など、農業の生産性向上、農業従事者の負担軽減を支援します。

他産業と連携した農畜産物の6次産業化や観光農園等の体験型観光、高品質で魅力的な農畜産物の生産や輸出など、農業の高付加価値化、販路拡大を支援します。

(3) 地域との協働

地域住民や町外の農業ボランティアが、自然や農業に親しみ楽しみながら、地域の農業・農地整備に参画することで、南知多のファンを増やしつつ、環境保全と持続可能な農業を実現することを目指します。

住民の取組例
○マルシェや市などに参加し、地元の農産物を楽しみながら購入している（個人） ○休耕地の農場活用活動に参加している（個人） ○規格外や、出荷できない野菜の利用ルートを確保している（事業者） ○旬の地元農産物をメニューや品揃えに取り入れている（個人・事業者）・・・など
行政の取組例
○農薬が入っていない肥料を使用するなど、環境にやさしい農業を行っている農業者への支援を行っています。 ○田畑、水路、農道などの保全活動に取り組む団体への支援を行っています。 ○農業者が使いやすい施設にするため、道路舗装やのり面の吹付工事を行っています。

3. 関連する個別計画

目指すべき将来像の実現に向けて、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多農業振興地域整備計画	令和2年度～令和11年度
人・農地プラン	毎年度更新
農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画	平成29年度～令和5年度
離島の振興を促進するための南知多町（日間賀島・篠島地区）における産業の振興に関する計画	平成30年度～令和4年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	79	95

2-3 新たな魅力や価値を生みだす商工業



1. 現状と課題

小規模経営が中心となる本町の商工業では、人口減少に伴う地域経済活動の縮小や後継者不足による廃業等が見られることから、地元企業の振興、起業・創業の支援、雇用の確保が重要な課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

地域の特色や資源を生かした地元企業の振興や、起業・創業の支援により、地域の商工業が活性化し、世代、国籍を問わず魅力ある雇用の場が拡大することを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

関係団体と連携して地元企業の設備投資、商品開発、販路開拓等を促し、労働生産性を高めます。

I C T（情報通信技術）を活用した熟練技術の継承や、新しい技術の導入や運用に必要なデジタル人材の育成など、技能伝承や生産性向上のための人材育成を支援します。

町内で生産された良質な農・水産物を、町内の製造業者により魅力あるデザインで製品化された製品を認定することにより、農業、水産業などと連携した6次産業化、ブランド化を進めます。

地域ブランドを、ふるさと納税への出品、SNS（社会的ネットワークを構築するサービス）等のインターネットを活用した積極的な情報発信、外国人観光客のインバウンド消費などにより、販売の拡大を支援します。

観光産業を中心として、農業、水産業などの地域の特色を生かした新しい地場産業の確立を目指します。

(3) 地域との協働

(2) 将来像の実現に向けての取り組みは、商工会や、観光、農、水産業者等と連携して促進していきます。

また、町民においても、地域ブランドをはじめ町内生産品を積極的に購入・利用いただき、SNSや口コミ等で情報発信いただけるよう取り組みます。

住民の取組例
○お歳暮やお土産には、地域ブランド「ミーナの恵み」認定品を渡す（個人）。 ○商工会、観光、農業、水産業者など多様な産業と連携し、ニーズや付加価値のある製品開発などに取り組む（事業者）。・・・など
行政の取組例
○ふるさと納税を通して、町のおすすめ品を全国に発信し、寄付金を集めています。 ○1次産業（農漁業）、2次産業（製造業）、3次産業（観光・サービス業）の各産業が連携した6次産業を推進していくため、商品開発費用の支援を行っています。 ○南知多町の知名度向上やイメージアップを図るため、産品をブランド認定して町のホームページや広告などでPRを行っています。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
先端設備等導入計画	平成30年度～令和3年度
離島の振興を促進するための南知多町（日間賀島・篠島地区）における産業の振興に関する計画	平成30年度～令和4年度
創業支援事業計画	令和2年度～令和6年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	84	95

2-4 何度も訪れたくなる観光・交流



1. 現状と課題

本町には海鮮料理、温泉、海水浴など、四季を通じての観光資源が豊富にあり、観光業は本町の主要な産業となっています。

一方で、近年は観光客数の減少、観光施設等の老朽化への対策、今後さらに多様化が見込まれる観光客の新たなニーズへの対応、感染症拡大という新たな脅威への対応が重要な課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

本町の持つ自然環境、歴史・文化、豊富な食を生かし、農業、水産業、商工業と連携しながら国際化にも対応できる魅力ある観光・まちづくりを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

南知多町観光協会と密接な連携を図り、来訪観光客の滞在時間の延伸、宿泊数増加を図ります。

老朽化した観光施設等の適切な管理を行うとともに、集客が見込まれる観光センター等のインフラ整備を検討します。

展示会・イベント等への積極的な出店、SNS（社会的ネットワークを構築するサービス）等のインターネットを活用し全国、海外へ情報発信を行う等、PRを強化します。

岐阜県八百津町や長野県下諏訪町との交流事業、知多半島や三河湾エリアでの協力体制など、他市町村との連携を図ります。

観光関連事業者の情報発信や、外国人対応等のノウハウ取得を支援します。

インバウンド観光が見込めない間も、地元や近場の方も含めた国内旅行者が安心安全に訪れることができるように、感染拡大防止の環境づくりや、地域の魅力の再発見と発信を行っていきます。

(3) 地域との協働

除草・清掃など、地域の力を活かして良好な景観を維持するとともに、住民団体等と連携し、地域ぐるみのおもてなしの充実、体験プログラムの開発によって、地域の交流の機会にもなるような取り組みを進めます。

住民の取組例
○町内の色々な場所に積極的に出かけ、埋もれた良さを見直す（個人）。 ○地元ならではの情報を口コミや SNS などて発信、来訪者にお勧めする（個人）。 ○史跡の保存・維持清掃や、再生活動に参加する（個人）。 ○体験型観光や、工場見学などの産業観光に取り組む（事業者）。・・・など
行政の取組例
○姉妹都市等交流町の岐阜県八百津町と長野県下諏訪町との親交を深めるために小学生の交流や宿泊料の割引などを行っています。 ○観光協会と協力して、観光パンフレットの作成、イベントの支援を行っています。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
浜の活力再生プラン	令和元年度～令和5年度
浜の活力再生広域プラン	令和3年度～令和7年度
南知多農業振興地域整備計画	令和2年度～令和11年度
離島の振興を促進するための南知多町（日間賀島・篠島地区）における産業の振興に関する計画	平成30年度～令和4年度
創業支援事業計画	令和2年度～令和6年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	82	95

2-5 新たなチャレンジを創る起業支援



1. 現状と課題

社会の急速な変化の中でも地域産業の衰退を防ぎ発展させていくため、既存の枠組みにとらわれず活躍できる人材を呼び込み、起業等を促進することが求められます。

こうした中、本町の強みである豊かな自然は、移住希望者等の、自然豊かな地方で働きたいというニーズを取り込むための地域資源となり得ます。

また、ICT（情報通信技術）の進歩により、地方でのサテライトオフィスなど場所を選ばない働き方を可能とする技術的環境や、地域の課題解決に取り組む社会的起業や企業の社員による週末起業等が広がっているといった機運など、業へのチャンスが拡大しています。

2. 目指すべき将来像

（1）目指すべき将来像

起業・新規就業を促進することで、産業を発展させるとともに、人材を呼び込み定着させ、人口減少に伴う諸課題の解決にも貢献することを目指します。

（2）将来像の実現に向けて

国の補助金をはじめとした支援制度等のワンストップ相談窓口、空き家の利活用等による開業コストの低減などにより、起業・新規就業や、開業等後の成長を支援します。

マッチングサイトなどの活用や移住希望者に伝わりやすい情報発信、実際に起業した方との意見交換の機会等により、支援内容や事例等の積極的な情報発信を行います。

（3）地域との協働

既存産業と起業家等との連携による新たなビジネスチャンスの創出や、地域と社会的起業家との協働による地域の課題の解決の促進に取り組みます。

住民の取組例
○町内の起業者へ、場所の提供や、取引先等の紹介などの情報提供（事業者）。 ○起業者と連携し、新たなビジネスに挑戦する（事業者） ○起業者の事業や商品・サービスを紹介する情報を発信する（事業者）。 ○クラウドファンディングなどを通じて起業者を応援する（個人）。・・・など
行政の取組例
○これから漁業を始める方に対し、一定の条件を満たす場合に家賃の補助を行っています。 ○これから農業を始める方へ、経営のために必要な費用を軽減するため、生活費の支援を行っています。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
浜の活力再生プラン	令和元年度～令和5年度
浜の活力再生広域プラン	令和3年度～令和7年度
南知多農業振興地域整備計画	令和2年度～令和11年度
離島の振興を促進するための南知多町（日間賀島・篠島地区）における産業の振興に関する計画	平成30年度～令和4年度
創業支援事業計画	令和2年度～令和6年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	74	89

2-6 価値ある産業を残す事業承継支援

該当するSDGsのアイコン



1. 現状と課題

今後、後継者不在のため廃業する事業者の増加が懸念されるため、事業を承継する後継者を確保し、価値ある既存産業が受け継がれていく必要があります。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

本町の経済を支える事業者の事業が円滑に引き継がれることで、地域に必要な製品・サービスが将来も供給され、雇用の場が確保されることを目指します。

さらに、地方での就業や移住を望むU I Jターン人材が事業を引き継ぎ、当該事業が発展することで人材をさらに惹きつける好循環の醸成を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

町内の小規模事業者のイメージが向上するよう情報発信等に取り組みます。

後継者・新規就業者獲得に向けた情報発信、空き家等を利用した住居支援、町内の事業者等の元で行う体験・研修により、後継者・新規就業者の発掘や育成を支援します。

移住等希望者と事業者を繋ぐ機会の創出や移住希望者に伝わりやすい情報発信、事業者・承継希望者のニーズに即した支援策を検討します。

(3) 地域との協働

(2) 将来像の実現に向けての取り組みは、国や県、金融機関、商工会、事業承継のノウハウのある土業、その他の民間事業者等と連携して促進します。

また、町民や移住希望者に、小規模事業者の本町経済における重要性を認識いただくとともに、就業の選択肢としていただけるよう取り組みます。

住民の取組例
○町内事業者の事業や商品を紹介する情報を発信する（事業者）。 ○異業種間の交流・連携の場を作るなど、合併・買収をサポートする（事業者）。 ・・・・など
行政の取組例
○町内の商工会の運営、商工業者を盛り上げる活動に対する支援を行っています。 ○町内の業者が安心して営業が行えるように、資金を借りる際の支援を行っています。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
浜の活力再生プラン	令和元年度～令和5年度
浜の活力再生広域プラン	令和3年度～令和7年度
南知多農業振興地域整備計画	令和2年度～令和11年度
離島の振興を促進するための南知多町（日間賀島・篠島地区）における産業の振興に関する計画	平成30年度～令和4年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	77	93

2-7 働く環境づくり



1. 現状と課題

本町の産業を持続可能なものとするため、次のような環境整備が必要となっています。

- ・人手不足の深刻化に対応するための、多様な人材が活躍できる職場環境整備
- ・農業用施設、漁業用施設等のインフラの老朽化対策
- ・産業の高度化を進めるための通信網の整備

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

町内で事業を営む事業者の生産活動や物流等が円滑に行われ、効率的に事業を営むことができる、インフラの整備・維持を目指します。

女性や高齢者、外国人等、誰もが働き続け多様性を発揮し、付加価値の高い仕事ができる、町内の事業所等の職場環境の整備を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

企業の人手不足を解消するため、女性、高齢者及び外国人の活用を支援します。

業所等のワークライフバランス（仕事と生活の調和）への理解を促進します。また技能実習生等の外国人が地域にとけこみ、安心して働くことができるよう支援します。

(3) 地域との協働

事業所等とともに、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）を実現できる職場環境の整備に取り組みます。地域社会とともに、外国人をはじめ多様な人材との積極的な交流による共生の土壌づくりに取り組みます。

住民の取組例

- 技術の進歩についていくための学びを続ける（個人）。
- 女性や高齢者、障がい者、外国人など多様なひとが働くための、それぞれの環境に合わせた働き方や時間帯を工夫する(事業者)。・・・など

行政の取組例
○老朽化した物揚場や浮桟橋などの漁港施設の点検、補修工事を行っています。 ○元気な高齢者が自分の能力を活かして地域で働きつづけることができるよう、シルバー人材センターの運営に係る費用を支援します。 ○町内にある保育所の園児の生活、保育環境を守るために施設や設備の整備や拡充を行っています。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
特定事業主行動計画	平成2年度～令和6年度
南知多町における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画	令和3年度～令和7年度
南知多町業務継続計画	毎年度更新
漁港施設機能保全計画	漁港ごとに設定
浜の活力再生プラン	令和元年度～令和5年度
浜の活力再生広域プラン	令和3年度～令和7年度
先端設備等導入計画	平成30年度～令和3年度
南知多町自殺対策計画	令和2年度～令和6年度
庁内環境率先実行計画	令和3年度～令和7年度
橋梁長寿命化修繕計画	平成27年度～令和6年度
舗装修繕計画	平成28年度～令和17年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	81	95

3-1 まちと命を守る防災



1. 現状と課題

本町は、南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域に指定されるなど、大規模地震による被害が危惧されており、災害発生時のライフラインや建物の安全性の確保、孤立化防止対策、集中豪雨や台風による災害の防災対策、各種災害発生に対する防災対策の充実が課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

建物やインフラが必要な災害耐性を有し、消防・防災施設等が有効に機能し、事業者や町民が災害対策に取り組むことで、安心して生活し、事業を営むことができ、いざ発災した際には一人でも多くの命が守られることを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

情報収集・伝達体制の強化や、防災訓練等により、町の防災力向上に取り組みます。また、必要な消防・防災施設等を維持していきます。

災害時の緊急物資等輸送のため、道路、橋梁、漁港、港湾等の耐震化を進めます。

公共施設の耐震化を進め、住宅等の耐震化を支援するとともに、避難経路の整備を進めます。

自主防災活動の支援、要配慮者対策、防災教育等により、地域防災力を強化します。

発災後、本町が早期に復旧、復興が行えるよう対策を進めます。

(3) 地域との協働

個人、法人を含め、地域全体が、「自分の身は、自分で守る」という意識を持ち、非常用備蓄、家具の固定、住宅の耐震化や避難訓練に取り組めるよう支援、啓発を進めます。

住民の取組例
○事業継続計画（BCP）を策定、従業員の消防団活動に協力する（事業者）。 ○住宅の耐震化、家具の固定、火災報知機の取り付け、非常用備蓄、避難・消火訓練への参加など、日ごろから備える（個人）。 ○災害避難カードや防災カルテを家庭で作成する（個人）。・・・など
行政の取組例
○自主的に地域の防災活動を行う団体（自主防災会）に対して、防災に必要な道具の購入や、避難に使う道路の整備に必要な費用を支援します。 ○地震による木造住宅の倒壊を防ぐための耐震診断や耐震対策への支援を行っています。 ○地震や台風などの大きな災害に備え、避難所や防災活動を行うための施設を整備します。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町国土強靱化地域計画	令和2年度～
南知多町地域防災計画	毎年度更新
南知多町津波避難計画	平成27年度～
南知多町業務継続計画	平成29年度～
南知多町防災備蓄計画	令和元年度～令和4年度
南知多町国民保護計画	平成23年度～
南知多町耐震改修促進計画	令和3年度～令和7年度
橋梁長寿命化修繕計画	平成27年度～令和6年度
南知多町災害廃棄物処理計画	平成29年度～

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	85	95

3-2 つながりを活かした交通安全と防犯

該当するSDGsのアイコン



1. 現状と課題

本町における交通事故発生件数は、半田警察署管内（※）で最も少なくなっています。しかし、公共交通が充実しておらず、主な移動手段が自動車であるため、高齢者による交通事故の割合が高くなっています。

防犯については、犯罪者が一番嫌がるのは地域の連帯と信頼感であり、近所づきあいが活発で地域コミュニティがしっかりとしているまちは、犯罪に強いとされています。本町では半田警察署管内で最も犯罪発生件数が少なくなっており、住民同士のつながりが残っていることがその一因と考えられる一方、犯罪の少なさゆえに、防犯意識が低くなっているという課題もあります。

※ 1市5町（半田市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町）

2. 目指すべき将来像

（1）目指すべき将来像

交通安全と防犯について、町民の意識の向上や地域ぐるみの活動の推進などを図り、引き続き交通事故と犯罪の少ない安全なまちを目指します。

（2）将来像の実現に向けて

町、警察、その他関係団体が連携した、啓発活動を実施します。

町広報紙、回覧、自治体メール及びケーブルテレビ等による交通安全と防犯に関する広報活動に取り組みます。

地域行事等の多くの方が連れ立って参加する機会を捉え、効果的な啓発を実施します。

（3）地域との協働

住民同士が日頃から声をかけ合い、地域行事等に積極的に参加いただくことの重要性を認識いただき、コミュニティや町民のつながりを活かした、地域との協働による交通事故と犯罪の抑止に取り組みます。

住民の取組例
○ご近所同士の声掛けや会話など、ご近所づきあいを大切にする（個人）。 ※近所づきあいの活発なまちは、犯罪者に狙われにくいとされています。 ○外出時の施錠、空き巣被害予防（家の周りに脚立等を置かない等）、放火・火災予防（家の周りに燃えやすいものを置かない等）など、防犯に気を付ける（個人）。 ○自動ブレーキ搭載など、事故防止に努める（個人・事業者）。・・・など
行政の取組例
○運転者や歩行者に対して交通安全を呼びかけたり、交通安全講座を開いたりすることで、町民の交通マナーの向上を目指します。 ○登下校中の小中学生や歩行者に対して、交通指導員が交通ルールを守るように指導します。 ○町民に対して防犯対策を呼びかけたり、防犯パトロールを行ったりすることで、防犯意識の向上を目指します。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町交通安全計画	※令和2年度中に改訂予定

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（p t）	90	95

3-3 資源を活かす土地利用



1. 現状と課題

三方を海に囲まれた本町は、各地域の特性に合わせた市街地形成、地域産業がありますが、若年層の人口の流出が続き、単身高齢世帯の割合が年々増加していることから、空き家が急速に増加しており、対策が必要となっています。

人口減少や空き家、空き地の増加に歯止めをかけるためにも、地域の特性を活かした土地利用が課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

本町の豊かな自然環境を保全しつつ、町民の生活を支える機能の維持、集約を図るため、土地や建物の効率的な活用と、産業の振興に繋がる適切な土地利用を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

管理不全な状態にある空き家については、所有者に対して適切な管理を求めています。また、土地・建物所有者への啓発や、空き家の利活用の提案、相続相談等の支援に取り組みます。

快適な住環境を維持するとともに、住居と産業を適正に配置するための土地利用や、コンパクトで災害等にも適応したまちづくりについて、実行可能な将来目標を検討します。

(3) 地域との協働

所有者による適切な管理や、境界確定等への地域の理解、空き屋等活用のノウハウを持つ民間事業者との連携など、地域や民間との協働による対策を進めます。

住民の取組例
○自身の土地・建物を正しく登記したり、常に使える・提供したりできるように管理する。
○登記・相続などのアドバイス、建物を良好な状態に維持するためのリフォームなどを積極的に展開する（事業者）。・・・など

行政の取組例
○管理されずに放置された危険な空き家（特定空家等）を地域からなくすために、解体して撤去するために必要な工事費用を支援します。 ○空き家などの情報をホームページに掲載し、売買や賃貸の希望をマッチングすることで、本町への移住、定住の促進を図ります。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町空家等対策計画	平成30年度～令和4年度
南知多町公共施設等総合管理計画	平成29年度～令和12年度
南知多町都市計画マスタープラン	令和3年度～令和13年度
人・農地プラン	毎年度更新
地域再生計画	令和元年度～令和3年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	74	89

指標名 (地域再生計画)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)
移住相談延べ件数	570 人	850 人
空き家バンク制度を利用した延べ移住者数	137 人	220 人
空き家バンク制度の契約成立延べ件数	108 件	180 件

3-4 安心な暮らしを支えるインフラ



1. 現状と課題

道路、港、水道などは、暮らしや経済に欠かせないインフラであると同時に、道路や港、海岸は、本町の緑や海などの景色を楽しむことができる観光資源でもあります。

一方で、インフラの老朽化対応や安全を確保するための管理、公共交通の維持等が課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

安心して町民が住み続け、観光客等が訪れ、事業者が活動が続けるための、生活と地域経済の基盤として、安全なインフラや公共交通を守っていくことを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

道路については、幹線町道の再整備、生活道路の維持修繕、安全な歩行空間の確保など、快適で安全な道路環境の整備を進めます。

港湾・漁港・海岸・公園・町営住宅・駐車場については、老朽化した施設の点検、補修、改修等を行うとともに、全庁的な再配置方針等の必要性の検討を進めます。

上水道については、耐震性の向上を図るとともに、効率的な経営に努めます。

(3) 地域との協働

インフラ施設の異常の早期発見・通報や、除草・清掃など、地域の力を活かしてインフラの安全性・快適性、良好な景観を維持するとともに、そうした活動が地域の交流の機会にもなるような、地域と行政との協働による取り組みを進めます。

住民の取組例
○道路・港湾などの異常や危険箇所を発見したら、町役場や管理者に通報する。 ○道路沿いの樹木の選定など、インフラ施設に隣接する所有土地・建物を管理する。 ○道路の補修など、軽微なインフラ整備をする。 (上記すべて、個人・事業者)・・・など

行政の取組例
○利用者が使いやすい施設にするため、物揚場、緑地などの補修工事や改良工事を行っています。また、砂浜の砂が周辺の道路などに飛ぶのを防ぐ対策を行っています。 ○老朽化した道路、橋りょうの点検、修繕工事を行っています。 ○水道水を安定して供給するため、水質検査や水道施設などの点検、更新を行います。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町国土強靱化地域計画	令和2年度～
社会資本総合整備計画	令和3年度～令和5年度
南知多町地域公共交通網形成計画	令和3年度～令和7年度
辺地総合整備計画	令和元年度～令和6年度
橋梁長寿命化修繕計画	平成27年度～令和6年度
舗装修繕計画	平成28年度～令和17年度
漁港施設機能保全計画	漁港ごとに設定
漁港海岸保全施設長寿命化計画	平成30年度～令和49年度
港湾海岸保全施設長寿命化計画	平成30年度～令和49年度
南知多町水道施設更新計画	平成28年度～令和7年度
生活基盤施設耐震化等事業計画	令和3年度～令和7年度
知多南部地域ごみ処理基本計画	平成28年度～令和7年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（p t）	88	95



3-5 暮らしを支える地域公共交通

1. 現状と課題

町内を移動する公共交通は路線バスのほか、島民の通勤・通学には定期航路が利用されています。通勤・通学や高齢者の移動手段として不可欠な、バス・航路の維持、利便性の向上が課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

鉄道、バス及び海上交通等の利便性の向上と利用促進を図り、生活に不可欠な移動手段が十分に確保されることで、町民が住み続けたいと思えるまちづくりを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

自動車を運転できない高齢者の増加や、潜在利用者のニーズの変化に合わせ、運行ルートや時間帯、バス停留所等を見直していきます。

駐車場など、利用者の利便性に大きく影響する周辺環境の改善に取り組みます。

自動運転などの先進技術の導入、環境に配慮した車両等の導入、地域による公共交通、路線の再編等について、財政負担を抑えつつ、住民や観光客の需要に応じた移動手段を確保・充実する方法を検討します。

(3) 地域との協働

公共交通の維持に必要な収益確保のため、多くの方に積極的に利用いただけるよう周知を行います。また、地域主体の公共交通の導入を検討するなど、地域と協働した移動手段の確保を進めます。

住民の取組例
○公共交通機関を積極的に利用する（個人）。 ○運転手等の担い手がやりがいを持って働けるよう、感謝の気持ちやねぎらいなどを伝える（個人）。 ○バス停周辺の除草、清掃を行う（個人・事業者）。・・・など
行政の取組例
○篠島および日間賀島の住民が利用する定期船の交通費の一部を助成し、両島住民の生活の安定と福祉の向上を図ります。 ○町民の通勤・通学、通院、買い物などの移動手段として、また、観光客の移動手段としてコミュニティバスを運行します。 ○登下校や水泳指導、部活動の試合の移動で使用するスクールバスの運行、管理を行っています。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町地域公共交通計画	令和3年度～令和6年度
南知多町交通安全計画	平成23年度～平成27年度
橋梁長寿命化修繕計画	平成27年度～令和6年度
舗装修繕計画	平成28年度～令和17年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（p t）	76	91

3-6 多様性を認め、共に支え合うコミュニティ



1. 現状と課題

本町では町民や地域のつながり、助け合いが残っている一方で、若者の町外への流出により地域活動の中心が高齢者となっており、活動の新たな担い手の確保、地域と移住者等の交流の促進等の課題が生まれています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

少子高齢化、核家族化、若者・高齢者の単独世帯化が進み、人々の価値観やライフスタイルも多様化している中、町民それぞれの価値観などを認めた上で、ボランティア活動や町民の自主的なまちづくり活動、男女共同参画、国際交流活動の充実など、世代等の背景を超えたふれあいの機会が充実し、将来にわたり支え合い、助け合いが残っていくまちづくりを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

町民や各種団体によるまちづくり事業を支援します。また、地域課題の解決や将来的な移住に向けた裾野を拡大するため、「関係人口」の確保に取り組みます。

既存団体の合併や世代交代、移住者の地域参画等を促すための、各種情報提供等に努めます。

登下校や授業等の教育の場、生涯学習講座等で、子どもと高齢者など、世代間交流の機会の充実を図ります。

外国人もコミュニティに溶け込み、多様な文化が共生していくための、情報提供、相互理解の場の提供を進めます。

用語の定義：「関係人口」

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、特定の地域に継続的に多様な形で関わるひとのこと。

(3) 地域との協働

町民が積極的に地域活動へ参加し、多様な国籍や世代など垣根を越えて交流し、地域の将来を担う若者や移住者の意見が尊重されるまちづくりを進めます。

住民の取組例
○広報誌などで案内のあるボランティアやまちづくり行事などに参加する（個人）。 ○買い物や通院などに困ったご近所の方の手助けをする（個人）。 ○積極的に挨拶や会話をする。（個人） ○移住者の意見を積極的に聞き、地域行事に参加しやすくなるように対応する（地域）。・・・など
行政の取組例
○地区の活動にかかる費用を助成し自治活動の推進を図っています。また、区長会議を定期的に行い各区と行政との連携を図っています。 ○地域のまちづくり協議会の取組に対して補助をおこなうことで、地域課題の解決や住民の地域活動への積極的な参加を進めます。 ○区やまちづくり会などの地域団体に活動の場を提供するため、公民館などの施設の点検・修理などを行い、正常で安全な状態に保ちます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組めます。

計画名	計画期間
南知多町男女共同参画計画	平成30年度～令和13年度
地域再生計画	令和元年度～令和3年度
南知多町自殺対策計画	令和2年度～令和6年度
南知多町生涯学習推進計画	平成24年度～令和3年度
南知多町文化財保存活用地域計画	令和4年度～未定

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（pt）	84	95

3-7 心と体安らぐ自然・住環境



1. 現状と課題

本町は豊かな海や緑に囲まれた魅力ある住環境が強みです。一方で、雑草や冠水等の自然に由来する問題、狭隘な市街・道路等の改善が住環境の課題となっています。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

身近な環境美化や、公園や河川、排水施設等の適切な管理、省エネルギー化等の推進により、環境に優しく、自然豊かな住環境を感じられるまちづくりを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

安全な道路や公園環境の整備、排水施設の点検・改修や河川の土砂浚渫など、良好な生活環境を実感するために重要となる対策を進めます。

身近な環境美化について、町民や地域等による、自主的な除草・剪定や河川・海岸清掃等の取り組みを支援します。

家庭における省資源・省エネルギー型ライフスタイルや、ごみの減量化・リサイクル等の推進を支援します。

(3) 地域との協働

家庭での取り組みや地域による環境美化などに取り組んでいただくことで、地域と行政が補完し合う環境整備を進めます。

住民の取組例
○生ごみをたい肥化する、レジ袋など使い捨てプラスチックの使用を控える、台所のごみを分別をして排水を汚さないなど、日ごろから環境を意識する。 ○道路や散歩道、河川や水路など、身近な範囲の除草・ごみ拾いを行う。 ・・・など

行政の取組例
○リサイクル資源を回収するエコステーションを設置し、資源を排出しやすい環境を作ります。ごみとして捨てられている資源のリサイクルを促し、ごみの減量を進めます。 ○海水浴場などに漂着したごみを回収し、きれいな海岸を作ります。 ○地区の一斉清掃活動に支援を行います。また、地球温暖化防止対策のため、植物による緑のカーテンを行います。 ○川の氾濫や浸水を防止するため、護岸修繕や溜まった岩石や泥を取り除いています。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向け、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
ごみ減量化基本計画	平成28年度～令和4年度
知多南部地域ごみ処理基本計画	平成28年度～令和7年度
南知多町災害廃棄物処理計画	平成29年度～
南知多町ごみ減量化（有料化）実施計画	平成29年度～
南知多町空家等対策計画	平成30年度～令和4年度
地域再生計画	令和元年度～令和3年度
南知多町水道施設更新計画	平成28年度～令和7年度
生活基盤施設耐震化等事業計画	令和3年度～令和7年度
生活排水処理計画	令和3年度～令和7年度
庁内環境率先実行計画	令和3年度～令和7年度
橋梁長寿命化修繕計画	平成27年度～令和6年度
舗装修繕計画	平成28年度～令和17年度

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
住民意識調査による満足度（p t）	82	95

7 行財政マネジメント

(1) 行政の使命

本町が目指す将来イメージの実現のため、行政は以下の使命に基づいて行財政マネジメントを行います。

行政の使命

自ら行動し地域の活力の最大化に貢献する

(2) 行財政マネジメントの基本方針

厳しい財政状況が続く中で、将来イメージを実現するためには、行政の縦割りの壁を越え、多くの政策分野を横断的に取り組み、様々な部署が連携するだけでなく、地域や民間の活力を活用するなど、従来の行財政マネジメントを革新していくことが求められます。そのため、以下を行財政マネジメントの基本方針とします。

行財政マネジメントの基本方針

【基本責務】

限られた予算を有効に活用し、より高い成果を追求する。

【執行手段の焦点と方向性】

焦点①：行政組織の内部運営の効率化

方向性：法的制約がないものは、実施過程の改善を探索する。

焦点②：市場メカニズム（機能）の活用

方向性：行政よりも効率的・効果的なものは民間へ外部委託。

焦点③：住民自治・自助・共助の支援

方向性：行政ありきではなく、町民や自治組織等との協働を促進。

【執行手段の評価の徹底】

事業効果は絶えず検証し、反省点を次に生かす。

【執行手段の革新化】

失敗を恐れず、小さく始め、高速で改善し、革新的な手段を模索する。

【職員の行動指針】

町民、企業、関係団体、その他多くの人々を巻き込んでまちづくりを楽しむ。

4-1 職員の成長とやりがい

該当するSDGsのアイコン



1. 現状と課題

本町が持続していくための政策や事業を企画・実行していくには、人材の確保、成長、意欲、挑戦が必要となります。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

町職員が継続的に学び、やりがいを持って働くことで成長し、前例にとらわれず挑戦し、活気ある職場が人材を惹きつける好循環の醸成を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

町として求める人材像が職員に浸透するよう、人材育成等の方針を職員に継続的に伝達します。また今後重要となる知識・技術について、習得を促すための研修を組織的・計画的に実施するとともに、職員の自己研鑽を支援します。

そのため、自己研鑽に励んでいる職員や実績を残した職員が報われる人事評価制度の運用を進めます。

職員のやりがいと意欲を引き出し、仕事の成果と生活の充実が好循環を生み出すための、残業の削減をはじめとした働き方改革を進めます。

3. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
職員意識調査による実感度（仮）（％）	87	95



4-2 業務の高度化、効率化

1. 現状と課題

人口減少や高齢化、インフラ等の老朽化に伴う課題が深刻化する中、限られた予算・人員で課題の解決に取り組んでいくためには、業務の高度化・効率化が求められます。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

町組織の体制や業務の見直し、新たな技術やデータの活用により、業務の高度化・効率化を進め、予算・人員が限られる中でも、地域の課題解決や住民満足度の向上を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

地域社会をとりまく環境の変化に合わせて適切に人員配置を行い、迅速に意思決定を行うため、組織機構の見直しを検討します。

業務を自動化・効率化し、職員が政策企画等に注力するため、革新技術の導入やデータ連携の推進と、併せて業務の流れの見直しを検討します。

地域課題の解決や民間のデータ活用に資するため、データの積極的な公開を進めるとともに、政策等立案や行財政運営におけるデータ活用を進めます。

新技術等の導入に伴って発生する情報漏洩等のリスクに対応するため、適切な内部統制を構築し、職員及び関係者のセキュリティ意識の向上を図ります。

3. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
職員意識調査による実感度（仮）（％）	89	95

4-3 町民の満足度向上



1. 現状と課題

人口の流出を抑制し地域社会を持続可能なものとするためには、町民が生活に満足することが必要であり、それが町外にも伝わることも重要です。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

町民の満足度が向上することで、本町に住み続けたいと思う町民が増加することを目指します。また、近年ではSNS（社会的ネットワークを構築するサービス）等により、住みやすさ等についての町民のイメージも容易に拡散するため、良いイメージが町外に広がることを目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

町民の不満や前向きな意見を効果的に吸い上げるため、アンケートの実施方法を工夫し、満足度の変化を追跡調査していくことを検討します。

効果的に住民満足度を高めるため、従来の政策を漫然と継続するのではなく、ターゲットとする世代等にとって重要な分野について重点的に予算、人員等の行政資源を配分していきます。

業務の効率化等により、政策立案や住民対応等、満足度向上に重要な業務に職員が注力できる環境を整えるとともに、住民対応に係る自己点検や研修に取り組みます。

(3) 地域との協働

住民意識調査への協力や、建設的な意見を頂き、町は事業等に可能な限り反映させるなど、町民との協働による満足度向上に取り組みます。

3. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
職員意識調査による実感（仮）%	84	88



4-4 持続可能な行財政運営

1. 現状と課題

人口減少・高齢化や厳しい財政状況が深刻化する中でも、本町の行財政を持続可能なものとしていくため、今から備えていく必要があります。

2. 目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像

将来にわたり持続可能な財政を維持し、かつ必要な行政サービスも維持していくための財務体質の構築を目指します。

(2) 将来像の実現に向けて

インフラ、建物等の公共施設について、人口・財政の長期的な見通しに基づき、重要なものは維持しつつ、人口規模等に応じた適切な水準への再編を進めます。また、将来の維持管理費を削減するための長寿命化等の対策を進めます。

現在、町が直営で実施しているサービスについて、コスト削減やサービスの向上、より効率的な業務が期待できる場合は、民間活用を検討します。

各種補助金等に加え、企業版ふるさと納税等の新たな手法も含め、必要に応じ可能な限り有利な資金調達方法を検討します。

本町の自然、コミュニティ、人材等、地域の資源を活かして、各分野の政策・事業を展開します。

(3) 地域との協働

生活や事業の水準を可能な限り落とすことなく行政をコンパクト化していくために、民間のノウハウの活用、地域社会との連携を進めます。

3. 関連する個別計画

将来像の実現に向けて、次の計画に取り組んでいきます。

計画名	計画期間
南知多町公共施設等総合管理計画	平成29年度～令和12年度
地域再生計画	令和元年度～令和3年度
辺地総合整備計画	令和元年度～令和6年度
南知多町ごみ減量化（有料化）実施計画	平成29年度～
庁内環境率先実行計画	令和3年度～令和7年度
橋梁長寿命化修繕計画	平成27年度～令和6年度
舗装修繕計画	平成28年度～令和17年度
漁港施設機能保全計画	漁港ごとに設定

4. 管理指標

将来像の実現に向け、次の管理指標の目標値達成を目指します。

指標名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)
職員意識調査による実感度（仮）（％）	84	95

8 基本施策と個別計画の関連

基本施策は、各分野の個別計画と連動させ、体系的に実行していきます。

基本施策と個別計画との関係は以下のとおり整理しました。個別計画は、関連する基本施策をより効果的に実施するためのものとして位置付け、個別に進捗管理を行い、評価と見直しを行います。

個別計画名／政策名	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	4-1	4-2	4-3	4-4
	地域で大切に する子育て環境	次代の担い手 を育む教育環境	生涯通じて取り組 む健康づくり	個性を活かす障が い者福祉	安心して住み続け られる長寿社会	豊かな自然を活か したひとづくり	郷土愛、つながり を育む文化・スポ ーツ	豊かな海と産物を 活かした水産業	豊かな農地と産物 を活かした農業	新たな魅力や価値 を生み出す商工業	何度も訪れたくな る観光・交流	新たなチャレンジ を創る起業支援	価値ある産業を残 す事業承継支援	働く環境づくり	災害に強く安全に 暮らせるまちづく り	つながりを活かした 交通安全と防犯	資源を活かす土地 利用	安心な暮らしを支 えるインフラ	暮らしを支える地 域公共交通	多様性を認め、共 に支え合うコミュ ニティ	心と体安らぐ自然 ・住環境	職員の成長とやり がい	業務の効率化	町民の満足度向上	持続可能な財政
特定事業主行動計画														●											
南知多町における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画														●											
南知多町空家等対策計画																	●			●					
南知多町交通安全計画																●			●						
南知多町国土強靱化地域計画															●			●							
南知多町地域防災計画															●										
南知多町津波避難計画															●										
南知多町業務継続計画														●	●										
南知多町防災備蓄計画															●										
南知多町国民保護計画															●										
社会資本総合整備計画																		●							
南知多町男女共同参画計画																			●						
南知多町公共施設等総合管理計画																	●								●
南知多町地域公共交通網形成計画																		●	●						
地域再生計画																	●		●	●					●
辺地総合整備計画																		●							●
南知多町耐震改修促進計画															●										
南知多町都市計画マスタープラン																	●								
南知多町緑の基本計画																									
橋梁長寿命化修繕計画	●													●	●			●	●		●				●
舗装修繕計画	●													●				●	●		●				●
漁港施設機能保全計画								●						●				●							●
漁港海岸保全施設長寿命化計画																		●							
港湾海岸保全施設長寿命化計画																		●							

個別計画名／政策名	1-1 地域で大切に する子育て環 境	1-2 次代の担い手 を育む教育環 境	1-3 生涯通じて取 り組む健康づく り	1-4 個性を活かす障 がい者福祉	1-5 安心して住み続 けられる長寿社 会	1-6 豊かな自然を活 かしたひとづく り	1-7 郷土愛、つな がりを育む文 化・スポーツ	2-1 豊かな海と産物 を活かした水産 業	2-2 豊かな農地と産 物を活かした農 業	2-3 新たな魅力や価 値を生み出す商 工業	2-4 何度も訪れたく なる観光・交流	2-5 新たなチャレン ジを創る起業支 援	2-6 価値ある産業を 残す事業承継支 援	2-7 働く環境づくり	3-1 災害に強く安全 に暮らせるまち づくり	3-2 つながりを活か した交通安全と 防犯	3-3 資源を活かす土 地利用	3-4 安心な暮らしを 支えるインフラ	3-5 暮らしを支える 地域公共交通	3-6 多様性を認め、 共に支え合うコ ミュニティ	3-7 心と体安らぐ自 然・住環境	4-1 職員の成長とや りがいい	4-2 業務の効率化	4-3 町民の満足度向 上	4-4 持続可能な財政
南知多農業振興地域整備計画						●			●		●	●	●												
浜の活力再生プラン						●		●			●	●	●	●											
浜の活力再生広域プラン						●		●			●	●	●	●											
先端設備等導入計画										●				●											
人・農地プラン									●								●								
農業の有する多面的機能の発揮に 関する計画									●																
離島の振興を促進するための南知多町（日 間賀島・篠島地区）における産業の振興に 関する計画								●	●	●	●	●	●												
創業支援事業計画										●	●	●													
南知多町水道施設更新計画																		●			●				
生活基盤施設耐震化等事業計画																		●			●				
特定健康審査等実施計画・国民健康保険 データヘルズ計画			●																						
南知多町子ども・子育て支援事業計画	●					●																			
障がい者計画・障がい福祉計画・障がい児福 祉計画				●																					
知多地域成年後見制度利用促進計画				●	●																				
南知多町自殺対策計画		●	●		●									●						●					
南知多町保育所再配置計画	●																								
生活排水処理計画																					●				
日間賀漁港漁業集落排水処理施設機能保 全計画																									
ごみ減量化基本計画																					●				
知多南部地域ごみ処理基本計画																		●			●				
南知多町災害廃棄物処理計画															●						●				
南知多町ごみ減量化（有料化）実施計画	●	●																			●				●
庁内環境率先実行計画														●							●				●
けんこう南知多プラン			●		●		●																		
南知多町高齢者福祉計画及び介護保険事 業計画					●																				
学校施設長寿命化計画		●																							
教育基本計画		●					●																		
南知多町立小中学校規模適正化基本計画		●																							
南知多町生涯学習推進計画							●													●					
文化財保存活用地域計画							●													●					
南知多町新学校給食センター整備基本計画		●																							

第 4 章

計画実現に向けて

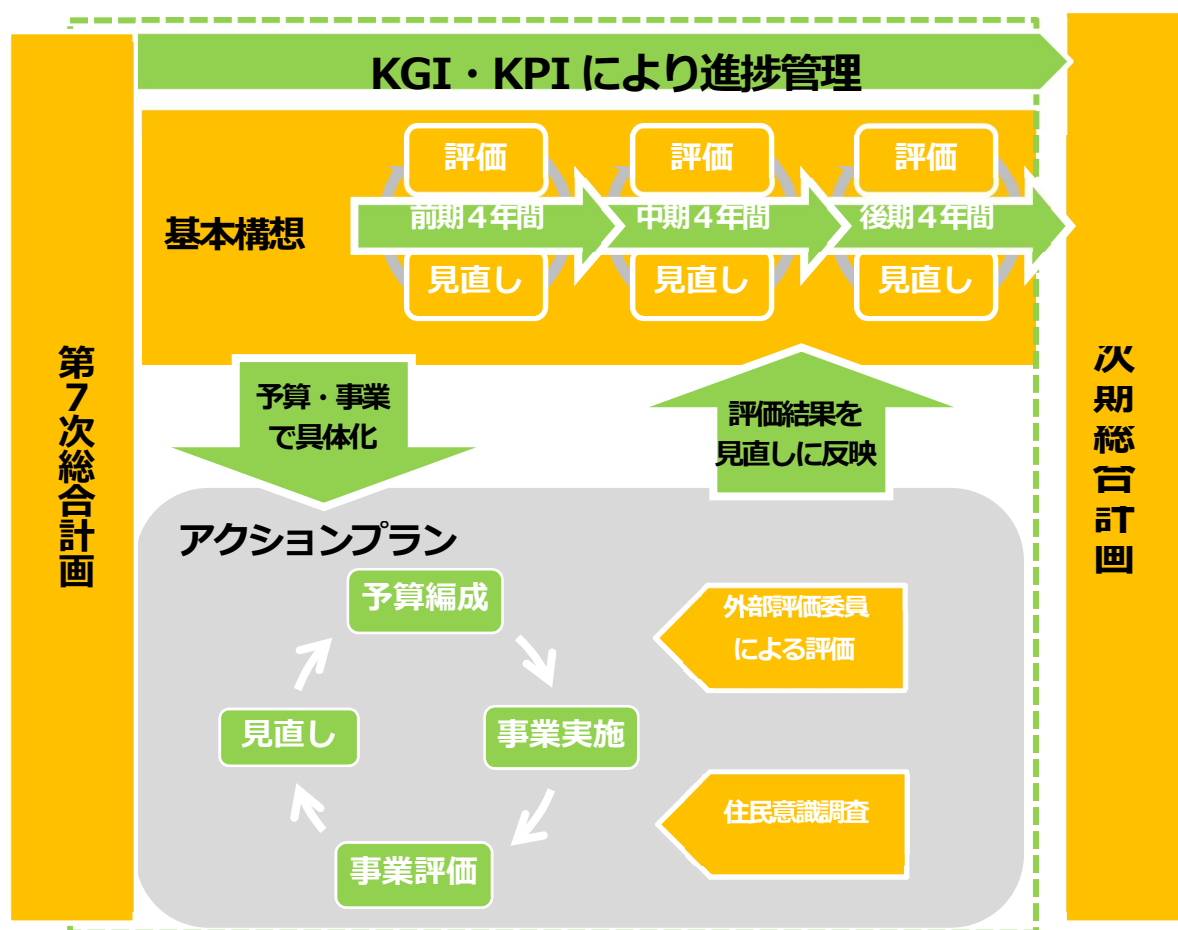
1 計画の実行

(1) アクションプラン

総合計画は作って終わりではなく、実現に向けて実行に移していくことが重要です。総合計画の実現に向けて重点的に実行すべき事業3箇年分を「アクションプラン」として別途まとめ、毎年度の予算に反映して実施していきます。

アクションプランは毎年度、外部有識者の参画する外部評価委員による評価や、住民意識調査を踏まえた KPI（管理指標） による進捗管理により、見直しを行っていきます。

また、KGI（目標指標） の達成に向けたアクションプランの効果の検証結果と、社会情勢の変化を考慮して、4年ごとに基本構想を見直し、改善を図ります。



2 連携・協働・共創の推進

(1) 総合計画の推進体制

総合計画を実現するためには、行政、町民、企業、関係団体、その他多くの人々がそれぞれの立場でまちづくりに取り組む必要があります。

そのため、本計画により向かうべき方向性を共有し、町が一体となってまちづくりが行えるよう、「南知多町総合計画条例」を策定し、議会や審議会の役割を定め、個別の分野の取り組みが総合計画の内容に沿うよう整理することで、計画を推進する体制を整えました。

資料編